

講義科目名称：キリスト教概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Christianity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	大学必修科目
担当教員			
金 永秀・古澤 健太郎			
		ナンバリング：CHR200	

授業のテーマ及び到達目標	キリスト教の成立と思想について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 キリスト教を学ぶにあたって：なぜ宗教を学ぶか</p> <p>第2回 本学の成り立ちと願い</p> <p>第3回 キリスト教特別講演会（4月上旬）※レポートにして提出</p> <p>第4回 キリスト教の誕生：イエスとその時代</p> <p>第5回 キリスト教の誕生：初代教会と社会</p> <p>第6回 教会が生み、教会を育てた聖書</p> <p>第7回 初代のキリスト教の思想</p> <p>第8回 キリスト教の流れを変えた運動</p> <p>第9回 近代化の中のキリスト教</p> <p>第10回 人間：この創られた者</p> <p>第11回 「正義」の戦争は可能か：聖書の平和論</p> <p>第12回 キリスト教と人権思想の流れ</p> <p>第13回 日本社会とキリスト教</p> <p>第14回 沖縄とキリスト教</p> <p>第15回 授業総括（まとめ）</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	本学の拠って建つキリスト教とは何か。キリスト教の聖書の成立と思想を概観(大まかに学ぶこと)し、イエスとは誰だったかを問いつつながら、キリスト教的人間観、自然観、人権思想、そして戦争と平和についての考え方や結婚観などについて聖書にはどう記されているかを探る。それをとおして今日の状況に隠れている宗教的価値観すなわち宗教的ものの見方の理解を深める。
予習	今回の講義についての予習すべき内容をそのつど告知する。
復習	その日の講義内容をまとめる
テキスト	テキストは設定しないが、聖書(旧・新約)を各自購入しておくこと。
参考書	担当教員によって異なる
評価方法・評価基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前回の講義について小テストを行うことがあるので注意すること。 2. 評価は、小テスト、期末試験、レポート、授業態度を総合的に勘案して行う。 3. レポートは2種類：原稿用紙3枚程度 ワードプロはA4 1枚 *キリスト教週間中の特別講演についての感想、論評。 *次の人物又は事柄から1件を選んで調査(リサーチ)、まとめ、論評を加える。 仲里朝章、阿波根章鴻、中村哲、杉原千畝、マーティン・ルーサー・キング、マザー・テレサ、マルチン・ルターの宗教改革、人権思想の起こりと現況、戦争と平和などその他の分野で書きたい人は前もって相談すること。 4. 月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので5回以上の出席および礼拝内容の要約(400字、横書き、A4版ワードプロ原稿)提出 提出期限：礼拝参加週の講義時間(要約は、3回の授業出席扱いとする) 5. 学期中に一度は最寄りの教会の礼拝に参加することを薦める。

	6. 授業中の私語、教科以外の学習、その他授業の妨げとなる行為などは堅く禁止する。 期末試験80% 小テスト・授業内レポート10% 授業態度10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：聖書における人間

授業コード：

英文科目名称：Man and Woman in the Bible

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	大学必修科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：CHR201	

授業のテーマ及び到達目標	旧約・新約両聖書を通して、聖書における思想を理解する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス/聖書とは</p> <p>第2回 旧約聖書の時代と社会の背景</p> <p>第3回 アブラハム、イサク、ヤコブ等の族長たち</p> <p>第4回 モーセ等、出エジプトの人物像</p> <p>第5回 師士：イスラエルの指導者</p> <p>第6回 ダビデとソロモン</p> <p>第7回 預言者の活動と思想</p> <p>第8回 新約聖書の時代と社会の背景</p> <p>第9回 イエスの生涯と思想（1）</p> <p>第10回 イエスの生涯と思想（2）</p> <p>第11回 パウロの生涯と思想</p> <p>第12回 初代教会の人物像</p> <p>第13回 聖書の中の女性達</p> <p>第14回 キリスト教特別講演会（12月上旬）※レポートにして提出</p> <p>第15回 授業総括（まとめ）</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	旧約・新約両聖書の中に登場する、人々の生涯と人間像を描く中で、聖書がその人々を通して示そうとした思想と使信を明らかにする。特に「人間」に焦点を置くことによって、「罪」、「希望」、「信仰」、「愛」等に対する聖書の描写と使信を学ぶことを目的とする。旧約では、創造物語の中で描かれている人間のあるべき姿、アブラハム、モーセ、王国建国の英雄ダビデ、預言者といわれる人々の姿を中心に学ぶ。新約では、イエスと、初代キリスト教会の人物像と教えをその時代背景とともに学ぶ。
予習	次回講義についての予習すべき内容をそのつど告知する
復習	その日の講義内容をまとめる
テキスト	日本聖書協会（編）『聖書』新共同訳、その他授業のガイダンスにおいて詳しく指定する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>期末試験評価を中心とするが、授業態度、月曜礼拝を含むレポートを参考にして、総合評価を下す。キリスト教週間中の特別講演会に出席し、講演内容をレポートにして提出すること。</p> <p>月曜礼拝への参加：講義を補助する重要性をもつので5回以上の出席および礼拝内容の要約（400字3枚、A4版ワープロ原稿）提出</p> <p>提出期限：礼拝参加週の講義時間（要約は、3回の授業出席扱いとする）</p> <p>期末試験80% 小テスト・授業内レポート10% 授業態度10%</p>
履修上の注意	特になし

講義科目名称：英語聖書講読

授業コード：

英文科目名称：English Bible Reading

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CHR225	

授業のテーマ及び到達目標	This class is designed to help you understand the central ideas of the Christian faith by reading some stories from the Bible.		
授業計画	第1回	Introduction (What is the Bible? Outline of Old & New Testament)	
	第2回	The Creation of the World/Adam and Eve	
	第3回	Cain and Abel/Noah's Ark	
	第4回	The Tower of Babel/God Tests Abraham	
	第5回	Joseph's Colorful Coat/Baby Moses	
	第6回	The Ten Plagues/Moses Parts the Sea	
	第7回	The Ten Commandments/David and Goliath	
	第8回	Jonah and the Whale	
	第9回	Mid-Term Exam	
	第10回	The Birth of Jesus/The Boy Jesus at the Temple	
	第11回	Turning Water into Wine/The Good Samaritan	
	第12回	The Lost Son/Feeding Five Thousand	
	第13回	Jesus Walk on Water /Lazarus	
	第14回	The Last Supper/Jesus Is Betrayed	
	第15回	Jesus Dies and Comes Back to Life	
	第16回	Final Exam	
授業の概要	The focus of the class is put on understanding some stories from the Bible. However, it is hoped that by focusing on the content and meaning of some stories, you will be able to improve your English reading ability as well.		
予習	The students will be required to read previously the Bible Stories assigned in the next class. The group assigned to make a presentation in each class should prepare the presentation (power point) about the interpretation of the part of the Bible Stories in advance.		
復習	The students should review and cultivate better understanding of the Bible Stories while referring to the interpretation and the discussion given in every class.		
テキスト	The textbook for this class is Bible Stories by Nina Wegner(IBC Publishing, Inc.2013). Some materials related to the topics are also provided for every class.		
参考書	It would be wise to have a copy of the Bible in Japanese.		
評価方法・評価基準	Participation in class (20%)、Reaction Papers (30%)、Mid-term/Final Exam (50%)		
履修上の注意	In the first class, the students will be divided into some groups (5~6 in one group). Then, each group will be required to make a presentation about the interpretation of the Bible Story assigned in every class. After the presentation, we will have a discussion about that part of the Bible Story. At the end of each class, the students will be required to write and submit the reaction paper about the discussion.		

講義科目名称：キリスト教倫理

授業コード：

英文科目名称：Christian Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
青野 和彦			
		ナンバリング：CHR301	

授業のテーマ及び到達目標	本教科は聖書とそのキリスト論を根拠として、人間の生きる「道」を探求する学びである。キリスト教の死生観等の内面的テーマと共に、現代社会が直面する諸問題に対する聖書の観点を解き明かすことを目標とする。またその学習を通して、キリスト教学（概論）で学んだ聖書の知識をより深めることも目指す。		
授業計画	第1回	授業オリエンテーション（キリスト教倫理の意味）	
	第2回	生命（聖書における「生」の意味、聖書から見た「クローン人間」、「人工妊娠中絶」など）	
	第3回	死（テーマ：安楽死と尊厳死、ホスピス・終末期ケア、エイズ、自殺から1つ）	
	第4回	生命と死：3.11について考える	
	第5回	愛（アガペーとエロース）	
	第6回	幸福	
	第7回	罪	
	第8回	男性と女性（同性愛者、性同一性障がい者の人権等）	
	第9回	結婚と家庭（キリスト教の結婚観、家庭観、子供を巡る環境など）	
	第10回	労働と余暇（キリスト教から見た労働問題、所得格差など）	
	第11回	社会と福祉（キリスト教から見たボランティア、少子高齢化問題など）	
	第12回	国家と政治（キリスト教と「愛国心」、「君が代」・「日の丸」など）	
	第13回	戦争と平和①（聖書の説く戦争と平和）	
	第14回	戦争と平和②（キリスト教から見た核兵器の保有の問題）	
	第15回	イスラム教とキリスト教	
授業の概要	上記目標を達成すべく、キリスト教人間学（倫理）の主要な領域テーマについて、①それぞれのテーマに対する聖書の見解の把握、②その中で提起される過去から現代にわたる諸問題を解説する。		
予習	教科書、資料（事前配布）を読み、学習のポイントを把握しておく。		
復習	”レビュー・シート“（各2問）を提出する。		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・日本聖書協会編『新共同訳聖書』、日本聖書協会、1987年。 ・原 栄作『現代に生きる人間像』（聖書と人間3）、新教出版、1992年。 ※テーマに関連する資料も毎回配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・小田島嘉久『キリスト教倫理入門』、ヨルダン社出版部、1988年。 ・神田健次、関根清三、金子啓一、栗林輝夫編『講座 現代キリスト教倫理』（1-4巻）日本キリスト教団出版局、1999年。 		
評価方法・評価基準	期末レポート60% 小課題25% 授業への参加度15%		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、『聖書』（新共同訳版）も必ず持参すること。 ・「月曜礼拝」出席を奨励する。 ・出席（毎回とる）、課題提出および学生として相応しいマナーを心がけること。 ・「キリスト教学Ⅰ」、「キリスト教概論」を履修しておくことが望ましい。 		

講義科目名称：プロテスタンティズムの歴史と思想

授業コード：

英文科目名称：History and Thought of Protestantism

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
神山 繁實			
		ナンバリング：CHR303	

授業のテーマ及び到達目標	プロテスタンティズムの本質についての理解とそれが近代世界に及ぼした思想的影響と、今日、その思想の有効性を問うていく。
授業計画	<p>第1回 ガイダンスと相互理解のための、話し合いを行うい、授業目的等について話し合う。</p> <p>第2回 第1章 プロテスタンティズムの自己表示</p> <p>第3回 キリスト教の歴史と提起された課題</p> <p>第4回 第2章 プロテスタンティズムの根源—改革か革命か</p> <p>第5回 第3章 教会的—教義体系としてのプロテスタンティズム</p> <p>第6回 宗教改革の歴史的遺産と後世への遺産</p> <p>第7回 宗教改革についてビデオを鑑賞後、提起された質問に試験の形で応える。</p> <p>第8回 第4章 個人の態度としてのプロテスタンティズム</p> <p>第9回 第5章 プロテスタンティズム—キリスト教史に築かれた一時代</p> <p>第10回 第6章 古プロテスタンティズムと新プロテスタンティズム</p> <p>第11回 第7章 古プロテスタンティズムの模倣</p> <p>第12回 第8章 プロテスタンティズムの原理を問う</p> <p>第13回 第9章 プロテスタンティズムの未来</p> <p>第14回 第10章 現代プロテスタンティズムと教会、敬虔、神学</p> <p>第15回 まとめと理解の深化のためディスカッション</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	プロテスタンティズムは、近代社会・経済・政治・文化に多大な影響を及ぼし、民主主義社会の形成に大きく貢献した。しかし、保守キリスト教の抱える負の遺産も大きい。21世紀を開いていこうとするこの時代に、再度プロテスタンティズムが社会・政治・文化の牽引力になり得るのか、以上の問題意識をもって、プロテスタンティズムの歴史と思想を読み直し、将来への展望を探る。宗教と政治、経済と文化の問題を今日的文脈の中で追及する。
予習	授業初めに提示されたスケジュールに合わせて準備をする。その他必要に応じて、プリント・視聴覚教材を用いる。
復習	進展していく授業に合わせて、到達度を確認する。
テキスト	『プロテスタンティズム：潮流と展望』H.-J. ビルクナー／水谷誠訳 その他、資料等は随時、紹介する。 日本基督教団出版局 初版：1991
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業におけるディスカッション・プレゼンテーション等、基本的事項の筆記テスト、期末レポートによって評価する。 期末試験40% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度20% 受講者の発表10% その他10%
履修上の注意	予習を丁寧にする。テキスト朗読は、全員に指名する。

講義科目名称：キリスト教芸術

授業コード：

英文科目名称：Christian Art

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
金永秀・神谷智子・糸洲のぶ子			
ナンバリング：CHR307			

授業のテーマ及び到達目標	キリスト教音楽の作品を合唱をもって賛美し、学内のクリスマス礼拝に参加する。
授業計画	<p>第1回 キリスト教音楽とは（クラスオリエンテーション）</p> <p>第2回 ヘンデルのオラトリオ「メサイア」よりハレルヤ 曲の説明と演習①</p> <p>第3回 講義「メサイア概要」</p> <p>第4回 ヘンデルのオラトリオ「メサイア」よりハレルヤ 曲の説明と演習②</p> <p>第5回 ヘンデルのオラトリオ「メサイア」よりハレルヤ 曲の説明と演習③</p> <p>第6回 「メサイア」よりハレルヤ 演習④、「in dulci júbilo」</p> <p>第7回 「メサイア」よりハレルヤ 演習⑤、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」</p> <p>第8回 実技試験（“No44 ” Hallelujah” のパート）</p> <p>第9回 「メサイア」よりハレルヤ、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」 総合演習①</p> <p>第10回 「メサイア」よりハレルヤ、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」 総合演習②</p> <p>第11回 「メサイア」よりハレルヤ、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」 総合演習③</p> <p>第12回 「メサイア」よりハレルヤ、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」 総合演習④</p> <p>第13回 「メサイア」よりハレルヤ、「in dulci júbilo」,「よろこびいわえ」 総合演習⑤</p> <p>第14回 実演（クリスマス礼拝参加）</p> <p>第15回 まとめ（レポート提出）</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	キリスト教芸術の中でも、キリスト教音楽を単なる知識ではなく、実践を通して理解し体得する。近代西洋音楽において多大な影響を与えたG. F.ヘンデルのオラトリオ「メサイア」からNo44 ”Hallelujah”、クリスマスに歌われているドイツ語の賛美歌と日本語訳の賛美歌を基礎発声法と言葉の大切さを中心に合唱し、クリスマス礼拝に参加する。
予習	定められた楽譜の音とりを各自でおこなう。
復習	全体練習を思い起こしながら自分のパートを正確に歌えるようにする。
テキスト	初回講義にて楽譜を配布する。
参考書	讚美歌、聖書 家田足穂「メサイア」ーテキストと音楽の研究 音楽の友社
評価方法・評価基準	クラスでの学習態度、授業への参加度、レポート、実技を総合して評価する。 授業への参加度50% 期末テスト20% 小テスト・授業内レポート10% 授業態度10% 受講者の発表10%
履修上の注意	毎回遅れずに出席して下さい。（出欠確認を行います） 教室、時間変更等、その都度掲示板で確認して下さい。 練習用CDを配布するので、各自練習をして授業に参加して下さい。 初回に資料代を徴収します。

講義科目名称：キリスト教平和学

授業コード：

英文科目名称：Christian Peace Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	大学必修科目
担当教員			
村椿 嘉信・大城 実			
		ナンバリング：CHR309	

授業のテーマ及び到達目標	「平和」は自分や家族の一人ひとりに関わる問題である。政治家や活動家に任せておけばよい問題ではない。キリスト教思想に学びながら、平和を実現するために何が出来るかを考える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：聖書の視点、平和についての考え方</p> <p>第2回 聖書における平和とローマの平和、アウグスティヌス</p> <p>第3回 沖縄キリスト教学院の生い立ちと課題（大城実特任教授）</p> <p>第4回 アッシジのフランチェスコ、カトリックの平和思想</p> <p>第5回 教会と国家、宗教戦争、宗教改革の思想</p> <p>第6回 独裁者とドイツの教会、ボンヘッファーの思想</p> <p>第7回 抵抗運動の可能性、白ばら運動、市民的勇気</p> <p>第8回 戦争責任論、戦争から何を学ぶか</p> <p>第9回 真実と共生、アーレント、サイドの思想</p> <p>第10回 マーティン・ルーサー・キングの思想</p> <p>第11回 現代における社会学と心理学、グリーンによる暴力の解明</p> <p>第12回 琉球の平和思想、沖縄戦、軍事基地の問題</p> <p>第13回 沖縄と日本、中央集権的国家、天皇制、権力構造、新植民地主義</p> <p>第14回 テロリズム、核問題、自然災害、ボランティア、平和への取り組み</p> <p>第15回 イエス・キリストの生き方と考え方、出会いと助け合い、希望</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>聖書（特に「山上の説教」）からイエス・キリストの生き方、考え方を学び、キリスト教の平和思想を概観する。</p> <p>沖縄において、琉球の歴史、沖縄戦をふり返りながら現状を分析し、「平和の島・沖縄」を実現するために一人ひとりに何が出来るかを考える。</p> <p>自分を生かし、他者と共感することのできる「共生社会」を目指すための方法を考える。それを阻害する身体的・精神的暴力の問題についても考える。</p> <p>ミニレポート：講義に参加し、講義内容に関するミニレポートを提出する</p> <p>平和に関するレポート：学期内に平和についてのレポートを提出する</p>
予習	次回講義のために予習すべきことをそのつど告知する。
復習	その日の講義内容をまとめる。
テキスト	『聖書』
参考書	アルノ・グリーンの著書、その他（教室で指示）
評価方法・評価基準	<p>期末試験 収集した知識（情報）をもとに自分の考えをまとめる（論文形式）：50%</p> <p>レポート：40%</p> <p>1) 講義内容に関するミニレポート（その都度）</p> <p>2) 平和についてのレポート（小論文）の提出</p> <p>授業態度：10%</p>
履修上の注意	特になし

講義科目名称：朗読の科学

授業コード：

英文科目名称：Interpretative Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
		ナンバリング：CMS230	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：日本語の音声学、朗読の表現方法の理論を学ぶ 思考判断：作品のリズム構造の分析や群読表現を通して、作品への理解を深める 関心意欲：集団でのパフォーマンスを楽しみ、意連の喜びを感じる 態度：グループ、クラス単位でのパフォーマンスにおける責任感を培う</p>
授業計画	<p>第1回 「深い呼吸に支えられた深い声（1）身体と対話する」</p> <p>第2回 「深い呼吸に支えられた深い声（2）声を感じる」</p> <p>第3回 「美しいリズムと声の響き（1）母音」</p> <p>第4回 「美しいリズムと声の響き（2）子音」</p> <p>第5回 「美しいリズムと声の響き（3）日本語の母音と子音」</p> <p>第6回 「美しいリズムと声の響き（4）内に向かうリズムと外へ開くリズム」</p> <p>第7回 「美しいリズムと声の響き（5）日本語作品のリズム構造の分析」</p> <p>第8回 「群読の技法（1）」</p> <p>第9回 「群読の技法（2）」</p> <p>第10回 中間まとめ</p> <p>第11回 「表現する（1）作品の読み込み・読み譜つけ」</p> <p>第12回 「表現する（2）間の取り方」</p> <p>第13回 「表現する（3）意識を連ねる」</p> <p>第14回 「表現する（4）ゲネプロ（衣装着用）」</p> <p>第15回 発表会「コトバの渚」・最終まとめ</p>
授業の概要	<p>日本語の音声学的知識と、実践的な音声表現を学ぶことにより、新しい切り口からの文学体験を行うことを目的とする。15回のうち、前半は、音声学や群読の基礎力を養成し、後半は、表現のための実践トレーニングを行う。</p> <p>毎回のクラスは、3つの部分から構成されている。</p> <p>I. 体操・呼吸法・発声 II. 日本語の音声学・群読の技法 講義 III. 課題への取り組み</p>
予習	シラバスを確認し、講義内容への知識を整えておくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師配布資料を配布。
参考書	テーマ毎に指示する。
評価方法・評価基準	<p>① 授業態度 ② 日本語音声学についてレポート ③ 「コトバの渚」参加 ④ 最終レポート提出 小テスト・授業内レポート50% 受講者の発表30% 授業態度20%</p>
履修上の注意	<p>①体操のできる服装で参加すること②講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと ③「ことばの渚」とゲネプロに参加できることが履修条件</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：CUL151	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：「文化」という概念を説明できる。「ヒト」の特性を理解し説明できる。</p> <p>関心意欲：自己と他者の関係性に興味を持てる。「人間」という存在に対して哲学的興味を持つようになる。</p> <p>思考判断：社会的構築物としての概念を指摘できる。「常識」を批判的思考で捉えられるようになる。</p> <p>態度：既存概念に疑いを持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化人類学」とは？「文化」とは？ 「文化」や「人類」など基本的な概念について学ぶ。心理学や社会学など、他の学問領域からも積極的に引用し、人類に対する理解を深める。</p> <p>第2回 「ヒト」の歴史 宇宙の歴史、地球の歴史、そして人類の歴史を振り返る。改めて「ヒト」という存在を認識する。またホモ・サピエンスに特徴的な二足歩行や社会性、脳の発達などについて学ぶ。</p> <p>第3回 人類とコミュニケーション 脳の発達に伴い、高度な社会性とコミュニケーション能力を身につけた人類の特徴について学ぶ。男女によるコミュニケーションスタイルの差異や文化による違いについても学ぶ。</p> <p>第4回 言語人類学 レヴィ・ストロースやフランツ・ボアズに加え、ソシュールの言語学について学ぶ。高度に発達した人類の言語の特徴や、言語に対する様々な考え方について学ぶ。</p> <p>第5回 文化とアイデンティティ 「自己」と「他者」の関係や、文化人類学における文化的他者との向き合い方について学ぶ。哲学や心理学などからも引用しつつ、「自己」という存在について深く理解する。</p> <p>第6回 「自己」と「他者」～境界線と二分法の脱構築～ 社会に存在する様々な二分法的概念と自己理解のメカニズムについて学ぶ。文化人類学の歴史において、文化的他者との出会いと異界序列の暴力的関係が、社会の人間関係に深く反映されている現実について理解する。</p> <p>第7回 構造主義とポスト構造主義 マルクス主義やフロイトの精神分析学を通して構造主義を理解する。またミシェル・フーコーの「権力」の概念やパノプティコンなどを通して、現代社会に生きる「ヒト」の存在を確認する。</p> <p>第8回 フロイトと無意識 「無意識」という精神領域について考える。ユング心理学などを通して、人類の無意識が日常生活や知的活動にどのような影響を及ぼしているのか、考えてみる。</p> <p>第9回 フロイトと精神分析学 近代性と文明が人類に何をもたらしたのか、フロイトの精神分析学を通して考えてみる。またニーチェやアドラーなどにも触れ、人類の歩みをより深く理解する。</p> <p>第10回 テクノロジーと人類 様々なテクノロジーの発達に伴って、人類の暮らしや関係、精神構造までも変化を遂げてきた。IT技術やコンピューターテクノロジーの発達は、私たちの生き方自体を変えてきた。スマートフォンやSNSが身近になることで人類はどのような変化を遂げ、またこの先どのように変わっていくのだろうか。監視システムの発達やビッグデータ、スマホ依存症やIoTの拡大など、私たちの生活を取り巻く変化に着目し、将来の展望について議論する。</p> <p>第11回 人工知能と人類の未来（1） 人工知能の出現は、これからの人類のあり方を劇的に変えることだろう。映画『マトリクス』の世界を例に、人工知能と人類のあるべき関係性について考える。</p> <p>第12回 人工知能と人類の未来（2） 未来予測やビッグデータによる社会活動の変化など、実際に始まっている人工知能の利用と、その可能性・危険性について考える。</p> <p>第13回 人工知能と人類の未来（3） アンドロイドの開発やロボットの日常化で、私たちの生活はどう変わるのか。人間同士の関係、人間と人工知能との関係はかつてない変化の局面を迎えることになるだろう。新しいテクノロジーに依存して生活し、精神的にも依存を高める人類のこれからについて考える。</p> <p>第14回 人類の未来 様々な分野で人間の能力を超え、これから仕事までも奪っていくだろうと予測される人工知能の存在。そんな現実と直面して、人間はどのような生き方の選択を迫られるのだろうか。「人間らしさ」とは何だろうか。人工知能にできなくて人間にできることは何だろうか。改めて人間という存在について考えてみる。</p> <p>第15回 人間という存在（総括） これまでの講義を振り返り、人間という存在について改めて考える。特に人工知能との比較において、人間の特性を脳科学や心理学を引き合いに考える。人類の未来を考えるとともに、一人の人間として私たちに迫られた選択について議論する。</p>
授業の概要	私たちの日常生活に存在する「文化」と「人類」に関する様々な課題を考える。15世紀に始まった大航海時代の異文化観からグローバル時代の文化人類学に至るまでの歴史を追い、「ヒト」と「文化」に対する考え方の変化を理解する。また、沖縄という現実を通して、文化人類学という学問が、わたしたちの社会生活にどのように影響を及ぼしてきたかを学ぶ。人工知能の発達が、人類の様々な生活分野にどのような影響を与えるのか、また「人間とは」や人間の存在意義について考える。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な概念について調べておくこと。

復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連を再確認すること。
テキスト	講義に必要なテキストならびに資料は、担当者がその都度準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。他者へのリスペクトを常に意識してください。私語などの授業妨害行為は許されません。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新のニュースや授業で取り扱ったテーマを取り巻く状況について把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。

講義科目名称：日本国憲法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Constitutional Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング：CUL244	

授業のテーマ及び到達目標	そもそも法律とは別に、なぜ憲法があるのでしょうか？本講義では、日本国憲法の基本原理を学んだ上で、私達の身近にある憲法に関する具体的な問題をより深く理解することで、主権者である私達自身が、憲法の現在そして未来について考えられるようになることを目標とします。		
授業計画	第1回	ガイダンス、近代立憲主義の確立、明治憲法から日本国憲法へ	
	第2回	日本国憲法の基本原理（憲法とは誰を縛るルールか？）	
	第3回	人権総論（人権の分類、新しい人権、外国人の人権）	
	第4回	子供の権利	
	第5回	法の下での平等	
	第6回	精神的自由①内心の自由	
	第7回	②表現の自由	
	第8回	③検閲の禁止	
	第9回	経済的自由（財産権保障の構造他）	
	第10回	社会権（自由権とはどう違うのか？）	
	第11回	その他の人権、まとめ	
	第12回	統治総論	
	第13回	国会および内閣	
	第14回	裁判所	
	第15回	平和主義、総まとめ	
	第16回	定期試験	
授業の概要	まず、近代立憲主義が確立されてきた世界の歴史や日本国憲法が成立するまでの歴史をたどり、次に、憲法で保障されている基本的な権利の内容を具体的な事例を基に学びます。そして、基本的人権を保障するための国の仕組みや平和主義について理解を進める予定です。		
予習	配付レジュメや教科書の該当箇所を読んで来てください。		
復習	講義で指示した点を復習してください。		
テキスト	『スタート憲法入門第2版補訂版』吉田仁美[編]（成文堂）		
参考書	講義にて紹介		
評価方法・評価基準	中間・期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。 定期試験55% 授業態度25% 受講者の発表20%		
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。毎回授業のため、予習・復習してください。		

講義科目名称：ジェンダー論

授業コード：

英文科目名称：Gender Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：CUL330	

授業のテーマ及び到達目標	ジェンダーそのものの意味を理解しながら、社会をジェンダーの視点で見えていく。 知識理解：ジェンダーの持つ意味の理解 関心意欲：社会の起きている事象をジェンダーの視点から見つめることができる 思考判断：ジェンダーの歴史的な流れおよび新しい示唆を持つことができる 態 度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み
授業計画	<p>第1回 ジェンダーの学びは何故必要か（WS、講義）</p> <p>第2回 女性学・ジェンダーとは何か</p> <p>第3回 家父長制、日本における女性運動</p> <p>第4回 メディアリテラシーとジェンダー</p> <p>第5回 アニメにみるジェンダーその1</p> <p>第6回 アニメにみるジェンダーその2</p> <p>第7回 グローバリゼーションとジェンダー</p> <p>第8回 ワークシェアリング 家庭、家族、個としてどう生きるのか</p> <p>第9回 女性と貧困の課題</p> <p>第10回 LGBTについて学ぶ</p> <p>第11回 社会派映画にみるジェンダー問題</p> <p>第12回 男性性について考える</p> <p>第13回 新たなジェンダーのあり方 プレゼンテーション その1</p> <p>第14回 同上 その2</p> <p>第15回 同上 その3 講義まとめ、振り返り</p>
授業の概要	ジェンダーとは、語源はラテン語：“genus”（産む、種族、起源）である。「生まれつきの種類」という意味から転じて、性別のことを指すようになった。しかし、ジェンダー研究が進むにつて、家族・政治・軍隊などこれまで自明とされてきた事柄へのジェンダーの関与が明らかになり、ジェンダーを男女という2つの項目と捉えるのではなく、2つの区分を作り上げるものである。メディアリテラシーからジェンダー捉えていく意味でも、アニメや様々なメディア情報を通して通して学んでいく。また沖縄の中での戦後復帰以降の女性運動にも触れていく。授業の中で学んだトピックを学生自らが（グループ可）一つ取り上げ・掘り下げ、新たなジェンダー思想または価値観について発表を行ってもらう。
予習	身の回りのジェンダー課題に意識的になり、学びの視点を意識して作られた価値観を批判的に見る。適時、予習課題を与えるので取り組む
復習	身の回りの作られたジェンダー思想に対して、新たな視点、意識を持つことが出来るようになり、課題やプレゼンに備える
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。授業への参加（25%）、課題（レポート）（25%）、プレゼンテーション（30%）授業への貢献・積極的発言（20%）
履修上の注意	第13、14、15回は学生自らによるプレゼンテーションです。グループ、個人、自由

講義科目名称：経済学

授業コード：

英文科目名称：Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
友利 廣			
ナンバリング：BUS170			

授業のテーマ及び到達目標	経済学の成り立ちとその変遷を通して経済学が世の中の経済現象の解明に取り組んできたことを理解させます。また、経済学で使用されている専門用語と経済現象の関連性を理解し、新聞や雑誌、TV等の経済報道の内容を理解できるようにすることを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：講義の狙い、受講の心構え、成績評価等について説明する。</p> <p>第2回 経済学の登場：アダム・スミスの紹介を通して経済学登場の背景を説明する。</p> <p>第3回 経済発展と自由貿易：デイビット・リカードの貿易の考えを説明する。</p> <p>第4回 経済発展と保護貿易：フリードリッヒ・リストの貿易の考えを説明する。</p> <p>第5回 大恐慌とケインズ経済：J・M・ケインズの経済の考えを説明する。</p> <p>第6回 ディスカッションと報告：ケインズ以前の経済理論のディスカッションと報告を行う。</p> <p>第7回 ディスカッションと報告：ケインズの経済理論のグループディスカッションと報告を行う。</p> <p>第8回 ミクロ・マクロ経済学：ミクロ経済学、マクロ経済学の考え方を概説</p> <p>第9回 完全競争市場：完全競争市場の考えを概説する</p> <p>第10回 完全競争市場と価格：価格を通して完全競争市場の特性を考える</p> <p>第11回 不完全競争市場：不完全競争市場の考えを概説する</p> <p>第12回 不完全競争市場と価格：価格を通して不完全競争市場の仕組みを考える</p> <p>第13回 国民所得と閉鎖経済：閉鎖経済の下での国民所得の決定を概説</p> <p>第14回 国民所得と開放経済：貿易を想定した国民所得の決定を概説</p> <p>第15回 景気循環とケインズ経済：ケインズの有効需要理論を中心に概説</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>経済の基本を理解することは社会人として大切な要件です。語学を職業とする皆さんの場合でもさまざまな現場で活躍するために不可欠な学問です。この点を理解した上で受講するか否かを判断してください。講義は二部構成とします。まず、前半では経済学の成り立ちと経済発展の仕組み、自由貿易と保護貿易を巡る国家の思惑等について解説します。これを踏まえ受講生の理解を促すためにグループ編成による討論と報告会を設けます。後半ではミクロ経済学とマクロ経済学の両分野から代表的な考えを取り上げて価格と所得の形成を解説し経済学の理解を深めます。</p> <p>尚、講義はパワーポイントや動画、新聞記事を活用して理解し易い工夫を講じます。又、出席カードの質問への解答をまとめた資料を配布し双方向の講義にします。</p>
予習	配布資料の専門用語は講義で説明することはありません。予め調べた上で講義に臨んでください。
復習	受講生が出席カードに記入した質問を解答したプリントを毎回配ります。同プリントを必ず読み直して次回講義に臨んでください。
テキスト	テキストは使用しません。講義はレジュメを事前に配布して予習、復習ができるように配慮します。
参考書	適宜紹介する。
評価方法・評価基準	期末試験70% 小テスト・授業内レポート15% 受講者の発表10% 授業態度・授業への参加度5%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席カードを配り点呼代わりに使用します。受講生が記入した質問、意見、感想で受講態度を評価します。 ・又、同カードによる質問等に対してはとりまとめた結果を翌週配布、解説します。 ・3回の遅刻は1回の欠席としてカウントします。又、三分の一以上の欠席は不可とします。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 配布資料の予習、受講生の質問を説明した資料の復習を欠かさないこと。• 受講中の退室、私語、スマホは厳禁とします。• 理由あって欠席する際は前日迄に事情を記してメールで連絡してください。 |
|--|

講義科目名称：コンピュータ基礎演習 I

授業コード：

英文科目名称：Basic Computing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：ITL170	

授業のテーマ及び到達目標	PCの基礎的操作方法を習得させるものであるが、具体的にはワープロによる文章の作成、表計算ソフトによる数値情報の分析方法、基礎的なデータベースソフトの活用方法などを実践的に修得すること		
授業計画	第1回	オリエンテーション：(1) パソコンの概念 (2) 使用登録・パスワードの設定 (3) 電子メールの設定	
	第2回	(1) Windowsの基本操作 (2) OSの基本操作 (3) インターネット	
	第3回	Word2007 (1) : Wordの基本操作、文章の作成保存	
	第4回	Word2007 (2) : 文章のレイアウト	
	第5回	Word2007 (3) : 書式の応用	
	第6回	Word2007 (4) : 表示能力を高める、オブジェクトの挿入	
	第7回	Excel2007 (1) : 基本操作、一覧表の作成	
	第8回	Excel2007 (2) : グラフの作成、グラフのデザインおよびレイアウト	
	第9回	Excel2007 (3) : グラフのデザインとレイアウト	
	第10回	Excel2007 : ①グラフのレイアウト	
	第11回	PowerPoint (1) : プレゼンテーションとは	
	第12回	PowerPoint (2) : プレゼンテーション資料の作成	
	第13回	PowerPoint (3) : プレゼンテーションの実践	
	第14回	Word2007 (5) : 様々な活用法	
	第15回	メディアリテラシー	
授業の概要	コンピュータ操作の基本的な知識・技能を習得し、究極的には情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信が行えるような情報リテラシーを育て、コンピュータを日常使いこなせるための基礎を学ぶ。また、情報化社会へ参画する姿勢についても学ぶ。		
予習	次回の内容予告を受け、知識を整えておくこと		
復習	授業でおこなった技法を自ら応用してみること		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	課題の提出70% 授業でのプレゼンテーションなどへの参加度及び授業に臨む姿勢30%		
履修上の注意	USBメモリーを準備すること		

講義科目名称：コンピュータ基礎演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Basic ComputingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位(0-2)	情報処理
担当教員			
金城 豪			
		ナンバリング：ITL171	

授業のテーマ及び到達目標	(1) プレゼンテーションソフトによる資料作成の技術を身につける。 (2) ホームページを作成し情報を発信する技術を修得する。
授業計画	<p>第1回 Excel2007：①データの並べ替え ②データの検索</p> <p>第2回 Excel2007：データへの条件設定</p> <p>第3回 VBAマクロを使用したデータ処理</p> <p>第4回 プレゼンテーションソフトの基礎知識</p> <p>第5回 スライドの表現技法 アニメーション効果</p> <p>第6回 コンテンツの作成1</p> <p>第7回 コンテンツの作成2</p> <p>第8回 コンテンツの発表会1</p> <p>第9回 コンテンツの発表会2</p> <p>第10回 コンテンツの発表会3</p> <p>第11回 ホームページの基礎知識</p> <p>第12回 html文書の基礎知識</p> <p>第13回 ホームページコンテンツの作成1</p> <p>第14回 ホームページコンテンツの作成2</p> <p>第15回 ホームページコンテンツの作成3</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	コンピュータ基礎演習Ⅰで獲得した知識・技能を駆使した表現・プレゼンテーション演習を行う。すなわち情報を自由に検索、享受、処理、加工、創造、発信を演習し、確かな情報リテラシーを養成する。
予習	毎回次の講義内容を指示するので、各自配布プリント等を使用して事前に講義を受ける準備をしておくこと。
復習	講義内容を再確認し、与えられた課題を指示通りに実行し確実に提出できるように努めること。
テキスト	講義内で適宜資料を配布しテキストに代える。
参考書	講義内で適宜指示する。
評価方法・評価基準	作品（コンテンツ）の制作とそのプレゼンテーションをもって評価及び授業態度（60点）、期末試験（20点）、出席状況（20点）による。
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

講義科目名称：死生学

授業コード：

英文科目名称：Thanatology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
		ナンバリング：SSS380	

授業のテーマ及び到達目標	本講義は、医療と結びついている内容でもあり、また教育の現場とも連動している内容となります。こうしたことから、この講義を受講している皆さんには社会的にどのような事象が現在、起こっているのか、こうした予備知識を理解しつつ、担当者も解説に努めます。医療医学的知識が身に付くことを期待します。そうした中で、何故、こうした講義が本学で開講されているのか理解できることが、1つの到達点であるように考えています。教職課程の学習とも連動していると考えます。生と死を学ぶ教育、こうした視点を医学的観点から解説してゆきます。
授業計画	<p>第1回 生と死を学ぶ学問</p> <p>第2回 よりよい生と死を考える視点</p> <p>第3回 ホスピスは我が国に定着するのか</p> <p>第4回 在宅死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から―</p> <p>第5回 在宅ターミナルケアを学ぶ ビデオ学習(担当者;テレビ出演番組(60分))</p> <p>第6回 病院ケア、病院死を考える視点―鹿児島県大島郡与論町の事例から―</p> <p>第7回 エンバーミング、遺体観、身体観そして剖検(病理解剖)の側面を学ぶ</p> <p>第8回 ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(1)</p> <p>第9回 ハンセン病医療医学の側面を学ぶ(2)</p> <p>第10回 各地にみられる死生観の側面を学ぶ</p> <p>第11回 若者～高齢者の持つ死生観</p> <p>第12回 死の人類学(1) ビデオ学習(30分)(担当者;テレビ出演番組)</p> <p>第13回 死の人類学(2) 生から死への途次、死後・死者儀礼と文化</p> <p>第14回 エージング(加齢)、老い、終(つい)の場所、死、死者儀礼を探る</p> <p>第15回 まとめ(試験に代わる課題提出の説明、解説)</p> <p>第16回 試験に代わる課題(試験に変わる課題レポート作成:指定期日までに提出)</p>
授業の概要	各宗教(宗派)には、生と死に対する考え方があり、加齢(エージング)と共に、生きることの質が問われると同時に、死の質(Quality of Death)も考察しなければならない時代となってきている。終末期医療、ターミナルケアのあり方やホスピスケアの意義、死への科学(サナトロジー)を学生・社会教育の上で取り扱う時代が到来してきているその本質を教示する。実りある豊かな老いを考えるために、医学史におけるトピック、病理解剖面での知見、医療技術の変遷、再生医療等の現状を紹介し、現代社会における医療の役割を学びながら考究してみる。
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。
テキスト	特になし
参考書	塩月亮子(制作ビデオ):『死生観の人類学』第1巻「死をみつめる」、第2巻「死を体験する」、(株)新宿スタジオ 第1巻に担当者の協力資料の紹介あり。その他、担当者出演テレビ番組 2本のビデオテープを用いた教材を使用。(毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります)。受講者の状況を見て、こうした教材を避けて配布資料で説明の場合もあります。
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄を設けています。「ここで一言」のコーナーには何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は、成

	績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかわるレポート提出の課題（B5版のレポート用紙で作成）を明示します。 試験（中間・期末試験）70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%
履修上の注意	特に前知識（死生学に関連した）は必要としません。専門的な知識の修得を狙うのではなく、生と死を地域や担当者のフィールドワークから投げかける視点を通して、学んで欲しいと思っています。視覚教材を用いて講義を行う予定ですが、上述したように変更もあります。

講義科目名称：生命の科学と倫理

授業コード：

英文科目名称：Life Science and Life Ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
		ナンバリング：SSS280	

授業のテーマ及び到達目標	2004年度から実施となった本講義において、この時期から数年間は、BSE問題が、本講義におけるキーワードとして浮上した。逆に、2010年度においてはこのキーワードはベスト10から外れた。この年度、COP10が開催されたこともあり、生物多様性などに関連したもの、宇宙関連の内容も増えた。こうした本講義に関連した新聞記事収集を図りつつ、単年度でみれば合計件数はこの順位だが、トータルするとまだBSE問題は上位に来るため、目線をどこに置くかでこうした内容は違ってくる。基礎的知識に基づき、多層的な思考を養いつつ、既存概念に疑いをもちつつ、生物系の内容に興味を持たせる取り組みを行う。
授業計画	<p>第1回 生命の科学と倫理を学ぶ意義を考える視点</p> <p>第2回 遺伝子組み換えと遺伝子組み換え技術</p> <p>第3回 遺伝子組み換えと現在の農業 ー自給率4割の国、日本ー</p> <p>第4回 種、BT菌、ES細胞（黄教授の功罪）、ヒトES細胞とiPS細胞（万能細胞）</p> <p>第5回 クローンネコ、クローン犬の誕生からクローン奄美の黒ウサギ、マンモスへ</p> <p>第6回 進化を考える視点 ー小笠原諸島、ガラパゴス諸島と1000年後のヒトー</p> <p>第7回 DNA技術とミトコンドリアDNA鑑定ーこの用語のもつ意味ー</p> <p>第8回 生物を考える視点① ー雑種交配、絶滅危惧種、新種、希少（貴重）種、外来種ー</p> <p>第9回 生物を考える視点② ー固有種、品種改良、レッドブック、生物多様性、化石</p> <p>第10回 地球環境と地球温暖化ー森林から海への本来の必要な環境ー</p> <p>第11回 地球資源とバイオ燃料ー代替エネルギー、バイオマスとはー</p> <p>第12回 食を考える視点ー遺伝子組み換え食品の安全性、食の安全ー</p> <p>第13回 BSE問題を考える視点ープリオン病、狂牛病、米国産牛問題の概説ー</p> <p>第14回 命を考える視点 ー代理出産、無国籍児、体外受精ー</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）</p>
授業の概要	近年の科学技術の進歩は将来、長い目で見れば、人間の進化にもその影響を及ぼすと考えられる。講義当初の年度は当該科目に関するキーワード内容として、新聞記事に着目するとBSE問題などが突出した年度であった。その後、クローン、遺伝子治療、代理出産、など様々な内容が出ている。こういった講義を実施している中においても、どのようなキーワード（小見出しとなる関連事象）が現在、社会でおこっているのかに目を向け、概説して行くこととする。本講義は臓器移植や安楽死問題などよりも、より生物学（一部、地学内容含む）的な内容を重視し、その講義関連内容の最新情報の収集を図り、教示してゆく。
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。
テキスト	毎回、担当者が作成したプリントを用いての講義となります。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想と、その下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方通行的になりがちな講義の解消に努めます。この感想用紙は成績に直接影響はしません。講義終盤で、試験にかわるレポート課題（B5のレポート用紙で作成）を出します。試験（中間・期末試験）70% 授業への参加度20% 小テスト・授業内レポート10%

履修上の注意	予備知識は、不要です。生物・地学系の内容が中心となるなかで、現在起こっている社会事象が学べます。県内企業のエントリーシートで、バイオマス・環境問題を書くようなことも、皆さんの中には起こるはずですが。教示している内容を自分のものにして、有効に使うことが大学で学ぶこと、大学生らしさにつながることでしょう。
--------	---

講義科目名称：生活環境論

授業コード：

英文科目名称：Human Environmental Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
		ナンバリング：SSS383	

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、医療・保健・福祉分野において、予防医学的な視点を中心に、離島医療における高齢者の終（つい）の問題など、担当者の調査研究に基づいたフィールドワークから得られた視点を教示します。直接、受講者の卒業論文に影響を及ぼさないかも分かりませんが、本講義を通して、研究手法、研究に関する一連の内容を教示することに心がけます。4年生の受講となる講義のため、研究目線を中心とした内容で本講義を展開します。深い洞察力を身に付け、社会事象を理解し、より深い知識が身に付けられることを目指したいと考えています。		
授業計画	第1回	人類働態学（Human Ergology）、人類生態学（Human Ecology）的健康観	
	第2回	疾病予防と介護予防	
	第3回	寝たきり予防は自己管理で可能か ―与論島での調査研究から―	
	第4回	元気な高齢者であることの意義	
	第5回	3障害（障碍）の中で、精神障害者、回復者を考える視点	
	第6回	バリアフリーとユニバーサルデザインを考える	
	第7回	ノーマライゼーションの発想と障害者雇用、その職種、職場環境を探る	
	第8回	雪国における車椅子の使い方について	
	第9回	3障害にみる手厚さの違い ―交通バリアフリー法、補助犬法、ジョブコーチ制度など―	
	第10回	福祉船の就航する島 ―岡山県笠岡市の島々―	
	第11回	寝たきりにかわる用語を探る	
	第12回	百寿者が生活する家庭環境	
	第13回	ケアサイエンスとフィールドワーク(1)	
	第14回	ケアサイエンスとフィールドワーク(2)	
	第15回	まとめ（試験に代わる課題提出の説明、解説）	
	第16回	試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）	
授業の概要	寝たきり予防は、自己管理で可能か。超高齢社会に突入した現在、疾病予防と介護予防の2つの行政サービスが展開されている。「転ばぬ先の杖」という言葉は昔からの言い伝えだ。ただ、杖1つとっても、ステッキ、T字型、フィッシャー形、C字型、ロフトランド・クラッチと目的用途は多数である。歩行器や車椅子も、多種多様。家庭内事故、転倒、骨折、寝たきり。「高齢者が病院に行くわけ」を考えること、住宅改造のイロハ、福祉器具などを考えることで、先の命題が解決できないだろうか。介護に関連する内容も加味し、このテーマを考究する。		
予習	配布資料を元に講義を展開するため、その都度説明します。		
復習	毎回配布の配布資料を読み返すこと。		
テキスト	こちらで講義資料を印刷して、準備します。		
参考書	近藤功行(共著)『高齢者教育論』東信堂1997(講義資料は毎回プリント配布します。購入は不要です。)		
評価方法・評価基準	毎時間、B4の感想用紙を配布します。この用紙の左側には簡単な質問と右側上部にはその日の講義を聞いての感想を書く余白、そしてその下に「ここで一言」を書く欄があります。「ここで一言」は何を書いても構いません。こういった感想用紙を用いて、一方的になりがちな講義の解消に努めます。講義終盤で、試験にかかわるレポート課題（B5のレポート用紙で作成）を明示します。 試験（中間・期末試験）70％ 授業への参加度20％ 小テスト・授業内レポート10％		

履修上の注意	特に、前知識は問いません。講義計画は、1～15まで記載していますが、講義の進行状況や学生の興味関心などで、順位の変動や内容が変わる場合も想定されます。授業への積極的な取り組みを希望します。講義形式で概説しながら、トピックなどの紹介などを含めて、講義を進めていきます。なお、感想用紙などを毎回用いる理由には、これまで4年制大学で卒論ゼミを持った学生が、2次3次の就職試験で落ちてくるのは簡単な作文です。日頃から書くことをしておきたい担当者の老婆心から始まっている内容です。
--------	---

講義科目名称：健康の科学

授業コード：

英文科目名称：Health Science

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
近藤 功行			
		ナンバリング：SSS287	

授業のテーマ及び到達目標	<p>担当者は、医療・保健・福祉系分野で継続研究を行っている。こうした経緯を学生に教示する中で、学生も研究手法や当該分野の内容に興味を持って欲しい。なるべく、幅広い設定で、予備知識抜きにした中で、新たな知識を伝授したい。</p>		
授業計画	第1回	<p>全体説明。人間にとっての健康とは、病気とは。 精神的健康とは、癌が国民に何人に1人か、沖縄の長寿復興の鍵、今回、追ってゆく内容、講義目標について概説する。[配付資料と毎回の提出物説明]</p>	
	第2回	<p>健康幻想。高齢女性の一過性の徘徊行動と当該研究から得られた視点。 近年の科学の進歩は凄まじい。そうした中、人間行動と健康、文化面を探る視点は、医科学でも重要となる。そこを教示する。</p>	
	第3回	<p>医療圏と救急搬送。沖縄・奄美群島内における救急医療の課題。観光と医療。 沖縄・奄美群島内には、医介輔・歯介輔制度が戦後設けられていた。何故か。現在、透析治療と観光、観光業と医療の連携がある内容に触れる。</p>	
	第4回	<p>缶飲料にみるカロリー表記。大正時代の沖縄本島のある村の食と現代人の摂取カロリー 缶飲料では、カロリー表記がなされている。このカロリーをめぐる内容について、長寿との関連で教示する。</p>	
	第5回	<p>百寿者＝センテナリアンを探る。沖縄県と秋田県での比較から。 旧厚生省の長寿科学研究事業に、担当者は着手した経緯がある。百歳老人の内容、また、長寿と短命にはどういう因子が働くのか等を探る。</p>	
	第6回	<p>身体の恒常性＝ホメオスタシス。心と精神のバランス。心身医学・精神衛生学の視点 旧厚生省国立精神神経センター精神保健研究所に、担当者は所属した経緯がある。精神と健康、文化の側面について教示する。</p>	
	第7回	<p>高齢者の生きがいを探る。「よい老人ホームとは。」何かを考える視点を学ぶ。 「よい老人ホームとは」、回答全てが正解である。しかし、抜け落ちている内容、発想を変えるとこれか、ここを引き出したい。また、探りたい。</p>	
	第8回	<p>適寿（Appropriate age）の視点、衛生学公衆衛生的視点から。 担当者は、現在も、琉球大学医学部医学科衛生学公衆衛生学教室に所属している。適寿とは、筆者の打ち出した用語である。ここを学ぶ。</p>	
	第9回	<p>高齢女性の社会的役割、高齢者と死生観を探る視点 高齢女性の役割については、沖縄から得られる視点は大きい。また、離島における高齢者の死生観等についても考究をはかる。</p>	
	第10回	<p>QOL&QODをめぐる考究 「QOL」は「生活の質」だけではない。一方、「死の質」をめぐる内容は、近年、終活、散骨など死のあり方を学ぶ動きがある。ここを学ぶ。</p>	
	第11回	<p>再生医学と形成外科学の視点。エンバーミングと日本人の死のあり方。 死を取り巻く内容は、現在、大きく変化しようとしている。遺体処理、葬送儀礼の変化、これらは人間の健康とも関連してくる。ここを学ぶ。</p>	
	第12回	<p>沖縄の長寿は守れるのか。長寿科学研究と沖縄の問題点を探る。 小児科・産婦人科領域など、医療内容についての説明と、これまでの講義で取り上げていなかった長寿科学の視点について学ぶ。</p>	
	第13回	<p>今、『健康科学』を学ぶ意義とは（1）。 これまで学んだ期間にみる、『健康科学』関連の新聞記事を紹介、解説。</p>	
	第14回	<p>今、『健康科学』を学ぶ意義とは（2）。[試験に代わる課題：課題1～課題3提示。] これまで学んだ期間にみる、『健康科学』関連の新聞記事を紹介、解説。</p>	
	第15回	<p>まとめ。保健・医療・福祉を学ぶ視点。[試験に代わる課題：課題4～課題5提示。] これまでの講義における重要な点、今回講義の総括を行う。</p>	
	第16回	<p>試験に代わる課題（試験に変わる課題レポート作成：指定期日までに提出）</p>	
授業の概要	<p>講義に関連ある質問をB4用紙の回収用紙で行い、記載された回答を担当者入力、次回講義で紹介する努力を払うことで、復習となるように心がける。</p>		
予習	<p>講義が進む中で、キーワードが何か書き出せるようにする。</p>		
復習	<p>講義配付時の資料で、疑問点を書き出せるようにしておく。</p>		
テキスト	<p>講義資料を毎回、担当者が用意。それに基づき、講義を展開。</p>		
参考書	<p>自著・執筆の学術論文・新聞記事などを講義資料におり交ぜる。</p>		
評価方法・評価基準	<p>毎回、講義関連の質問&感想などを実施、時間内回収。欠席者は、研究室前に受け取り用の箱を設置。当該資料を受け取り、欠席時の内容を記載して速やかに提出。全回提出必要。試験に代わる課題、規定枚数あり。総合評価に。講義時回収の質問&感想用紙（欠席の場合は、これが「宿題」となる。感想は、この日休んでいるため、配付資料を読んで記載。これまでの講義内容追加ありでも、可。） 記載状況20%。試験に代わる課題80%。</p>		

履修上の注意

前知識は、不要。欠席時の講義感想は、配布資料を読み記載。ネットなどからの引用はダメ。白紙にしない。

講義科目名称：体育理論

授業コード：

英文科目名称：Physical Education(Theory)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
音野 太志			
	ナンバリング：SSS275		

授業のテーマ及び到達目標	現代社会に生きる人々や自分自身の「からだと内面（こころ）」について認識し、よりよいライフスタイルを構築できる知識と態度を養うこと。
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション：健康とは？</p> <p>第2回 テーマの決定</p> <p>第3回 グループワーク①</p> <p>第4回 グループワーク②</p> <p>第5回 グループワーク③</p> <p>第6回 発表</p> <p>第7回 発表</p> <p>第8回 発表：結果の発表</p> <p>第9回 後半：テーマの決定</p> <p>第10回 グループワーク④</p> <p>第11回 グループワーク⑤</p> <p>第12回 グループワーク⑥</p> <p>第13回 グループワーク⑦</p> <p>第14回 発表</p> <p>第15回 発表</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>授業は、アクティブラーニングの手法を用いて進めていく。</p> <p>前半は、グループ毎にテーマを決め、現代の健康問題に関し調査し、模擬授業として発表を行い、各テーマに対する学びを深める。</p> <p>後半は、問題への解決方法を探り、同学年へ向けた、健康問題改善の為の取り組みをグループ毎に考案し、提案を行う。</p>
予習	それぞれのテーマに沿った健康問題に関する情報を収集して授業に臨む。
復習	講義で感じた疑問や発見を振り返り、自身の生活と照らし合わせる。
テキスト	使用しない。講義ごとに資料を配布する。
参考書	九州大学健康研究センター編『健康と運動の科学』 大修館書店他
評価方法・評価基準	レポート40点（中間20点、期末20点）、授業への参加度50点、定期試験10点
履修上の注意	特になし

講義科目名称：体育実技

授業コード：

英文科目名称：Physical Education (Sports)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-3)	大学共通科目
担当教員			
島袋 桂・喜屋武 享・真栄城 勉			
		ナンバリング：SSS276	

授業のテーマ及び到達目標	1) スポーツの楽しさ、喜びを味わうこと。 2) スポーツに対して、「真剣に」、「コミュニケーションを図りながら」実践することを通し、諸課題を解決しながら、個人またはグループの成長プロセスに介入できるようになること。		
授業計画	第1回	コースオリエンテーション(授業概要、目標、成績評価方法、等)	
	第2回	イニシアティブゲーム	
	第3回	ドッジビー：練習、ゲーム	
	第4回	ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム	
	第5回	ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム	
	第6回	ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム	
	第7回	ドッジビー：アルティメット 練習、ゲーム	
	第8回	ソフトバレーボール 練習、ゲーム	
	第9回	ソフトバレーボール 練習、ゲーム	
	第10回	ソフトバレーボール 練習、ゲーム	
	第11回	ソフトバレーボール 練習、ゲーム	
	第12回	バスケットボール 練習、ゲーム	
	第13回	バスケットボール 練習、ゲーム	
	第14回	バスケットボール 練習、ゲーム	
	第15回	バスケットボール 練習、ゲーム	
授業の概要	ドッジビー、ソフトバレーボール、バスケットボールをとりあげる。毎授業では練習と試合を実施する。個人とグループの諸課題について、1)実践 2)ふりかえり 3)次の課題設定 4)実践というプロセスを繰り返すことによって、個人またはグループの成長プロセスを考える機会とする。		
予習	体調を整えて授業に備える。		
復習	授業内容を振り返り、次の授業に備える。		
テキスト	使用しない。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	授業への参加度60点 技能評価40点 計100点による。		
履修上の注意	1) 体育館用のシューズを準備し、運動にふさわしいウェアで参加すること。 2) 金属製のピアス、ネックレス、ブレスレット等、人を傷つけ、傷つけられる恐れのあるモノは外すこと。 3) その他の注意事項は初回授業時に伝達する。		

講義科目名称：日本語表現法

授業コード：

英文科目名称：Japanese Expression

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
		ナンバリング：CMS228	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：コミュニケーション・効果的なプレゼンについて深く認識する 思考判断：スピーチの論理的な構成を通じて、相手を尊重すること、自分を省みること学ぶ 関心意欲：失敗から学ぶ姿勢で積極的にスピーチ・プレゼンに取り組む意欲を喚起する 態度：相互交流での学び合いによるセルフ・ラーニングの意識を培う</p>
授業計画	<p>第1回 「コミュニケーション」って何？ 課題：他己紹介、ヒーローインタビュー</p> <p>第2回 「聞く・聴く・訊く」 課題：聴く力の点検、音を読む</p> <p>第3回 「話す～声のパワー～」</p> <p>第4回 「敬語意識（1）」</p> <p>第5回 「敬語意識（2）」</p> <p>第6回 「パブリックスピーキング～伝達・情報化～」</p> <p>第7回 「パブリックスピーキング実践（1）」 課題：自分の披露宴の友人代表スピーチ</p> <p>第8回 「パブリックスピーキング実践（2）」 課題：フィードバック</p> <p>第9回 「聴衆分析」 課題：即興スピーチ</p> <p>第10回 「朗読～相手に届ける表現～」</p> <p>第11回 「教室プレゼンテーション・20の技法」</p> <p>第12回 「プレゼン実践（1）」 課題：写真リポート</p> <p>第13回 「プレゼン実践（2）」 課題：フィードバック</p> <p>第14回 まとめ、プレゼン、即興スピーチ</p> <p>第15回 フィードバック・レポート提出</p>
授業の概要	<p>日本語の音声表現についての講義と実践を通し、的確なコミュニケーションのための土台作りをする。以下の5つの観点からの学びを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の考えや意見を音声言語で表現する方法を訓練する。 ② 他人の話を聞く訓練をする。 ③ コミュニケーションのしぐみを学ぶ。 ④ 1分スピーチ力を養成する。 ⑤ 効果的なプレゼンテーションの技法を学ぶ。
予習	シラバスを確認し、授業部分のテキストを読んでおくこと
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと
テキスト	講師作成資料を配布。
参考書	テーマ毎に指示する。
評価方法・評価基準	<ol style="list-style-type: none"> ① 1分スピーチへの取り組み ② プレゼンテーションへの取り組み <p>授業態度50% 受講者の発表30% 小テスト・授業内レポート20%</p>
履修上の注意	講師による配布資料をきちんとファイルしておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
比嘉 光龍			
		ナンバリング：CUL130	

授業のテーマ及び到達目標	うちなーぐち（おきなわ語）を方言ではなく「言語」だときちんと認識する。うちなーぐちはうちなーんちゅ（おきなわ人）の母語であり、うちなー文化の根幹であることを理解する。
授業計画	<p>第1回 講師紹介と全講義の内容概略</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講師紹介とシラバス確認 2 「い」と「ゐ」の違い 3 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い 4 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第2回 各自のうちなー名字を確認しアイデンティティ再考を促す</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各学生の名字のうちなー名 2 琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？） 3 「琉球諸語」と「しまくとぅば」の混同について 4 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第3回 琉球語ではなく「琉球諸語」と理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各学生の名字のうちなー名（その二） 2 琉球諸語とは（島言葉？離島？本島？）（その二） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第4回 「やー（家）」と「いやー（お前）」の区別など首里の発音を理解</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちの発音 2 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い（その二） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第5回 オジー、オーバーは下品語、たんめー、うんめーが本来の言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちの発音（その二） 2 「うちなーぐち」と「うちなーやまとうぐち」の違い（その三） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第6回 めんそーれはおかしな表記で「めんそーれー」である</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちのあいさつ 2 「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第7回 はいさい・はいたいは軽い挨拶で使用する際は注意</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちのあいさつ（その2） 2 「めんそーれ」ではなく「めんそーれー」（その2） 3 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第8回 「とー（十）」と「とー（唐）」の表記の区別を覚える</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちの表記（オ列長音と小文字書き「う」について） 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第9回 「上等（じょーとー）」と発音するのが本来の言葉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 うちなーぐちの表記（オ列長音と小文字書き「う」について）（その2） 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第10回 多言語だと認知症になりにくい（欧米のデータ紹介）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 琉球諸語に誇りを持つ意義とメリット 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第11回 1879（明治12）年は琉球処分ではなく「沖縄県強制設置」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 琉球・うちなーの歴史概略 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第12回 「安里屋ゆんた」は八重山民謡のうちなー民謡ではない</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「琉球諸民謡」という新しい呼称の提唱（琉球諸民謡演奏動画鑑賞） 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第13回 「かじゃでい風」、「唐船どーい」など講師生演奏と解説</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講師による「かじゃでい風」、「ていんさぐぬ花」、「唐船どーい」生演奏と解説 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第14回 講師論文をもとに現今の琉球諸語の状況を説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講師論文『うちなーぐち（おきなわ語）を歴史認識で復興させる試み』解説 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第15回 琉球諸語復興の未来</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 琉球諸語復興を皆で考える 2 講師著書『沖縄語リアルフレーズBOOK』収載会話発声練習 <p>第16回 レポート提出と評価 レポート提出 振り返り</p>
授業の概要	うちなーぐちの挨拶、発音、語彙、表記を学ぶ。琉球・うちなーの歴史をきちんと知る事で、うちなーぐちを自らの言語だと認識できる講義を行う。
予習	配布資料は必ず毎回持参し、次の講座に前回の復習を行うので見直しておくこと。

復習	配布資料はきちんと保管し、発音や語彙、表記を復習すること。
テキスト	授業内にプリント配布
参考書	国立国語研究所(2001).『沖縄語辞典』,財務省印刷局. 半田一郎(1999).『琉球語辞典』,大学書林. 比嘉光龍(2015).『沖縄語リアルフレーズBOOK』,研究社. 琉球新報社・新垣毅編著(2015).『沖縄の自己決定権』,高文研. 桂木隆夫・ジョン・C・マーハ編(2016).『言語復興の未来と価値』,三元社.
評価方法・評価基準	レポート60% 授業への参加度20% 授業態度(講師へうちなぐちで挨拶をする。なるべくお手洗いにいくのを遠慮する。寝ない) 20%
履修上の注意	1 講義中はトイレに行かない、居眠りをしない、私語をつつしむ、ガムをかまない、帽子をかぶらないなどの基本的なことを守らなければ減点の対象とする。 2 講義ではテストは行わない。そのかわりレポートを提出する。 3 講義は、言語を学ぶ講座なので声を出すことが基本になる。何度も発音させるが恥ずかしがらず声を出してもらいたい。 4 講義のはじめに必ず「光龍先生、今日拝なびら」と講師へあいさつすること。できなければ減点の対象とする。

講義科目名称：中国語 I

授業コード：

英文科目名称：Chinese I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：SLA110	

授業のテーマ及び到達目標	中国語の発音（声調コントロールを含む）の基礎を習得する。基本的な文法事項を理解（約60個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読め、簡単な作文と会話ができることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 中国語の発音、ピン音、声調</p> <p>第2回 発音練習、ピン音書き取り練習</p> <p>第3回 “？”を用いた疑問文</p> <p>第4回 疑問代名詞を用いた疑問文</p> <p>第5回 形容詞述語文</p> <p>第6回 動詞述語文</p> <p>第7回 所属・所有関係を表す連体修飾語</p> <p>第8回 “是”文、名詞述語文</p> <p>第9回 提案の仕方、“有”文</p> <p>第10回 介詞構造</p> <p>第11回 時間詞</p> <p>第12回 連動文</p> <p>第13回 連用修飾語</p> <p>第14回 方位詞</p> <p>第15回 反覆疑問文</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	中国語のピン音（発音記号）の概要を説明すると同時に、個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習を行う。それに引き続き、基本的な文法事項を学習し、その応用として、会話練習、作文練習を行う。中国語 I では、テキストの第1課から第10課までを学習する。
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。
テキスト	『漢語会話301句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社
参考書	中日辞典など
評価方法・評価基準	期末試験100%
履修上の注意	相互（学生⇄教師、学生⇄学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。

講義科目名称：中国語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：ChineseⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：SLA111	

授業のテーマ及び到達目標	中国語の発音（声調コントロールを含む）の正確な発声方法を習得する。基本的な文法事項を理解（60個の文型を習得）し、初級レベルの中国語の会話文が読める、簡単な作文と平易な日常会話ができることを目標とする。		
授業計画	第1回	中国語Ⅰの復習	
	第2回	文末の語気助詞“了”	
	第3回	動詞の重ね型、主述述語文	
	第4回	能願動詞、二重目的語文	
	第5回	連体修飾語としての数量詞	
	第6回	兼語文、“是”文(2)	
	第7回	結果補語、介詞“給”	
	第8回	動態助詞“？”、無主語文	
	第9回	“還沒(有)…？”(完了の否定)	
	第10回	選択疑問文	
	第11回	動作の手段を表す連動文	
	第12回	方向補語	
	第13回	“要…了”、“是…的”、“从”の用法	
	第14回	同量補語	
	第15回	連体修飾語としての動詞・動詞構造・主述構造	
	第16回	期末試験	
授業の概要	個々の発音・声調の具体的発声方法の十分な練習も継続しつつ、十分な時間をかけ各課を学習する。各課の学習においては、基本的な文法事項の学習に続き、その応用として、簡単な日常会話の練習と作文練習を行う。		
予習	授業内容を事前に目を通しておくこと。		
復習	ピンイン、簡体字の書き取り練習を行うこと。		
テキスト	『漢語会話301句』康玉華、来思平、北京言語大学出版社		
参考書	中日辞典など		
評価方法・評価基準	期末試験100%		
履修上の注意	相互(学生⇄教師、学生⇄学生)の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。		

講義科目名称：韓国語 I

授業コード：

英文科目名称：Korean I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：SLA114	

授業のテーマ及び到達目標	ハングルの読み書きの基礎を身につけ、簡単な会話をすることができる。
授業計画	<p>第1回 コースガイダンス、韓国と日本、沖縄について。</p> <p>第2回 ハングルの読み方と書き方。(1) 母音</p> <p>第3回 ハングルの読み方と書き方。(2) 子音</p> <p>第4回 ハングルの読み方と書き方。(3) パッチムについて。</p> <p>第5回 自己紹介と関連文法</p> <p>第6回 挨拶と自己紹介(国、職業)</p> <p>第7回 挨拶(2) 疑問文。ー 関連する文法</p> <p>第8回 これは何ですか。</p> <p>第9回 生活用品と存在詞</p> <p>第10回 家族関係。</p> <p>第11回 位置関係。</p> <p>第12回 漢字の読み方と使い方</p> <p>第13回 韓国の歌の表現</p> <p>第14回 韓国の映画の表現</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	ハングルの基礎から、簡単な会話と読み書きの習得を目的とする。CDによる発音の練習を行い、実際に使われている音声に慣れる。日常会話で最もよく使われる基本的な単語を使用し、実際の例文を使って反復練習をおこなう。あいさつ、感情表現、自己紹介、旅行に必要な会話、暦やお金の数え方など、交流に必要な最低限の語学力の習得ができる内容とする。韓国人の特別ゲストを招いて、実際の場面を想定した練習を、できるだけ多くおこなう。又、簡単な民謡、歌謡曲を数曲覚える。
予習	次回の講義について予習すべきことを毎回告知する。
復習	その日の講義で学んだことを自宅で復習することを指示
テキスト	『韓国語を学ぼう』初級(前半)
参考書	民衆 韓日辞典
評価方法・評価基準	適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする 期末試験100%
履修上の注意	語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。

講義科目名称：韓国語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：KoreanⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：SLA115	

授業のテーマ及び到達目標	会話に必要な文法の基礎を身につける		
授業計画	第1回	韓国語と日本語の関係	
	第2回	食事についての会話と関連事項(1)	
	第3回	食事についての会話と関連事項(2)	
	第4回	天候についての会話と関連文法事項(1)	
	第5回	天候についての会話と関連文法事項(2)	
	第6回	買い物についての会話と関連文法事項(1)	
	第7回	買い物についての会話と関連文法事項(2)	
	第8回	交通についての会話と関連文法事項(1)	
	第9回	交通についての会話と関連文法事項(2)	
	第10回	会社事務所での会話と関連文法事項	
	第11回	会社事務所での会話と関連文法事項	
	第12回	家庭生活についての会話と関連文法事項	
	第13回	韓国の歌	
	第14回	韓国の映画	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末試験	
授業の概要	韓国語Ⅰの単位取得者もしくはそれと同等の語学力を持つものを対象にする。日常会話のより高度な段階をめざし、簡単なハングル文書の講読が可能になるまでの語学力の習得を目的とする。ハングルで、韓国の地理、人口、生活と、ある程度の韓国の文化理解をし、日本及び、沖縄のことがある程度紹介できるようにする。ハングルは、漢字を多く使用することによって成立しており、漢字語を利用することにより語彙力の増強をはかる。韓国で流行している歌謡曲にも挑戦する。韓国人の特別ゲストを招いて韓国生活文化を学んだりもする。		
予習	次回の講義の予習すべきことを毎回告知する。		
復習	その日の講義で学んだことを自宅で復習。		
テキスト	『韓国語を学ぼう』初級(後半)		
参考書	民衆 韓日辞典		
評価方法・評価基準	適宜行うショートテストと、期末テストの結果を主として評価するが、授業態度、授業への参加度も参考にする。 期末試験100%		
履修上の注意	語学は、反復が大切である。講義内容の復習を重点的にするために、家庭での復習を充分にすること。確認のため適宜、ショートテストを行う。		

講義科目名称：スペイン語 I

授業コード：

英文科目名称：Spanish I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：SLA118	

授業のテーマ及び到達目標	スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際に使ってみる。
授業計画	<p>第1回 スペイン語の発音と表記法</p> <p>第2回 名詞、定冠詞、不定冠詞</p> <p>第3回 形容詞、動詞serとestar</p> <p>第4回 肯定文と否定文、前置詞</p> <p>第5回 所有形容詞</p> <p>第6回 指示詞</p> <p>第7回 数の数え方</p> <p>第8回 分数、序数</p> <p>第9回 時刻の言い方</p> <p>第10回 曜日と月、昨日、今日、明日</p> <p>第11回 単位、長さ、重さ、容積</p> <p>第12回 規則動詞の活用</p> <p>第13回 規則動詞の活用練習</p> <p>第14回 不規則動詞の活用</p> <p>第15回 不規則動詞の活用の練習</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>スペイン語の文字・発音について概説した後、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。また、文字の数え方、日時、曜日の言い方等、平易な日常会話で頻出する表現を練習する。</p> <p>また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。</p>
予習	文法事項を理解しておくこと。
復習	授業内容が理解できているか確認し、単語のスペルを書き取り練習すること。
テキスト	『スペイン語をはじめよう！』大岩功 著、すばる舎
参考書	西和辞典など
評価方法・評価基準	期末試験100%
履修上の注意	相互（学生⇔教師、学生⇔学生）の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。

講義科目名称：スペイン語Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Spanish Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：SLA119	

授業のテーマ及び到達目標	スペイン語の発音、リズムに慣れ親しみ、基本的な文法を理解する。それによって、平易な会話を習得し、実際に使ってみて、その感覚を蓄積する。
授業計画	<p>第1回 スペイン語Ⅰの復習</p> <p>第2回 目的語「を格」と「に格」</p> <p>第3回 向き違いの動詞</p> <p>第4回 再起動詞</p> <p>第5回 過去分詞とその用法</p> <p>第6回 現在完了形</p> <p>第7回 現在分詞とその用法</p> <p>第8回 比較の表現</p> <p>第9回 副詞、疑問詞</p> <p>第10回 関係詞</p> <p>第11回 否定語と不定語</p> <p>第12回 未来形</p> <p>第13回 点過去形、線過去形</p> <p>第14回 過去完了形、過去未来形</p> <p>第15回 接続法現在、接続法過去形</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	スペイン語Ⅰの復習を行いつつ、基本的な文法事項を学習し、十分な練習を重ねて着実に平易な会話ができる基盤を構築してゆく。その上で、平易な日常会話ができるよう練習を行う。また、スペイン圏諸国についての紹介も行う。
予習	文法事項を理解しておくこと。
復習	授業内容が理解できているか確認し、単語のスペル書き取りを練習すること。
テキスト	『スペイン語をはじめよう!』大岩功 著, すばる舎
参考書	西和辞典など
評価方法・評価基準	期末試験100%
履修上の注意	相互(学生⇄教師, 学生⇄学生)の尊重。食べ物・飲み物の持ち込み、無断外出、授業中の携帯使用禁止。外国語習得には十分な練習の蓄積が欠かせないので、欠席を慎み、かつ十分な復習を行うよう努めること。6回以上欠席で「不可」とする。

講義科目名称 : Discussion & Debate I

授業コード :

英文科目名称 : Discussion & Debate I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Owen Greville Phillips・Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC230	

授業のテーマ及び到達目標	Studying the basics of English language debate.		
授業計画	第1回	What is Debate? An introduction to the subject and the course.	
	第2回	Opinions and How to Express Them.	
	第3回	Facts: How to tell them from opinions, and how to use them.	
	第4回	Review and Test 1	
	第5回	Agreeing or Disagreeing - formal and casual	
	第6回	Reasons - extending your opinion	
	第7回	Integrating Facts and Opinions to Strengthen your Position.	
	第8回	Review and Test 2	
	第9回	Presenting an Argument to an Online Forum	
	第10回	Challenging an Argument on an Online Forum	
	第11回	Presenting and Challenging Arguments (reinforcing 9 and 10)	
	第12回	Review and Test 3	
	第13回	Developing your Argument and Searching for Supports.	
	第14回	Selecting a Resolution to Champion and Preparing to Defend it (in pairs)	
	第15回	Presenting/Defending a Chosen Resolution	
	第16回	Test 4 - Debating a Resolution.	
授業の概要	In this course students will learn to discern between opinions and facts. They will practice how to use facts to support opinions. They will study how to defend their opinions and also how to challenge the opinions of others. Every fourth class there will be a test to consolidate learning and assess progress.		
予習	Students will need to join the class Line-group in order to view course materials online.		
復習	Students will be expected to review class-notes and materials visible in the class Line-group, especially if they have been absent previously.		
テキスト	There is no formal text. Class documents will appear on the Line-group online. Students may download materials and are also encouraged to ask questions pertaining to the class there.		
参考書	n/a		
評価方法・評価基準	Four tests (4 x 20%) plus participation grade (20%)		
履修上の注意	Students are expected to stay abreast of the workload and to make a concerted effort in class to answer questions and take part in classroom activities. N.B. Six absences without permission will result in a Fail grade.		

講義科目名称 : Discussion & Debate II

授業コード :

英文科目名称 : Discussion & Debate II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson・Owen Greville Phillips			
		ナンバリング : EOC231	

授業のテーマ及び到達目標	Further developing the students' ability to engage in strong debate in English on topics related to the students' experience.
授業計画	<p>第1回 Introduction to the course; Review of content of D&D I; discuss and choose topics for debate for the semester</p> <p>第2回 Topic 1: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第3回 Topic 1: Debate preparation and debate</p> <p>第4回 Topic 2: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第5回 Topic 2: Debate preparation and debate</p> <p>第6回 Topic 3: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第7回 Topic 3: Debate preparation and debate</p> <p>第8回 Topic 4: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第9回 Topic 4: Debate preparation and debate</p> <p>第10回 Topic 5: "Hot Seat" activity and discussion</p> <p>第11回 Topic 5: Debate preparation and debate</p> <p>第12回 Exam Preparation (1)</p> <p>第13回 Exam Preparation (2)</p> <p>第14回 Exam Preparation (3)</p> <p>第15回 Exam (1)</p> <p>第16回 Exam (2)</p>
授業の概要	In this course we will expand the students' ability to engage in strong debate either agreeing or disagreeing with a controversial opinion that relates to the students' experience. In particular we will expand the student's ability to debate on social issues that are broader in scope than the daily-life topics we covered in D&DI
予習	Students must arrive suitably prepared for the debate that will take place in each class.
復習	students must review debate techniques learnt in previous classes before each new class.
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher that the students will need to buy from kyoumuka.
参考書	n/a
評価方法・評価基準	1. Classroom Preparation and Classroom Participation 30% 2. Final exam 70%
履修上の注意	Discussion and Debate I (2単位) を履修済みのこと。 Students will need to participate actively and enthusiastically in all preparatory and debate activities in order to get as much practice as possible prior to the final exam.

講義科目名称 : Current Issues in English

授業コード :

英文科目名称 : Current Issues in English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Michael Bradley			
		ナンバリング : ERE220	

授業のテーマ及び到達目標	.
授業計画	<p>第1回 Introduction. Tales of hope from the Tsunami.</p> <p>第2回 Bases in Okinawa.</p> <p>第3回 The Hague Convention.</p> <p>第4回 The Migrant Crisis in Europe.</p> <p>第5回 Agent Orange in Okinawa.</p> <p>第6回 Islamist violence.</p> <p>第7回 Tabloids and Broadsheets.</p> <p>第8回 Henoko.</p> <p>第9回 Students write a script for a video report.</p> <p>第10回 Mid-term test ? Students introduce a Japanese news story.</p> <p>第11回 Environmental news.</p> <p>第12回 A foreigner' s view of Okinawa. (A BBC radio report.)</p> <p>第13回 Japan' s ageing population.</p> <p>第14回 Lance Armstrong ? a cautionary tale</p> <p>第15回 Lighter stories from Japan and abroad</p> <p>第16回 Final Test ? students introduce a Japanese news story.</p>
授業の概要	The purpose of this course is to introduce students to English as it is used in the media. It aims to: build students' vocabulary; develop a greater awareness of local, national, and international issues; and increase their ability to express themselves.
予習	Students should familiarize themselves with the topic before every class, to enable them to better understand the lesson.
復習	Students will usually be asked to write a short report after every class giving their reaction to that week' s topic.
テキスト	No textbook、All the materials are provided by the instructor
参考書	特になし
評価方法・評価基準	Assignments/Classwork: 40%. Two Presentations: 30% each
履修上の注意	特になし

講義科目名称：高等英文法

授業コード：

英文科目名称：Advanced English Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣 友子・崎原 千尋			
		ナンバリング：EWR214	

授業のテーマ及び到達目標	大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う。		
授業計画	第1回	Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 2	
	第2回	Tense (Present Perfect & Past), Unit 3 - 6	
	第3回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 7-13	
	第4回	Tense (Present Perfect & Past) Unit 14-17	
	第5回	Tense (Future) 18-24 & Review of Tense	
	第6回	Modals, Unit25-29	
	第7回	Modals, Unit30-35,	
	第8回	Review of Modals	
	第9回	Conditionals Unit 36-37	
	第10回	Conditionals, Unit 38-39, Review of Conditionals	
	第11回	Passive, Unit 40-44	
	第12回	Reported Speech, Unit 45-46, Review of Passive & Reported Speech	
	第13回	Questions Unit 47-50	
	第14回	-ing&the infinitive, Unit 51-53	
	第15回	-ing&the infinitive, Unit 51-55	
	第16回	Final exam	
授業の概要	英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本人の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。		
予習	決められた章の問題を解き、各自解答して分からないところに印をつける。		
復習	分からなかったところを中心に再度問題を解く。		
テキスト	Raymond Murphy, "Grammar in Use Intermediate", Cambridge		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、クイズ(10%)、授業への参加度(10%)を総合的に判断して評価する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にはQuizを行うため必ず予習してくること。 ・英文法・英作文Ⅲを履修済みか、それ相当以上の実力がある学生が受講すること。 		

講義科目名称 : Advanced Writing

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EWR322	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. 習得した知識や能力を更に高める。授業時間内の演習を行い、十分な議論を考え出し、組み立て、一貫させるため、さらに技術を向上させる。レトリックの方法や、それが議論の際どのように役立つかに関する説明も行われる。主な内容としては、リサーチやサマリーの方法、ノートのとおり方、適切な引用により主張を裏付けること、議論を展開すること、などがあげられる。学生は、日常生活に影響を与える問題や、学問、社会、政治、経済に関わる問題に真剣に考えるよう促させる。卒業論文のため、関心分野を探す助けとなる。		
授業計画	第1回	Introduction introductions review syllabus H O M E W O R K: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4	
	第2回	Discussions of readings 1 discussion of Unit 1 in small groups finish exercises H O M E W O R K: read Unit 2, pgs. 8-14	
	第3回	Discussions of readings 2 discussion of Unit 2 finish all exercises in class H O M E W O R K: -finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 -read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class	
	第4回	Peer review bring a copy of your essay to share with your classmate work through Unit 3 together H O M E W O R K: -finish your the Peer Review of your classmate's essay for the next class	
	第5回	Finish peer review finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 writers' workshop for essay H O M E W O R K: -read Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class	
	第6回	Discussions of readings 3 discussion of Unit 4 finish all exercises H01 Exercise in Online Research H O M E W O R K: -read and follow directions in "Put it Together" pg. 29 -read Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class	
	第7回	Brainstorming and outline submit essay for grading give a lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline. discussion of Unit 5 finish all exercises H O M E W O R K: -read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class	
	第8回	Discussions of readings 4 discussion of Unit 6 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in "Put it Together" pg. 49 -read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class	
	第9回	Discussions of readings 5 discussion of Unit 7 finish all exercises read and follow directions in "Put it Together" pg. 59 H O M E W O R K: -read Unit 8 to understand any new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft during next class	
	第10回	Discussions of readings 6	

	<p>discussion of Unit 8 finish all exercises H O M E W O R K: -read and follow directions in “Put it Together” pg. 66 -read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class</p> <p>第11回 Discussions of exercises and Writers’ Workshop</p> <p>discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class</p> <p>第12回 Writers’ Workshop 2</p> <p>discussion of exercises writers’ workshop for research paper H O M E W O R K: -read Unit 10 to understand any new vocabulary and the purpose of academic language -do exercise 4 on pg. 78, exercises 8 and 9 on pg. 81, and exercise 10 on pg. 82</p> <p>第13回 Discussion of exercises 2</p> <p>discussion of exercises writers’ workshop for research paper discussion of Unit 12 H O M E W O R K: -prepare your presentation for the next two classes</p> <p>第14回 Presentations 1</p> <p>students’ presentations</p> <p>第15回 Presentations 2</p> <p>students’ presentations</p> <p>第16回 Course submissions</p> <p>finalize and submit final research paper</p>
授業の概要	This course expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises and undertake an academic research project that develops skills in generating and developing fully developed arguments. Researching, summarizing, note-taking and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Writing Research Papers (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)
参考書	No other materials are needed.
評価方法・評価基準	<p>Presentation = 10%</p> <p>Short Essay = 30%</p> <p>Research Paper = 40%</p> <p>Participation = 20%</p>
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

講義科目名称：英語音声学

授業コード：

英文科目名称：The Sounds of English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
		ナンバリング：ENG110	

授業のテーマ及び到達目標	英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。母音や子音の分類に基づき、それぞれの音の特徴を認識し、聞き取り、音声記号での表記ができるようになる。アクセントやイントネーションパターン、連結、脱落、同化のメカニズムを理解する。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン&Practice 1 (前舌母音) 英語発音を学ぶ前の準備、英語音声学の基礎知識、音について、母音について、Practice 1前舌母音(Step1-4)</p> <p>第2回 Practice 2 (後舌母音)、Practice 3 (中舌母音) 後舌母音(Step1-4)、中舌母音(Step1-2)</p> <p>第3回 Practice 3 (中舌母音)、Practice 4 (二重母音<1>) 中舌母音(Step3-4)、二重母音&lt;1&gt;(Step1-4)</p> <p>第4回 Practice 5 (/ʔr/を含んだ二重母音<2>)、母音まとめ /ʔr/を含んだ二重母音&lt;2&gt;(Step1-4)、母音の総まとめ(高音音、中母音、低音音、前舌母音、後舌母音、中舌母音)</p> <p>第5回 母音のクイズ、子音について、Practice6 (閉鎖音) 母音に関するクイズ、子音に関して(有声、無声、調音点、調音法)、閉鎖音(Step1-3)</p> <p>第6回 Practice 6 (閉鎖音)、Practice 7 閉鎖音(Step4)、鼻音(Step1-4)</p> <p>第7回 Practice 8 (摩擦音<1>)、Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音) 摩擦音&lt;1&gt;(Step1-4)、摩擦音&lt;2&gt;と破擦音(Step1-3)</p> <p>第8回 Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音)、Practice 10(側音と半母音)、子音のまとめ 摩擦音&lt;2&gt;と破擦音(Step4)、側音と半母音(Step1-4)、子音の総まとめ(有声、無声、調音点、調音法)</p> <p>第9回 子音のクイズ、Lesson 1 (音節と語強勢) 子音に関するクイズ、音節と語強勢(Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>第10回 Lesson 2 (文強勢) 文強勢(Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>第11回 Lesson 3 (ポーズ)、Lesson 4 (ピッチとイントネーション) ポーズ(Let's Listen Step1-2, Let's try Step1)、ピッチとイントネーション(Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>第12回 Lesson 5 音のつながりⅠ 連結 ①子音+母音、ʔr+母音、②[t, d, s, z]以外の子音+[j] (Let's Listen Step1-2, Let's try Step2)</p> <p>第13回 Lesson 6 音のつながりⅡ 脱落(1) ①閉鎖音+子音([j]は除く) (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>第14回 Lesson 7 音のつながりⅢ 脱落(2) ①同じ子音が重なった場合(Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p> <p>第15回 Lesson 8 音のつながりⅣ 同化、まとめ [t, d, s, z]+[j] (Let's Listen Step1-2, Let's try)</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び。更に、音声記号の読み・書きを練習することにより、英語音により近い音が発せられるようになることを授業の目標とする。
予習	各章に出てくる単語を調べて、左ページの解説をしっかりと読んで要点をまとめてくる。
復習	各章で学んだ音声記号を読めて書けるようにすること。自主学習用のCDで適宜発音練習をすること。
テキスト	今井由美子他(2010)『Sounds make perfect 英語音声学への扉』英宝社
参考書	特になし
評価方法・評価基準	母音のクイズ(25%)、子音のクイズ(25%)、期末テスト(50%)
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 丸暗記することなく、英語発音の仕組み(メカニズム)を捉えること。 発音記号の読みと表記に慣れるよう予習復習を怠らないこと。 遅刻欠席をせず、発音の練習時や問題を解くとききちんと参加すること。 視聴覚教材を用いる際、私語は妨げとなるので静かにしっかり集中すること。 テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。

講義科目名称：英語学概論 I

授業コード：

英文科目名称：Introduction to the Study of English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
		ナンバリング：ENG120	

授業のテーマ及び到達目標	英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。		
授業計画	第1回	イントロダクション&ことばの起源と語族 ことばの起源、語族とは	
	第2回	人間のことばと言語研究 人間のことばの特徴、言語研究の対象・分野・方法、言語資料の収集	
	第3回	英語の発音とスペリング oneはオネ、オン、ワン?、英語の文字の起源、ローマン・アルファベットと正書法、英語の音の移り変わり	
	第4回	英語の語彙と多様性 英語の語彙とその豊富さ、英語語彙の歴史的発展	
	第5回	標準英語の成立 標準英語の変遷、アメリカ英語の標準語、世界の英語	
	第6回	英語のバリエーション バリエーションとは何か、イギリス英語の地域変種、アメリカ英語の特徴、世界の英語圏	
	第7回	ことばの変化 変化の切り口、言語の違い、英語の歴史的変化、変化の要因と変化の速度	
	第8回	ことばと音声 発音器官、言語音を分類する	
	第9回	音の組合せとアクセント 音素とは?音の変化、音節とは?アクセントとリズム	
	第10回	単語ができる仕組み 単語の恣意性、形態論と形態素、形態素から単語へ	
	第11回	文ができる仕組み 単語から文へ、文法研究の歴史、統語構造	
	第12回	ことばの意味とはなんだろう 意味論の研究対象としての意味、指示説、構造意味論、概念説	
	第13回	語の間の意味関係 いろいろな意味関係(同義性、反義性、上下関係)、フレーム意味論	
	第14回	意味の拡張 メタファー、メトニミー	
	第15回	ことばの意味に見られる主観性 英語の法助動詞、主観的視点から見た場合の言語表現、主観的移動表現	
	第16回	期末試験	
授業の概要	英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、問題を解くことで理解の確認を図る。		
予習	決められた章を読んでノートをとる。(テストはノートのみ持ち込み可。コピー不可。)		
復習	授業で配付するプリントの問題の復習		
テキスト	長谷川瑞穂 (編) 『はじめての英語学(改訂版)』 研究社 (2006)		
参考書	なし		
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、期末テストの結果(90%)を総合的に判断する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 予習や課題は義務であり、必ず済ませて授業に参加すること。 テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。 		

講義科目名称：英語学概論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to the Study of English Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
		ナンバリング：ENG221	

授業のテーマ及び到達目標	英語の構造と機能について理解を深める。語学としての英語ではなく、一般言語学、理論言語学という幅広い学問の一部として英語を分析する方法を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 Introduction English Linguistics(英語学) というのは、どういう学問か、一般的な語学としての英語学習と何が違うのか。また、英語学を学ぶことによってどのような発見があるのか。</p> <p>第2回 Why Study English Linguistics① Knowledge of Language, What is English linguistics?, Components of Grammar(morphology, semantics, syntax, phonetics and phonology)</p> <p>第3回 Why Study English Linguistics② Subfields of Linguistics, How English has been studied? (Traditional Grammar, Structural Linguistics, Generative Grammar, Cognitive Linguistics)</p> <p>第4回 How Words Are Made: Morphology① Dividing words into parts, Compounding(Compound Stress Rule, Phrasal Stress Rule, Right-hand Head Rule)</p> <p>第5回 How Words Are Made: Morphology② Compounding(Semantic Compositionality, Binary Branching Constraint) Derivation</p> <p>第6回 How Words Are Made: Morphology③ Conversion, Inflection, Minor Word Formation Processes(Clipping, Blending, Acronym, Initialism)</p> <p>第7回 How Words Mean; Semantics I① Kinds of meaning(conceptual meaning, associative meaning), Meaning as a set of properties, Categorization and prototypes(The Sapir-Whorf Hypothesis)</p> <p>第8回 How Words Mean; Semantics I② Semantic Networks(hyponymy, meronymy), Synonyms and antonyms, Polysemy, Metaphor and metonymy</p> <p>第9回 Review (1) 1-8 Comprehension Check and Exercises</p> <p>第10回 How Sentences Mean : Semantics II① Semantic Roles and argument structure(Agent, Patient, Goal, Source)</p> <p>第11回 How Sentences Mean : Semantics II② Selectional restrictions, Constructional meaning(locative alternation, dative alternation, dative construction, double object construction)</p> <p>第12回 How Sentences Mean : Semantics II③ Word order and information(topicalization, Principle of End Focus), What do pronouns refer to?(personal pronouns, reflexive pronouns)</p> <p>第13回 How to Communicate with Other People: Pragmatics① What is pragmatics? Formal vs. Informal style, Politeness(Tact Maxim, negative face, positive face, colloquial ellipsis)</p> <p>第14回 How to Communicate with Other People: Pragmatics② Speech acts, Indirect speech acts, Conversational implicature, The co-operative principle</p> <p>第15回 Review (2) 10-14 Comprehension Check and Exercises</p> <p>第16回 Final Examination</p>
授業の概要	英語学概論Ⅰで学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。特に英語学概論Ⅰで深く扱えなかった形態論、意味論、語用論の分野に焦点を当てる。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。
予習	決められた章を読んで、事前に配布する問題を解く。英文をしっかりと読み解き、英語学概論Ⅰで学んだ専門用語の確認もしておくこと。
復習	授業で行う議論・解答を参考に内容を再度確認する。
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	影山太郎他(2004) "Introduction to English Linguistics" 2nd ed. くろしお出版
評価方法・評価基準	授業態度や授業への参加度(10%)、課題や練習問題(30%)、期末テスト(60%)の結果を総合的に判断する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学概論Ⅰを履修しておくこと。 ・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。 ・教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
渡久山 幸功			
		ナンバリング：LIT311	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：15世紀16世紀の英国ルネッサンス文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：英国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を实践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。アイルランド文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、詩や短編小説を批評分析する能力を身に付ける。英文の読解力を付ける。</p>		
授業計画	<p>第1回 コース・イントロダクション コース・イントロダクション（シラバス説明）および Romeo and Juliet（1968）映画鑑賞</p> <p>第2回 William Shakespear の英語の特徴 Romeo and Juliet（1968）映画鑑賞の続きおよび William Shakespear の英語の基本的な特徴の説明</p> <p>第3回 Romeo and Juliet：The Prologue & Act 1 Scene 1 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第4回 Romeo and Juliet：Act 1 Scene 2&Scene 3 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第5回 Romeo and Juliet：Act 1 Scene 4 & Scene 5 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第6回 Romeo and Juliet：Act 2 Scene 1 & Scene 2 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第7回 Romeo and Juliet：Act 2 Scene 3 & Scene 4 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第8回 Romeo and Juliet：Act 2 Scene 5 & Scene 6 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第9回 Romeo and Juliet：Act 3 Scene 1 & Scene 2 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第10回 Romeo and Juliet：Act 3 Scene 3 & Scene 4 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第11回 Romeo and Juliet：Act 3 Scene 5 & Act 4 Scene 1 & Scene 2 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第12回 Romeo and Juliet：Act 4 Scene 3 & Scene 4 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第13回 Romeo and Juliet：Act 4 Scene 5 & Act 5 Scene 1 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第14回 Romeo and Juliet：Act 5 Scene 2 & Scene 3 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第15回 Romeo and Juliet 最終講義 Romeo and Juliet に関する総括的な講義</p> <p>第16回 定期試験</p>		
授業の概要	<p>William Shakespear の悲劇 Romeo and Juliet の作品研究を行う。テキストを精読し、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション（討論）に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文（英文 A4版 1ページ 12フォント 20行 600英単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。</p>		
予習	<p>授業前のReading Assugnmentを行うこと（毎回クイズを行います。）</p>		
復習	<p>授業におけるディスカッションおよび講義の内容を確認し、期末テスト受験および英文批評論文提出に備える。</p>		
テキスト	<p>William Shakespear 著 Romeo and Juliet（Spark Publishing）</p>		
参考書	<p>サブテキストや批評論文は適宜クラスで配布する。</p>		
評価方法・評価基準	<p>定期試験：（30％） 英文小論文：（30％）クイズ：（20％） ディスカッション貢献度：（10％）発表：（10％）</p>		
履修上の注意	<p>積極的にディスカッションに参加すること。口頭発表、期末試験受験、小論文（英文）提出のいずれかを行っても単位は与えられません。3分の1以上の欠席は文部科学省の規定により、単位取得はできません。英文小論文に剽窃行為（インターネットからのコピペなど）がある場合には、評価は0点とする。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
渡久山 幸功			
		ナンバリング：LIT312	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：19世紀後半から20世紀のイギリス文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：イギリス文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度（社会・文化・政治）から文脈の解釈を実践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。文学の特色を理解しながら、現代文学理論の基礎を援用し、小説を批評分析する能力を身に付ける。英文の読解力を付ける。
授業計画	<p>第1回 コース・イントロダクション コース・イントロダクション（シラバス説明）および Virginia Woolf の紹介 および To the Lighthouse の説明</p> <p>第2回 To the Lighthouse The Window 1-3 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第3回 To the Lighthouse The Window 4-5 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第4回 To the Lighthouse The Window 6-8 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第5回 To the Lighthouse The Window 9-10 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第6回 To the Lighthouse The Window 11-15 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第7回 To the Lighthouse The Window 16-17 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第8回 To the Lighthouse The Window 17 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第9回 To the Lighthouse The Window 18-19 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第10回 Time Passes 1-10 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第11回 The Lighthouse 1-3 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第12回 The Lighthouse 4-5 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第13回 The Lighthouse 6-10 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第14回 The Lighthouse 11-13 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第15回 To The Lighthouse 最終講義 テキスト精読およびディスカッション</p> <p>第16回 期末試験 テキスト精読およびディスカッション</p>
授業の概要	Virginia Woolf の後編小説 To the Light House の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行い、毎回、読書課題があり、クラスではそのサマリーや感想、並びに課題箇所についての討論を行う。テキストを精読が重要になり、毎回の授業では、前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッション（討論）に参加することを義務化し、最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、文学批評小論文（英文 A4版 1ページ 12フォント 20行 700英単語以上）を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。
予習	毎回のリーディング・アサイメントをこなして、授業に臨むこと。
復習	授業におけるディスカッションおよび講義の内容を確認し、期末テスト受験および英文批評論文提出に備える。
テキスト	Virginia Woolf 著 To the Lighthouse (1927) (Penguin, paperback)
参考書	サブテキストなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。
評価方法・評価基準	定期試験：(30%) 英文小論文：(30%) クイズ：(20%) ディスカッション貢献度：(10%) 発表：(10%)
履修上の注意	積極的にディスカッションに参加して欲しい。口頭発表、期末試験受験、小論文（英文）提出のいずれかを行っても単位は与えられません。3分の1以上の欠席は文部科学省の規定により、単位取得はできません。英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。

講義科目名称：米国文学作品研究 I

授業コード：

英文科目名称：Readings in American Literature I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
崎原 千尋			
		ナンバリング：LIT321	

授業のテーマ及び到達目標	(技能・表現) 文学作品を読む作業を通してtextual analysis (テキスト分析) の基礎を学ぶ。(思考・判断) その上でテキストと(1) 米国の(黒人女性を主体とした) 文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせる、(2) race, gender, sexualityの基礎概念を理解することに焦点をあてる。(関心・意欲) アフリカ系アメリカ人女性の作品から読み解くテーマやメッセージがどのようにメインストリームのアメリカ文学や大衆文化・社会に影響してきたのかを考察する。また時代や空間を超えて今、沖縄に生きる私たちにどう呼応するのかを議論する。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 The Bluest Eye p.1-32</p> <p>第3回 グループ発表とディスカッション (1)</p> <p>第4回 The Bluest Eye p.33-58</p> <p>第5回 グループ発表とディスカッション (2)</p> <p>第6回 The Bluest Eye p.59-93</p> <p>第7回 グループ発表とディスカッション (3)</p> <p>第8回 The Bluest Eye p.95-131</p> <p>第9回 グループ発表とディスカッション (4)</p> <p>第10回 The Bluest Eye p.132-163</p> <p>第11回 グループ発表とディスカッション (5)</p> <p>第12回 The Bluest Eye p.164-205</p> <p>第13回 グループ発表とディスカッション (6)</p> <p>第14回 グループ発表とディスカッション (7)</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 授業内試験：期末エッセイ</p>
授業の概要	(概要) テキストはTony MorrisonのThe Bluest Eye (1970) を使用する。グループで割り当てられたチャプターを担当して概要や感想をシェアしながら読み進める。 (授業方法) その流れの中で ①作者やアフリカ系アメリカ人女性と文学作品に関する時代背景、②race, gender, sexualityの概念と文学の分析方法の基礎 (textual analysis) を学ぶための講義を盛り込む。Google+のコミュニティを利用してコメントをシェアし、各セクションでは感想ノートを提出する。期末はin-class エッセイ方式とする。
予習	毎週の割り当て分のチャプターを読んでから授業に臨むこと。
復習	Google+にコメントや質問をシェアしたり、わかりにくかった箇所は和訳を参照したりして理解を深めること。
テキスト	Tony Morrison, The Bluest Eye (New York: Pocket Books, 1970) ※アマゾンで各自購入します。ネットでの購入が難しい場合は相談してください。
参考書	トニ・モリスン著、大社淑子翻訳『青い眼がほしい』(早川書房) クラスで適宜、資料を配布またはGoogle+のコミュニティに投稿する。
評価方法・評価基準	試験(中間・期末試験)30% 小テスト・授業内レポート30% 受講者の発表30% 授業態度10%
履修上の注意	「米文学史」を履修していることが望ましい(必須ではない)。 1冊の文学作品をきちんと読み通すことが前提なので、予習を心がけてほしい。

講義科目名称：米国文学作品研究Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Readings in American LiteratureⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
渡久山 幸功			
		ナンバリング：LIT322	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：米国文学の主要な主題及び現代批評理論の基礎を説明できる。 関心意欲：米国文学に興味を持てる。 思考判断：様々な角度から文脈の解釈を实践する。 態度：文学作品を通して既成概念を批判的に観察する。20世紀米国小説の特色を理解し、研究論文を作成する。
授業計画	第1回 コース・イントロダクション 第2回 Tennessee Williams: A Streetcar Named Desire 第3回 Tennessee Williams: A Streetcar Named Desire 第4回 The Great Gatsby 1 第5回 The Great Gatsby 2 第6回 John Patrick: The Teahouse of the August Moon 第7回 John Patrick: The Teahouse of the August Moon 第8回 The Great Gatsby 3 第9回 The Great Gatsby 4 第10回 The Great Gatsby 5 第11回 The Great Gatsby 6 第12回 The Great Gatsby 7 第13回 The Great Gatsby 8 第14回 The Great Gatsby 9 第15回 The Great Gatsby 10 第16回 定期試験
授業の概要	学期の前半は、主にアメリカ演劇からTennessee WilliamsのA Streetcar Named Desire (1947) およびJohn Patrick のThe Teahouse of the August Moon (1953) を講義し、後半はThe Great Gatsby (1925)の米国小説を学ぶ。授業前半に学生は口頭発表を行い、後半に講義形式の授業形態となる。積極的にディスカッションに参加することを義務化する。最終的には講義で学んだ批評理論を援用して、演劇2作品に関しては、日本語による小論文(3000字以上)最終的にはThe Great Gatsbyの文学批評小論文(英文 A4版 1ページ 12フォント 20行 800単語以上)を提出する。講義では文学研究に必要なアカデミックなライティングの手続きを習得する。
予習	授業前のReading Assugnment を必ず行うこと。(The Great Gatsbyでは、毎回クイズを行います。)
復習	講義で説明されたこと、ディスカッションしたことをまとめる作業。
テキスト	Tennessee WilliamsのA Streetcar Named Desire (1947) John Patrick のThe Teahouse of the August Moon (1953) F. Scott Fitzgerald The Great Gatsby (1925)
参考書	Lois Tyson Critical Theory Toeday: A User-Friendly Guide (2006)
評価方法・評価基準	定期試験：(20%) ディスカッション貢献度：(10%) 和文・英文小論文：(40%) 発表：(10%) その他(クイズ課題)：(20%)
履修上の注意	欠席5回以上は単位を与えない。討論に積極的に参加する事。 和文・英文小論文に剽窃行為がある場合には、評価は0点とする。 米国作品研究Ⅰの単位取得済みの方が望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
		ナンバリング：LIT306	

授業のテーマ及び到達目標	英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。		
授業計画	第1回	教養とは何か（英文学史の意義） 近年、一般教養を学ぶ意味が問われるようになってきているが、世界史において近代をリードしたイギリスの歴史と文学への導入を通して、一般教養の意義をめぐる問題提起とする。	
	第2回	黎明期のイギリス——叙事詩 ケルト社会からはじまり、ローマによる支配、アングロサクソン人たちの定住をへて、ノルマン・コンクエストにいたる歴史を概説する。文学作品については、『ベオウルフ』、「十字架の夢」の紹介を行う。	
	第3回	法の支配——チョーサー ヘンリー2世とカンタベリ大司教のトマス・ベケットの確執を通して、国家と宗教の間でいかなる問題がもたらがったのか、その結果どのようにイギリスにおいて「法の支配」が始まったのかを概観する。作品については、チョーサーの『カンタベリ物語』を中心に扱う。	
	第4回	ペストと反乱——バラッドや道徳劇 14世紀半ばにペストが大流行し、ワット・タイラの乱が起こるが、こうした社会変動を通して、イギリスにジェントリ階級が登場したいきさつを概観する。作品については、バラッドや道徳劇『エヴリマン』等を紹介する。	
	第5回	宗教改革——シェークスピア 16世紀にカトリックの国からプロテスタントの国へ様変わりしたイギリス——その激変を生き抜いたアン・ブーリン、メアリ・スチュアート、エリザベス女王という3人の女たちの生きざまを通して、イギリスの宗教改革を概観する。作品についてはシェークスピアのソネットや喜劇『お気に召すまま』を紹介する。	
	第6回	古代、中世、ルネッサンス期の文学 第1回から第5回の講義をふりかえり、チョーサー、スペンサー、シェークスピア等をふたたび取り上げ、とくにイギリス詩の形式や韻律の構造などを概説する。	
	第7回	ピューリタン革命——ジョン・ミルトン 清教徒（ピューリタン）革命から共和制をへて、王政復古にいたるまでの内乱の時期を概観する。作品については、ミルトンの『失樂園』やジョン・ダン、アンドルー・マーヴェルの詩を取り上げる。	
	第8回	名誉革命——ポーブとスィフト 共和制末期から、王政復古、そして名誉革命までの歴史を概観し、イギリスが18世紀後半から19世紀にかけて「大英帝国」として繁栄することになる基礎がこの17世紀後半につくられたことを説明する。文学については、ポーブのヒロイック・カプレットとスィフトの風刺作品を紹介する。	
	第9回	革命の時代——プレロマン アメリカ合衆国の独立、フランスとの戦争を通して、イギリスがいかに世界をリードしたかを概観する。文学としては、ジェイムズ・トムソンやウィリアム・ブレイク等を中心に紹介する。	
	第10回	ロマン主義文学（第1世代） ワーズワースとコールリッジの中心に、ロマン派第1世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第11回	ロマン主義文学（第2世代） シェリー、バイロン、キーツといったロマン派文学第2世代の人生と作風、哲学を説明する。	
	第12回	ロマン主義と沖縄 ロマン主義文学が花咲いていた1916年に琉球（沖縄）へやってきたバジル・ホールの『琉球・朝鮮航海記』を中心に、当時の沖縄がどのようにイギリスで紹介されていたのか詳説する。	
	第13回	パックス・ブリタニカ——アーノルド、他 アヘン戦争をへて万国博覧会の開催、インドの支配などを通して、ビクトリア朝のイギリスがいかに世界に君臨したかを概説する。文学については、マッシュー・アーノルドを中心に紹介する。	
	第14回	ラファエロ前派とワイルド ラファエロ前派のロゼッティ兄妹とオスカー・ワイルドの人生と作風を概観し、とくにワイルドのウィットに富んだ警句を紹介する。	
	第15回	戦争の世紀——エリオット、ベケット、他 20世紀の前半に、世界がどのように大戦を2度も経験したのか概観する。文学については、T・S・エリオットやベケットの紹介を行う。	
	第16回	まとめと期末エッセイ イギリスの歴史と文学について学んだことを振り返りながら、一般教養の意義をめぐる問題を再考する。講義で学んだことをもとに期末テストとしてエッセイを書いてもらう。	
授業の概要	古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。		
予習	該当する章を読み、テキスト中の代表的作品の抜粋についても目を通しておく。		
復習	講義とハンドアウトを参考に、とくに解説の加えられた作品を再読する。		

テキスト	神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス史』（ミネルヴァ書房）
参考書	ハンドアウトなど、その他の資料は適宜クラスで配布する。
評価方法・評価基準	学習メモ50%、期末エッセイ50%
履修上の注意	文字・ビジュアル情報の多いクラスなので、集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。

講義科目名称：米文学史

授業コード：

英文科目名称：History of American Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
喜納 育江			
		ナンバリング：LIT308	

授業のテーマ及び到達目標	講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 アメリカ史のアウトライン</p> <p>第2回 アメリカ大陸の征服と先住民とヨーロッパ人の関係の始まり</p> <p>第3回 ピューリタンとアメリカ文学</p> <p>第4回 先住民とピューリタンの関係</p> <p>第5回 建国の父たち</p> <p>第6回 アメリカ文学の文学的成熟</p> <p>第7回 19世紀アメリカ詩</p> <p>第8回 奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（1）</p> <p>第9回 奴隷制度、南北戦争、奴隷制度廃止運動の文学（2）</p> <p>第10回 リアリズムと地域主義の文学（1）</p> <p>第11回 リアリズムと地域主義の文学（2）</p> <p>第12回 アメリカ社会と移民の文学</p> <p>第13回 モダニズムの時代と文学</p> <p>第14回 公民権運動から多文化主義へ</p> <p>第15回 アメリカ文学の現在</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテキストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。
予習	事前に配布する教材（英文）に目を通して、どのような作家や作品かある程度認識しておくこと。
復習	初回の授業で配布するシラバスに沿って、各回の授業内容について思い出しながら考える。
テキスト	授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。
参考書	亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年
評価方法・評価基準	期末テスト50%、コメントシート40%、レスポンスなどを含む授業への参加貢献度10%
履修上の注意	文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。

講義科目名称：コミュニケーション入門

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Communication

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CMS133	

授業のテーマ及び到達目標	到達目標：人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について理解できること。 テーマ：言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、文化とコミュニケーション
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（コミュニケーションとは何か）</p> <p>第2回 コミュニケーションとニーズ</p> <p>第3回 コミュニケーションの4つの視点</p> <p>第4回 文化に対する視点の多様化</p> <p>第5回 言語コミュニケーション（1）コミュニケーションにおける言語</p> <p>第6回 言語コミュニケーション（2）言語コミュニケーションの研究（言語学の立場から）</p> <p>第7回 言語コミュニケーション（3）言語コミュニケーションの研究（コミュニケーション学の立場から）</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 言語と文化の相互作用</p> <p>第10回 コミュニケーションの場と背景</p> <p>第11回 非言語コミュニケーション（1）非言語コミュニケーションの機能</p> <p>第12回 非言語コミュニケーション（2）非言語音声メッセージ</p> <p>第13回 非言語コミュニケーション（3）非言語非音声メッセージ1</p> <p>第14回 非言語コミュニケーション（4）非言語非音声メッセージ2</p> <p>第15回 コミュニケーションの実践 異文化間トレーニング</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	人は常に、自分自身も含めて誰かとコミュニケーションしている。本講義では、人間独自のコミュニケーションの特質と現代のコミュニケーションの様相について学ぶ。言語・非言語コミュニケーション、言語と文化の関係性など、コミュニケーションの姿を理論的に整理し、よりよきコミュニケーションのありかたを探るものである。
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること
テキスト	末田清子・福田浩子『コミュニケーション学—その展望と視点 増補版』（松柏社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・松沢哲郎『進化の隣人ヒトとチンパンジー』岩波書店 ・松沢哲郎『チンパンジーはちんぱんじん』岩波書店 ・G.H. Mead『社会的自我』恒星社厚生閣 ・正高信男『考えないヒト—ケータイ依存で退化した日本人』中央公論新社 ・竹内一郎『人は見た目が9割』新潮社 ・志水彰 他『人はなぜ笑うのか—笑いの精神生理学』講談社
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、提出物(30%)、中間・期末テスト(50%)
履修上の注意	出席重視。最近では「コミュニケーション」という言葉がよく使われるが、本当の意味を理解している人は少ない。この授業では、「コミュニケーション」の意味について深く学び、次に、いろんな場でのコミュニケーションの特性を学んでほしい。

講義科目名称：異文化コミュニケーション I

授業コード：

英文科目名称：Intercultural Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CMS134	

授業のテーマ及び到達目標	到達目標：異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因と理論的背景を学び、自己（自文化）および他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養うこと。 テーマ：コミュニケーションと文化、言語、非言語コミュニケーション、カルチャーショック、異文化適応、ステレオタイプと偏見、多文化共生
授業計画	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶということ</p> <p>第2回 異文化コミュニケーションの基礎概念</p> <p>第3回 自己とアイデンティティ</p> <p>第4回 DVD鑑賞</p> <p>第5回 異文化コミュニケーションの障壁</p> <p>第6回 深層文化の探究</p> <p>第7回 言語コミュニケーション</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 非言語コミュニケーション</p> <p>第10回 カルチャーショックと適応のプロセス</p> <p>第11回 対人コミュニケーション</p> <p>第12回 異文化コミュニケーションの教育・訓練</p> <p>第13回 DVD鑑賞</p> <p>第14回 異文化コミュニケーションの研究</p> <p>第15回 多文化とうまくつきあうために</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	<p>1) 異なる文化背景を持つ人たちのコミュニケーションに影響を与える基礎概念と理論を学び、家庭・学校・職場・地域社会で日常的に起こりうる異文化間の誤解や摩擦を超えて、多文化社会に生きる上での必須となる実践的な対話力・人間関係力を養成する。</p> <p>2) 自己（自文化）及び他者（異文化）への気づきを深め、異文化理解に対する積極的な態度を養う。</p>
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	授業で配付した資料をみながら、テキストを再度読み、内容を理解すること
テキスト	石井敏・他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』（有斐閣選書）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・鍋倉健悦『異文化コミュニケーション入門』丸善 ・古田暁（監修）『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、提出物(30%)、中間・期末テスト(50%)
履修上の注意	出席重視。異文化コミュニケーションに影響を与える基礎要因を学んでほしい。

講義科目名称：異文化コミュニケーションⅡ

授業コード：

英文科目名称：Intercultural Communication Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CMS135	

授業のテーマ及び到達目標	<p>①異文化コミュニケーションの理論的枠組みを理解できる。</p> <p>②授業で学んだ概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる力を身につけること。</p> <p>③今後直面するさまざまな場面における異文化コミュニケーションにおいて自分で考え、対応できる力を養うこと。</p>
授業計画	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶ意義</p> <p>第2回 空間、時間、異文化コミュニケーション</p> <p>第3回 異文化コミュニケーターとしての通訳者</p> <p>第4回 異文化コミュニケーションと誤解の接点</p> <p>第5回 異文化コミュニケーションにおける言語選択—「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第6回 DVD鑑賞</p> <p>第7回 ディスカッション（前回の授業のDVDについて）</p> <p>第8回 中間テスト</p> <p>第9回 障がい者、高齢者とのコミュニケーション</p> <p>第10回 女性と異文化適応</p> <p>第11回 「地球都市」の出現とコミュニケーション—グローバル化の負の側面</p> <p>第12回 マスメディア（CM）と異文化コミュニケーション</p> <p>第13回 沖縄における異文化コミュニケーション</p> <p>第14回 DVD鑑賞</p> <p>第15回 ディスカッション（前回の授業のDVDについて）</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	<p>本講義では、コミュニケーションが行なわれている場を中心に、現在行なわれている異文化コミュニケーションの問題について考察する。通訳者や語学教師が直面する問題、ビジネスマンや留学生の海外での適応問題、マスメディアと異文化コミュニケーション、空間、時間と異文化コミュニケーションなどについて学ぶ。また、グローバル化社会における「異」文化コミュニケーションの状況を理解し、グローバル化とアイデンティティについて考える。また、沖縄における異文化コミュニケーションの問題も扱う。</p>
予習	<p>テキストを事前に読んでくること</p>
復習	<p>授業で配付した資料を読みながら、テキストを再度読み、内容を理解すること</p>
テキスト	<p>伊佐雅子監修『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社</p>
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 池田理知子・E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣 小坂貴志『異文化コミュニケーションのA to Z』研究社 石井敏他『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて—』 青木保『異文化理解』岩波新書
評価方法・評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度(20%)、提出物(30%)、中間・期末テスト(50%) 異文化コミュニケーションⅠを履修済みであることが好ましい。
履修上の注意	<p>学生のみなさんには、「あたりまえ」のことを常識とせず、どのようにしてその「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養ってほしい。</p>

講義科目名称：異文化交渉演習

授業コード：

英文科目名称：Intercultural Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CMS337	

授業のテーマ及び到達目標	到達目標：異文化交渉に役立つ、「協調的交渉術」のスキルを身につけること。 テーマ：論理的思考、交渉の諸要素、コンフリクトと文化的諸要因、パワー（権力構造）、怒り
授業計画	<p>第1回 今の時代なぜ異文化交渉能力が必要か</p> <p>第2回 コンフリクトとは何だろう／なぜコンフリクトが多発してるのか</p> <p>第3回 競合的アプローチと協調的アプローチ／コンフリクトの対処方法</p> <p>第4回 目指すのは妥協ではなくウィン・ウィン</p> <p>第5回 コンフリクトの6つの分析ポイント</p> <p>第6回 複雑なコンフリクトを整理する／当事者が複数いる場合の整理</p> <p>第7回 協調的交渉のプロセス／交渉前の準備と場の雰囲気 연출</p> <p>第8回 儀礼交換とグラウンドルール／合意できない場合の代替案</p> <p>第9回 中間テスト／コミュニケーションとは何だろう</p> <p>第10回 コミュニケーションと感情の関係</p> <p>第11回 コミュニケーション・トレーニング／相手や状況を観察する力／交渉前の関わり行動</p> <p>第12回 基本的傾聴（聞く・訊く）</p> <p>第13回 積極的技法</p> <p>第14回 目標設定と行動計画／フィードバック／怒りへの対処とクレーム処理</p> <p>第15回 コーチング／ミディエーション／ファシリテーション</p> <p>第16回 期末テスト／ファシリテーション</p>
授業の概要	私たちが国の内外で異文化の人々とさまざまな目的で接触するとき、そこには必ずといってよいほど交渉の要素が含まれている。この場合、交渉とはディベートのように勝ち負けを決めるのではなく、さまざまなかけひきを駆使しながら合意にいたる複雑なコミュニケーション・プロセスである。本講義では、英語圏の人たちとの交渉ばかりではなく、英語圏以外の人々と英語で交渉する場合に役立つ、ビジネス・コミュニケーションについて学ぶ。
予習	テキストを事前に読んでくること
復習	毎回、講義・ディスカッションの後、リアクション・ペーパーを提出する。
テキスト	鈴木有香『人と組織を強くする交渉力』（自由国民社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・船川淳志『思考力と対人力』日本経済新聞社 ・野沢聡子『協調的交渉術のすすめ』アルク ・足立行子他『ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション』同文館 ・トロンペナルス『異文化の波—グローバル社会：多様性の理解』白桃書房 ・八代京子他『異文化トレーニング』三修社
評価方法・評価基準	授業への参加度（20%）、提出物（30%）、中間・期末テスト（50%）。
履修上の注意	交渉というとスキル（技能）という狭い意味に取られがちであるが、交渉とはコミュニケーション活動であるということを読んでほしい。

講義科目名称：プレゼンテーション概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
		ナンバリング：CMS224	

授業のテーマ及び到達目標	相手に伝わるプレゼンテーションについてのスキル習得と実践		
授業計画	第1回	オリエンテーション ～コトバと感性の贈り物～	
	第2回	ショート・レポート	
	第3回	ノンバーバルコミュニケーション (1) 身ぶり (ボディランゲージ)	
	第4回	ノンバーバルコミュニケーション (2) 感情を込める (パラランゲージ)	
	第5回	ビブリオ・プレゼン (1) ルール説明	
	第6回	ビブリオ・プレゼン (2) チャレンジ	
	第7回	ビブリオ・プレゼン (3) リベンジ	
	第8回	ビブリオ・プレゼン (4) ※5時間目 図書館主催「ビブリオ・バトル」参加	
	第9回	取材とプレゼン	
	第10回	「キリ学/キリ短らしさ」レポートとプレゼン	
	第11回	「Happy Campus Guide」プロジェクト (1) 担当分担	
	第12回	「Happy Campus Guide」プロジェクト (2) 取材計画	
	第13回	「Happy Campus Guide」プロジェクト (3) 構成	
	第14回	「Happy Campus Guide」プロジェクト (4) プレゼン	
	第15回	「Happy Campus Guide」プロジェクト (5) 個人報告・レポート提出	
授業の概要	自己認識と他者理解という、対話的思考を基軸としたプレゼンテーションについて学ぶ。徹底した実践を通して、スキルを習得し、プレゼンについての認識を深める。		
予習	シラバスを確認し、講義内容についての知識を整えておくこと		
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと		
テキスト	講義担当者が講義にて資料配付		
参考書	講義担当者が講義にて紹介		
評価方法・評価基準	プレゼンテーション課題への取り組みを総合的に評価 受講者の発表40% 小テスト・授業内レポート30% 授業態度30%		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：情報機器利用プレゼンテーション演習

授業コード：

英文科目名称：IT Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：CMS226	

授業のテーマ及び到達目標	情報機器を活用して効果的なプレゼンテーションができるようになる 聞き手に伝わるプレゼンテーションについての理解が深まる
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、自己紹介のスピーチ</p> <p>第2回 プレゼンテーションの基礎知識、他己紹介</p> <p>第3回 PowerPointの基本1</p> <p>第4回 PowerPointの基本2</p> <p>第5回 PowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成1</p> <p>第6回 PowerPointを活用したプレゼンテーション資料の作成2</p> <p>第7回 プレゼンテーションの実践1</p> <p>第8回 プレゼンテーションの実践2</p> <p>第9回 様々なITスキルを活用したプレゼンテーション1</p> <p>第10回 様々なITスキルを活用したプレゼンテーション2</p> <p>第11回 チームによるプレゼンテーション資料の作成1</p> <p>第12回 チームによるプレゼンテーション資料の作成2</p> <p>第13回 チームによるプレゼンテーション資料の作成3</p> <p>第14回 チームによるプレゼンテーションの実践</p> <p>第15回 チームによるプレゼンテーションの実践</p>
授業の概要	効果的なプレゼンテーションとは何かを学び、それをサポートするための情報機器やアプリケーションの活用方法を習得する。
予習	シラバスに従って、準備を整えておくこと。
復習	授業で学んだことをその後の実践に活かすこと。
テキスト	適宜プリント教材を配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	個人のプレゼンテーション 50% チームによるプレゼンテーション 50%
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
		ナンバリング：INT310	

授業のテーマ及び到達目標	英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回	イントロダクション with 『翻訳の極意』	
	第2回	翻訳デモンストレーション 第1回の講座で学習した『翻訳の極意』のポイントを活用して、実際にクラスでサンプルを翻訳してみる。オンライン辞書の使い方や、ウェブの活用法、毎週の翻訳課題への取り組み方などを学習する。	
	第3回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §1, §2 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§1, §2, §3, §6, §7, §8)	
		§1 語順——原文の流れを乱すな §2 名詞の中に文を読め	
	第4回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §3 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§4A, §4B, §4C)	
		§3 主語を表す所有格	
	第5回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §4 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§5A)	
		§4 目的語を表す所有格	
	第6回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §5, §6 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§4D, §5B)	
		§5 of+名詞——主語を表す場合 §6 of+名詞——目的語を表す場合	
	第7回	まとめと小テスト	
	第8回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §7, §8 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§9, §9A, §9B, §9C, §10)	
		§7 無生物主語の構文 §8 "A Good Swimmer"の型	
	第9回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §9, §10 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§11, §12)	
		§9 人称代名詞、指示代名詞 §10 反復を避けるためのThat, One	
	第10回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §11A / 『英文翻訳術』 該当セクション (§13, §14)	
		§11A 関係代名詞 (1) ——接続詞を補う	
	第11回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §11B / 『英文翻訳術』 該当セクション (§15, §16)	
		§11B 関係代名詞 (2) ——分解する	
	第12回	まとめと小テスト	
	第13回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §12 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§17A, §17B, §17C, §17D)	
		§12 形容詞・副詞を述語に——Many, Some	
	第14回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §13 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§18)	
		§13 文修飾の副詞	
	第15回	『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §14 / 『英文翻訳術』 該当セクション (§19A, §19B, §19C, §19D)	
		§14 形容詞を副詞に——All, Every, Each	
	第16回	まとめと小テスト	
授業の概要	翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。		
予習	課題を翻訳しタイピングしておく。		
復習	返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。		
テキスト	テキスト(演習課題)は、クラスで配布する。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』安西徹雄(バベル・プレス) ・『翻訳英文法』安西徹雄(バベル・プレス) ・『翻訳の極意』小林淳夫(南雲フェニックス) 		

	・ その他
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
浜川 仁			
		ナンバリング：INT311	

授業のテーマ及び到達目標	英日翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン with 『翻訳の極意』</p> <p>第2回 翻訳デモンストレーション</p> <p>第3回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §15A, §15B/ 『英文翻訳術』 該当セクション §20A, §20B §15A 比較級・最上級 §15B 否定のからんだ比較表現</p> <p>第4回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §15C/ 『英文翻訳術』 該当セクション §20C §15C as ... as の構文</p> <p>第5回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §16A, §16B/ 『英文翻訳術』 該当セクション §25A, §25B §16A 受動態 (1) ——自動詞を使って能動態に §16B 受動態 (2) ——by～を主語にして能動態に</p> <p>第6回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §16C, §17/ 『英文翻訳術』 該当セクション §25C, §26A, §26B §16C 受動態 (3) ——暗示された by～を主語にして §17 受動態 (4) ——受動態のまま</p> <p>第7回 まとめと小テスト</p> <p>第8回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §18A/ 『英文翻訳術』 該当セクション §29 §18A 仮定法 (1) ——主語に仮定の含まれている場合</p> <p>第9回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §18B/ 『英文翻訳術』 該当セクション §30 §18B 仮定法 (2) ——副詞句に仮定の含まれている場合</p> <p>第10回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §18C/ 『英文翻訳術』 該当セクション §31, §32 §18C 仮定法 (3) ——発想を転換する</p> <p>第11回 まとめと小テスト</p> <p>第12回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §19A/ 『英文翻訳術』 該当セクション §33, §34, §35 §19A 話法 (1) ——直接話法を生かす</p> <p>第13回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §19B/ 『英文翻訳術』 該当セクション §36, §37, §38 §19B 話法 (2) ——直接話法を掘り起こす</p> <p>第14回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §20, §21/ 『英文翻訳術』 該当セクション §39, §40 §20 強調構文 §21 省略 (共通) 構文</p> <p>第15回 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 §22, §23/ 『英文翻訳術』 該当セクション §41D, §41A, §41B §22 接続詞 (1) ——Except, Without §23 接続詞 (2) ——Until, Before</p> <p>第16回 まとめと小テスト</p>
授業の概要	翻訳教材として用いる原文は、一般的な内容のもので、さまざまなスタイルや分野からとられている。しっかりした文法力と一般常識に基づく理解に添いつつ、いわゆる「直訳」にこだわらず、より自然な和文として訳出していくための翻訳技法を教授する。
予習	課題を翻訳しタイピングしておく。
復習	返却された課題と演習の指摘箇所を、訳案等をもとに再チェックする。
テキスト	テキスト (演習課題) は、クラスで配布する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 『翻訳英文法トレーニング・マニュアル』 安西徹雄 (バベル・プレス) 『翻訳英文法』 安西徹雄 (バベル・プレス) 『翻訳の極意』 小林淳夫 (南雲フェニックス) その他

評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	課題はできるだけ毎週提出してほしい。英和・和英辞書を毎回忘れずに持参すること。

講義科目名称：日英翻訳技法I

授業コード：

英文科目名称：Japanese→English Translation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング：INT417	

授業のテーマ及び到達目標	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。		
授業計画	第1回	和文英訳技法の基本ーその1	
	第2回	和文英訳技法の基本ーその2	
	第3回	日本文の主語→英文の主語ーその1	
	第4回	日本文の主語→英文の主語ーその2	
	第5回	日本文の主語→英文の主語ーその3	
	第6回	英語的な主語ーその1	
	第7回	英語的な主語ーその2	
	第8回	まとめ(中間)	
	第9回	動詞の選択ーその1	
	第10回	動詞の選択ーその2	
	第11回	使役動詞と態の用法ーその1	
	第12回	使役動詞と態の用法ーその2	
	第13回	和文英訳と英語の時制ーその1	
	第14回	和文英訳と英語の時制ーその2	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末テスト	
授業の概要	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。		
予習	Students must download and prepare the exercises before each class.		
復習	Students should review after each class to gain a better understanding of the translation techniques. This preparation is essential for success on the exams.		
テキスト	演習課題(プリント)を、Coursebaseで配布する。		
参考書	和英と英和辞典(例文の多いの)、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database。グーグル翻訳は好ましくないので、ご注意ください。		
評価方法・評価基準	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project(12.5%)を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。		
履修上の注意	英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。宿題を完成した上、受講してください。		

講義科目名称：日英翻訳技法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Japanese→English Translation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング：INT418	

授業のテーマ及び到達目標	日英翻訳技法Iの上級講義。日英翻訳の際に留意すべき応用技法を、演習を通して身につける。
授業計画	<p>第1回 和文英訳技法の基本</p> <p>第2回 日本文の主語→英文の主語：復習と応用</p> <p>第3回 和文英訳と英語の時制：復習と応用</p> <p>第4回 動詞の選び方：復習と応用</p> <p>第5回 使役動詞と態の用法：復習と応用</p> <p>第6回 直接話法と間接話法</p> <p>第7回 日本語と英語の比較構文</p> <p>第8回 上記の復習、中間試験の準備</p> <p>第9回 まとめ（中間）</p> <p>第10回 名詞と名詞構文の生かし方</p> <p>第11回 否定の構文</p> <p>第12回 冠詞</p> <p>第13回 長文演習</p> <p>第14回 長文演習</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	日英翻訳の際に留意すべき基本的技法を、演習を通して身につける。和文と英文の間に見られる、同義語上のニュアンスの違い、文法上の成り立ちの違い、表現の仕方の違いなど、両言語の特質上の相違から生じる様々な問題点を具体的に整理・検討する。翻訳教材は、和文を、英語検定試験準2～2級程度の語彙力と英文法構成力を基礎に、より自然な英文として訳出していくための翻訳技法を教授する。
予習	Students must download and prepare the exercises before each class.
復習	Students should review after each class to gain a better understanding of the translation techniques. This preparation is essential for success on the exams.
テキスト	演習課題（プリント）を、Coursebaseで配布する。
参考書	和英と英和辞典（例文の多いの）、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database. グーグル翻訳は好ましくないなので、ご注意ください。
評価方法・評価基準	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project (12.5%)を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。
履修上の注意	英和・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。宿題を完成した上、受講してください。

講義科目名称：比較文化

授業コード：

英文科目名称：Comparative Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：CUL141	

授業のテーマ及び到達目標	到達目標：日米の文化変形規則（Cultural Transformation Rule）を学ぶことにより、日本文化とアメリカ文化の共通点と相違点を理解できること。 テーマ：文化変形規則（Cultural Transformation Rule）、集団志向、個人志向、依存志向、自立志向、自然志向、人為志向など。
授業計画	<p>第1回 授業のオリエンテーション／日米の比較文化①『謙遜志向』対『対等志向』</p> <p>第2回 日米の比較文化②『集団志向』対『個人志向』</p> <p>第3回 企業—異文化理解の落とし穴</p> <p>第4回 日米の比較文化③『依存志向』対『自立志向』</p> <p>第5回 日米の比較文化④『形式志向』対『自由志向』</p> <p>第6回 宗教（日米比較）</p> <p>第7回 日米の比較文化⑤『調和志向』対『主張志向』</p> <p>第8回 日米の比較文化⑥『自然志向』対『人為志向』</p> <p>第9回 中間テスト</p> <p>第10回 教育—ニッポンは学歴社会か？</p> <p>第11回 日米の比較文化⑦『悲観志向』対『楽観志向』</p> <p>第12回 日米の比較文化⑧『緊張志向』対『弛緩志向』</p> <p>第13回 価値観—フェアって何？</p> <p>第14回 Cultural Transformational Rule (CTR)</p> <p>第15回 日英語の衝突とCTR</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	日本とアメリカの基本的な文化の違いを、日米の文化変形規則（Cultural Transformation Rule）を通して考える。たとえば、風俗や習慣、衣食住、家庭、教育、社会問題、言語、スポーツなどの事柄を宗教、人種、民族、文化などに対する観点から比較し、文化の相対性の視点と、多角的な視点から文化を捉える方法論をさぐる。また、日米を中心にしながら、他の文化をみる視点の基本も養う。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。
予習	英語のテキストを読んでくること
復習	毎回、講義・ディスカッションのあと、リアクション・ペーパーを提出する。
テキスト	松本青也『日米文化の特質』（研究社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀貞『概説アメリカ史』有斐閣 ・荻谷剛彦『比較社会・入門』有斐閣 ・エスターワニング『アメリカ人』河出書房 ・Kumi Inoue Ads Speak American Culture（広告からみたアメリカ文化）成美堂
評価方法・評価基準	授業への参加度(20%)、提出物(30%)、中間・期末テスト(50%)
履修上の注意	文化比較をおこなう場合、とかく違いが強調されやすい。しかし、文化の違いと同時に、文化の共通性も理解してほしい。

講義科目名称：異文化理解

授業コード：

英文科目名称：Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：CUL150	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：文化的他者の概念を説明できる。 関心意欲：他者の歴史に興味を持てる。 思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。 態度：他者の声を聴く態度を持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化」とは？「異文化理解」とは？ 「文化」の概念について考える。「異文化」を「理解」という行為について議論し、理解を深める。「理解」と「共感」など、他者との共生において重要となる概念について学ぶ。</p> <p>第2回 大航海時代と異民族・異文化接触 人類にとっての「異文化接触」の歴史は暴力に満ちており、現在私たちが国際交流などで描くポジティブなイメージからは程遠かった。ヨーロッパにおける大航海時代を例に、植民地支配など民族間接触と暴力的支配の歴史を学ぶ。</p> <p>第3回 アメリカ合衆国の歴史と奴隷制度 北米を例に取り上げ「奴隷制度」の歴史を学ぶ。北アメリカにおけるプランテーションの成り立ちや奴隷としての「黒人」の扱いについて理解を深める。現在のアメリカにおける人種間の対立や差別の歴史的背景について学ぶ。</p> <p>第4回 奴隷解放とブルースの誕生 「奴隷制度」という過酷な社会環境の中で、黒人たちがどのような文化を生み出していったのか、音楽に焦点を当て探る。労働歌からブルースが誕生した社会背景について学ぶ。ミシシッピ・デルタスタイル（カントリーブルース）を例に取り上げ、エスノミュージコロジーの視点からその音楽に込められた精神世界を探る。ブルースを「理解」することについて議論し考える。</p> <p>第5回 黒人社会とキリスト教～ゴスペルと黒人の精神世界～ 宗教音楽ゴスペルの世界について学ぶ。黒人社会にとってのキリスト教の存在意義と、アイデンティティに与えた影響について考える。ジムクロウ法やアメリカ南部に存在した様々な人種差別の現実について理解する。KKKなど白人至上主義と人種差別についての理解を深める。ゴスペルの世界に触れることで、当時の黒人の状況をどのようにして「理解」できるのか、議論する。</p> <p>第6回 北部都市シカゴとリズムアンドブルース～カントリーブルースからシティブルースへ～ アメリカの工業化に伴い、南部から北部へと人口移動が始まった歴史を学ぶ。シカゴにおいて新たな展開をみせたブルースについて理解する。北部の都市で、新たな社会環境に置かれた黒人たちの生活と文化について学ぶ。シカゴブルースとして新たなジャンルとなった音楽から、当時の黒人たちの精神文化を「理解」する。</p> <p>第7回 ゴスペルからソウルへ～アメリカ主流社会への同化主義と黒人音楽～ それまで黒人教会のものであったゴスペルが、ソウルという商業的音楽へと新たな展開をみせた社会状況について学ぶ。キング牧師の登場と公民権運動を迎えた1960年代、黒人たちの中にあつた「いつかは白人のようになれる」と信じたオプティミズムとその挫折を、ソウルという音楽の中から読み取っていく。モータウンレコードに代表される同化主義的運動の背景にあつたものや、人種差別によって形成された低い自己肯定感やアイデンティティについて理解を深める。</p> <p>第8回 ソウルからファンクへ～「ブラック・イズ・ビューティフル」と黒人アイデンティティの変化 同化主義を体現したモータウン・ソウルからファンクという新たな音楽の誕生について学ぶ。キング牧師やマルコムXの暗殺を通して、これまで抱かれていた人種平等の理想が崩れると共に、アメリカ黒人社会をリアルに反映した音楽の必要性の出現について考える。アフロヘアーや黒人特有のファッションに代表されるアイデンティティの変遷について理解する。</p> <p>第9回 キング牧師と公民権運動 キング牧師の足跡に焦点を当て、激動の60年代を理解する。人種差別の歴史のみならず抵抗を続けた人々の歴史、音楽やアートを通してアメリカ社会の人種差別を変えようとした活動について学ぶ。</p> <p>第10回 抵抗の音楽～レゲエ カリブ海に目を移し、ジャマイカの歴史に焦点を当てる。アメリカと同じような奴隷制の歴史やマルーンの抵抗、宗教運動ラスタファリについて学ぶ。レゲエという音楽の歌詞に込められた政治的意味について、ボブ・マーリーの作品をひもときながら考える。東西冷戦の中にあつて、資本主義と社会主義の代理戦争のような暴力が存在したジャマイカで、レゲエの果たした政治的役割や民衆の心情について理解を深める。</p> <p>第11回 文化は再びストリートへ～ヒップホップとR&B 急速に商業化していった音楽にリアリティを感じきれず、新たな黒人文化としてストリートから誕生したヒップホップに注目する。今日にいたつてもまだ続くアメリカ社会の黒人差別をヒップホップ文化の中に学ぶ。黒人社会が抱える様々な課題（ギャングバイオレンス、ドラッグ、ティーンエイジ妊娠・出産、DV、貧困など）について学び、ヒップホップ文化がアメリカ社会で告発する問題意識と向き合う。</p> <p>第12回 ヒップホップの世界的展開 ネパールやフィリピン、台湾などアジアで展開するヒップホップ文化に注目する。フィリピンのスラム街でブレイクダンスが踊られたり、ネパール語のラップが作られたりする背景に、アメリカ黒人が経験した社会的抑圧と差別の構造があることを理解する。似通つた社会経験が共感を生み出し、人々をつなぐ現象について考え議論する。</p> <p>第13回 共感がつなぐもの～沖縄とハワイ～ 島嶼社会としての沖縄とハワイの共通点に着目し、2つの島で行われる文化的交流について学</p>

	<p>ぶ。開発や観光、自然破壊や共同体の崩壊など、共通した歴史的体験が、音楽の中にどのように反映されるのか理解する。言語や文化の違いを超えて共感が生み出すつながりについて考える。</p> <p>現代アメリカ社会における白人至上主義と人種差別</p> <p>「オルタナ・ライト」など、トランプ政権誕生とともに台頭した新たな保守系白人至上主義とマイノリティーや移民をターゲットにした人種差別について学ぶ。白人警察官による黒人への暴力や、それらの事件にまつわる世論や抵抗運動などについて理解を深める。「異文化理解」よりも分断へと向かうアメリカ社会から、新たな共生の可能性について考える。</p> <p>第15回 「異文化理解」の概念再考</p> <p>文化的他者を「理解」することの限界と、その問題点について改めて考える。認識論的立場から「理解」を捉え直し、代替可能な概念についても考える。「共感」や「つながる」など、音楽という文化形態の持つ可能性について議論し、これからの文化共生社会へ向けて、どのような「異文化理解」が望ましいのか、考える。</p> <p>第16回</p>
授業の概要	<p>新たな世紀が明けると同時に私たちが目にしたものは、異民族・異文化の衝突であり、耐えることのない紛争である。グローバル化の進展は、更なる人々の出会いを生み、異文化の出会いを生んでいく。様々な文化や価値観との出会いのなかで、文化的他者を理解し、共に生きるとはいかなることなのか。様々な文化が生成していくプロセスのなかに込められた人々の声を聞き、その思いを探る。</p> <p>「文化」を理解するカギとして、この講義では特にアメリカ黒人音楽の歴史を例に、文化にまつわる諸テーマを考える。ディスカッションの機会を出来るだけ増やし、学生の批判的能力・口頭表現能力の育成にも留意する。</p>
予習	<p>次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史、事実関連を調べること。</p>
復習	<p>次回の内容との関連性を考え、概念などの再確認をおこなうこと。</p>
テキスト	<p>講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備する。</p>
参考書	<p>その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。</p>
評価方法・評価基準	<p>期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができていないか評価します。</p>
履修上の注意	<p>「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。「異文化理解」の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも異文化理解の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。</p>

講義科目名称 : Okinawan Studies

授業コード :

英文科目名称 : Okinawan Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング : CUL348	

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this class is for students to use English to acquire a more proficient understanding of Okinawa through a variety of contemporary subjects and to improve their language skills and knowledge of the subject matter.		
授業計画	第1回	Orientation; geology, and geography, the constituent islands, population and units of local government	
	第2回	Outline of Ryukyuan history to 1879; quiz	
	第3回	Outline of Okinawan history, 1879 to 2000; quiz	
	第4回	Iha Fuyu, the origins of Ryukyuan・Okinawan Studies, and Iha's critics, quiz	
	第5回	Karate; quiz	
	第6回	Lacquer; quiz	
	第7回	Ceramics and the mingei undo; the Dialect Controversy; quiz	
	第8回	Textiles; mid-term summary quiz	
	第9回	Classical music and dance; quiz	
	第10回	Architecture and masonry; quiz	
	第11回	Okinawa's UNESCO World Heritage Sites; quiz	
	第12回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第13回	Pacifism in Okinawa; quiz	
	第14回	Okinawan cuisine, awamori, longevity and health foods; quiz	
	第15回	Student choice: women's history or education in Okinawa	
	第16回	Final summary quiz	
授業の概要	沖縄について、特に琉球王国の近代日本への吸収から今日までの歴史的経過や文化の概要の紹介を目的とする。王国時代についても必要事項について言及しつつ、米国や日本からの外圧、王国内の社会的、政治的關係や発展に焦点を当てる。英語のアーカイブ現代資料を利用し戦後沖縄の状況についての紹介をすると同時に G. H. カーやChalmers Johnson、大田昌秀などの研究者の様々な見解を紹介検討する。琉球・沖縄の驚嘆すべき文化の興隆から数項目を選び検討する。講義ではパワーポイントを使用する。日本語のキーワードを紹介しつつ英語で講義を行うことにより期せずして学生の英語聴解力、会話力、読解力の向上を促す。		
予習	Students should prepare for each class and gather data about the topic in order to make the class more fruitful.		
復習	Students should review what they learn in each class as that information will be discussed as part of future topics.		
テキスト	n/a		
参考書	講義にて紹介する。		
評価方法・評価基準	1) 質疑応答を通じての積極的姿勢、時間厳守(重視する)、授業への参加度、意識・関心度 2) 講義内容についての事前学習 3) 復習クイズ、プレゼンテーション、レポート、中間及び期末試験		
履修上の注意	特になし		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS250	

授業のテーマ及び到達目標	グローバル化と地域社会、自己との関連を理解する。 知識理解：時事問題を説明できる。 思考判断：国際社会と自己との関連を指摘できる。	関心意欲：国際社会に興味を持てる。 態度：国際情勢を持つ。
授業計画	<p>第1回 近代国家と国際社会－国際関係とは？ 「インターナショナル」の概念や、大戦後の国際社会の形成など国際関係の基礎について学ぶ。</p> <p>第2回 グローバリゼーションの功罪 「インターナショナル」と比較しての「グローバリゼーション」について考える。政治、経済、文化、軍事などのグローバリゼーションがもたらした新たな可能性と問題点について学ぶ。</p> <p>第3回 私たちの生活とグローバリゼーション グローバリゼーションという概念を把握した上で、私たちの生活と実際にどのような関係を持っているのか、「ファストファッション」を例に学ぶ。最新のファッションが私たちの日常生活で低価格で提供されている一方で、途上国の生産者がどのような生活・労働環境に置かれているのか、ドキュメンタリー映画を参考に理解する。</p> <p>第4回 多国籍企業と途上国の労働力搾取 バングラデシュやホンジュラスでおこなわれている多国籍企業による労働力搾取や児童労働の現状を学ぶ。日系企業によるグローバルな展開についても学び、搾取の問題が私たちの生活に密接に関わっている現実について理解を深める。</p> <p>第5回 グローバル資本主義とフェアトレード 世界の貧富を拡大させ、搾取や人権侵害の経済活動を展開する多国籍企業とその背後にあるグローバル資本主義について学ぶ。過去の大戦からブロック経済への反省、自由貿易への移行に至った歴史的背景について学ぶ。環境や人権問題が深刻化する中、フェアトレードという新しい貿易の形も生まれた。その現在と課題、限界と可能性について理解を深める。またフェアトレードの手法の是非について議論する。</p> <p>第6回 WTO、IMF、WBとグローバル資本主義、南北問題、経済格差、投機マネーとトービン税 様々な国際機関による自由貿易の推進について学ぶ。ジョセフ・スティグリッツのグローバル資本主義批判について理解した上で、新たな経済の仕組みが可能か、議論する。</p> <p>第7回 先進国による食料廃棄と途上国の飢餓問題 先進国による飽食や世界的な食料廃棄が加速する中で、途上国における食糧価格の高騰や食糧危機が起こる現状について学ぶ。日本で起こった米不足が、最終的にはアフリカの小国にまで影響が及ぶようなグローバル経済の仕組みについて理解する。</p> <p>第8回 食糧危機とNGOの取り組み ドキュメンタリー映画“Taste the waste”から食料廃棄の現状を理解する。また国際的NGOや国連組織が、食糧危機の問題解決に向けてどのような活動を展開しているのか学ぶ。子どもの貧困やフードバンクなど、地域社会の身近な問題や活動についても紹介し、地域社会と地球社会のつながりについて理解を深める。</p> <p>第9回 紛争と難民 20世紀は紛争とともに多くの難民を生み出した。シリア難民や東南アジア少数民族の難民を例に、難民問題と支援の現状を学ぶ。日本の難民政策についても紹介し、難民問題を自分たちの問題として理解する。</p> <p>第10回 国際テロリズム 同時多発テロで幕開けた21世紀。連日のように報じられるテロのニュース。なぜテロリズムは起きるのか、その原因について考える。ヨーロッパやアメリカにおける移民への対応の歴史を学び、現在の難民問題とテロリズムの関連についても理解を深める。</p> <p>第11回 人種差別とヘイトスピーチ アメリカの新たな移民政策や台頭する白人至上主義、それに伴うヘイトスピーチの問題について考える。日本における在日コリアン差別やヘイトスピーチの問題も合わせて学ぶ。ゼノフォビアやポピュリズム、ファシズムなど人々の不安やそれを利用した政治のあり方などについても議論し理解を深める。</p> <p>第12回 多様性と多文化共生社会 人種差別や性差別など、様々な差別を超えて多様性を受け入れ社会の強みとしていく多文化共生社会の可能性について議論する。現状の課題を把握しつつ、問題解決に向けてどのような政策や活動が必要なのか議論する。</p> <p>第13回 子どもの権利条約 国際的に子どもをめぐる人権問題について学ぶ。児童労働や人身売買、性的搾取など子どもに対する深刻な人権侵害について理解する。国際的NGO活動の現状を通して、問題解決の可能性について議論する。</p> <p>第14回 ナショナリズムと軍事主義 愛国主義的教育など、現在の政治状況が軍事主義とどのような関わりを持っているか理解する。大学における軍事技術の研究や開発、デュアル・ユースや軍産複合体の問題など、現在日本も抱える問題について議論する。</p> <p>第15回 アメリカの世界的軍事戦略と沖縄 アメリカの世界的軍事戦略と追従する日本政府に翻弄され続ける沖縄の現状について学ぶ。沖縄における平和運動の歴史や本学の建学の精神になっている世界平和への希求についても理解を深める。</p>	

	第16回 総括
授業の概要	新しい国際秩序に向けてどのような取り組みが国際社会においてなされているかを理解する。既存の理論のみならず、現状分析に基づいた新たな国際関係論を理解する。異文化間の相互理解や、世界的視野で様々な社会問題を考える重要性について認識する。複雑化する国際関係現象を的確に把握する上で国際関係論の習得は重要であり、そのためには、国際関係論の根幹を支える伝統的学問分野の諸原則を理解することが不可欠である。本講義では、学際的かつ実践的手法を採用し、国家関係および人間生活を取り巻く様々な領域に、横断的かつ総合的にアプローチする。特に第二次世界大戦以降の国際関係史の変遷と国際社会における諸原則の発展に重点をおいて本講義をすすめる。本講義では、受講生が国際関係史や国際問題をより身近に感じ、国際関係論の基本を理解することを目指す。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な専門用語などを調べておくこと。
復習	回りの講義との連続性を意識しながら、事実関連の再確認をおこなうこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備する。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題(2回程度)20%、授業への参加(受講態度を含む)30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます(遅刻や欠席は大きな減点対象です)。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。全ての人への配慮とリスペクトを希望します。私語などの授業妨害行為は禁止します。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や世界の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。国際平和学を履修していること。

講義科目名称：国際人権論

授業コード：

英文科目名称：International Human Rights

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS357	

授業のテーマ及び到達目標	国際社会における人権の役割、現状を理解する能力を養う 知識理解：国際人権とは何かという知識を持つ 関心意欲：国際人権問題に対する基本的な理解をし、興味関心を持つ 思考判断：国際社会における人権問題に対する判断力を養う 態度：地域社会の出来事と、人権問題に対する探求心を持つ
授業計画	<p>第1回 国際人権を何故学ぶのか（イントロダクション、講義）</p> <p>第2回 世界人権宣言に始まる、人権とは何か？</p> <p>第3回 いじめ、ヘイトスピーチ、ポピュリズム政治にみる人権問題</p> <p>第4回 世界の難民、移民問題を学ぶ（講義・WS）</p> <p>第5回 世界の難民、移民問題を学ぶ（ディベート）</p> <p>第6回 国内課題：ワーキングプア、ブラックバイト、ブラック企業の現実1</p> <p>第7回 国内課題：ワーキングプア、ブラックバイト、ブラック企業の現実2</p> <p>第8回 社会派映画に観る人権問題</p> <p>第9回 沖縄：琉球から沖縄にみる人権問題</p> <p>第10回 女性、性的マイノリティ、子ども、障害者にみる人権問題</p> <p>第11回 人権問題に向き合う：ソーシャルネットワ・NGO取り組み</p> <p>第12回 人権問題に向き合う：世界各国の取り組み</p> <p>第13回 人権侵害をなくすための仕組み（参加型プレゼンテーション）その1</p> <p>第14回 人権侵害をなくすための仕組み（参加型プレゼンテーション）その2</p> <p>第15回 まとめ～国際人権を学んだことを日常にどう役立てるのか～</p>
授業の概要	国際連合憲章（1945年）は、前文において「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女……の同権とに関する信念をあらためて確認」とし、第1条で「人種、性、言語または宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励すること」を国際連合設立の目的の一つとした。しかし、私たちの日常生活では、基本的人権の尊重が行われているだろうか、世界の現状はどうだろうか、現状の把握から始まり、国際人権の果たす役割、問題となっている人権問題とは一体何であるのか、そこに携わる人や団体はどうなっているのか学ぶ時間とする。
予習	社会的な問題に関心を寄せ、ニュース記事を収集、レビュー記事を書く
復習	授業で取り上げた課題をさらに深め、定着を図り、課題やプレゼンに備える
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示する
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。授業への参加（30%）、課題（レポート）（30%）プレゼンテーション（30%）授業への貢献・積極的発言（10%）
履修上の注意	第13、14回目のプレゼンテーションはグループ発表を行って頂きます

講義科目名称：NGO・NPO論

授業コード：

英文科目名称：NGO・NPO

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS367	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ NGO・NPOの活動および取り巻く環境を学ぶ ・ NGO・NPO活動に何らかの形で直接触れる ・ 本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで調査研究を行い発表・共有する
授業計画	<p>第1回 NGO・NPOのつくる社会（始めるにあたって大事にしたいこと、講義）</p> <p>第2回 地域を見る 私の町の課題発見</p> <p>第3回 地域を見る 私の町の課題共有</p> <p>第4回 NGO・NPO・ボランティア行政、企業、NGO・NPOの役割</p> <p>第5回 社会企業家とNPO その1</p> <p>第6回 社会企業家とNPO その2</p> <p>第7回 NPO/NGO 団体調査方法</p> <p>第8回 NPO/NGO団体調査書作成2</p> <p>第9回 社会派映画にみるNGO・NPO活動</p> <p>第10回 NGO/NPOケーススタディ 子どもと貧困</p> <p>第11回 NGO/NPOケーススタディ 国際協力活動</p> <p>第12回 NGO/NPOケーススタディ 学生NGO・NPO</p> <p>第13回 NPO/NGO調査結果1 学生自らの発表</p> <p>第14回 NPO/NGO調査結果2 学生自らの発表</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	<p>NGO（非政府組織）そしてNPO（非営利組織）と呼ばれる市民グループの社会的役割が現在注目されている。社会のひずみの中で、小さな穴に落ちてしまう弱者、もしくは私だってその一人かもしれない。活動内容、分野、経済的な効果や影響等、新しい分野でありよく分からない点もあるその一つひとつ、授業者と皆さんの協働でこの疑問を解決していく予定。</p> <p>特に、私たち沖縄県内に存在するNGO・NPOをケーススタディとしてライフスタイルのあり方を見つめる時間とする</p>
予習	県内外で活動しているNGO・NPO活動 に関心を持ち、事前に出された題材のことを自ら調べる
復習	実際に授業中に取り上げた活動を行う団体への訪問、調査やボランティア活動等を行う。
テキスト	特になし
参考書	日々の新聞およびニュース等
評価方法・評価基準	レポート、期末テスト、グループ研究発表、出席と授業への積極的参加 その他フィールドワーク60% 受講者の発表20% 授業態度・授業への参加度10% 演習10%
履修上の注意	ディスカッションへの積極的な準備・参加・発言を評価します。

講義科目名称：国際ボランティア論

授業コード：

英文科目名称：International Volunteer Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS362	

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際ボランティア活動の意味と意義を理解しながら、社会活動への参加を促す。今年は5年に一度開催される世界のうちなんちゅ大会が10月27～30日に行われる。世界中からやってくるうちなんちゅとつながりのある県系人のためのボランティア活動を計画している。</p> <p>知識理解：国際ボランティア活動の中身や流れを理解する 関心意欲：地域社会で行われている活動に関心を寄せることができる 思考判断：国際ボランティア活動の抱える課題や取り組みに対し個人的な判断を持つことが出来る 態度：授業への積極的な参加および自主学習への取り組み</p>		
授業計画	<p>第1回 国際ボランティアの意義と必要性（WS、講義）</p> <p>第2回 マザーテレサにみる国際ボランティア活動について</p> <p>第3回 民間の活動にみる国際ボランティア活動①</p> <p>第4回 民間の活動にみる国際ボランティア活動②</p> <p>第5回 国境を超える感染症、国際ボランティアの活動</p> <p>第6回 社会派映画にみる国際ボランティア活動</p> <p>第7回 教育と国際ボランティア活動</p> <p>第8回 福祉、循環型社会にみる国際ボランティア活動</p> <p>第9回 青年海外協力活動にみるボランティア活動</p> <p>第10回 在住外国人との多文化共生～沖縄のNGOの取り組み～</p> <p>第11回 大震災にみる国際ボランティア活動①</p> <p>第12回 大震災にみる国際ボランティア②</p> <p>第13回 フィールドワーク活動：地域在住外国人のたの避難訓練①</p> <p>第14回 フィールドワーク活動：地域在住外国人のたの避難訓練②</p> <p>第15回 講義まとめ</p>		
授業の概要	<p>国内のボランティアに加え、なぜ人は国境を超えて活動するのだろうか？ボランティアの意義、特性、これまでの歴史や活動内容を分野ごとに整理して学んでいく。国境を越えて、または国内の中で行えるボランティア活動について学び合い、人と人が出会い、様々な価値観が触れ合い、互いに学び合う豊かな経験の可能性を持つことについて学ぶ。</p> <p>今年は5年に一度開催される世界のうちなんちゅ大会に因んで、ボランティア活動およびフィールドワーク学習の成果を授業内にてまとめる。</p>		
予習	<p>本授業の中で一度はどちらかの組織・団体でボランティア活動を行うこと。日々のニュースの中でのボランティア活動に関心を持つこと。</p>		
復習	<p>授業で取り上げた課題に関して、より深い学びにつながるようにその課題を探究する努力を行うこと。</p>		
テキスト	<p>適宜プリントを配布</p>		
参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>		
評価方法・評価基準	<p>参加型学習なので授業への参加度を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。授業内レポート30% その他校外学習等への参加度30% 授業態度・授業への参加度20% 受講者の発表20%</p>		
履修上の注意	<p>校外学習に参加できない場合、別途課題提出を行うので自ら申し出ること</p>		

講義科目名称：海外ボランティア演習

授業コード：

英文科目名称：Overseas Volunteer Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS155	

授業のテーマ及び到達目標	海外ボランティアの実践的手法を学ぶ。 知識理解：海外ボランティアの活動紹介ができる 関心意欲：海外ボランティア活動に興味を持つ 思考判断：活動の取り組みについて指摘できる 態 度：参加活動できるようになる
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション 「ボランティア」とは 未だ日本語にならない「ボランティア」。その概念はどのように日本社会で受け入れられてきたのか。ボランティアの歴史を学ぶとともに、その定義を巡ってディスカッションをおこなう。</p> <p>第2回 ボランティア活動と国際協力 先進国における国際協力の歴史と方法論の変遷について学ぶ。様々な国際協力のスキームと、海外ボランティア活動を比較することで「ボランティア」に対する理解を深める。</p> <p>第3回 「慈善型」国際協力 募金活動や物資を送るボランティア活動について考える。歴史的にも古い宗教をベースとした慈善型ボランティア活動のあり方について学ぶ。その利点と問題点について議論する。</p> <p>第4回 「技術移転型」国際協力 農業や工業など様々な分野における先進国の先進技術やビジネススキルを伝授・指導することで現地の生活向上を目指す技術移転型のボランティア活動について学ぶ。失敗例などを通して、その問題点について議論する。</p> <p>第5回 「住民参加型」国際協力 慈善型、技術移転型国際協力の反省を受けて誕生した「住民参加型」国際協力のあり方とその実践について学ぶ。ワークショップを通してその手法を実践してみる。</p> <p>第6回 フィリピンの社会と文化、歴史 海外ボランティアの実習先であるフィリピン社会について学ぶ。現在フィリピン社会が抱えている問題、特に都市貧困の現状について学び、それに対してどのようなボランティア活動が可能なのか考える。</p> <p>第7回 フィリピンと日本との歴史的関係 太平洋戦争中の日比の関係、特に日本軍による占領や住民虐殺などの歴史に対する認識を深め、現地のボランティア活動をおこなう際に、人々との関係構築に役立てる。</p> <p>第8回 フィリピン社会と海外への出稼ぎ フィリピン国内の経済状況の悪化に伴って増加してきた海外での出稼ぎ。日本へもエンターテイナーとしての就労や国際結婚を目的に多くのフィリピン人が在住した。その結果、「ジャッピーノ」と呼ばれる日比の混血の子ども達も多く誕生した。出稼ぎがもたらす家族の離散や国籍の問題などについて理解を深める。</p> <p>第9回 フィリピン社会と家族 「家族」をキーワードにフィリピン社会や文化的価値観を理解する。家族や親戚の絆を大切にしているフィリピン社会が、貧困や様々な社会問題に対してどのように家族関係を活かしているか学ぶ。</p> <p>第10回 都市貧困の現状 特にフィリピンにおける都市貧困の問題を理解する。その現状と原因について学ぶ。どのような対応が必要なのか、グループ・ディスカッションを通して議論する。</p> <p>第11回 フィリピンにおける社会福祉とボランティア活動 社会福祉先進国としてのフィリピンから、社会福祉とボランティア活動の意義について学ぶ。特に「国際社会福祉」のあり方について議論し、現場でのボランティア活動へ活かすための学びをおこなう。</p> <p>第12回 幸福論～豊かさとは、幸せとは～ 「援助」を再考する。私たちが持っている価値観をもとに「豊かさ」や「幸福」について改めて考える。途上国のカウンターパートと関わる上で、援助のそもそもの目的は何か、議論し理解を深める。</p> <p>第13回 援助と自立 インドの子ども達で作る組合の例から、援助と自立について学ぶ。NGOの支援の方法や、受益者との関わり方などについて議論を深める。</p> <p>第14回 ボランティア活動計画の作成 海外ボランティア実習の活動計画を練る。現場の紹介と可能なボランティア活動の種類などについても学ぶ。</p> <p>第15回 実習へ向けてのオリエンテーション 現地でのボランティア活動計画をもとに、治安状況や危機管理について学ぶ。現地コーディネーターへの質問や、訪問施設の詳細についても理解を深める。</p> <p>第16回</p>
授業の概要	海外ボランティアとは何であるのかを学ぶ時間であり、本授業は海外ボランティア実習授業と連動している。海外ボランティア実習授業を検討中、もしくは興味ある学生の皆さんと一緒に本年度の現地の事前学習を兼ねたものとする。尚、現地へ行くことが無理な場合でも、本授業を受講することは可能であり、参加型授業を通して海外ボランティアを学ぶ時間としたい。

予習	次回の内容について与えられた事項を調べておくこと
復習	次回の内容との連続性について考え、事実関連を再確認すること。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業でのワークショップなどへの参加度を重視します。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができていないか評価します。 授業態度40% 小テスト・授業内レポート30% 受講者の発表30%
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。他人へのリスペクトと配慮を常に心がけて下さい。私語などの授業妨害行為はそもそもボランティアの精神と相反するものです。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：メディア情報などを活用し最新の国際情勢やボランティアをおこなう地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。本プログラムの履修に合わせて、国際ボランティア論も同時履修であると更に学びが深くなるのでお勧めです。

講義科目名称：海外ボランティア実習

授業コード：

英文科目名称：Overseas Volunteer Practice

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS156	

授業のテーマ及び到達目標	<p>ボランティアの実践を体験する。 知識理解：ボランティアのノウハウを説明できる。 思考判断：理想的な実践手法を指摘できる。</p> <p>関心意欲：実践に興味を持てる。 態度：ボランティア活動に慣れる。</p>		
授業計画	<p>第1回 現地視察と観察研究</p> <p>第2回 現地聞き取り調査とディスカッション</p> <p>第3回 現地コミュニティ、各関係機関との協議・調整</p> <p>第4回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション①</p> <p>第5回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション②</p> <p>第6回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション③</p> <p>第7回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション④</p> <p>第8回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑤</p> <p>第9回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑥</p> <p>第10回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑦</p> <p>第11回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑧</p> <p>第12回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑨</p> <p>第13回 ボランティア活動・振り返りとディスカッション⑩</p> <p>第14回 聞き取り調査とモニタリング</p> <p>第15回 最終報告</p> <p>第16回 総括</p>		
授業の概要	<p>海外ボランティア演習は、実学であり活学である。そうであるからこそ、この真髄は、文献ではなく、ボランティア活動の現場の中に見いだされる。本実習において、受講生は実際に海外でボランティア活動を体験し、個人やグループの経験をつうじて、ボランティア活動の意義を実感することとなる。例えば、ボランティアの現場における異文化コミュニケーション、カウンターパートとの関係構築、政府関係機関やNGOとの調整といった様々な問題を受講生が認識し、その克服法を受講生自身が提唱するとともに、実行する。</p>		
予習	<p>翌日のスケジュールを事前によく読み、授業との関連についてよく考えること。</p>		
復習	<p>一日の体験を振り返り、日記をつけておくこと。</p>		
テキスト	<p>現地や事前オリエンテーションにて資料を配付する。</p>		
参考書	<p>マルチメディアを活用し、現地の政治状況などを常に把握するように努めること。そのための資料の紹介は、オリエンテーションの際におこなう。</p>		
評価方法・評価基準	<p>実習日誌、実習レポート、現場評価等により総合的に評価する。 日誌・レポート50% 実習態度30% 事後活動20%</p>		
履修上の注意	<p>事前オリエンテーション（2回）に必ず出席し、積極的に参加すること。</p>		

講義科目名称：経営学総論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
多賀 寿史			
		ナンバリング：BUS160	

授業のテーマ及び到達目標	経営学全般にわたる基礎知識を習得し、企業活動に対する理解を深める。		
授業計画	第1回	生活を支える企業	
	第2回	経営学を学ぶ意義	
	第3回	自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅰ	
	第4回	自分達で企業を起こしてみよう（グループ作業）Ⅱ	
	第5回	企業は誰が動かしているのか	
	第6回	企業は何を目指して活動しているのか	
	第7回	経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅰ	
	第8回	経営資源（ヒト、モノ、カネ等）の特徴Ⅱ	
	第9回	経営資源の獲得、利用、配分と経営戦略	
	第10回	企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているか	
	第11回	NGO/NPOケーススタディ 国際協力活動	
	第12回	企業はどのようにして製品やサービスを販売しているか（マーケティングという考え方について）	
	第13回	企業はどのようにして人材を活用しているか	
	第14回	企業はどのようにして資金を調達し、運用しているか	
	第15回	まとめ	
	第16回	定期試験	
授業の概要	現代社会において、我々は企業との関わりなしに生活することはできない。我々の多くは、企業を通じて生計を立てている。企業の打ち出す方針によって生活が左右されることもある。 本講義は、我々と切っても切れない存在である企業について論じる。具体的には、企業活動は誰によって決定され、実行されているのか、企業の組織はどのようにして組み立てられているのか、組織の各構成部分はどんな機能を果しているのか等、経営学全般にわたって総論し、企業に対する理解度を強めていく。		
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと		
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること		
テキスト	片岡信之他 『初めて学ぶ人のための経営学（Ver.2）』 文真堂		
参考書	坂下昭宣 『経営学への招待』 白桃書房 斉藤毅憲 『経営学を楽しく学ぶ』 中央経済社 加護忠男・吉村典久 『1からの経営学』 碩学社		
評価方法・評価基準	レポート3割、期末試験7割で評価します。		
履修上の注意	本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望します。 配付資料は必ずファイルするようにしてください。		

講義科目名称：ビジネス実務総論 I

授業コード：

英文科目名称：Theory of Business Practice I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
橋本 俊作			
		ナンバリング：BUS260	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける 関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ 思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解 態度：積極的な勉強姿勢</p>
授業計画	<p>第1回 ビジネス実務の基本</p> <p>第2回 ビジネスの目的、事業活動</p> <p>第3回 営利組織と非営利組織</p> <p>第4回 ビジネスの定義</p> <p>第5回 経営とグローバル化</p> <p>第6回 高度情報化</p> <p>第7回 地球環境問題 I</p> <p>第8回 地球環境問題 II</p> <p>第9回 少子高齢化問題</p> <p>第10回 日本的経営システム</p> <p>第11回 ワークスタイルの変化</p> <p>第12回 ワーカーの心構え</p> <p>第13回 ビジネスと法律 I</p> <p>第14回 ビジネスと法律 I</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験（グループ発表）</p>
授業の概要	<p>今日、ビジネスを取り巻く環境は、社会・経済のグローバル化・IT化を背景として急速に変化している。そして、従来型に代わって新しいシステムの構築が求められ動き出している。本講義は、ビジネス環境の変化を的確に捉えながら、まず、ビジネスとは何かについて学ぶ。続いて、ビジネスの現場で起こっている組織環境やワークスタイルの変化に検討を加え、ビジネス実務の基本的知識・技能と心構えについて理解を深めていく。</p>
予習	本講義で使用するテキストを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深めること
テキスト	全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店
参考書	逐次紹介する。
評価方法・評価基準	授業後レポート60点、受講者（グループ）発表 40点を基準とし、総合的に評価する。
履修上の注意	本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。 配付資料は必ずファイルしておくこと。

講義科目名称：ビジネス実務総論Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Theory of Business Practice Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
橋本 俊作			
		ナンバリング：BUS261	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：ビジネス環境の把握・実務における基本的な知識・技能を身につける 関心意欲：ビジネス環境・変化等に興味を持つ 思考判断：ビジネス実務の基本的な思考方法を理解 態度：積極的な勉学姿勢</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、グループワーク</p> <p>第2回 仕事の進め方(1)</p> <p>第3回 仕事の進め方(2)</p> <p>第4回 サービス活動</p> <p>第5回 表現活動</p> <p>第6回 情報活動</p> <p>第7回 組織活動(1)</p> <p>第8回 オペレーション活動</p> <p>第9回 マーケティング活動(1)</p> <p>第10回 マーケティング活動(2)</p> <p>第11回 マーケティング活動(3)</p> <p>第12回 コストパフォーマンス(1)</p> <p>第13回 コストパフォーマンス(2)</p> <p>第14回 コストパフォーマンス(3)</p> <p>第15回 コストパフォーマンス(4)</p> <p>第16回 期末試験(グループ発表)</p>
授業の概要	<p>本講義は、「ビジネス実務総論Ⅰ」で学んだことを基礎において、具体化的な実務学習を行う。前半は、仕事の進め方、サービス活動、表現活動、組織活動について検討を加える。 後半は、オペレーション活動、マーケティング活動、コストパフォーマンスの基本活動からビジネス実務を捉え、ビジネスの効率的な進め方と課題について解説する。 講義にあたっては、具体的な事例紹介を行い、理解を深めていく。</p>
予習	授業で指示した箇所を読んでおくこと。
復習	授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、応用できるよう努めること。
テキスト	全国大学実務教育協会 『ビジネス実務総論』 紀伊国屋書店
参考書	逐次紹介する。
評価方法・評価基準	授業後レポート60点、受講者(グループ)発表 40点を基準とし、総合的に評価する。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：ビジネス実務演習 I

授業コード：

英文科目名称：Applied Business Practice I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：BUS360	

授業のテーマ及び到達目標	ビジネスの基本的な要素とその流れを理解し、効率的かつ効果的な実務処理能力の養成を目標とし、ビジネス実務を実際に行うために必要な知識や技術を習得する。
授業計画	<p>第1回 ビジネス・パーソンの身だしなみと美しい動作、Eメールについて</p> <p>第2回 立居振舞いについて、ビジネス文書1</p> <p>第3回 あいさつの大切さ、ビジネス文書2</p> <p>第4回 仕事の進め方、ビジネス文書3</p> <p>第5回 指示・報告について、ビジネス文書4</p> <p>第6回 敬語について、ビジネス文書5</p> <p>第7回 電話による応対について、ビジネス文書6</p> <p>第8回 紹介する・紹介される、ビジネス文書7</p> <p>第9回 来客応対、ビジネス文書8</p> <p>第10回 訪問のマナー、ビジネス文書9</p> <p>第11回 あらたまった手紙、ビジネス文書10</p> <p>第12回 国際人としてのビジネスマナー、ビジネス文書11</p> <p>第13回 食事のマナー、ビジネス文書12</p> <p>第14回 慶弔のマナー、ビジネス文書13</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	ビジネス現場で活躍するために必要なビジネスマナーを学習する。また、ビジネス文書作成演習を通して、ビジネス実務に必要な知識や技術を学ぶ。
予習	シラバスに示されているトピックについて調べておくこと。
復習	授業で学んだ箇所を、学生生活や就職活動に活かすこと。
テキスト	必要に応じてプリント教材を配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業への取り組み度合い 30% 課題の提出 70%
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

講義科目名称：ビジネス実務演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Applied Business Practice Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
橋本 俊作			
		ナンバリング：BUS361	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：ビジネス実務への総括的な理解を深める 思考判断：自分で考えて行動する思考判断能力を身につける 関心意欲：コミュニケーションスキルやビジネスマナー等へ関心をもつ 態度：真摯に取り組む態度で望む
授業計画	<p>第1回 Introduction、前期の復習</p> <p>第2回 ビジネスマナーの基本</p> <p>第3回 名刺交換／来客応対</p> <p>第4回 電話応対</p> <p>第5回 飲食・慶弔</p> <p>第6回 仕事への基本姿勢</p> <p>第7回 ビジネス文書の基本と社内文書</p> <p>第8回 ビジネス文書の基本と社内文書</p> <p>第9回 社外文書の特徴と基本構成</p> <p>第10回 Wordの基礎</p> <p>第11回 PowerPointの基礎</p> <p>第12回 PowerPointの基礎</p> <p>第13回 Excelの基礎</p> <p>第14回 Excelの基礎</p> <p>第15回 個人発表Ⅰ（発表資料作成）</p> <p>第16回 個人発表Ⅱ（発表）</p>
授業の概要	本授業では、「ビジネス実務演習Ⅰ」に続き、ビジネス実務に必要な実務的な知識や技術の向上を目指す。日々、めまぐるしく変化するビジネス環境に対応できる能力やプレゼンテーション、コミュニケーション能力の重要性を重視し、修得をめざす。具体的な内容として、ビジネスマナー、コミュニケーション実務、ビジネス文書作成、主要ビジネスソフトの紹介と演習を行い、就職に不可欠な技術を習得する。
予習	授業で指示した箇所を予め読んでおくこと。
復習	授業で学んだ箇所を読み、講義の内容をより理解し、パソコン演習においても復習すること。
テキスト	適宜、プリントや資料を配布
参考書	逐次紹介する。
評価方法・評価基準	授業後レポート60点、受講者（グループ）発表 40点を基準とし、総合的に評価する。
履修上の注意	各自USBメモリを準備する事。

講義科目名称：会計学

授業コード：

英文科目名称：Accounting Principles

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
多賀 寿史			
		ナンバリング：BUS363	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・財務会計のしくみを学び、経済社会の仕組みを理解しよう。 ・財務諸表を通じて財務分析の方法を学び意思決定の重要性を学ぼう
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・会計とは？</p> <p>第2回 財務会計のシステムと基本原則(その1)</p> <p>第3回 財務会計のシステムと基本原則(その2)</p> <p>第4回 企業の設立と資金調達</p> <p>第5回 仕入・生産活動</p> <p>第6回 販売活動</p> <p>第7回 生産設備と研究開発</p> <p>第8回 資金の管理と運用</p> <p>第9回 国際活動</p> <p>第10回 税金と配当</p> <p>第11回 財務諸表の作成と公開</p> <p>第12回 企業集団の財務報告</p> <p>第13回 財務諸表による経営分析(その1)</p> <p>第14回 財務諸表による経営分析(その2)</p> <p>第15回 財務諸表による経営分析(その3)</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>本講義では、なぜ会計を学ぶの？からはじめて、会計学の基礎概念のほか以下のことを学び、意思決定するための「情報」の重要性を学習します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社の仕組みを理解した上で、財務会計、管理会計の必要性を学ぶ ・株式会社が営んでいる事業の仕組みと、財務諸表の読み方を学ぶ ・実際にある会社の財務分析をすることで、経営者の意思決定の難しさを学ぶ
予習	次回のテーマの資料を事前配布するので、事前に目を通して参加してください。
復習	毎回講義の時に簡単な課題を出します、その課題にこたえて次の講義で提出してください。
テキスト	講義で配付する資料
参考書	桜井久勝・須田一幸著『財務会計・入門第10版補訂』有斐閣 (1,800円＋税)
評価方法・評価基準	期末試験70% 課題の提出20% 授業態度10%
履修上の注意	毎回出席を取ります。出席しましょう！講義の際に電卓は必携です。

講義科目名称：国際経済論

授業コード：

英文科目名称：International Economics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
沖縄キリスト教学院大学			
	ナンバリング：BUS364		

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：グローバリゼーションの本質を体系的に理解する。 関心意欲：国際経済の現状・課題について関心を持つ 思考判断：他国との比較分析を通じて客観的な分析視点を持つ 態度：積極的な勉強姿勢
授業計画	<p>第1回 経済とグローバリゼーション</p> <p>第2回 地球規模で動く経済社会①</p> <p>第3回 地球規模で動く経済社会②</p> <p>第4回 地球規模で動く経済社会③</p> <p>第5回 地球規模で動く経済社会④</p> <p>第6回 地球規模で動く経済社会⑤</p> <p>第7回 世界経済白書等を読む①</p> <p>第8回 世界経済白書等を読む②</p> <p>第9回 世界経済白書等を読む③</p> <p>第10回 通商白書等を読む①</p> <p>第11回 通商白書等を読む②</p> <p>第12回 日本と外国の価格比較から①</p> <p>第13回 日本と外国の価格比較から②</p> <p>第14回 日本と外国の価格比較から③</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	現在のグローバリゼーションの本質を経済の構造要因と循環要因により理解する。その実際的な動向・仕組み等について各国の価格比較（内外価格差）、貿易実務者から説明等を通じて、国際経済における各国経済の実態等を理解する。また、世界経済白書・通商白書（政府の報告書）における国際経済の具体的な実態・課題について補足する視点等を体得する。併せて背景の経済理論等についても分かりやすく説明する。
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること
テキスト	毎講義ごとに講義資料を配布する。
参考書	講義ごとに提示する。通商白書（経済産業省）、世界白書（内閣府）
評価方法・評価基準	授業への参加度（50点：講義毎の小レポート）、期末テスト（50点）
履修上の注意	毎講義ごとに小レポート（質問・意見）を提出。

講義科目名称：国際経営

授業コード：

英文科目名称：International Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
高崎 正名			
		ナンバリング：BUS369	

授業のテーマ及び到達目標	国際経営環境、国際的リスク、国際的経営戦略、組織構築、マーケティング等を学び、国際経営のあり方を修得する。
授業計画	<p>第1回 国際経営環境</p> <p>第2回 国際経営と国内経営の違い</p> <p>第3回 企業はなぜ国際ビジネス活動をおこなうか(事例研究；スズキ)</p> <p>第4回 国際経営のチャンスとリスク</p> <p>第5回 国際経営戦略の策定</p> <p>第6回 国際化と経営理念</p> <p>第7回 人事管理とリーダーシップ</p> <p>第8回 国際マーケティングの進め方(事例研究；タイ花王)</p> <p>第9回 国際経営組織の要諦</p> <p>第10回 海外生産活動の実際(事例研究；トヨタ自動車)</p> <p>第11回 海外子会社の組織づくり(事例研究；大和証券)</p> <p>第12回 国際的な企業提携・事業買収（Ⅰ）</p> <p>第13回 国際的な企業提携・事業買収（Ⅱ）</p> <p>第14回 日本型多国籍企業</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>「国際経営論」が研究対象としている国際経営は、国内経営の単なる延長線上にあるのではない。国際経営は、複雑な国際経済情勢・国際経営環境・国際的リスク等の把握、そして国際的視野に立った経営資源（人・物・金）の最適配分、意思決定や組織の戦略的構築等が不可欠である。本講義では、国際的な経営戦略、組織の構築、情報システム、財務管理、人材活用、能力開発、マーケティング、リスク管理、そして異文化コミュニケーション等を学び、国際経営のあり方について理解を深める。なお、講義と並行して、国際経営論に関連したトピックスを逐次取り上げ、国際経営の最新情報を紹介していく。</p>
予習	今回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること
テキスト	逐次プリント資料を配布する。
参考書	<p>吉原英樹 『国際経営論への招待』 有斐閣ブックス</p> <p>中村久人 『最新国際経営論』 中央経済社</p> <p>淵本康方 『国際経営学入門』 創成社</p>
評価方法・評価基準	定期試験60% 授業態度30% 小テスト・授業内レポート10%
履修上の注意	特になし

講義科目名称：マーケティング

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Marketing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：BUS371	

授業のテーマ及び到達目標	基本的な目標： マーケティングを学問として捉え、用語や理論を理解する。 高度な目標： マーケティング思考力を身につけ、生活の中の様々な場面に応用できるようになる。
授業計画	第1回 マーケティングとは 第2回 業績が好調な企業のポイント 第3回 マーケティングの全体像 第4回 企業を取り巻くマーケティング環境 第5回 マーケティング戦略を考える 第6回 何を売るか（商品戦略） 第7回 事例研究1：ヒット商品紹介 第8回 いくらで売るか（価格戦略） 第9回 事例研究2 第10回 どこで売るか（流通チャンネル戦略） 第11回 事例研究3 第12回 どのように買ってもらうか（販売促進戦略） 第13回 事例研究4 第14回 顧客満足とこれからのマーケティング 第15回 総合演習
授業の概要	まずはじめにマーケティングの全体像を把握し、続いて企業を取り巻く環境・市場のとらえ方を把握し、商品づくりから顧客に届くまでのチャンネルや販売促進方法について学ぶ。こうした流れが身近に理解できるよう企業の実際の事例を紹介し、ディスカッションする。
予習	シラバスを良く読み、ニュース等と関連づけて意識しておく
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること。また、修得した内容を日常生活で意識すること。
テキスト	必要に応じて資料を配布する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	・授業への参加度、貢献度、受講態度 30% ・課題等の提出物 70%
履修上の注意	身の回りにあるほとんどのものがマーケティングを考える良い材料になります。日頃からマーケティングというものを意識するようにつとめましょう。

講義科目名称： インターンシップ

授業コード：

英文科目名称： Internship Program

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
		ナンバリング：BUS460	

授業のテーマ及び到達目標	知識理科：職業・業務に関する情報を把握・研究するとともに就業体験により見識を高める。 自己理解：実際の就業体験により自身の能力やスキルの理解や自己分析の機会を得ることができる。 関心意欲：就業に対する関心を強く持つ。 思考判断：仕事の概要・内容等に関する意味・働きを理解し、理論と実践の隔たりや社会に対する理解をする。
授業計画	<p>第 1 回 インターンシップの心構え</p> <p>第 2 回 事前指導、行動日程、希望先選定</p> <p>第 3 回 先輩の話</p> <p>第 4 回 希望先企業の選定</p> <p>第 5 回 履歴書の作成</p> <p>第 6 回 履歴書の作成</p> <p>第 7 回 希望先企業の調査・研究</p> <p>第 8 回 希望先企業の研究レポートの作成</p> <p>第 9 回 希望先企業の研究レポート発表</p> <p>第10回 志望理由書の作成</p> <p>第11回 企業実習の心得</p> <p>第12回 申請書類の確認</p> <p>第13回 職場のマナー（1）</p> <p>第14回 職場のマナー（2）</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	インターンシップの目的は、「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行う」と、（平成9年教育専攻プログラム）となっており、基準を満たしたものに対しては単位が与えられる。夏期休暇中の2週間程度、企業において就業体験を積む。事前指導では、テキスト、学外から講師を招いての講習を予定している。インターンシップの実施にあたっては、学生の仕事に対する意識向上だけではなく、配属先の活性化にも大きな効果をもたらすことを目標とする。
予習	インターンシップ先企業研究や実習における必要な知識を事前に習得しておく事。
復習	事後復習では、各自で研修報告をまとめることでキャリアデザインに資するものとし、併せて当該業種の現状や課題に関する情報を提供することで本科目の効果をいっそう高めることとする。 また、実習実施後にお世話になった相手先へ御礼の葉書または文章を送付する事。 報告会でのプレゼンテーションの準備および報告書の作成
テキスト	プリント資料を逐次配布する
参考書	JOB HUNTING GUIDE BOOK 2017/ 沖縄キリスト教学院大学
評価方法・評価基準	学生のインターンシップに関する評価は ①研修先による評価30% ②報告会20% ③個別報告書の内容50% を参考に決められる。
履修上の注意	事後報告書（A4サイズ2枚）は必ず提出すること。また、派遣先での実習風景を撮った写真も提出すること。なお、本学のインターンシップは、自分が働きたい分野での企業や機関に自ら研修を依頼する方式をとっているため、自主性と独立心が求められることを強調したい。

講義科目名称：情報科学 I

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Information Science I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位(2-0)	情報処理
担当教員			
大城 亘武			
		ナンバリング：ITL270	

授業のテーマ及び到達目標	情報概念についての知識・理解を得る。		
授業計画	第1回	情報の概念①情報の定義と特質	
	第2回	情報の概念②情報量、エントロピー	
	第3回	インターネットの開発の歴史	
	第4回	情報の伝達①伝達モデル	
	第5回	情報の伝達②シャノンモデル	
	第6回	情報の伝達③ロトマンモデル	
	第7回	国産コンピューターの開発①	
	第8回	国産コンピューターの開発②	
	第9回	システム概念	
	第10回	システム分析	
	第11回	コンピューターの構成と機能①	
	第12回	コンピューターの構成と機能①	
	第13回	オペレーティング・システム (OS)	
	第14回	情報化社会	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末試験	
授業の概要	情報とは何か。情報・通信技術についてコンピュータを中心に検討し、情報化社会の特質について理解を深める。情報の定義、情報量、コンピュータについて、ハードウェア、ソフトウェアのあらましを学ぶ。特にOS（オペレーティング・システム）については、現今の事実上の世界標準となっているWindowsについて取り扱う。		
予習	-		
復習	-		
テキスト	坂村 健 『痛快！コンピューター学』 集英社		
参考書	その都度紹介する		
評価方法・評価基準	その都度の出席状況（10%）と課題の提出物（20%）と期末考査の成績（70%）による。		
履修上の注意	できるだけ欠席のないようにする。座学中心のクラスなので授業に集中が必要である。		

講義科目名称：情報科学Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Information Science Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位(2-0)	情報処理
担当教員			
大城 亘武			
	ナンバリング：ITL271		

授業のテーマ及び到達目標	情報通信技術社会の諸問題へ関心を広げる。
授業計画	<p>第1回 情報メディア①手紙・本・新聞・電話・ラジオ・テレビ</p> <p>第2回 デジタル・ネイティブ</p> <p>第3回 マッキントッシュ</p> <p>第4回 米国スーパー301条</p> <p>第5回 オープン技術の衝撃LINUX</p> <p>第6回 共有地の悲劇 オープンソースとは</p> <p>第7回 情報技術最前線</p> <p>第8回 製造業とコンピューター・ソフト産業</p> <p>第9回 検索エンジン</p> <p>第10回 著作権と特許権①</p> <p>第11回 著作権と特許権②</p> <p>第12回 ウィニーと一太郎裁判</p> <p>第13回 TRON</p> <p>第14回 シリコンバレーの日本人</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>現今の情報通信を基盤とした社会状況について理解を深めることを目的とする。通信手法・技術の発展を辿り、その政治的、経済的、社会的、技術的、心理的特質について考究する。コンピュータ技術を現在の情報通信技術の核として位置付け、インターネット、コミュニケーション、情報利用と情報倫理、社会情報システムのインフラストラクチャーとしてのコンピュータ社会の全体像に迫る。</p>
予習	—
復習	—
テキスト	坂村 健 『痛快！コンピューター学』 集英社
参考書	その都度紹介する
評価方法・評価基準	<p>情報科学に関する座学中心の講義クラスである。知識的な理解と省察を求める記述テスト（70％）と、その都度の課題レポート（20％）および出席状況（10％）によって評価する。</p>
履修上の注意	<p>受身的に受講に偏することなく多数のリーディング・アサインメントをもとに、積極果敢発言をして貰いたい。</p>

講義科目名称：マルチメディア演習

授業コード：

英文科目名称：Multi-media Applications

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
金城 豪			
		ナンバリング：ITL274	

授業のテーマ及び到達目標	コンピュータ、及び付属するソフトウェアの一步上を行く使用法や知識を獲得する。また、世界に向けて情報を発信するための技術を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 情報社会への歩み</p> <p>第2回 生活環境におけるコンピュータの位置づけ</p> <p>第3回 高度情報通信網</p> <p>第4回 インターネットの仕組み</p> <p>第5回 HTMLとは</p> <p>第6回 HTML演習</p> <p>第7回 ファイルの管理</p> <p>第8回 メモリーの概念</p> <p>第9回 マルチメディアファイルについて</p> <p>第10回 マルチメディアファイルを扱う(1)</p> <p>第11回 マルチメディアファイルを扱う(2)</p> <p>第12回 Webページ作成(1)</p> <p>第13回 Webページ作成(2)</p> <p>第14回 Webページ作成(3)</p> <p>第15回 課題発表会</p>
授業の概要	コンピュータの基本的操作法を習得したことを前提に、次の段階としてネットワーク社会におけるコンピュータを考えます。Webページ作成を通して、マルチメディアファイルの取り扱い方、種々のソフトウェア利用技術を学習します。また演習と並行して、実社会の事例を紹介しながら情報技術の発達と高度情報化社会の諸問題についても理解を深めます。
予習	毎回次の講義内容を指示するので、各自テキスト等を使用して事前に講義を受ける準備をしておくこと。
復習	講義内容を再確認し、与えられた課題を指示通りに実行し確実に提出できるように努めること。
テキスト	講義内で適宜資料を配布しテキストに代える。
参考書	講義内で適宜指示する。
評価方法・評価基準	授業への参加度、課題提出状況、受講態度などを総合的に判断して評価します。 小テスト・授業内レポート40% 演習40% 授業態度10% その他10%
履修上の注意	各自USBメモリを準備すること。

講義科目名称：キャリア・ガイダンス

授業コード：

英文科目名称：Career Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の特徴や能力を知り、それらを文章や言葉で表現することができる。 ・将来に向けて具体的な目標を立てる等、自らのキャリアをデザインすることができる。 ・職業観の形成に向けて、必要な情報を収集する力、情報を吟味する力が身につく。 		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（講義の目的） 大学4年間のステージとサイクル</p> <p>第2回 キャリアデザインって何だろう？</p> <p>第3回 自分を発見しよう</p> <p>第4回 自分のPOPを作ろう</p> <p>第5回 ロジカルライティング①</p> <p>第6回 ロジカルライティング②</p> <p>第7回 働くとは①身近な人をインタビュー</p> <p>第8回 働くとは②身近な人のキャリアを分析</p> <p>第9回 未来予想図を作ろう</p> <p>第10回 今、求められている人材とは？①</p> <p>第11回 今、求められている人材とは？②</p> <p>第12回 今、求められている人材とは？③ 一般常識模擬試験を振り返り</p> <p>第13回 表現力を高める①</p> <p>第14回 表現力を高める②</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 期末試験</p>		
授業の概要	<p>「自分らしい生き方」を発見するために、①自分を知る、②他人を知る、③社会を知る、の3つをキーワードに授業を展開します。特に、自分を知るために様々なワーク等を用いることで、自分の将来について内外から考える契機とします。</p> <p>本講義を受講することで、未来を構想する力、計画・実行に移す力、社会人に求められる基礎力、就活に必要なテクニック等を習得することができます。</p>		
予習	与えられた課題に取り組んだうえで、授業に臨む		
復習	授業での学びを深めるために、日頃から関連する記事や書物に触れることを習慣化する		
テキスト	「わたしの適性・適職発見」川合雅子（学文社）		
参考書	「7つの習慣」ショーン・コヴィー著など講義にて紹介		
評価方法・評価基準	中間・期末試験の結果、授業への参加度、授業態度などから総合的に評価する。		
履修上の注意	受講希望者は、必ず第1回目の授業に出席してください。毎回授業のため、予習・復習してください。		

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
Christopher Valvona			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing.
授業計画	<p>Although every student will follow a slightly different timeline, the rough outline is as follows:</p> <p>4th year</p> <p>April: Topic selection, background reading and planning</p> <p>May - July: preparation and carrying out of research work (further reading, interviewing, preparing experiments, surveys etc.)</p> <p>Summer Vacation: begin writing up results.</p> <p>October - December: complete 1st draft with advisor's guidance</p> <p>January: make corrections according to advisor's instructions.</p> <p>February: submit final thesis</p>
授業の概要	<p>Having chosen a suitable topic for research, students will design and carry out research in order to answer a research question or prove/disprove a hypothesis relating to that topic. Although the advisor's area is English Language Teaching, each student's topic is not limited. Students will begin by reflecting on suitable topics for research, including considering issues of scope, academic relevance, and researchability. Students then select one appropriate topic. Students will then do background reading and research on the topic in order to develop a deep understanding of the wider topic, and to help develop a research question or hypothesis for research.</p> <p>Students then consider the various ways that research can be carried out, and apply the most suitable method(s) to their own topic. After carrying out the research and collecting data, students analyse the data and look for patterns and findings of interest.</p>
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	This will depend on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
参考書	The advisor will provide instruction on this.
評価方法・評価基準	<p>The advisor assigns a grade based on the final submitted thesis and the preparatory work that went into writing it.</p> <p>The scoring is determined as follows:</p> <p>Quality and amount of research: 30%</p> <p>Structure of thesis: 20%</p> <p>Quality of writing: 30%</p> <p>Participation: 20%</p> <p>An incomplete thesis will not receive a final grade, and therefore no credit.</p>
履修上の注意	It is important to maintain regular contact with the advisor, so that he can give appropriate guidance throughout the year.

講義科目名称： 自主研究

授業コード：

英文科目名称： Independent Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
認定科目	1～4年	2単位	大学共通科目
担当教員			
沖縄キリスト教学院大学			
		ナンバリング：THE392	

授業のテーマ及び到達目標	このコースは卒業論文とは別に興味を持った研究テーマをピックアップし深くリサーチするものです。このコースを通して、学生はアカデミックライティングのスキルを磨くことができます。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は、指導を希望する専任教員に対して下記の事項を含む提案書を提出し相談する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 日英両語による研究テーマ名 2) 研究の目的 3) 自主研究を行う理由 4) 指導教諭との面談日ならびに面談回数・時間 5) 学習・研究活動計画書／リーディング・リスト 6) 学習・研究の評価方法について 2. 下記の者の承認が得られた場合にかぎり、自由研究による履修が受理される。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 指導教諭 2) 学部長 3) 教学支援部長
授業の概要	カリキュラムに設置されていない科目（分野）について研究を深めたい学生、または設置されている科目について更に高度の知識・技能を身につけたい学生、を対象にした科目である。個々の学生が、適切な指導教員のもとで自主的に学習・研究し、その成果に対して単位が与えられる。
予習	基本的に学期を通して課題が出されます。詳しくは担当教員より説明します。
復習	基本的に学期を通して課題が出されます。詳しくは担当教員より説明します。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	学習・研究内容による評価が決定される。成績簿には、「自主研究（…テーマ…）」と記される。
履修上の注意	特になし

講義科目名称：海外研修

授業コード：

英文科目名称：Overseas Field Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
研修	1～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：CUL153	

授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：研修先の歴史・社会を説明できる。 関心意欲：異文化に興味を持てる。 思考判断：社会構造の違いを指摘できる。 態度：他者に対して寛容な態度を持つ。</p>
授業計画	<p>1. 海外研修（国際交流）※研修内容検討中 ミシガン州立大学（もしくはポートランド・コミュニティ・カレッジ）研修 （8月下旬～9月中旬 約3週間） 語学強化訓練のみならず、正規授業への参加を通して学術的な力をつける。また大学における諸行事に参加し、参与観察を通しての研究体験もおこなう。諸施設見学やホームステイ等を通し、地域に触れ異文化体験をより深める。</p> <p>2. 海外研修（国際交流） 台湾長栄大学研修 （8月中旬～下旬 約2週間） 博物館や文化施設の見学、大学の諸行事に参加することで、台湾文化に触れる。現地の大学生と、中国語の講義や、正規の講義（英語）に参加することで異文化交流を深める。また台湾訪問前に、長栄大学からの研修生と沖縄で交流をおこない、異文化に対するより深い理解を得る。</p> <p>3. 海外研修（国際協力） フィリピン（現地の状況により研修先の変更あり）研修 （8月下旬～9月上旬 約10日間） フィリピン大学やフィリピン女子大学の交流を通し、日本と関係の深いフィリピンの現状を知る。マニラ近郊の福祉施設やスラム街で活動するNGOの活動を視察、地域開発や国際協力の課題について理解を深める。また、発展途上国の様々な問題について直接調査し、考える機会とする。研修出発前に、沖縄県内での事前学習、ワークショップ、各種講習会に参加することが義務づけられている。</p> <p>4. 海外研修（多文化共生） ハワイ・コミュニティ・カレッジ研修 （2月中旬～3月上旬 約3週間） 最初の2週間はカウアイ島のカウアイ・コミュニティ・カレッジにおいて異文化学習を英語で行う。その後オアフ島に移動、最後の1週間を現地でのフィールドワークをとおり、ハワイの歴史・文化・社会について学習を行う。</p>
授業の概要	<p>本学の協定締結校において2～3週間の研修を行う。異文化を直接体験し、異文化に対する寛容さを養い、国際社会で活躍できる人間の資質を身につける。受講生はレポートを提出することが要求される。国際的視野をもってものごとを認識、把握することで、意識を高め、地球市民としての自覚を養う。参加する学生は、事前に「異文化理解」の講義を通して海外研修に必要な基本的知識として沖縄・日本・米国の歴史、社会、文化について学ぶことが望ましい。</p> <p>この講義とフィールドワークに参加することによって、学生たちは語学の学習のみならずグローバルなものの考え方、価値観、習慣、宗教等について体験的に学び、国際理解を深め、より寛容で広い視点を持つ人間に成長し、平和を志向して国際社会に貢献し得る人材となることが期待される。</p>
予習	-
復習	-
テキスト	-
参考書	-
評価方法・評価基準	<p>-受講者のプレゼンテーション（発表）40％ -研修態度 40％ -課題提出 20％</p>
履修上の注意	<p>[海外研修・・・実施前・後の日程]</p> <p>1. 研修説明会 2. 研修参加希望者申込み・誓約書等提出 3. 研修オリエンテーション 4. 海外研修奨励奨学金説明会 5. 海外研修事前学習発表会・決定</p> <p>6. 研修費振込 7. 保護者説明会 8. 結団式（出発直前、空港にて） 9. レポート提出（帰国後） 10. 海外研修報告会（帰国後）</p>

講義科目名称：国際平和学

授業コード：

英文科目名称：International Peace Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS150	

授業のテーマ及び到達目標	<p>21世紀における平和構築の可能性を考える。 知識理解：世界の現状を説明できる。 関心意欲：発展途上国の課題に興味を持てる。 思考判断：「グローバリゼーション」とその問題を指摘できる。 態度：地球市民としての意識を持つ。</p>
授業計画	<p>第1回 「平和」と「暴力」 「平和」という概念を再考する。平和はなぜ必要なのか、平和である必要はあるのか、など根本的な問いに改めて答える。</p> <p>第2回 世界における紛争の現状（1） アフリカ・シエラレオネ共和国の内紛を例に、「子ども兵士」や「植民地支配」、「人種差別」や「武器輸出入」など、多くの紛争地帯に共通する問題を考え理解する。</p> <p>第3回 世界における紛争の現状（2） 引き続き、世界（特にアフリカ）を取り巻く歴史や政治をもとに、紛争が起きる原因を考える。レアアースなどの天然資源・鉱物資源の輸入を例に、私たちの生活と紛争の関連性、日本国と紛争地域の関わりについて考える。</p> <p>第4回 人種差別と多文化共生（1） アメリカ合衆国における人種差別・民族対立の問題を例に、共生共存の課題と可能性について考える。</p> <p>第5回 人種差別と多文化共生（2） 引き続き、民族間・宗教間の対立と共生の可能性を探る。また日本におけるマイノリティの現状や「ヘイトスピーチ」の問題についても考える。</p> <p>第6回 ジェンダー・ジャスティス（1） 世界になお根深く存在する性差別の問題について考える。紛争地帯におけるジェンダー・ジャスティスの問題やネパールの人身売買の例を通して「ジェンダー」と平和について考える。</p> <p>第7回 ジェンダー・ジャスティス（2） 日本におけるジェンダー規範と差別の問題を考える。またセクシャル・マイノリティの課題についても理解する。アメリカ合衆国におけるLGBTを取り巻く現状や人権の課題などについても考える。</p> <p>第8回 国際テロリズムとは —9.11以降の世界 「テロリズム」とは何かを理解する。「イスラム国」を例に、アメリカの中東政策の歴史やパレスチナ・イスラエル問題などを通して、テロリズムを深く考える。</p> <p>第9回 グローバル化する難民問題 シリア難民を始めとする多くの難民の直面する問題について考える。難民が生まれる背景や、各国の受け入れに対する考え方なども理解する。日本国の難民政策についても考える。</p> <p>第10回 軍事主義と軍産複合体（1） 軍事主義と人権について考える。また経済的側面から世界の紛争を考える。特に国連安全保障理事会メンバー国における軍産複合体の現状を理解する。軍事費が拡大の一途をたどる日本国の軍事主義と軍産複合体についても考える。</p> <p>第11回 軍事主義と軍産複合体（2） アメリカにおける軍産複合体の歴史と愛国主義、戦争がビジネスとして成り立つ理由について考える。またその犠牲となる兵士たちの現状についても理解する。アメリカ海兵隊のブートキャンプ（新兵訓練場）の例を通して、どのようにして一兵士が愛国心と軍事主義的価値観を内面化し、戦場へと向かうのか、理解する。</p> <p>第12回 アメリカの世界的軍事戦略と在日米軍基地 アメリカの世界的軍事戦略と日米同盟、そして在日特に在沖米軍基地の問題について考える。第二次世界大戦終結から現在に至るまで、沖縄における平和運動の歴史や日米の軍事主義に対する様々な抵抗のあり方について議論を深める。</p> <p>第13回 キリスト教と平和 カトリックの聖人マザーテレサやキング牧師の活動を通して、信仰と平和のあり方を学ぶ。</p> <p>第14回 地球市民社会の創造 地球社会と地域社会を結び、平和を実現するために必要なことについて議論を深める。平和な社会を実現するためにどのような社会の仕組みや法律、文化などが有効なのかについて考える。</p> <p>第15回 地球市民の一人として（総括にかえて） Think globally and locally, act globally and locally, change personallyというスローガンを通して、今の時代に生きる私たちに必要な意識や行動について考える。一人ひとりにできること、やるべきことをあげ、平和を作る社会の一員としての自己を振り返る機会を持つ。</p> <p>第16回</p>
授業の概要	<p>21世紀を迎えた最初の年、私たちが直面した現実はこの世界が平和ではないこと、政治経済のグローバリゼーションに伴う新たな宗教間の対立や国際的テロリズムの蔓延など、平和をめぐる問題の構造の急激な変化であった。これらの新たな紛争の原因を明らかにすること、現状に基づいた新たな平和研究の取り組みが今、必要とされている。「平和」や「暴力」など、根本的な概念を理論的レベルで再考すると同時に、それらが私たちの日常</p>

	生活でどのような意味を持つのか、様々な側面から「平和」を考える。その一環として沖縄の米軍基地問題から身近に存在する暴力と平和についても学習する。またキリスト教の視点から世界平和について考えてみる。
予習	次回の内容予告を受け、基礎的な用語や歴史的事実などについて調べておくこと。
復習	回りの講義との関連性において重要だと思う点を再確認しておくこと。
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題(2回程度)20%、授業への参加(受講態度を含む)30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます(遅刻や欠席は大きな減点対象です)。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。平和の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも平和の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守れる人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や授業で取り扱う地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聴き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。

講義科目名称：国際金融論

授業コード：

英文科目名称：International Finance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング：BUS367	

授業のテーマ及び到達目標	金融の基礎知識から国際金融市場の動向まで学び、国際金融のメカニズムを修得する。		
授業計画	第1回	グローバル化する経済と金融	
	第2回	金融とは	
	第3回	金融市場の仕組み	
	第4回	金融機関の種類と業務	
	第5回	金融商品の特徴Ⅰ	
	第6回	金融商品の特徴Ⅱ	
	第7回	国際金融の基礎知識	
	第8回	国際金融取引の構造	
	第9回	外国為替市場と為替レート	
	第10回	グローバル化と金融新時代	
	第11回	主要な国際金融市場の特色	
	第12回	グローバル化と金融リスク	
	第13回	事例研究～アイルランドの国際金融センター	
	第14回	事例研究～沖縄金融特区	
	第15回	まとめ	
	第16回	期末試験	
授業の概要	国際金融論は、世界の経済情勢・金融動向を常に把握していく、極めて現実的かつチャレンジングな分野です。本講義は、金融基礎知識の理解・国際金融取引・外国為替・国際金融市場等を学び、国際金融の理論・分析手法の習得を目指します。講義では、長年国際ビジネスに携わってきた実務経験を活かし、具体的な事例を中心に分かりやすく解説します。また、日々報道されている国際金融関連のトピックスについての解説も行います。		
予習	次回のテーマを予習し、専門用語の意味を理解しておくこと		
復習	学んだテーマの理解を深め、講義ノートを作成すること		
テキスト	逐次プリント資料を配布する。		
参考書	1. 上川孝夫 『現代国際金融論』 有斐閣アルマ 2003年 2. 有吉章編 『図説国際金融論』 財経詳報社 2003年 3. 小川英治 『国際金融入門』 日本経済新聞社 2002年		
評価方法・評価基準	期末試験60% 授業態度30% 小テスト・授業内レポート10%		
履修上の注意	本講義に対して、関心と意欲のある皆さんの受講を希望する。配布資料は必ずファイルしておくこと。		

講義科目名称：簿記論

授業コード：

英文科目名称：Bookkeeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
多賀 寿史			
		ナンバリング：BUS265	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・決算書が作成できるようになること。 ・日商簿記3級合格レベルの力をつけること
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・簿記とは？</p> <p>第2回 商品売買</p> <p>第3回 現金預金</p> <p>第4回 手形</p> <p>第5回 有価証券と固定資産</p> <p>第6回 棚卸資産</p> <p>第7回 その他取引(その1)</p> <p>第8回 その他取引(その2)</p> <p>第9回 帳簿組織その1</p> <p>第10回 帳簿組織その2</p> <p>第11回 試算表</p> <p>第12回 決算手続きその1</p> <p>第13回 決算手続きその2</p> <p>第14回 決算手続きその3</p> <p>第15回 伝票</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	現代の経済社会において、営利企業は成績表(財務諸表といいます)を作成し、問題点を把握し次年度以降の経営活動に活かしています。また各種利害関係者にも自社の成績を公表しています。企業の経営成績の作成プロセスが複式簿記であり、本講義ではこの複式簿記のプロセスを学びます。
予習	今回のテーマの箇所を事前に読んで講義に参加してください。
復習	毎回講義の終了時に復習問題を出します。次回の講義で提出してもらいます。
テキスト	みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税)
参考書	みんなが欲しかった 簿記の教科書 日商3級商業簿記 第4版(972+税)
評価方法・評価基準	期末試験70% 課題の提出20% 授業態度10%
履修上の注意	毎回出席を取ります。出席しましょう！簿記に電卓は必須です。電卓を持参しましょう！ テキストの方は受講者は全員購入してください。参考書の方は、日商簿記3級を受験してみようという学生は必ず購入してください。

講義科目名称：沖縄経済論

授業コード：

英文科目名称：Okinawan Economy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
友利 廣			
		ナンバリング：BUS267	

授業のテーマ及び到達目標	足元の沖縄経済の動向を知ることが就職を控えた学生にとって必須の要件です。また、大学を巣立ち社会人としての振る舞いの中でも沖縄経済に対する素養は大切になります。本講義では転換期にある沖縄経済をホットの情報を交えながら解説し、受講生の沖縄経済を見る目を磨きたいと思います。具体的な到達目標は、新聞や雑誌、TVなどの経済報道の内容を理解できるようにすることです。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：講義の狙いと、受講の心構え、成績評価等について説明する</p> <p>第2回 日本経済のフロントランナー：沖縄経済の変遷を戦後史の観点から解説</p> <p>第3回 日本経済のフロントランナー：基地経済の実態を多角的に解説</p> <p>第4回 日本経済のフロントランナー：国際物流から沖縄経済の躍進を解説</p> <p>第5回 日本経済のフロントランナー：情報特区から沖縄経済の躍進を解説</p> <p>第6回 日本経済のフロントランナー：経済特区の総括的解説</p> <p>第7回 グループ討論：2回～5回の議題を各グループ討論</p> <p>第8回 グループ報告：6回目の討論を踏まえ各グループ報告</p> <p>第9回 島嶼経済としての沖縄経済の特徴：</p> <p>第10回 沖縄経済を牽引する観光産業の可能性と課題</p> <p>第11回 第6次産業は沖縄経済の牽引役になれるか</p> <p>第12回 沖縄振興開発計画の功罪を考える</p> <p>第13回 海外の事例研究：マルタ共和国の戦後史</p> <p>第14回 海外の事例研究：マルタ共和国の全方位外交</p> <p>第15回 海外の事例研究：マルタ共和国の発展戦略</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	どのような職業に就くにしても沖縄経済の基礎を理解することは社会人として大切な要件と言えます。授業計画に示すように、講義の前半は沖縄経済を躍進させている経済特区に絞り解説します。後半では前半で学んだ事例を交えながら沖縄経済の更なる発展を阻害している要因を海外事例を通して考えます。尚、講義はパワーポイントや動画、新聞記事を活用して理解し易い工夫を講じます。又、出席カードに記入した受講生の質問に解答をまとめて資料として毎回配布し、双方向の講義を行います。
予習	配布資料の専門用語は講義で説明することはありません。予め調べた上で講義に臨んでください。
復習	受講生が出席カードに記入した質問を解答したプリントを毎回配ります。同プリントを必ず読み直して次回講義に臨んでください。
テキスト	テキストは使用しません。講義はレジュメを事前に配布して予習、復習ができるように配慮します。
参考書	講義毎に関連する文献を紹介します。
評価方法・評価基準	期末試験70% 小テスト・授業内レポート15% 受講者の発表10% 授業態度・授業への参加度5%
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席カードを配り出欠の確認用と同時に、カードに記載した質問、意見、感想で受講態度を評価します。 ・尚、3回の遅刻は1回の欠席としてカウントします。又、三分の一以上の欠席は不可とします。 ・受講中の退室、私語、スマホは厳禁とします。これは受講の基本マナーですので守れない受講生には厳しく対応します。 ・理由あって欠席する際は前日迄に事情を記してメールで連絡してください。

講義科目名称：同時通訳 I

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT250	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する
授業計画	<p>第1回 「通訳とは」、「同時通訳と他の通訳の違い」、「通訳のための訓練とは」</p> <p>第2回 シャドウイング（発音、イントネーションの練習）</p> <p>第3回 語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 予測練習</p> <p>第5回 リテンション・リプロダクション</p> <p>第6回 サイト・トランスレーション</p> <p>第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1</p> <p>第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2</p> <p>第9回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1</p> <p>第10回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2</p> <p>第11回 通訳者としての立ち振る舞い（マナー）</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳（日→英）</p> <p>第14回 逐次通訳（英→日）</p> <p>第15回 同時通訳の総合演習</p>
授業の概要	<p>同時通訳者は特別な人だけがなれると思いませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、クイック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。</p>
予習	配布資料の予習
復習	授業内容の反復と応用
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	受容中のパフォーマンス 100%
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドウイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。

講義科目名称：同時通訳Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT251	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・同時通訳に必要な訓練をこなすことができる ・基礎的な同時通訳、逐次通訳に必要な要素を理解する
授業計画	<p>第1回 「通訳とは」、「同時通訳と他の通訳の違い」、「通訳のための訓練とは」</p> <p>第2回 シャドウイング（発音、イントネーションの練習）</p> <p>第3回 語彙（単語・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 予測練習</p> <p>第5回 リテンション・リプロダクション</p> <p>第6回 サイト・トランスレーション</p> <p>第7回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 1</p> <p>第8回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳練習 2</p> <p>第9回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 1</p> <p>第10回 日・英両語のニュース同時通訳（シャドウイングを中心に） 2</p> <p>第11回 通訳者としての立ち振る舞い（マナー）</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳（日→英）</p> <p>第14回 逐次通訳（英→日）</p> <p>第15回 同時通訳の総合演習</p>
授業の概要	<p>同時通訳者は特別な人だけがなれると思いませんか？そんなことはありません。適切な訓練と鍛錬を積み、特別なバックグラウンドを持っていなくても同時通訳者への道は開かれます。この授業では、シャドウイング、サイト・トランスレーション、キック・レスポンスといった同時通訳のための独特の訓練法を用い、日・英両語の発音、イントネーション、語彙力、予測能力、同時通訳能力を高めます。特に英語のリスニング力を高めるため、CNNやNHK（日英両語）のニュースなども教材の一部として活用します。逐次通訳においては、教材やスピーチを聞きながらメモを取り通訳をする訓練をします。また、クラスメートのスピーチを逐次で通訳し、必要なプレゼンテーションの要素も学習します。</p>
予習	配布資料の予習
復習	授業内容の反復と応用
テキスト	授業担当教員が準備・配布します。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	ラボで毎回個人をモニターする。月曜礼拝メッセージの同時通訳。 小テスト・授業内レポート60% 授業態度20% 演習20%
履修上の注意	USBメモリ持参のこと。シャドウイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。

講義科目名称：同時通訳初級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation, Elementary

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～4年	2単位(1-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT360	

授業のテーマ及び到達目標	英語ニュースのシャドウイングや、ショート・スピーチの同時通訳が出来ることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について</p> <p>第2回 シャドウイング</p> <p>第3回 語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第4回 サイト・トランスレーション</p> <p>第5回 日・英両語の原稿を用いた同時通訳</p> <p>第6回 日・英両語の新聞記事読解</p> <p>第7回 日・英両語のニュース同時通訳</p> <p>第8回 日・英両語の翻訳</p> <p>第9回 日・英両語のショートスピーチ</p> <p>第10回 メモ取り</p> <p>第11回 逐次通訳1</p> <p>第12回 逐次通訳2</p> <p>第13回 トータル・パフォーマンス1</p> <p>第14回 トータル・パフォーマンス2</p> <p>第15回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実践1</p> <p>第16回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実践2</p>
授業の概要	<p>目安として、英検2級程度の英語力を有する方を対象とする。</p> <p>初歩レベルの同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学びます。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験する。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。</p>
予習	配布された資料を研究しておく
復習	修得した内容・技術の応用
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿など
参考書	特になし
評価方法・評価基準	ラボ内での個人的なパフォーマンス、トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。 授業態度・受講者の発表・演習：100%
履修上の注意	USBメモリを持参してください。

講義科目名称：同時通訳上級（夏期集中講座）

授業コード：

英文科目名称：Simultaneous Interpretation, Advanced

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
夏期集中	1～4年	2単位(1-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT404	

授業のテーマ及び到達目標	ニュース、講演、スピーチ等を、英語⇄日本語で同時通訳が出来るようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 通訳学習をする上で大切なこと、コミュニケーション理論について</p> <p>第2回 通訳理論と背景知識</p> <p>第3回 シャドウィング</p> <p>第4回 語彙（単語・数字・固有名詞を含む）のクイック・レスポンス</p> <p>第5回 サイト・トランスレーション</p> <p>第6回 日本語→英語。原稿を用いた同時通訳</p> <p>第7回 英語→日本語。原稿を用いた同時通訳</p> <p>第8回 日本語→英語。新聞記事の訳</p> <p>第9回 英語→日本語。新聞記事の訳</p> <p>第10回 日本語→英語。ニュース同時通訳</p> <p>第11回 英語→日本語。ニュース同時通訳</p> <p>第12回 メモ取り</p> <p>第13回 逐次通訳</p> <p>第14回 法廷通訳</p> <p>第15回 トータル・パフォーマンス</p> <p>第16回 同時通訳専用ブースでの同時通訳実演</p>
授業の概要	<p>英検準1級程度の英語力を有する者を対象とする。</p> <p>学内外で行われる会議、講演等で同時通訳が出来るよう、プロ通訳者兼教育者と共同し、徹底した訓練を集中的に行う。教材には、実際におこなわれた会議、講演等のゲストスピーチや基調報告等の原稿・録音素材を用いる。また、今、現在報道中のニュース（日・英）を用い、同時通訳現場の臨場感を味わいつつ、スキルの向上、特に、訳出の正確さと迅速さを養う。また、通訳者のマナー（特に逐次通訳）を含め、通訳者としてのトータル・パフォーマンスを学ぶ。コースの仕上げとして、受講者のスピーチや、コース修了式のすべての発話（司会者の言葉、学長挨拶、学科長挨拶、ゲスト挨拶等）を同時通訳機器を活用し、実際に同時通訳を体験させる。また、本県で必要とされている法廷通訳の練習も行う。</p>
予習	配布された資料を研究しておく
復習	修得した内容・技術の応用
テキスト	各種メディアの音声素材、原稿など
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>ラボで毎回個人をモニターする。トータル・パフォーマンスの出来具合を見る。同時通訳専用ブースでの同時通訳を見る。</p> <p>授業態度・受講者の発表・演習：100%</p>
履修上の注意	USBメモリを持参してください。

講義科目名称：キャリア開発演習

授業コード：

英文科目名称：Career Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
松堂 美和子			
		ナンバリング：BUS373	

授業のテーマ及び到達目標	キャリア開発に必要な実践的知識・技能を講義と演習を通して修得する		
授業計画	第1回	オリエンテーション（講義の目的）大学4年間のステージとサイクル	
	第2回	企業の採用活動の視点①	
	第3回	企業の採用活動の視点②	
	第4回	人事担当者によるリアル模擬面接	
	第5回	ロジカルライティング①	
	第6回	ロジカルライティング②	
	第7回	業界（企業）分析のしかた①	
	第8回	業界（企業）分析のしかた②	
	第9回	沖縄企業の事例研究① 企業より問題事例の提示	
	第10回	沖縄企業の事例研究② グループセッション	
	第11回	沖縄企業の事例研究③ グループセッション	
	第12回	沖縄企業の事例研究④ 成果発表	
	第13回	今、求められている人材とは① 社会人基礎力	
	第14回	今、求められている人材とは② 一般常識模擬試験とその振り返り	
	第15回	今、求められている人材とは③ ビジネスマナー	
	第16回	期末試験	
授業の概要	本講義は、前期の「キャリア・ガイダンス」にて学んだことを基礎として、より実践的なキャリア開発について学んでいく。 具体的には、講義は演習を中心に進め、内容は自己理解、業界・企業分析、プレゼンテーション、面接等とする。		
予習	・現在の自分の疑問点を整理すること ・与えられた課題に取り組んだうえで、授業に臨むこと		
復習	授業の学びを深めるために、日頃から関連する記事や書物に触れること		
テキスト	オリジナル資料		
参考書	授業にて紹介		
評価方法・評価基準	期末試験40% 課題30% グループセッションに係る評価30%		
履修上の注意	本講義は企業講話やグループでのワーク、プレゼンテーション等の演習があるため、主体的に取り組む姿勢や責任感、協調性などが求められます。 講義に関心と意欲のある学生の受講を希望します。		

講義科目名称 : Oral Communication I

授業コード :

英文科目名称 : Oral Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Terre/Fogel			
		ナンバリング : EOC110	

授業のテーマ及び到達目標	<p>The goal of this class is to help students whose English is not yet developed enough. It will help improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. Students will be shown the very basics of English communication, starting with basic communication and pronunciation skills.</p> <p>By the end of the course, students will be able to speak more naturally, and express themselves with more confidence, using a wider range of vocabulary. Pronunciation will also start to sound more natural.</p> <p>The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand short conversations about familiar topics. I can catch concrete information on familiar topics encountered in everyday life. I can respond simply in basic, everyday interactions. I can exchange simple opinions about very familiar topics. I can express simple opinions related to limited, familiar topics. I can give simple descriptions."</p>		
授業計画	第1週	Ice breaker communicative activities In the first week students will perform various communicative activities to get to know each other and the teacher. Also, basic English will be introduced to allow students to communicate in English as much as possible.	
	第2週	Meeting other people Grammar: be verb Vocabulary: numbers and greetings Pronunciation: vowel sounds, word stress	
	第3週	All over the World Grammar: be verb and possessive adjectives Vocabulary: the world, classroom language Pronunciation: sentence stress and the alphabet	
	第4週	A writer's room Grammar: this/that/these/those, adjectives Vocabulary: things, colors, modifiers Pronunciation: final -s and -es; the, long and short vowels	
	第5週	Stars and Stripes Grammar: imperatives, let's Vocabulary: feelings Pronunciation: connected speech and liaison	
	第6週	Work and Play Grammar: simple present Vocabulary: jobs and verb phrases Pronunciation: 3rd person -s	
	第7週	Meeting online Grammar: word order in questions Vocabulary: question words Pronunciation: sentences stress	
	第8週	What a life! Grammar: whose, possessive's Vocabulary: family Pronunciation: / ^h /	
	第9週	Short life, long life? Grammar: prepositions of time and place Vocabulary: everyday activities Pronunciation: linking and sentence stress	
	第10週	Love your neighbours Grammar: present continuous, can/can't Vocabulary: verb phrases Pronunciation: sentence stress	
	第11週	Sun and the City Grammar: simple present vs. present continuous Vocabulary: weather and seasons Pronunciation: -ng	
	第12週	Reading in English Grammar: Object pronouns Vocabulary: phone language Pronunciation: consonant clusters	
	第13週	Times we love Grammar: like + V-ing Vocabulary: music	

	<p>第14週 Pronunciation: /y/ Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment.</p> <p>第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.</p>
授業の概要	<p>This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills. Students will develop their confidence to communicate and express themselves in English In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.</p>
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	<p>Core textbook is the first half of "American English File 1" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.</p>
参考書	<p>A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.</p>
評価方法・評価基準	<p>Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.</p>
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Arbogast/Wodarz・Arbogast/Phillips・East/Webb・Osterman/Fogel			
		ナンバリング : EOC111	

授業のテーマ及び到達目標	<p>The goal of these classes is to improve ability to communicate in English, and actually use English in a meaningful manner. The teacher will provide students with many opportunities to speak, and will also support students in terms of vocabulary, grammar, and pronunciation, where necessary. These classes will provide a framework for students to further develop their communicative skills. The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class:</p> <p>"I can understand phrases and expressions related to matters of immediate relevance. I can understand instructions and explanations necessary for simple transactions. I can ask and answer simple questions about familiar topics. I can make, accept and decline offers. I can express simple opinions. I can describe simple facts related to everyday life"</p>		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	At the national portrait gallery Grammar: Simple past regular verbs Vocabulary: word formation, past time expressions Pronunciation: -ed endings and sentence stress	
	第3週	A night to remember Grammar: simple past irregular verbs Vocabulary: go, have, get Pronunciation: sentence stress (continued)	
	第4週	A murder story Grammar: simple past (continued), some/any and plural nouns Vocabulary: irregular verbs, the house Pronunciation: simple past verbs	
	第5週	A house with a history Grammar: there was/there were Vocabulary: prepositions, place and movement Pronunciation: silent letters	
	第6週	White gold Grammar: countable/uncountable nouns, quantifiers Vocabulary: food Pronunciation: the letters ea	
	第7週	Quiz night Grammar: comparative adjectives Vocabulary: food containers, high numbers Pronunciation: s and sh, sentence stress	
	第8週	The most dangerous road... Grammar: superlative adjectives Vocabulary: places and buildings Pronunciation: consonant groups	
	第9週	What's going to happen? Grammar: be going to (plans and predictions) Vocabulary: vacations Pronunciation: the letters oo	
	第10週	What do you want to do? Grammar: adverbs (manner and modifiers) Vocabulary: common adverbs Pronunciation: word and sentence stress	
	第11週	Men, women, and the internet Grammar: verbs + infinitive, articles Vocabulary: the Internet Pronunciation: word and sentence stress (continued)	
	第12週	Books and movies Grammar: Present perfect Vocabulary: irregular past participles Pronunciation: sound of irregular past participles	
	第13週	I've never been there! Grammar: present perfect vs simple past Vocabulary: irregular past participles (continued) Pronunciation: sentence stress (final)	
	第14週	Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the	

	<p>method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment.</p> <p>第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment</p> <p>Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.</p>
授業の概要	This is an oral communication English course, so the emphasis will be on speaking and listening. There will be a lot of pair work and group work, revolving around speaking, listening, and pronunciation skills, in order to further develop communicative confidence. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 2nd half of "American English File 1" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Valvona/Gayler・Osterman/Arbogast・East/Phillips・Phillips/Niebuurt・Arbogast/Terre			
ナンバリング：EOC112			

授業のテーマ及び到達目標	<p>The principal goal of these classes is to continue improving ability to communicate in English. Students in this class will already have displayed a sound knowledge and development in their communication skills. By continuing to meaningfully practice speaking, listening and pronunciation as much as possible, students should feel more comfortable communicating smoothly in life-like situations.</p> <p>The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand short, simple announcements. I can understand the main points of straightforward factual messages. I can give simple directions from place to place. I can get across basic information and exchange simple opinions. I can introduce myself including my hobbies and abilities. I can give a brief talk about familiar topics (e.g. my school and my neighborhood) supported by visual aids."</p>		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	Where are you from? Grammar: Word order in questions Vocabulary: common verb phrases Pronunciation: vowel sounds (review)	
	第3週	Charlotte's choice Grammar: simple present and present continuous (review) Vocabulary: describing people (appearance and personality) Pronunciation: final -s and -es	
	第4週	Right place, wrong person Grammar: simple past: regular and irregular verbs Vocabulary: vacations Pronunciation: regular verbs: -ed endings	
	第5週	The story behind the photo Grammar: past continuous, time sequencers and connectors Vocabulary: prepositions of time and place Pronunciation: word and sentence stress	
	第6週	Plans and dreams Grammar: be going to (plans, predictions and future arrangements) Vocabulary: airports, verbs + prepositions Pronunciation: sentence stress and fast speech	
	第7週	What's the word? Grammar: defining relative clauses Vocabulary: expressions for paraphrasing Pronunciation: sounding friendly, pronunciation in a dictionary	
	第8週	Parents and teenagers Grammar: present perfect + yet and already Vocabulary: housework, make or do? Pronunciation: pronouncing j	
	第9週	Lost weekend Grammar: something, anything, nothing Vocabulary: adjectives ending in -ed and -ing Pronunciation: c and ch	
	第10週	No time for anything Grammar: comparatives - as...as Vocabulary: time expressions Pronunciation: sentence stress	
	第11週	Superlative cities Grammar: superlatives Vocabulary: describing a town or city Pronunciation: word and sentence stress	
	第12週	Are you a pessimist? Grammar: will/won't (predictions) Vocabulary: opposite verbs Pronunciation: 'll, won't	
	第13週	The meaning of dreaming Grammar: review of verb forms - present, past and future Vocabulary: verb + back Pronunciation: the letters ow	

	<p>第14週 Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment.</p> <p>第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.</p>
授業の概要	This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 1st half of "American English File 2" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
履修上の注意	All students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.

講義科目名称 : Oral Communication IV

授業コード :

英文科目名称 : Oral Communication IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Terre/Nieuburt・East/Webb・Wodarz/山城・Gayler/Praske・Arbogast/Gayler・Terre/Nieuburt			
ナンバリング : EOC213			

授業のテーマ及び到達目標	<p>Students in this class will be starting to reach a level of confidence and fluency that allow for much more natural and lifelike communication in English, with each other and with the teacher. This class will continue to build on that progression by offering more opportunities to practice communicating in meaningful ways, while consolidating grammar, pronunciation, and presentation skills.</p> <p>The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class: "I can understand and follow a series of instructions for sports, cooking, etc. I can understand instructions about procedures (e.g. cooking, handicrafts). I can exchange opinions and feelings, express agreement and disagreement, and compare things and people. I can interact in predictable everyday situations using a wide range of words and expressions. I can make a short speech on topics directly related to my everyday life. I can give an opinion or explain a plan of action concisely giving reasons."</p>		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	How to... Grammar: uses of the infinitive Vocabulary: verbs + infinitive Pronunciation: weak form of to	
	第3週	Being happy Grammar: uses of the gerund Vocabulary: verbs + gerund Pronunciation: the letter i	
	第4週	If something can go wrong... Grammar: should Vocabulary: get, confusing verbs Pronunciation: linking	
	第5週	You must be mine Grammar: first conditional Vocabulary: adverbs of manner Pronunciation: sentence rhythm	
	第6週	What would you do? Grammar: second conditional Vocabulary: animals Pronunciation: word stress	
	第7週	Born to sing Grammar: present perfect + for or since Vocabulary: phobias and fear Pronunciation: sentence stress	
	第8週	The mothers of invention Grammar: passive Vocabulary: school subjects Pronunciation: used to and didn't use to	
	第9週	Could do better Grammar: used to and might Vocabulary: noun formation Pronunciation: diphthongs	
	第10週	Bad losers Grammar: expressing movement Vocabulary: sports Pronunciation: linking	
	第11週	What a coincidence Grammar: so, neither + auxiliaries Vocabulary: similarities Pronunciation: sentence stress	
	第12週	Strange but true Grammar: past perfect Vocabulary: verb phrases Pronunciation: contractions	
	第13週	Gossip is good for you Grammar: reported speech Vocabulary: say vs tell Pronunciation: double consonants	

	<p>第14週 Review Everything covered across the semester will be reviewed and practiced again, and the method of final evaluation will once again be explained. Time will be then spent preparing and practicing for the final, communicative assessment.</p> <p>第15週 Interviews, presentations, and other communicative assessment Interviews, presentations, and any other form of assessment deemed appropriate will be carried out in the final week of class. Assessment will involve all students at all times, so students must attend in the final week.</p>
授業の概要	This course will increase students' fluency in English. It will assist them in engaging more actively in their own learning and prepare them to be able to express their opinions in English. Students will focus on improving listening and speaking skills, and they will actively participate in class by asking and answering questions, engaging in group discussions and giving oral presentations. In addition to attending class, students should improve their ability in spoken English through CALL systems.
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons
復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Core textbook is the 2nd half of "American English File 2" (Latham-Koenig, Oxenden, Seligson: Oxford University Press). Supplementary textbook may also be assigned - check with your teachers for details.
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
履修上の注意	All students must keep a personal English language notebook while studying at OCU.

講義科目名称 : Current Issues Online

授業コード :

英文科目名称 : Current Issues Online

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : ERE227	

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally.		
授業計画	第1回	<p>The what, why and how of online learning Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Topic: "Greetings and Introductions"</p> <p>DIRECTIONS: Post a brief introduction of yourself that tells: a. where you are from b. what your major study is c. what you want to learn from this course d. what you plan to do after graduation e. what your favorite food is</p>	
	第2回	<p>Reproduction issues Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Topic: "Reproduction Right and Responsibilities"</p> <p>DIRECTIONS: Please watch the YouTube videos to develop and express your opinion about the issue of Japan's declining population. A text of the YouTube video "Japan's Biggest Challenge", has also been added. Discuss what you feel is the primary problem with Japan's declining population, and what you think can be done to fix the growing problem.</p>	
	第3回	<p>Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>The class materials for this week are two YouTube videos and a website dedicated to stopping bullying. Please watch the videos and look through the website to learn how you can prevent or stop bullying.</p> <p>a. Share your memory of an experience that you have personal knowledge of that involved bullying. b. Discuss why you think it happened and how it could have been prevented or stopped. c. What do you think Albert Einstein was referring to in the quote from him?</p>	
	第4回	<p>Hikikomori Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Please read the article from the New York Times (attached as a PDF below), which is a little long but quite good, and the Youtube videos. Reflect on the article and the videos and then answer the questions below. After you finish, submit your responses.</p> <p>a. Why do you think hikikomori occurs? b. What can be done to help people who are suffering from hikikomori? c. Is hikikomori an emotional or psychological condition - or both?</p>	
	第5回	<p>Feedback, editing and rewriting. Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Please watch the video "Every 15 Minutes a Teenager Dies from Drunk Driving" made by the California Highway Patrol. The "15 minutes" is a statistic indicating how often someone dies due to drunk driving. Also, visit the "Every 15 Minutes" website to learn more about this program and watch videos ... of the reenactments at various schools. Then, check out the article about drunk driving in Japan, such as the accident in Fukuoka where three children were killed, and another where a passenger was ordered to pay 53 million yen for not preventing the driver from driving drunk.</p>	

	<p>Discuss and share your thoughts on the following questions:</p> <p>a. Why do you think that people still drink and drive despite all of the evidence about how dangerous it is? b. What is a just punishment for those who are caught driving drunk?</p> <p>Bullying in schools and the workplace Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Watch the video that describes Japan's present efforts to stimulate economic growth as well as the perceived effectiveness of this effort. Consider the efforts now being put forward and the difficulties of living in the present economic situation, and answer the following two questions below:</p> <p>a. Discuss your opinion about the government's present effort to create economic growth. b. What do you think is a way to grow the local economy in Okinawa, despite what is happening throughout the rest of Japan?</p>
第6回	<p>Globalization Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>This week's topic is globalization, also spelled as globalisation. This topic has various levels of difficulty and is one of the major issues facing countries around the world. In order to learn about and understand this topic, please watch the introduction to globalization video, then see the BBC slide show for information about different areas of globalization. There is also a video about the bad side of globalization. Finally, there is a link to Wikipedia to help you understand this difficult topic. (If you like, you can search for the Japanese version of the Wikipedia page.) Then, answer the following questions:</p> <p>a. Briefly discuss two positive effects of globalization. b. Briefly discuss two negative effects of globalization. c. Do you think the positive effects of globalization make it more acceptable in spite of the negative effects? Why or why not?</p>
第7回	<p>Smoking and Smokers' Rights Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>The topic this week is about the increasing bans on smoking in public implemented around the world due to growing concerns about the public health from second-hand smoke.</p> <p>To learn more about this movement to ban smoking in public places, see generally the following Wikipedia page (you may also access the Japanese language version)</p> <p>Last, discuss the three following questions:</p> <p>a. Do these bans on smoking in public infringe on the rights of smokers? b. Tobacco is not an illegal drug, so is it okay to ban its use so extensively? c. What can be said about your freedom to make choices today in this democratic society?</p>
第8回	<p>Consumerism in Today's World Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Watch all 4 parts of "The Story of Stuff" and answer the following questions.</p> <p>a. Does the documentary cause you to think critically about yourself, how you define yourself as a member of society? b. If yes, what important lesson did you learn from the documentary? c. What do you personally think is the major problem with consumer societies? d. What can you do to help solve the problem?</p>
第9回	<p>Understanding and Defeating Racism Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>1. Read about indigenous peoples in Japan in the following link: Caste, Ethnicity, and Nationality in Japan 2. Watch the video on race as a concept: Race: Are We So Different? (YouTube) 3. Watch this video, too, race as a mythology: The Myth of Race (YouTube)</p> <p>DIRECTIONS: Reflect on what you have learned and answer the following questions:</p> <p>a. What interesting new thing have you learned about the idea of race? b. Have you ever been affected by (or witnessed) racism? c. If yes, briefly describe what happened. d. What do you feel is the best way to defeat racism in the world today?</p>
第10回	<p>Slavery in Today's World Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p>

	<p>Please read the BBC article and, then, watch the Santa's Workshop documentary on YouTube. Afterward, answer the following questions.</p> <p>a. This is a sweatshop where the girls are being worked almost as slaves. Why do you think they choose to work there? b. Why does the owner not pay his workers more? c. Why don't foreign companies investigate these places in greater depth? d. Why do you suppose the country (society) allows this situation to continue?</p> <p>第12回 Explaining the Exam Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>There is no issue to discuss this week.</p> <p>Instead, you have a chance to think about an issue you might want to do your exam on, and perhaps start doing some more research.</p> <p>I want you to look at the following explanation of the exam provided below as a PowerPoint presentation.</p> <p>You can click on the attached presentation below for guidance.</p> <p>Post below the topic you are interested in doing a presentation on and tell us why it is interesting to you.</p> <p>第13回 Deciding then Researching Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Last week you told me about the topic you have chosen (remember, you can choose any topic from this course).</p> <p>This week, tell me roughly what you are going to say about that topic.</p> <p>I want you to do some research and post some links that are relevant to your topic.</p> <p>For this assignment, you can number the answers like I have done in the following example:</p> <p>##### EXAMPLE:</p> <p>1. Topic: Internet Privacy</p> <p>2. Content: I am going to make a presentation that tries to persuade people to quit sites like Google, Facebook, Yahoo and Skype, and to switch to open-source alternatives. I am going to explain why i think they should quit, and then I am going to give an introduction to several alternatives.</p> <p>3. Research: This site has lots of information on alternatives to the mainstream sites: prism ? break</p> <p>第14回 Last Minute Issues Last minute questions?</p> <p>If you have any remaining questions about the presentation, please ask me. Even if you do not have any questions and everything is okay, then please indicate by responding.</p> <p>第15回 Submissions Visit the Coursebase classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Over the next two weeks you should finalise your video and post it by the deadline on the 22nd of January by 23:59.</p> <p>Since you have two weeks to post your work and have had two weeks to think about it and research the topic, you should have no problem in submitting your work on time.</p> <p>Be sure also, to complete this work.</p> <p>If you have still have some concerns or questions, please send me an email <dbroudy@ocjc.ac.jp> or call me at 090.7586.0534</p> <p>If you have difficulty attaching your presentation, simply email it to me.</p> <p>Finally, please be sure to visit the Kyoumuka to fill out a course evaluation for Current Issues Online.</p> <p>Enter your video or video link below.</p>
授業の概要	<p>This course is conducted almost entirely online. Students will use email as well as internet sites to participate in the course. By the end of this course, the student should be more comfortable working and learning in an online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking and writing about these issues.</p>

予習	Review all academic writing that you have done. Take note of your strong points and of areas that you need to improve.
復習	It is essential to review and make sure you understand each week' s lesson.
テキスト	None
参考書	Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.
評価方法・評価基準	Students will be evaluated in accordance with the quantity of their participation and, to a lesser extent, the quality of their writing. Since the course assumes and values the importance of dialogue and discussion of issues, quantity communicates a genuine desire to participate.
履修上の注意	Preferably, students should have completed English Composition I and/or II.

講義科目名称 : Investigative Reporting

授業コード :

英文科目名称 : Investigative Reporting

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EWR320	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles.		
授業計画	第1回	<p>Introductions / Investigation / Social inquiry</p> <ul style="list-style-type: none"> - Introduce Others - Introduce the Text - Review Syllabus - Introduce and discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) <p>HOMEWORK:</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting - think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it 	
	第2回	<p>Review readings 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - Review Talk, Topic, and Thesis, and discuss Useful New Words - Do Unit 1, Exercise 1 (in class), p. 5 - Do Unit 1, Exercise 2 (in class), p. 7 <p>HOMEWORK:</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Authority, chapter 4, p. 9 - do Unit 1, Exercise 3, p. 10 - do Unit 1, Exercise 4, p. 11 - read DIY Interview, chapter 4, p. 12 - do Unit 1, Exercise 5, p. 12 - be prepared by Day 3 to talk about your results 	
	第3回	<p>Review readings 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - Review Authority, chapter 4, p. 9 - Discuss results of Unit 1, Exercise 3, p. 10 - Discuss results of Unit 1, Exercise 4, p. 11 - Discuss results of Unit 1, Exercise 5, p. 12 - Read and discuss Introduction in Chapter 5, p. 13 - Take notes to understand the short discussion for the next meeting - Do Unit 2, Exercise 1 (in class), p. 14 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Body, chapter 6, p. 16 - do Unit 2, Exercise 2, p. 17 - read Conclusion, chapter 7, p. 19 - do Unit 2, Exercise 3, p. 20 - prepare first draft of Assignment #1 for next meeting 	
	第4回	<p>Peer Editing 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - Peer Editing Workshop for Assignment #1 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finalize Assignment #1 for next meeting 	
	第5回	<p>Submissions and Readings</p> <ul style="list-style-type: none"> - Submit Assignment #1 - Review Unit 2, Exercise 2, p. 17 - Review Unit 2, Exercise 3, p. 20 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Citing in Chapter 8, p. 22 - do Unit 3, Exercise 1, p. 23 	
	第6回	<p>national social issues / selected readings / discussions / HW review readings</p> <ul style="list-style-type: none"> - Discuss Assignment #2 (see page 5 of the syllabus for details) - Review Citing, chapter 8, p. 22 - Discuss results of Unit 3, Exercise 1, p. 23 - Read and discuss Connecting, chapter 2, p. 24 - Do Unit 3, Exercise 2 (in class) - Do Unit 3, Exercise 3 (in class), p. 27 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Contextualizing, chapter 10, p. 28 	
	第7回	<p>Review Readings 3</p> <ul style="list-style-type: none"> - Review Contextualizing, chapter 10, p. 28 - Do Unit 3, Exercise 4 (in class), p. 30 - Do Unit 3, Exercise 5 (in class), p. 31 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Ideas on Ethics, chapter 11, p. 34 	
	第8回	<p>Discuss Assignments</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> - Discuss Assignment #3 (see page 6 of the syllabus for details) - Discuss Ideas on Ethics, chapter 11, p. 34 - Do Unit 4, Exercise 1 (in class), p. 35 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Applied Ethics, chapter 12, p. 37 <p>第9回 Review readings 4</p> <ul style="list-style-type: none"> - Discuss Applied Ethics, chapter 12, p. 37 - Do Unit 4, Exercise 2 (in class), p. 38 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - prepare first draft of Assignment #2 for next meeting <p>第10回 Peer Editing 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - Peer Editing Workshop <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finish Assignment #2 for next meeting - read Unit 5, Case 1, p. 40 <p>第11回 Review readings 5</p> <ul style="list-style-type: none"> - Submit Assignment #2, Co-authored Article - Discuss Assignment #4 (see page 7 of the syllabus for details) - Discuss Unit 5, Case 1, p. 40 <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Unit 5, Case 2, p. ? - prepare for Workshop during Day 12 <p>第12回 Review readings 6</p> <ul style="list-style-type: none"> - Discuss Unit 5, Case 2, p. ? - Workshop <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finalize Assignment #3 for next meeting <p>第13回</p> <ul style="list-style-type: none"> - Submit assignment #3, Co-authored - Textual Interview <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - prepare for Workshop during Day 14 <p>第14回 Workshop</p> <ul style="list-style-type: none"> - Workshop <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - read Unit 5, Case 3, p. ? <p>第15回 Finalize Workshop</p> <ul style="list-style-type: none"> - Finish Workshop - Discuss Unit 5, Case 3, p. ? <p>HOMEWORK</p> <ul style="list-style-type: none"> - finalize presentations for next meeting <p>第16回 Presentations</p> <ul style="list-style-type: none"> - Presentation of video interviews - Submit summary of interviews
授業の概要	Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic work. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, and narrative approaches to journalistic writing.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Facing Truth: New Ways for Writers to Confront Diverging Realities (text provided by the instructor)
参考書	Students are expected to conduct interviews, take notes, and use notes in the development of article.
評価方法・評価基準	<p>Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation.</p> <p>Assignments = 70% Participation = 30%</p> <p>Article #1 Local Economic, Social or Political (Single authored) 250 words 5 pts.</p> <p>Article #2 Local Economic, Social or Political (Co-authored) 400 words 15 pts.</p> <p>Textual Interview #3 Local Economic, Social or Political Issue (Co-authored) 1000 words 25 pts.</p> <p>Video Project #4 National or Global Economic, Social, or Political Issue (Research Team) 12-15 mins. 25 pts.</p>
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

講義科目名称 : Creative Writing

授業コード :

英文科目名称 : Creative Writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EWR370	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. This course asks you to use your imagination and to express yourself creatively with the central view of publishing and/or presenting the various creative works developed throughout the course.		
授業計画	第1回	<p>Introductions / literary themes / HW review readings introductions H0 Tone and Style H01 Tone in Poetry H O M E W O R K: -reading: chapter on Tone and Style (pages 113-132)</p>	
	第2回	<p>Setting discussions of Tone and Style H02 Critical Reflection on Tone in-class reading: "The Last Moon" Andre Dubus H03 Tone in The Last Moon H O M E W O R K: -reading: chapter on Description (pages 139-167)</p>	
	第3回	<p>Tone discussion of Description H04 Critical Reflection on Description in-class readings and discussions Seamus Heaney's "Digging" (pages 151-152) Cynthia Ozick's "The Shawl" (pages 158-164) H O M E W O R K: -writing: choose any two of the following assignments to be discussed in a writers' workshop on Day 5 1. Write a poem about a special person or special place. Use carefully chosen words. 2. Write a poem that describes a nightmare, real or fictitious, in vivid detail. 3. Write a poem that describes some of your earliest childhood memories or impressions of people and/or places. Focus on specific details of sights, sounds, or other sensations that are fixed in your memory. 4. Closely observe the behavior of someone and write a poem that captures in words the details of that behavior and what you feel to be its possible meanings. Use vivid language. 5. Write a poem that expresses any one of the tones we have talked about.</p>	
	第4回	<p>Exercise in Poetics phrase play exercise H O M E W O R K: -reading: chapter on Images and Sounds (pages 245-267) -writing: finish poems for workshop</p>	
	第5回	<p>Workshop 1 writers' workshop H O M E W O R K: -reading: finish reading chapter on Images and Sounds</p>	
	第6回	<p>Images and Sounds discussion of Images and Sounds H05 Images in Poetry H05.1 Critical Reflections on Imagery H06 Sounds in Poetry H06.1 Critical Reflections on Sounds in-class writing: choose any one of the following assignments to be discussed and developed in a writers' workshop on Day 7 1. Write a poem on any theme that uses alliteration. 2. Write a poem on any theme that uses personification. 3. Write a poem on any theme that uses any kind of rhyme scheme discussed in the chapter. 4. Write a poem on any theme that experiments with rhythm. H O M E W O R K: -writing: finish poem -reading: chapter on The Performance Factor: Plays and Films Scripts (pages 304-354)</p>	
	第7回	<p>Workshop 2 writers' workshop (poems) H O M E W O R K: -selecting: choose two of the poems you have already written for performances on Days 8 & 9</p>	
	第8回	<p>Dramatic Performance 1 poetry performance</p>	

	<p>H O M E W O R K: -reading: finish reading chapter on The Performance Factor (pages 304-354)</p> <p>第9回 Dramatic Performance 2 poetry performance</p> <p>H O M E W O R K: H07 Character Sketches</p> <p>第10回 Character Development discussion of results of H07 H08 Setting in-class writing: choose any one of the following assignments to be discussed and developed in a writers' workshop on Days 11 & 12</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Write a one-act play that is loosely based on a Japanese or Okinawan folktale. 2. Write a one-act play that reinterprets one of the stories or plays we have already discussed. 3. Write a one-act play in which all the characters are teenagers. Limit the cast to two to three characters, and use only one set and a single time frame. 4. Write a one-act play in which a man and a woman are discussing their romantic relationship, which, at the moment involves a serious problem. 5. Write a one-act play, humorous or serious, in which two or three people are in a lifeboat drifting in somewhere in the Pacific Ocean. Each passenger in the lifeboat is of a different ethnic background. They believe that they will either be rescued or will be washed ashore on <p>第11回 Workshop 3 writers' workshop (plays)</p> <p>H O M E W O R K: - reading:</p> <p>第12回 Workshop 4 writers' workshop</p> <p>第13回 Practice practice session</p> <p>第14回 Dramatic Performance 3 Prose performance</p> <p>第15回 Dramatic Performance 4 prose performance finalized</p> <p>第16回 Final exam</p>
授業の概要	This is an upper-level course in creative writing that surveys key areas of creative writing: poetry, short story, and/or drama. Emphasis is on close reading and critical thinking from a writer's perspective as a way to better understand the art. Students examine poetry, prose and/or drama, and discuss the elements of creative writing and put new knowledge into practice with the production of creative output in genres of the professor's choosing.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HOMEWORK
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes and review their notes.
評価方法・評価基準	<p>Grades are calculated from scores on writings, presentations, and participation.</p> <p>EVALUATION: Your final grade is determined on the following percentage basis.</p> <p>Performance Poetry 20% Performance Drama 20% Portfolio 40% Participation 20%</p>
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

講義科目名称 : Visual Rhetoric

授業コード :

英文科目名称 : Visual Rhetoric

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EWR375	

授業のテーマ及び到達目標	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Since it is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding and interpretation of the visual world of signs, symbols and images, in this course, students will: 1. Develop an understanding of the concepts and methods used to rhetorically analyze and interpret images and artifacts; and 2. Demonstrate ability to critically engage in rhetorical analysis of visual images and artifacts through essays and presentations.
授業計画	<p>第1回 Introductions / Lecture 1 Focus Group >> H01 What is Visual Rhetoric? >> Aristotle Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第2回 Lecture 2 Color Psychology in Mass Persuasion >> Psychological Properties of Colours H02 Color Psychology Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第3回 Lecture 3 Reinforcing Gender Stereotypes & Roles >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第4回 Lecture 4 Green-washing Techniques >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第5回 Lecture 5 Hyper-sexualizing >> various media Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第6回 Lecture 6 Agenda Setting >> Max McCombs & Donald Shaw Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第7回 Workshop 1 Workshop for Presentations Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第8回 Presentations 1 Presentations Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第9回 Lecture 7 Propagandizing Techniques >> Noam Chomsky Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第10回 Lecture 8 Cultivation Theory >> George Gerbner, Brainstorming session for presentations Visit Coursebase for Readings</p> <p>第11回 Lecture 9 Subliminal Techniques >> Edward Bernays Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第12回 Lecture 10 Semiotics >> Roland Barthes Homework: Prepare copies of essay for Workshops to be held over next 2 weeks</p> <p>第13回 Lecture 11 Definitional Control >> Herbert Schiller Homework: Visit Coursebase for Readings</p> <p>第14回 Workshop 2 Workshop for Presentations Homework: Finish preparing for presentations in the following meeting(s).</p> <p>第15回 Presentation 2 Presentations</p>
授業の概要	Visual Rhetoric is an upper-level course in critical analysis that fulfills part of the advanced communication studies requirement. Advances in communication technology have resulted in new and more accessible means for creating and distributing visual images and artifacts. At the same time, the rhetorical impact of these images and artifacts is not yet well documented or understood. It is important to examine what rhetorical theory and criticism can offer to our understanding, use and interpretation, of visual images. This course examines social and political media and the visual aspects of mass persuasion. Students are introduced to theories of communication and contemporary methods of persuasion used in civil, commercial, and military media.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings and viewings of videos within the Coursebase marked as Homework.

復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period to reinforce knowledge of theories and their applications.																		
テキスト	Handouts are provided for students in each class.																		
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.																		
評価方法・評価基準	<p>Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation.</p> <p>The grading scale, based on 1000 points, is as follows:</p> <p>A = 900-1000 points B = 800-899 points C = 700-799 points D = 600-699 points F = 0-599 points</p> <p>Your final grade for the course will be determined as follows: *</p> <table> <tr> <td>Midterm Creative Presentation</td> <td>200 points</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Final Creative Presentation</td> <td>200 points</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Quiz 1 Cultivation Theory</td> <td>100 points</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Quiz 2 Semiotics</td> <td>100 points</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>Essay 1 Critical Analysis</td> <td>200 points</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>Essay 2 Critical Analysis</td> <td>200 points</td> <td>20%</td> </tr> </table>	Midterm Creative Presentation	200 points	20%	Final Creative Presentation	200 points	20%	Quiz 1 Cultivation Theory	100 points	10%	Quiz 2 Semiotics	100 points	10%	Essay 1 Critical Analysis	200 points	20%	Essay 2 Critical Analysis	200 points	20%
Midterm Creative Presentation	200 points	20%																	
Final Creative Presentation	200 points	20%																	
Quiz 1 Cultivation Theory	100 points	10%																	
Quiz 2 Semiotics	100 points	10%																	
Essay 1 Critical Analysis	200 points	20%																	
Essay 2 Critical Analysis	200 points	20%																	
履修上の注意	All course materials and readings are provided by the professor.																		

講義科目名称：沖縄の歴史と現在

授業コード：

英文科目名称：Okinawa modern history

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新城 俊昭			
		ナンバリング：CUL240	

授業のテーマ及び到達目標	琉球併合から現代にいたる沖縄の歴史を理解することで、現代の沖縄を取り巻く諸問題に向き合うための基礎学力を習得する。
授業計画	<p>第1回 授業を始めるにあたって。明治政府による琉球併合</p> <p>第2回 旧慣温存策と沖縄県政—沖縄民衆は世替わりをどのように受け止めたか</p> <p>第3回 謝花昇の民権運動と人頭税廃止運動—県民は権利をどのようにして獲得したか</p> <p>第4回 昭和恐慌と移民—ソテツ地獄とはどのような社会状況か</p> <p>第5回 軍国主義の台頭—15年戦争はどのように始まったか</p> <p>第6回 戦時体制と県民の暮らし—標準語励行運動がもたらしたものは何か</p> <p>第7回 アジア太平洋戦争と沖縄—日本はなぜ米国と戦争を始めたのか</p> <p>第8回 沖縄戦前夜（対馬丸事件, 10・10空襲）—沖縄戦はなぜ起こったか</p> <p>第9回 沖縄戦の実相—沖縄戦から何を学ぶか</p> <p>第10回 米軍支配のはじまり—戦後の焼け跡から沖縄住民はどのように立ち上がったか</p> <p>第11回 琉球政府の設立—島ぐるみ闘争はなぜ起こったのか</p> <p>第12回 日本復帰運動—沖縄住民はなぜ日本復帰を望んだのか</p> <p>第13回 新生沖縄県—日本復帰で何が変わり、何が問題となったのか</p> <p>第14回 現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうべきか、考えてみよう①</p> <p>第15回 現代の沖縄—基地問題など現代沖縄の課題にどう立ち向かうべきか、考えてみよう②</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	<p>1. 現代沖縄の諸問題の根源を、廃琉置県から現代までの沖縄の歴史を学ぶことで考察する。</p> <p>2. 日本史や世界史で学んだ知識に琉球・沖縄史の視点を組み込むことで、歴史の本質を見極める目を養う。</p> <p>3. 沖縄という地域で独自の歴史を形成した先人の足跡を学ぶことで、沖縄人(ウチナンチュ)としてのアイデンティティの確立を図る。</p>
予習	事前に配布されたプリントの内容をテキストで調べ、授業に臨むこと
復習	授業での問題点・課題をテキスト等で調べてまとめること
テキスト	新城俊昭『教養講座 琉球・沖縄史』 編集工房東洋企画発行。その他、必要に応じて資料を配布。
参考書	新城俊昭『沖縄から見える歴史風景』 編集工房東洋企画発行。新城俊昭『琉球・沖縄 歴史人物伝』 沖縄時事出版発行。新城俊昭『戦後100年へのメッセージ 2045年のあなたへ』 時事出版発行。その他
評価方法・評価基準	評価は毎時間の授業に対する取り組み、課題（レポート形式）、確認試験で行う。配分は、毎時間の授業評価(小テスト形式)30%、課題(フィールドワークのレポート)30%、確認試験(予め与えたプリントから出題)40%。また、授業に取り組む姿勢や意欲も評価の対象とし、場合によっては加点・減点することもある。
履修上の注意	毎時間、本時の学習内容をまとめたワークシートと関連資料を配布して授業を進めるので、ワークシートに空欄の無いようしっかりとまとめ、ファイルに整理すること。また、ワークシートに記載されていない事項は余白を利用してメモをするなど、各自で工夫すること。

講義科目名称：通訳とプレゼンテーション

授業コード：

英文科目名称：Interpretation and Presentation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT302	

授業のテーマ及び到達目標	逐次通訳とは何かを理解し、日本語⇄英語の逐次通訳に必要なプレゼンテーションの力を習得する。		
授業計画	第1回	通訳とは：通訳と翻訳の違い、同時通訳と逐次通訳との違い	
	第2回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに必要なのは？	
	第3回	スピーチの実践・・・効果的なスピーチに挑戦	
	第4回	リテンション・・・短文を再生する練習	
	第5回	リテンション・・・様々なリテンションを行う	
	第6回	リプロダクション・・・全体の内容をまとめる練習	
	第7回	リプロダクション・・・効果的なリプロダクションを目指す	
	第8回	発音・イントネーションとは	
	第9回	発音・イントネーションを磨く	
	第10回	通訳のためのメモ取り練習とは	
	第11回	通訳のためのメモ取り実践 1	
	第12回	通訳のためのメモ取り実践 2	
	第13回	逐次通訳の総合実践 1	
	第14回	逐次通訳の総合実践 2	
	第15回	逐次通訳の総合実践 3	
授業の概要	「通訳」には大きく分けて同時通訳と逐次通訳がありますが、この授業では逐次通訳に必要なプレゼンテーションの能力を向上させるために様々な演習をします。スピーチをする人のメッセージの内容はもちろんのこと、心に届く気持ちまでも失わずに聴衆に伝えるにはどうすればよいのか。スピーチの実践練習や種々の技能の訓練に加えて、「共感力」や「信頼」といった高度なコンセプトも学んでいただきます。人と人との通じ合う喜びをサポートする意義深さも感じてください。		
予習	事前に配布する資料を用いて準備		
復習	授業で学んだ内容の応用に努める		
テキスト	講師作成資料を配布します。		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	クラス内での課題への取り組みとパフォーマンス 100%		
履修上の注意	毎回持参するもの：英和辞書、和英辞書、ノート、筆記用具		

講義科目名称 : Public Speaking I

授業コード :

英文科目名称 : Public Speaking I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Christopher Valvona・Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC225	

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to learn to make engaging presentations in English		
授業計画	第1回	Class orientation, students make basic self-introductions. Past presentation examples shown.	
	第2回	Basic self-introductions with pictures + show past presentation example	
	第3回	Introduction to Powerpoint, students begin preparing their 'past' presentations	
	第4回	Past' presentations (1)	
	第5回	Past' presentations (2)	
	第6回	Past' presentations 3	
	第7回	Free presentations Round 1 (1)	
	第8回	Free presentations Round 1 (2)	
	第9回	Free presentations Round 1 (3)	
	第10回	Free presentations Round 2 (1)	
	第11回	Free presentations Round 2 (2)	
	第12回	Free presentations Round 2 (3)	
	第13回	Exam presentations (1)	
	第14回	Exam presentations (2)	
	第15回	Exam presentations (3)	
授業の概要	This course will introduce the key elements of public speaking through practical experience: students will make presentations on a topic of their choice, and after each presentation we will have a feedback session to assess both the good points and what could be better next time. Over the semester these points will gradually build up a clear picture of how to make an effective presentation in English - this will form a checklist that we will use to assess the final exam presentations. As necessary throughout the semester we will also do group practice activities focusing on particular aspects of presentation.		
予習	students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities		
復習	techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.		
参考書	Preparing for the presentations is an important part of this course, and will mostly be done outside of class.		
評価方法・評価基準	Participation 25%、Free Presentations 25%、Exam Presentations 50%		
履修上の注意	My aim for this course is for students to gain as much practical experience of presenting as is possible, so that they go into the exam presentation feeling confident of their ability to make a presentation in English.		

講義科目名称 : Public Speaking II

授業コード :

英文科目名称 : Public Speaking II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson・Jonathan Hatcher			
		ナンバリング : EOC226	

授業のテーマ及び到達目標	Allowing the students to learn to make engaging presentations in English		
授業計画	第1回	Class Orientation and Introduction, basic self-introductions, review of PSI, introduce Q&A	
	第2回	Self-introductions with Q&A	
	第3回	Free Presentations Round 1 (1)	
	第4回	Free Presentations Round 1 (2)	
	第5回	Free Presentations Round 1 (3)	
	第6回	Focused Practice Exercises (contents to be decided during the course)	
	第7回	Free Presentations Round 2 (1)	
	第8回	Free Presentations Round 2 (2)	
	第9回	Free Presentations Round 2 (3)	
	第10回	Free Presentations Round 3 (1)	
	第11回	Free Presentations Round 3 (2)	
	第12回	Free Presentations Round 3 (3)	
	第13回	Exam presentations (1)	
	第14回	Exam presentations (2)	
	第15回	Exam presentations (3)	
授業の概要	This course will build on the experience of Public Speaking I to further develop the students' ability to make presentations in English. It will follow a similar format in that students will make presentations followed by a feedback session to assess what was good and what could be better next time. We will take the checklist we used in PSI and expand on it to promote a natural speaking presence on stage, and we will also add a Question-and-Answer session at the end to test the students' ability to react to audience questions with intelligent and informative responses.		
予習	students must regularly prepare to speak publicly about a given topic and also prepare for the group practice activities		
復習	techniques about public speaking learnt in each class must be reviewed before each following class		
テキスト	This course will use a handout prepared by the teacher. Students will need to buy this from kyoumuka.		
参考書	Preparation for the presentations is an important part of this course - students will need to prepare outside of class time.		
評価方法・評価基準	Participation30%、Free Presentations20%、Exam Presentations40%		
履修上の注意	Public Speaking & Oral Presentation I (2単位) を履修済みのこと。 My aim for this course is to give students as much practice as possible at presenting in order to really develop their skills in preparation for the final exam.		

講義科目名称 : Accessing Digital Media I

授業コード :

英文科目名称 : Accessing Digital Media I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EOC222	

授業のテーマ及び到達目標	本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。		
授業計画	第1回	Introductions / Lecture 1 Introductions / performance poetry HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第2回	Lecture 2 Commercial advertising (Contemporary) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第3回	Lecture 3 Contemporary pop songs (Themes of romantic love) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第4回	Lecture 4 Political speeches (Themes of antiwar) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第5回	Lecture 5 Political songs (Themes of antiwar) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第6回	Lecture 6 Film (Political themes) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第7回	Lecture 7 Cartoons (Political satire) HOMEWORK: review transcripts from Day 1 to Day 7 for Midterm exam	
	第8回	Exam 1 Midterm exam	
	第9回	Lecture 8 Film (Social themes) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第10回	Lecture 9 Commercial advertising (1990s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第11回	Lecture 10 Songs (1990s Pop culture) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第12回	Lecture 11 Film (Fantasy and science fiction)HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第13回	Lecture 12 Political Speeches (Social justice) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第14回	Lecture 12 Performance Poetry HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第15回	Lecture 13 and Exam Cartoons (Consumerism satire) HOMEWORK: review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam	
	第16回	Final exam / HW review transcripts and answers Final exam	
授業の概要	This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register.		
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW		
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.		
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.		

参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation. Participation = 40% Exams = 40% Exercises = 20%
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング : EOC223	

授業のテーマ及び到達目標	<p>本科目の目標は、様々な英語による音声メディア（ラジオ、TV、映画、音楽、インターネットなどの音声メディア）を通して行われるコミュニケーションに対応すべく、正確なリスニング力を養成することである。視覚情報やその背景知識（文化的、社会的、政治的知識）を活用して、かなりのスピードで話される英語を理解する聴力技術を身につける。リスニング力養成の過程で、メディア情報の正当性、ニュース情報の解釈、様々なキャンペーンとプロパガンダの識別、ビジネス広告の理解、文化的偏見についても学ぶ。</p>		
授業計画	第1回	Introductions / Lecture 1 Introductions / Classic Rap (1970s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第2回	Lecture 2 Film Noir (1960s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第3回	Lecture 3 Political Speeches (Civil Rights) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第4回	Lecture 4 Cartoons (Social Satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第5回	Lecture 5 Folk Songs (Social Justice) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第6回	Lecture 6 Situation Comedy (Racism and Bigotry) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第7回	Lecture 7 Performance Poetry (Gender Equality) HOMEWORK: review transcripts from Day 1 to Day 7 for exam	
	第8回	Exam 1 Midterm exam	
	第9回	Lecture 8 Commercial advertising (1950s) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第10回	Lecture 9 Cartoons (Deviant behavior satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第11回	Lecture 10 Songs (2000s Popular Culture) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第12回	Lecture 11 Film (Science Fiction Satire) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第13回	Lecture 12 Contemporary Hip Hop (Themes of social justice) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第14回	Lecture 13 Political Speeches (Antiwar themes) HOMEWORK: review transcripts and answers	
	第15回	Lecture 14 Commercial advertising (1990s) HOMEWORK: review transcripts from Day 9 to Day 14 for Final exam	
	第16回	Exam 2 Final exam	
授業の概要	<p>This course introduces students to communications in western culture conveyed through various forms media and artful expression over the past decades. Subject matter covers a range of topics and cultural themes of societal import. Students see and hear communication within social, political, commercial, and entertainment contexts in order to study and understand the complex ways in which meaning is given shape through a variety of rhetorical strategies. Students practice listening skills and perceiving meaning through context, tone and register.</p>		
予習	<p>Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW</p>		
復習	<p>Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.</p>		
テキスト	<p>Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.</p>		

参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Your final grade is calculated from scores on exams and in classroom participation. Participation = 40% Exams = 40% Exercises = 20%
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on social networking sites, playing with your mobile phone, or some other electronic device not related to the course, will affect your participation score.

講義科目名称：アクションリサーチ

授業コード：

英文科目名称：Action Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS252	

授業のテーマ及び到達目標	開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ 知識理解：調査の有効性、方法の知識を得る 関心意欲：アクションリサーチや調査活動に関心を持つ 思考判断：課題を見つけ、深める 態度：アクションリサーチの活動への参加
授業計画	<p>第1回 授業の進め方、アクションリサーチに関する講義</p> <p>第2回 ワークショップ、ファシリテーションとは その1</p> <p>第3回 ワークショップ、ファシリテーションとは その2</p> <p>第4回 ワークショップ、ファシリテーションとは その3</p> <p>第5回 マインドマップ 私の頭の整理の方法を学ぶ</p> <p>第6回 プレゼンテーションシンキング</p> <p>第7回 アクションリサーチ デモ（校内リサーチ1）</p> <p>第8回 アクションリサーチ デモ（校内リサーチ2）</p> <p>第9回 校外学習に備えてデータ分析その1</p> <p>第10回 校外学習に備えて インタビュー訓練</p> <p>第11回 アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク（校外学習）その1</p> <p>第12回 アクションリサーチ地域を実際にデモウォーク（校外学習）その2</p> <p>第13回 校外学習まとめ</p> <p>第14回 アクションリサーチの手法まとめ</p> <p>第15回 アクションリサーチの手法まとめ</p>
授業の概要	アクションリサーチという研究方法を用いて、物事を深く調査する手続きを学ぶ。授業の流れは①問題の発掘、②調査、③課題の絞込み、④取り組み方針の設定、⑤手立ての明確化、⑥評価、⑧改善案の設定、という取り組み方法を学ぶ。調査方法、ワークショップ、ファシリテーションも併せて学び、様々な場面で有効活用可能な技術の習得も目指す。
予習	社会の課題や変化に対して意識すること。ニュースを見る、地域歩きなどを推奨する。
復習	実際に授業で学んだ手法を友人、アルバイト、学生間の人間関係において活用することを推奨する。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。フィールドワーク等への参加も評価の大事な要素である。
履修上の注意	アクションリサーチ活動への参加は授業外、校外活動となります。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表を重視している。

講義科目名称：NGO・NPO実習

授業コード：

英文科目名称：NGO-NPO

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS368	

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ NGO・NPO、県内国際機関でコミュニケーションの実践を学ぶ ・ NGO・NPO、県内国際機関を自らで実習先として選定し、直接実習等を行いなう ・ 自ら計画し、実践した活動の報告を行い、活動のPDCAサイクルの実施を行うことができる
授業計画	<p>第1回 NGO・NPOの作る社会（NGO・NPO論復習）</p> <p>第2回 沖縄のNGO・NPO情報、課題共有（NGO・NPO論復習）</p> <p>第3回 NPO・NGOを支援センター訪問（授業フィールドワーク）全員で</p> <p>第4回 NPO・NGOを支援センター訪問（授業フィールドワーク）全員で</p> <p>第5回 フィールド席の選定、アクションプラン設定（SWOT、PDCAサイクル）</p> <p>第6回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ①</p> <p>第7回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ②</p> <p>第8回 フィールドワーク共有（授業）：中間発表 フィールド先活動内容、個人の活動テーマ発表</p> <p>第9回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ③</p> <p>第10回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を学ぶ④</p> <p>第11回 フィールドワーク共有（授業）：中間発表 フィールド先活動内容振り返り、団体の抱える課題共有</p> <p>第12回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を記録する①</p> <p>第13回 フィールドワーク（各自）：フィールド先にて活動 フィールド先の活動を記録する②</p> <p>第14回 記録のまとめ（授業）：上記の活動記録をまとめる（映像、等）</p> <p>第15回 NGO・NPOフィールドワーク（実習）で学んだ結果発表・共有</p>
授業の概要	<p>海外ボランティア、留学を目指す学生にとっては行く前に語学を実践の場で活用する場面を自らで開拓し、キャリア形成のためのボランティア経験を積む。また学内外の奨学金プログラムへの積極的活用に向けての目標設定、学びの計画作りにつながることを期待する。</p> <p>海外ボランティア、留学を経験した後の学生の受講に関しては自己の経験を地域で活かし、語学や学びの継続を地域の国際的な場面において学生の経験を活かす場面を自らで開拓し、さらにキャリア形成を積む。</p>
予習	<p>自らで計画を立て、フィールドワーク先等の調整を常に行っておくこと。当科目において必要となるコミュニケーションスキルを身につけておくこと。</p>
復習	<p>アクションプランの計画から実施、結果、振り返りを自らで管理するため、スケジュールの管理、臨機応変の対応を復習する時間を活用し行うこと。</p>
テキスト	<p>特になし</p>
参考書	<p>特になし</p>
評価方法・評価基準	<p>学生自ら実習先を見つけて、NGO・NPO団体への参加をしながら学んでいくプログラムである。時間管理、地域団体への貢献を最も大事にし、評価をする。</p> <p>授業への参加（30%）、フィールドワークへの参加（40%）、NGO・NPO団体への貢献（20%）、プレゼンテーション（10%）</p>
履修上の注意	<p>学外でのフィールドワーク参加があります。</p>

講義科目名称：Global Issues

授業コード：

英文科目名称：Global Issues

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
David Ulvog			
		ナンバリング：GLS250360	

授業のテーマ及び到達目標	グローバル・イシューと社会責任について英語で学ぶ 知識理解：グローバル・イシューを理解する 関心意欲：グローバル・イシューに取り組む意欲をもつ 思考判断：グローバル・イシューに対する自己見解を持つ 態度：グローバル・イシューに対する地球市民としての社会責任を認識することが出来る
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 地球規模の課題とは</p> <p>第3回 「ミレニアム開発目標」と国連</p> <p>第4回 人間の安全保障その1（貧困）</p> <p>第5回 人間の安全保障その2（紛争）</p> <p>第6回 途上国とキャパシティー・ディベロップメント</p> <p>第7回 開発と資源、富の分配</p> <p>第8回 食料とエネルギー問題</p> <p>第9回 AIDS、パンデミックと国際保健</p> <p>第10回 国際テロリズム</p> <p>第11回 地球環境問題その1</p> <p>第12回 地球環境問題その2</p> <p>第13回 NGOと国連</p> <p>第14回 教育、人権、ジェンダーWID</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 総括</p>
授業の概要	グローバル化が進むなか、国際社会がともに取り組むべき地球規模の課題（グローバル・イシュー）は、年々増加・多様化している。環境問題や紛争、難民など国境を越えて連携しなければ解決しない問題について理解を深める。
予習	毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。
復習	次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	参加型学習なので授業への参加度を重視する。学生のプレゼンテーションなども評価対象です。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。
履修上の注意	調査活動への参加は授業外、校外活動も必要です。

講義科目名称：地域と国際開発論

授業コード：

英文科目名称：Regional & International Development

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS352	

授業のテーマ及び到達目標	開発に対する歴史的な変化と人の役割について学ぶ 知識理解：開発とは何かという知識を持つ 思考判断：開発に対する自己見解を持つ 関心意欲：地域社会の開発を探求する意欲をもつ 態度：深く調査することが出来る
授業計画	<p>第1回 地域と国際開発の目指すこと、「開発」の概念理解</p> <p>第2回 沖縄線、沖縄移民にみる沖縄の世代わり</p> <p>第3回 沖縄の戦後復帰を振り返る</p> <p>第4回 沖縄21世紀ビジョンにみる沖縄の開発問題</p> <p>第5回 私・あなたの地域の歴史に触れる①</p> <p>第6回 私・あなたの地域の歴史に触れる②</p> <p>第7回 沖縄の社会課題「講義でテーマ決定」を学ぶ（フィールドワーク予定）</p> <p>第8回 沖縄の社会課題「講義でテーマ決定」を学ぶ（フィールドワーク予定）</p> <p>第9回 フィールドワーク振り返り</p> <p>第10回 社会派映画にみる社会開発とは</p> <p>第11回 アジアの地域開発の歴史①</p> <p>第12回 アジアの地域開発の歴史②</p> <p>第13回 海外沖縄県系人とのネットワーク②（世界のウチナーンチュ）</p> <p>第14回 海外沖縄県系人とのネットワーク②（世界のウチナーンチュ）</p> <p>第15回 授業まとめ 沖縄の未来を私たちはどう作るのか？</p>
授業の概要	「開発」とは何であるのかを学ぶ時間であり、開発は誰のためのものか？一人ひとりの役割について考えていく時間とする。沖縄の地域開発の歴史に触れ、アジア地域の開発の歴史も併せて学んでいくなかで、沖縄とアジア地域の社会開発を併せて学ぶ。昨年より、沖縄県における「子どもと貧困」の話題が大きく取り上げられているため、本科目においても原因、これからの社会形成にとって何が重要であるのかを、本テーマを通して沖縄社会の開発の課題を学ぶ。
予習	社会の課題に関心を持ち、ニュースに目を通す。本テーマは特に社会ニュースの今が非常に重要であり、関心をもつことが推奨する。
復習	書く課題を自分自身でも学び、地域の課題をフィールドワークし、研究する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてそのつど提示するが特定のものを定めない
評価方法・評価基準	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。授業への参加（20%）、課題（レポート）（25%）、フィールドワークへの参加（20%）、プレゼンテーション（25%）授業への貢献・積極的発言（10%）
履修上の注意	フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマの通しです。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。本授業は、上記評価にあるように、授業レポート、プレゼンテーション、フィールドワーク等を重視する。

講義科目名称：国際協力論

授業コード：

英文科目名称：International Cooperation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：GLS255	

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際協力の実践的手法を学ぶ。 知識理解：国際協力を説明できる。 思考判断：援助の仕組みを指摘できる。</p> <p>関心意欲：世界情勢に興味を持てる。 態度：行動できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 国際協力とは、イメージと実際（講義）</p> <p>第2回 世界がもし100人の村だったら（WS）</p> <p>第3回 地球の食卓に見る世界の現状（WS・講義）</p> <p>第4回 国際協力のアクター 国連・NGO・ボランティア</p> <p>第5回 沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA沖縄訪問予定（下合わせて2コマ使用） 国際協力分野の進路開拓セミナー</p> <p>第6回 沖縄県内国際協力機関訪問 予定：JICA沖縄訪問予定（上合わせて2コマ使用） 国際協力分野の進路開拓セミナー</p> <p>第7回 貿易ゲーム（WS） 貧困は何故なくなるのか</p> <p>第8回 貿易ゲーム（講義） 振り返り</p> <p>第9回 貿易と貧困その1 ～社会派映画に観る～</p> <p>第10回 貿易と貧困その2（講義）</p> <p>第11回 バナナやコーヒー、紅茶を通して世界とつながる（ワークショップ、講義）</p> <p>第12回 開発援助を考えるその1 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～</p> <p>第13回 開発援助を考えるその2 ～PCM手法を通してプロジェクトを考える～</p> <p>第14回 プロジェクト発案 プレゼン1</p> <p>第15回 プロジェクト発案 プレゼン2 最終振り返り</p>
授業の概要	<p>私たちの足元で起こっている出来事は、世界とつながり、世界のどこかで起こっている出来事も私たちの生活と密接に関係している。しかし何から理解していけばよいのか。よく日本はお金持ちの国だから、貧しいかわいそうな国や人びとに支援、協力しなければならない、したいということを聞くが、果たしてそうだろうか。この授業では、国際協力、世界や足元の開発の問題を参加型学習（ワークショップ）や、フィールドワーク、実際の現場体験を通して一人ひとり考える時間としたい。一つの答えではなく、それぞれの答えや考えを重視する。</p>
予習	<p>ニュース、インターネット等を通じて発信される国際協力活動、課題について関心を寄せる。</p>
復習	<p>実際に訪問する場所、イベントを自ら見つけてボランティア、イベント参加することを推奨します。</p>
テキスト	<p>適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。</p>
参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>
評価方法・評価基準	<p>参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（20%）、課題（レポート）（30%）プレゼンテーション（30%）、フィールドワーク（10%）、授業への貢献・積極的発言（10%）</p>
履修上の注意	<p>※基本は、講義と参加型学習（ワークショップ）。時によりフィールドワークや現場体験への参加の機会提供有り。</p>

講義科目名称：沖縄からみるグローバル化

授業コード：

英文科目名称：Globalization and Okinawa

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS340	

授業のテーマ及び到達目標	<p>グローバル化が沖縄にもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「グローバル化」に対する知識を持つ 関心意欲：地域社会の問題解決に対する意欲をもつ 思考判断：グローバル化に対する自己見解を持つ 態度：国際社会の事象を地域の問題として考えることが出来る</p>
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 生活の中の「グローバル化」 「グローバリゼーション」という概念は抽象的であり一見私たちとの生活とは関係ないように思えるが、実は密着に結びついている現状を知る。</p> <p>第2回 グローバリゼーションのなかの沖縄 地球規模で展開するグローバリゼーションの潮流のなかで、沖縄がどのように位置し、どのような影響を受けているのか、アメリカの軍事戦略から外国人観光客の増加まで、沖縄の現状を学ぶ。「沖縄21世紀ビジョン」を通して、沖縄県が目指すグローバル化時代の沖縄についても議論する。</p> <p>第3回 沖縄と海外移民 沖縄の海外移民の歴史を通して、経済のグローバル化と人口移動がどのように起こったのか学ぶ。</p> <p>第4回 経済格差と人口移動 ～戦後沖縄の出稼ぎから～ 沖縄労働移民の歴史を、グローバル資本主義の潮流と近代というコンテクストから学ぶ。</p> <p>第5回 沖縄とハワイ労働移民 沖縄の移民のなかでも特にハワイへの労働移民に焦点を当て、ハワイでの労働移民の体験と沖縄との関係性について学ぶ。</p> <p>第6回 戦後沖縄と海外移民コミュニティとの関係 戦後、荒廃した沖縄を救済するために起こった海外移民コミュニティでの運動について学ぶ。国境や文化の壁を超えて、このような救済運動を可能にした要因について考える。</p> <p>第7回 戦後沖縄とアメリカへの文化の影響 戦後の米軍占領が沖縄に与えた影響について学ぶ。占領下における沖縄文化や言語の継承についても理解を深める。</p> <p>第8回 島嶼経済とグローバル化 ～世界の島社会と沖縄の比較～ ハワイやカリブ海の島国であるジャマイカとの比較において、沖縄のグローバル化を考える。グローバル資本主義の影響や島嶼社会としての課題について理解を深める。</p> <p>第9回 自由貿易と保護主義 自由貿易の潮流と多国籍企業の台頭により、沖縄を含む島嶼社会の経済状況がどのように変遷を遂げたのか学ぶ。</p> <p>第10回 「オキナワ・ディアスポラ」 沖縄の離散共同体がどのように誕生し、どのように拡大してきたのか、その歴史を学ぶ。</p> <p>第11回 「世界のウチナンチュ大会」と沖縄の海外ネットワーク 1990年に始まった世界のウチナンチュ大会の歴史と変遷について学ぶ。また海外コミュニティとのネットワークを通して、沖縄自身がどのように変化して行ったのか議論し、理解を深める。</p> <p>第12回 島嶼社会の比較にみるグローバル化（ハワイの事例から） グローバル化によって変化する近代の民族的アイデンティティについて、沖縄とハワイを比較し考察する。</p> <p>第13回 軍事のグローバル化と沖縄（グアムの事例から） アメリカ軍の極東軍事戦略と沖縄の関係を学ぶ。グアムの事例から「軍事のグローバル化」が沖縄にもたらす影響について学ぶ。</p> <p>第14回 グローバル化と「世界のウチナンチュ・ネットワーク」その1 沖縄県が推進している「世界のウチナンチュ・ネットワーク」事業の歴史と現在、目的について学ぶ。</p> <p>第15回 グローバル化と「世界のウチナンチュ・ネットワーク」その2 「世界のウチナンチュ・ネットワーク」が沖縄の多文化共生にどのような影響をもたらすか議論する。またグローバリゼーションのなかで、このネットワークが象徴するものについて考察する。</p> <p>第16回</p>
授業の概要	<p>概念や理論としての「グローバリゼーション」を理解するだけではなく、実際に沖縄という地域において、どのような政治的、経済的、文化的変化が生じているかについて学ぶ。経済格差に伴う人口移動など、沖縄の過去や現在に照らし合わせながら、グローバル化を理解する。島嶼であるが故の沖縄の課題について学び、地域の将来を予測し、積極的に関わるための知識と考察力を養う。</p>
予習	<p>毎回、次週の講義内容についての予告をおこなうので関連事項について調べ、基礎知識を身につけておくこと。</p>
復習	<p>次回の講義との連続性を意識しながら事実関連の再確認をおこなうこと。</p>

テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法・評価基準	期末レポート50%、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。私語などの妨害行為・迷惑行為ならびに寝ない・スマートフォンをいじらないなど基本的な受講態度ができているか評価します。
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。15分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。全ての人への配慮とリスペクトを希望します。私語などの授業妨害行為は禁止します。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や世界の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。地域の行政やNGOなどが主催するイベントに参加して下さい。実際現場に関わっている人たちから話を聞き見識を深めて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。国際平和学と国際関係論を履修していること。（時事問題や講義内でのディスカッション、質問の流れによって講義計画が前後することもあります）。

講義科目名称：メディア・リテラシー

授業コード：

英文科目名称：Media Literacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
崎原 千尋			
		ナンバリング：GLS152	

授業のテーマ及び到達目標	メディアの使い方・読み取り方について学ぶ 知識理解：メディア・リテラシーを理解する 関心意欲：メディアのあり方に対して疑う意欲をもつ 思考判断：メディアを批判的に捉える自己見解能力を持つ 態度：メディアを読み取り、活用する方法を身につける。
授業計画	第1回 インTRODクシヨン メディアと私たち 第2回 メディア・リテラシーとは 第3回 コンピューター・リテラシーとデジタルデバイド（情報格差） 第4回 マスメディアの歴史 第5回 ソーシャルネットワークサービスとリテラシー 第6回 CNNとアルジャジーラ 第7回 マクルーハンとメディア論 第8回 戦争とメディア 第9回 ジャーナリズムと報道 第10回 「語られない情報」とは 第11回 情報・印象操作と表現その1 第12回 情報・印象操作と表現その2 第13回 メディア・リテラシー教育の現在 第14回 これからのメディアのあり方 第15回 SNSの社会心理学 第16回 総括
授業の概要	情報の流通が多量・高速化する現在、その媒体（メディア）を読み解き使いこなす能力（メディア・リテラシー）が重要となっている。メディアの特性を理解し、その内容を批判的に捉え、単に情報を受け取るだけでなく、あらゆるソーシャルメディアを活用し、発信していく力を身につける。
予習	次回の内容予告を受け、専門用語や概念などを調べておくこと。
復習	次回の授業の連続性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。
テキスト	適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。
参考書	講義においてそのつど提示する。
評価方法・評価基準	レポートやエッセイを課す。授業への参加のみならず、積極的なワークショップ等への参加も評価へ加味する。 小テスト・授業内レポート50% 受講者の発表20% その他調査20% 授業態度10%
履修上の注意	文化人類学を履修していること

講義科目名称：近代沖縄とアイデンティティ

授業コード：

英文科目名称：Modern Okinawa & Identity

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	大学共通科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：GLS363	

授業のテーマ及び到達目標	<p>沖縄の近代化がそのアイデンティティにもたらす様々な影響について学ぶ 知識理解：「近代性」や「アイデンティティ」に対する知識を持つ 対する意欲をもつ思考判断：近代化や多様性に対する自己見解を持つ 比較して考える ことが出来る</p> <p>関心意欲：地域社会の問題解決に 態度：国際社会と地域の事象を比</p>
--------------	--

授業計画	<p>第1回 イントロダクション 「うちなーんちゅ」とは誰？</p> <p>第2回 「近代」という時代</p> <p>第3回 近代国民国家と日本</p> <p>第4回 「アイデンティティ」とは</p> <p>第5回 日本における少数民族の歴史と現状</p> <p>第6回 沖縄の近代化と日本への同化と沖縄戦</p> <p>第7回 沖縄の労働移民と沖縄救済活動</p> <p>第8回 第二次世界大戦と日系アメリカ人、沖縄系アメリカ人</p> <p>第9回 米軍占領下における宣撫工作と沖縄のアイデンティティ</p> <p>第10回 「日本復帰」、沖縄の経済開発とアイデンティティ</p> <p>第11回 帰国県系人のアイデンティティ</p> <p>第12回 「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」とディアスポラ</p> <p>第13回 観光のなかのイメージとしての沖縄文化</p> <p>第14回 地域言語と沖縄の文化的アイデンティティ</p> <p>第15回 沖縄アイデンティティのゆくへ</p> <p>第16回 総括</p>
------	---

授業の概要	<p>近代国民国家日本の形成と沖縄の近代化が、沖縄のアイデンティティにどのような影響を及ぼしてきたのか、その歴史的背景と現状について学ぶ。アイヌ民族や在日コリアン、混血児や労働移民、難民など近代国家の狭間にあって、様々な課題を抱える人々と沖縄を照らし合わせながら、アイデンティティについて考える。異質なものを排除する近代システムの暴力と、多様性の強みを理解し、多文化共生社会に積極的に関わるための知識と考察力を養う。</p>
-------	--

予習	<p>次回の内容予告を受け、基礎的な用語、歴史、事実関連を調べておくこと。</p>
----	---

復習	<p>回次の授業との関連性を考えながら、内容の再確認をおこなうこと。</p>
----	--

テキスト	<p>適宜プリントを配布、または参考テキストの紹介を行なう。</p>
------	------------------------------------

参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>
-----	------------------------

評価方法・評価基準	<p>レポート、課題及び授業内のワークショップへの参加度で評価する。 小テスト・授業内レポート80% 授業態度20%</p>
-----------	---

履修上の注意	<p>文化人類学を履修していること。</p>
--------	------------------------

講義科目名称 : Tourism English I

授業コード :

英文科目名称 : Tourism English I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Michelle Higaonna			
		ナンバリング : EOC272	

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to build confidence in professional skills such as dealing with enquiries, marketing destinations, offering advice, negotiating, writing business correspondence, and speaking to a group. Language skills will be practiced using realistic case studies.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit1	
	第2回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第3回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第4回	Unit 1 Careers in Tourism	
	第5回	Unit 2 Destinations	
	第6回	Prepare for Presentation 1	
	第7回	Prepare for Presentation 1	
	第8回	Presentation 1	
	第9回	Presentation 1	
	第10回	Unit 2 Destinations	
	第11回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第12回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第13回	Unit 3 Hotel Facilities	
	第14回	Prepare for Presentation 2	
	第15回	Prepare for Presentation 1	
	第16回	Presentation 2	
	第17回	Unit 4 Tour Operators	
	第18回	Unit 4 Tour Operators	
	第19回	Unit 4 Tour Operators	
	第20回	Unit 5 Dealing with guests	
	第21回	Unit 5 Dealing with guests	
	第22回	Unit 5 Dealing with guests	
	第23回	Consolidation	
	第24回	Unit 6 Travel Agencies	

	第25回 Unit 6 Travel Agencies 第26回 Unit 6 Travel Agencies 第27回 Prepare for Final Presentations 第28回 Prepare for Final Presentations 第29回 Final Presentations 第30回 Final Presentations
授業の概要	To enable students to develop their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English in situations specific to the tourism industry: in airports, hotels and restaurants, making reservations and describing a variety of travel services To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English
予習	Students should preview each lessons' s material before the next class.
復習	Students should review each lessons' s material before the next class.
テキスト	English for International Tourism - Intermediate Student' s Book
参考書	It is good to keep a special notebook for this class.
評価方法・評価基準	Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester Presentation, Other methods as determined by the instructors. Attendance and participation: 30%, 2 presentations: 20% each (40%), Final Presentation: 30%. 授業参加度：30%、2プレゼンテーション：各20%= (40%) , 最終プレゼンテーション：30%. Grades: 成績評価基準 (A)= 90-100 (B)= 80-89 (C)= 70-79 (D) 60-69 (F)=0-59 *If you are absent on your assigned presentation day 10% per class will be subtracted from your presentation score.
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.

講義科目名称 : Tourism English II

授業コード :

英文科目名称 : Tourism English II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Michelle Higaonna			
		ナンバリング : EOC273	

授業のテーマ及び到達目標	This course is designed to build confidence in professional skills such as dealing with enquiries, marketing destinations, offering advice, negotiating, writing business correspondence, and speaking to a group. Language skills will be practiced using realistic case studies.		
授業計画	第1回	Class Orientation+Unit7	
	第2回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第3回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第4回	Unit 7 Hotel Reservations	
	第5回	Prepare for Presentation 1	
	第6回	Prepare for Presentation 1	
	第7回	Presentation 1	
	第8回	Presentation 1	
	第9回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第10回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第11回	Unit 8 Seeing the Sights	
	第12回	Consolidation	
	第13回	Unit 9 Getting Around ? Transportation	
	第14回	Unit 9 Getting Around ? Transportation	
	第15回	Unit 9 Getting Around ? Transportation	
	第16回	Prepare for Presentation 2	
	第17回	Prepare for Presentation 2	
	第18回	Presentation 2	
	第19回	Presentation 2	
	第20回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第21回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第22回	Unit 10 Eating Out - Restaurants	
	第23回	Unit 11 Traditions	
	第24回	Unit 11 Traditions	

	第25回 Unit 12 Special Interest Tours 第26回 Unit 12 Special Interest Tours 第27回 Unit 12 Special Interest Tours 第28回 Prepare for Final Presentations 第29回 Prepare for Final Presentations 第30回 Final Presentations 第31回 Final Presentations
授業の概要	To enable students to develop their listening and speaking skills To improve the ability of students to communicate in English in situations specific to the tourism industry: in airports, hotels and restaurants, making reservations and describing a variety of travel services To prepare students for more advanced levels of speaking and listening in English
予習	Students should preview each lessons' s material before the next class.
復習	Students should review each lessons' s material before the next class.
テキスト	① English for International Tourism - Intermediate Student' s Book
参考書	—
評価方法・評価基準	Classroom participation, Oral presentations, Listening tests, Short tests (quizzes), End-of-Semester Presentation, Other methods as determined by the instructors. Attendance and participation: 30%, 2 presentations: 20% each (40%), Final Presentation: 30%. 授業参加度：30%、2プレゼンテーション：各20%= (40%) , 最終プレゼンテーション：30%. Grades: 成績評価基準 (A)= 90-100 (B)= 80-89 (C)= 70-79 (D) 60-69 (F)=0-59 *If you are absent on your assigned presentation day 10% per class will be subtracted from your presentation score.
履修上の注意	Students should try to use as much English as possible in the classroom.

講義科目名称：多読

授業コード：

英文科目名称：Extensive Reading I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
浜川 仁・武村 朝吉			
		ナンバリング：ERE100	

授業のテーマ及び到達目標	<p>The goal of this class is to provide students with a designated time to sit and read English books. Students will read graded readers appropriate for their own individual level. Through this process students can progress in three key areas:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Students' reading speed will increase. 2. Students' vocabulary will increase. 3. Students will develop an appreciation for the joy of reading. <p>Of course, by reading a lot students will also learn a lot. They might learn about classic literature, about other cultures, or indeed about any of the great many themes within the graded reader literature.</p>
授業計画	<p>第1回 多読とは何か</p> <p>第2回 Reading</p> <p>第3回 Reading</p> <p>第4回 Reading</p> <p>第5回 Reading</p> <p>第6回 Reading</p> <p>第7回 Reading</p> <p>第8回 Reading</p> <p>第9回 Reading</p> <p>第10回 Reading</p> <p>第11回 Reading</p> <p>第12回 Reading</p> <p>第13回 Reading</p> <p>第14回 Reading</p> <p>第15回 Reading</p>
授業の概要	<p>At the beginning of the course, students will be shown the extensive reading library, and the graded reader grading system will be explained to them. Students will look at the different books and decide for themselves what level is appropriate. This is not rigid, and students can later choose books of a lower or higher level (in fact, students should later move up a level or two as they become more comfortable with the concept of reading for pleasure.)</p> <p>After that, students will simply begin reading. When they finish a book, they will log the details of the book, including the number of words. They will also write a short report about the book. When they have finished the report, they choose another book and begin reading.</p> <p>They will keep a log throughout the course, which will include a running total of the words they have read. This is submitted with their book reports at the end of the semester for the purposes of assessment.</p>
予習	多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要な事項を記入する。iKnowは一日10～20分学習する。
復習	多読用テキストを読んだ後、多読メモ用紙に必要な事項を記入する。iKnowは一日10～20分学習する。
テキスト	iKnow! (語彙力強化eラーニング)
参考書	多読用テキスト (図書館多読コーナー)、iKnow アカウント

評価方法・評価基準	単語数（累計）60%、課題（iKnow）40%
履修上の注意	多読には、①辞書は引かない、②分からないところは飛ばす、③つまらなくなったら後回しという3原則がある。自分の英語力と興味に合わせて、辞書はできるだけ見ないで読破できるような本の中から面白そうなものを多読コーナー（図書館）で選んで、どんどん読み進めて欲しい。なお、それぞれが異なるテキストを読んでいるので、担当教員への質問等は静かに行うこと。

講義科目名称 : Advanced Communication I

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Communication I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC317	

授業のテーマ及び到達目標	The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at intermediate level, or higher. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.
授業計画	<p>第1回 Shopping</p> <p>第2回 What do we need?</p> <p>第3回 Consumption will fill the void</p> <p>第4回 Minimalism</p> <p>第5回 Tiny Houses</p> <p>第6回 Advertising</p> <p>第7回 Media</p> <p>第8回 Social Media</p> <p>第9回 The Age of Miracles</p> <p>第10回 Transportation</p> <p>第11回 Energy Slaves</p> <p>第12回 Work</p> <p>第13回 Money and debt</p> <p>第14回 The Alternatives</p> <p>第15回 Your life plan</p> <p>第16回 Speaking test</p>
授業の概要	<p>This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-5. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who opt to take this class, and students who are not yet quite comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class.</p> <p>This class is about taking student's communication skills to the next level: taking difficult topics and learning how to express your thoughts on them in a clear way. In this way, our theme really is critical thinking, since it is only through critical thinking that we will find the complexity that we need to really stretch our communicative abilities. Our rough theme will be to critically examine our assumptions about how society should operate in order to develop our ideas about how a fair and just society would function.</p>
予習	As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class.
復習	Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.
テキスト	There is no textbook for this course ? all the content will come from our conversations.
参考書	A dictionary (paper or electronic).

評価方法・評価基準	Class attendance and participation, presentations, and an end-of-semester speaking test. Grades will be based upon the school grading policy
履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a reasonable proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.

講義科目名称 : Advanced Communication II

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Communication II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC318	

授業のテーマ及び到達目標	This class will follow on from the skills learned and practiced in Advanced Communication I. The fundamentals of communication will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials. Instead, students will learn about more complex elements of communication, to a deeper level.		
授業計画	第1回	Tact	
	第2回	Diplomacy	
	第3回	Euphemisms	
	第4回	Political Correctness	
	第5回	Persuasion	
	第6回	Advertising	
	第7回	Rhyme, alliteration, assonance	
	第8回	Advertising (practical)	
	第9回	Mid-term assignment (pres.)	
	第10回	Humour	
	第11回	Humour (cont' d)	
	第12回	Accents	
	第13回	Conversational strategies	
	第14回	Negotiation	
	第15回	Negotiation (cont' d)	
	第16回	Final Test	
授業の概要	This is a class for students who have already passed Oral Communication I-V, and Advanced Communication I. A reasonably high level of communicative ability will be assumed of all students who take this class, and students who are not yet comfortable communicating entirely in English should not consider taking this class. The classes will focus on specific advanced communication skills. These will include (but not be limited to): communication in an academic context; negotiation and mediation; persuasion; constructive criticism; clarification; avoidance techniques; sarcasm and irony; humour; anger; interruption; conceding; polite refusal; diplomacy and tact. All will need to be performed with a high degree of comfort to successfully complete the course.		
予習	As well as assignments required for the class, students are expected to prepare for each class by reviewing all grammar, vocabulary, and elements of communication covered in the previous class.		
復習	Each class continues from the previous one (classes are not in isolation), so a thorough knowledge of the previous class is essential for smooth progression.		
テキスト	Materials are provided by the teacher		
参考書	n/a		
評価方法・評価基準	Class participation, presentations and group projects, short tests (quizzes), end-of-semester assignment, other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.		

講義科目名称 : Advanced Communication III

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Communication III

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC319	

授業のテーマ及び到達目標	This class is the second-highest level of English communication at this university. The goal is to provide opportunities for students to reach as close as possible to communicative fluency. Students not confident in English, nor willing to speak it, should not take this class.
授業計画	<p>第1回 Language learning Skills</p> <p>第2回 In My Life</p> <p>第3回 Here, There and Everywhere</p> <p>第4回 Across The Universe</p> <p>第5回 Let' s Dance</p> <p>第6回 Young Americans</p> <p>第7回 Robots</p> <p>第8回 Take Five</p> <p>第9回 Break on Through</p> <p>第10回 Shiny Happy People</p> <p>第11回 Around the World</p> <p>第12回 Don' t Dream It' s Over</p> <p>第13回 I Know It' s Over</p> <p>第14回 Exam preparation</p> <p>第15回 Exam practice</p> <p>第16回 Speaking Exam</p>
授業の概要	<p>This is a class for students who have already passed Oral Communication 1-4, and Advanced Communication I and II (or who otherwise display sufficient proficiency to be accepted into the class). Students who are not yet comfortable communicating entirely in English on complex topics should not consider taking this class.</p> <p>The key difference between this course and Advanced Communication I is that in this course we will together decide the topics through a weekly homework to post interesting articles on a class web page. This will provide a variety of topics that the students themselves are interested in, and will also develop a key skill of an independent and critical thinker: finding your own areas of interest and researching them ready for discussion.</p> <p>Each class will focus around a challenging and thought-provoking topic, but since we will decide the topics together, here I can only provide the rough outline.</p>
予習	Prepare by thinking of five super topics for discussion.
復習	Each lesson must be reviewed in preparation for the final exam.
テキスト	There is no textbook for this course ? all materials will come from the students brains and life experience, and the internet.
参考書	A good monolingual dictionary is recommended
評価方法・評価基準	Class participation, presentations, and the end-of-semester speaking test, as well as other methods as determined by the instructors. Grades will be based upon the school grading policy.

履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency of English, and should be looking to practice and hone their skills in the class. Simply attending the class and not speaking will result in students failing the class.
--------	---

講義科目名称 : Advanced Communication IV

授業コード :

英文科目名称 : Advanced Communication IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位(0-2)	学科選択必修科目
担当教員			
Simon Robinson			
		ナンバリング : EOC320	

授業のテーマ及び到達目標	This class is the highest level of English communication at this university, so it is expected that students already have a strong command of English. The goal of this class is for students to actually use their English ability to “teach” a content based lesson, on a topic of their choice, to their peers.
授業計画	<p>第1回 What Makes a Good Lesson? (1)</p> <p>第2回 Classroom management</p> <p>第3回 CBLI (1)</p> <p>第4回 CBLI (2) + topic selection</p> <p>第5回 Lessons From Studying Abroad</p> <p>第6回 The Deep Web</p> <p>第7回 Edible Plants of Okinawa</p> <p>第8回 Gone Fishing</p> <p>第9回 If Humans Dissapeared Today</p> <p>第10回 The Business of Face Painting</p> <p>第11回 Becoming a JHS Teacher</p> <p>第12回 How to Give Presentations</p> <p>第13回 Cultural Lessons From Fashion</p> <p>第14回 Island Music; Okinawan Music</p> <p>第15回 What Makes a Good Lesson? (2)</p>
授業の概要	<p>This class is only for students who have already passed other Advanced Communication classes and higher level English classes.</p> <p>These classes will focus on the student as learner and as teacher. Students will put into practice not only the English skills and knowledge that they have learned in their English classes, but also at the workplace, pursuing hobbies and during study abroad. Students should bring all of their experience to this class.</p> <p>In the first lessons, students will be introduced to the basics of content based language instruction (CBLI) and classroom management. They will then select a topic that they will teach. Each student will be required to teach a lesson from thirty minutes to one hour in length (depending on class size and topic). Students are required to create a lesson plan, a classroom worksheet and a final quiz. In addition to teaching their lesson, students are expected act as active participants in their peers' lessons too.</p>
予習	Think about what makes a good lesson. Make a list of 3-5 topics that you could teach.
復習	Students should review each class, as their will be a short test based on content from each lesson.
テキスト	n/a
参考書	A good monolingual dictionary (paper or electronic) is recommended
評価方法・評価基準	Class participation, lesson preperation, giving a lesson, reflection on teaching, short tests (quizzes).
履修上の注意	This is a high-level course. Students should enter this course with a high proficiency in English, and should be looking to practice and increase their skills in class.

講義科目名称：フレッシュマン・セミナーⅠ

授業コード：

英文科目名称：Freshman SeminarⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(0-2)	大学必修科目
担当教員			
照屋信治・近藤功行・城間仙子・仲里和花・玉城直美・武村朝吉・大城直人			
		ナンバリング：CMS130	

授業のテーマ及び到達目標	アドバイザーや学友との豊かな関係の中で、本学の理念やカリキュラムを理解し、大学生に必要な最低限のアカデミックスキルを獲得する。
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明。図書館利用説明。 講義の概要説明、評価の方法、図書館ツアーと図書館の利用説明を行う。</p> <p>第2回 本学のカリキュラムの説明 本学のカリキュラムの説明と各学期の履修への指導・助言。本学の3本柱の説明。それをふまえた履修指導。(自校教育)</p> <p>第3回 本学の歴史を学ぶ① 金城重明『「集団自決」を心に刻んで』の抜粋を読み、沖縄の歴史と本学の歴史を学ぶ。平和教育。</p> <p>第4回 本学の歴史を学ぶ② DVD『軍隊がいた島～慶良間島の証言～』(2009年)を視聴し、意見交換を行う。また渡嘉敷島オリエンテーションキャンプで金城重明氏とお会いする際の質問を検討する。</p> <p>第5回 大学生活へのオリエンテーション 薬物講話を開催する。大麻などの薬物が合法的な国や地域に留学する学生も多いが、その予防教育を行う。</p> <p>第6回 学習等達成度記録簿の作成 大学在学中の目標や将来の目標を明確にし、短期的・中期的な目標を設定する。ゼミ内での意見のシェアなどを行いつつ、目標設定を行う。</p> <p>第7回 要約文の作成① 要約文に関する30分の解説ののち、短い論文を読み(60分)、400字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。</p> <p>第8回 論評文の作成① 論評文に関する30分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する(60分)、600字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。</p> <p>第9回 要約文の作成② 要約文に関する30分の解説ののち、短い論文を読み(60分)、400字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。</p> <p>第10回 論評文の作成② 論評文に関する30分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する(60分)、600字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。</p> <p>第11回 要約文の作成③ 要約文に関する30分の解説ののち、短い論文を読み(60分)、400字程の要約を作成する。次週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。</p> <p>第12回 論評文の作成③ 論評文に関する30分の解説ののち、前回の課題文に対する表論文を作成する(60分)、600字程。週、添削し返却・解説。課題文は担当教員により異なる。前回とは異なる課題文を用いる。</p> <p>第13回 ディベート ディベートの仕方について学ぶ。立論、反論、批判などの方法を確認し、論理的思考力、表現力を身につける。</p> <p>第14回 ディベート② 要約文・論評文で用いた課題文のテーマについて賛否に分かれて議論する。</p> <p>第15回 ブックリポートの提出、まとめ ブックリポートの作成方法を学ぶ。また、本学のレポート提出の形式を確認する。</p>
授業の概要	<p>1) 自校教育。キリ学に学ぶ意義を理解し、本学学生としての自覚を高める。図書館利用案内・カリキュラム解説・大学生活での目標の相談・渡嘉敷キャンプに向けての平和教育。</p> <p>2) アカデミックスキルズ(読み・書き・調査・発表・議論など)。テキストで目標とされている「精読」「要約文」「論評文」「ブックリポート」まで。引用・注釈・参考文献一覧などを備えたレポートが書けるようにする。</p> <p>3) 少人数のアドバイザーグループでの授業の中で、充実した学びの基礎となる人間関係を形成する。</p>
予習	指定された課題文を熟読すること
復習	授業内容を、議論、ディベート、レポートに活かせるように復習すること
テキスト	沖縄キリスト教学院大学著『論述・作文』2011年 金城重明『「集団自決」を心に刻んで』高文研、1995年
参考書	授業中に提示、あるいは提供する。

評価方法・評価基準	授業への参加度・授業態度（50%）、レポート（50%）によって総合的に評価する。
履修上の注意	1 初年次の必修科目である。 2 積極的に発言すること。

講義科目名称：フレッシュマン・セミナーⅡ

授業コード：

英文科目名称：Freshman Seminar Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	大学必修科目
担当教員			
Chris Valvona・新垣誠・上地恵龍・David Ulvog・新垣友子・浜川仁・Daniel Broudy			
ナンバリング：CMS131			

授業のテーマ及び到達目標	フレッシュマン・セミナーI で学んだ「読む・書く」などのアカデミックなスキルに加え、フレッシュマン・セミナーII では、ディベートやプレゼンテーション、グループ・プロジェクトなどを通して、社会に対応し適応する力としてのコンピテンシーを身につける。また、これらの社会適応能力を英語を通して取得することを目的とする。
授業計画	<p>第1回 批判的思考と研究法(調査研究)のイントロダクション</p> <p>第2回 ディスカッションのテーマ①導入と参考資料準備</p> <p>第3回 ディスカッションと評価(個人とグループ)</p> <p>第4回 調査研究①のテーマ設定と研究計画</p> <p>第5回 調査研究①の実施</p> <p>第6回 調査研究①の結果発表準備</p> <p>第7回 調査研究①結果のグループ発表(個人評価とグループ評価)</p> <p>第8回 調査研究結果①に関するディスカッションとディベート</p> <p>第9回 ディスカッションのテーマ②導入と参考資料準備および研究計画</p> <p>第10回 テーマ②に関する調査研究②の実施(少人数グループ)</p> <p>第11回 少人数グループ研究</p> <p>第12回 少人数グループ研究</p> <p>第13回 少人数グループ研究</p> <p>第14回 少人数グループ研究</p> <p>第15回 最終発表(個人評価とグループ評価)</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	個人よりもグループでの作業を中心とする。グループ・ディスカッションやプロジェクト、プレゼンテーションを通して、表現力、理論的思考力、主体性/積極性、社会への関心や、他者と協働するためのスキルを身につける。
予習	グループで参加する授業のため、お互いの信頼関係が大切になってきます。そのためグループのメンバーとして課題をこなしていく事が必須となり、それが出来ない学生は他のメンバーの迷惑になるため、責任を持って授業にとりくむこと。
復習	グループで参加する授業のため、お互いの信頼関係が大切になってきます。そのためグループのメンバーとして課題をこなしていく事が必須となり、それが出来ない学生は他のメンバーの迷惑になるため、責任を持って授業にとりくむこと。
テキスト	担当教員が逐次配付する
参考書	特になし
評価方法・評価基準	授業への参加度・授業態度(50%)、レポート(50%)によって総合的に評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の目的をきちんと理解し、知的好奇心、探究心をもって積極的に授業にかかわること。 ・ 教室外の活動もあるので、各自責任をもって授業の進行・過程を確認すること。 ・ 個人作業の責任を果たすとともに、他者との協働を怠らないこと。

講義科目名称 : OralCommunication V

授業コード :

英文科目名称 : Oral Communication V

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	4単位(0-8)	学科選択必修科目
担当教員			
Valvona/Phillips・Webb/Praske・East/Webb・Valvona/Melley・Webb/Bradley・Osterman/山城			
ナンバリング : EOC214			

授業のテーマ及び到達目標	<p>This is the highest level of oral communication. This means that students should be aiming to communicate solely in English, using language that is well-pronounced, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. The principal aim is, as with all other levels of Oral Communication, to actually *use* English and communicate a message. Students should also aim to have found their own 'right way' to study in the future.</p> <p>The following CEFR-J guidelines summarize what students can achieve on passing this class, and therefore meet the graduation requirements for communicative competence:</p> <p>"I can understand the gist of explanations of cultural practices and customs that are unfamiliar to me I can understand the main points of extended discussions I can express opinions and exchange information I can maintain a social conversation I can talk in some detail about my experiences, hopes and dreams without confusing the listener."</p>		
授業計画	第1週	Refreshing and meeting again The teacher will provide various activities in order for students to brush up on their communicative skills, meet each other (again) and get to know any new members of the class, as well as the teacher.	
	第2週	Cosmetic Surgery & Personal Relationships	
	第3週	Environment & Rules	
	第4週	Plagiarism & Household Chores	
	第5週	Abortion & Taboo Professions	
	第6週	Body Art & Adult Children	
	第7週	Workplace Relations & Culture Shock	
	第8週	Career Choice & Xenophobia	
	第9週	Technology & Female Liberation	
	第10週	Compromise & Peace-making	
	第11週	Stalking & Divorce	
	第12週	Review of topics and task-based project (1)	
	第13週	Task-based project (2)	
	第14週	Explanation of final assessment and preparation	
	第15週	Final assessment	
授業の概要	<p>This class will provide a bridge to higher-level courses including Public Speaking, Debate & Discussion, and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand more complex, longer pieces of information, and then properly express their opinions based on such information. Through numerous activities including role-playing, debate and discussion, presentation and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and so on. Rather than explicitly teaching grammar, vocabulary, etc., topics will be presented to students as starting points for the various communicative activities that follow, and students will receive guidance, instruction and feedback from the teacher.</p> <p>There will be a task-based project for students to practice English meaningfully. Students should continue to improve their ability in spoken English through CALL systems.</p>		
予習	Students must prepare for regular tests and quizzes, and should also prepare vocabulary needed for upcoming lessons		

復習	Students should review all vocabulary, grammar, and communication skills covered in previous classes, and aim to use them in upcoming classes
テキスト	Impact Issues 3 (Day, Shaules, Yamanaka: Pearson Longman)
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法・評価基準	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
履修上の注意	All Students must keep a personal English language notebook while studying at OCU

講義科目名称：はじめての日本語教育

授業コード：

英文科目名称：Japanese language teaching Introduction

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(0-2)	大学共通科目
担当教員			
上原 明子			
		ナンバリング：CMS252	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：日本語の構造、日本語教育について深く考えることができるようになる 思考判断：教えるという視点から日本語に触れることで新たな発見ができる 関心意欲：自文化と異文化への理解を通して多文化共生について考えることができる 態度：他者理解と自己認識が育まれる
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/学習ストラテジー (テキスト9章対応)</p> <p>第2回 言語としての日本語 (テキスト1章対応)</p> <p>第3回 日本語の音声(1) 理論 (テキスト2章対応)</p> <p>第4回 日本語の音声(2) 実践 (テキスト2章対応)</p> <p>第5回 日本語の文法(1) 理論 (テキスト3章対応)</p> <p>第6回 日本語の文法(2) 実践 (テキスト3章対応)</p> <p>第7回 日本語の文法(3) 応用 (テキスト3章対応)</p> <p>第8回 文字・表記 (テキスト4章対応)</p> <p>第9回 語彙(1) 理論 (テキスト5章対応)</p> <p>第10回 語彙(2) 実践 (テキスト5章対応)</p> <p>第11回 語彙(3) 応用 (テキスト5章対応)</p> <p>第12回 社会言語学 (テキスト6章対応)</p> <p>第13回 心理学 (テキスト7章対応)</p> <p>第14回 第二言語習得 (テキスト8章対応)</p> <p>第15回 課題報告とまとめ</p>
授業の概要	日本語を教える立場に立ち、日本語文法を学ぶことで、新しい視点から日本語を学ぶ外国語教育の一環としての学びを通し、「共に生きる」という社会人としての姿勢を培うことにもつながる。
予習	シラバスを確認し、授業で扱う作品を精読しておくこと。
復習	講義内で指示したタスクにとりくむこと。
テキスト	『はじめての日本語教育・1[日本語教育の基礎知識]』高見澤孟 監修 (アスク講談社)
参考書	講義にて紹介
評価方法・評価基準	1 毎回のフィードバックレポート提出 2 課題への取り組みと試験 小テスト・授業内レポート30% 授業態度40% 受講者の発表30%
履修上の注意	・授業参加についてのセルフ・ルールを決めて実行してください

講義科目名称：同時通訳実践演習 I (Chapel Service)

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service Interpretation I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～4年	1単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT290	

授業のテーマ及び到達目標	月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖繩から平和を作り出す意義を大切に建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、月曜礼拝通訳の実践1	
	第2回	月曜礼拝通訳の実践2	
	第3回	月曜礼拝通訳の実践3	
	第4回	キリスト教講演会通訳	
	第5回	月曜礼拝通訳の実践4	
	第6回	月曜礼拝通訳の実践5	
	第7回	月曜礼拝通訳の実践6	
	第8回	月曜礼拝通訳の実践7	
	第9回	月曜礼拝通訳の実践8	
	第10回	月曜礼拝通訳の実践9	
	第11回	月曜礼拝通訳の実践10	
	第12回	月曜礼拝通訳の実践11	
	第13回	月曜礼拝通訳の実践12	
	第14回	月曜礼拝通訳の実践13	
	第15回	まとめとフィードバック	
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。		
予習	配布された資料を研究し、同時通訳に備える		
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って良かった点、要改善点などを分析する		
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）		
参考書	聖書（日本語、英語）、キリスト教関連資料、その他内容に応じた資料（その都度指定します）		
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100%		
履修上の注意	「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」、および「通訳とプレゼンテーション」を履修中または履修済みであることが望ましい。		

講義科目名称：同時通訳実践演習Ⅱ（Chapel Service）

授業コード：

英文科目名称：Chapel Service Interpretation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～4年	1単位(0-2)	学科選択科目
担当教員			
城間 仙子			
		ナンバリング：INT291	

授業のテーマ及び到達目標	月曜礼拝やキリスト教講演会において同時通訳の実践をする。高度な同時通訳の実践力を備えた人材、また沖繩から平和を作り出す意義を大切にする建学の精神を英語と日本語で適切に表現できる人材になることを目標とする。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、月曜礼拝通訳の実践1	
	第2回	月曜礼拝通訳の実践2	
	第3回	月曜礼拝通訳の実践3	
	第4回	キリスト教講演会通訳	
	第5回	月曜礼拝通訳の実践4	
	第6回	月曜礼拝通訳の実践5	
	第7回	月曜礼拝通訳の実践6	
	第8回	月曜礼拝通訳の実践7	
	第9回	月曜礼拝通訳の実践8	
	第10回	月曜礼拝通訳の実践9	
	第11回	月曜礼拝通訳の実践10	
	第12回	月曜礼拝通訳の実践11	
	第13回	月曜礼拝通訳の実践12	
	第14回	月曜礼拝通訳の実践13	
	第15回	まとめとフィードバック	
授業の概要	前期の月曜礼拝とキリスト教講演会において同時通訳（場合により逐次通訳）を担当する。本学の通訳関連科目で習得できる種々のスキルを総動員して実践に挑戦するとともに、建学の精神を伝える一翼を担う意識をもって臨む。		
予習	配布された資料を研究し、同時通訳に備える		
復習	実際に行ったパフォーマンスを振り返って良かった点、要改善点などを分析する		
テキスト	礼拝プログラムや説教者の原稿、その他の資料（その都度配布します）		
参考書	聖書（日本語、英語）、キリスト教関連資料、その他内容に応じた資料（その都度指定します）		
評価方法・評価基準	礼拝等における通訳実践 100%		
履修上の注意	「同時通訳Ⅰ」または「同時通訳Ⅱ」、および「通訳とプレゼンテーション」を履修中または履修済みであることが望ましい。		

講義科目名称：卒業基礎研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称： -

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年	1単位(0-2)	大学必修科目
担当教員			
仲里・Broudy・新垣 誠・城間・新垣 友子・大城・Valvona・浜川・金・照屋・近藤・玉城・Ul vog・武村			
		ナンバリング：THE390・391	

授業のテーマ及び到達目標	「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」は3年次の学生が履修する科目である。4年次に卒業論文を作成する前段階として、学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得する。各ゼミ担当者の方針により具体的な達成目標に違いはあるものの、例えば、自主的にテーマを定め、先行研究の検討などを行い、ゼミ内で発表・ディスカッションを行う。卒業論文のコアとなるレポートを作成することを達成目標としたい。テーマの選定に関しては、学生の主体性に任せる。ただし、担当教員の指導可能なテーマにすること。
授業計画	卒業基礎研究（演習）の流れ 〔2年次後期〕 ①1月中旬…所属ゼミに関する希望調査 ②3月中旬…所属ゼミの決定 〔3年次前期〕 ゼミナール形式で資料の収集方法、基本的文献の精読、グループ研究、レポート、口頭発表、ディスカッション等によって、当該専門分野の概観、主要な問題点の明確化が行われる。同時に、研究課題の見つけ方、正しい研究手順、論文作成の方法について基本的な知識・技能を身につける。 基本文献を輪読しつつ、全学生が暫定的にでもテーマを定め、テーマ報告ができることを目指したい。 〔3年次後期〕 3年次前期と同様に、論文作成の基本的な知識・技能を身につけると同時に、各学生が中間報告を行い、卒業論文のコアとなるレポートを提出することを目指す。
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、卒業論文を作成するための基礎的な能力を習得する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。また授業は隔週で行われ、各学期8回である。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文のコアとなるレポートを作成することを目標としたい。
予習	指定された論文を熟読すること
復習	指定された論文を、自身の論文に活かすつもりで再読すること
テキスト	各担当教員が提示する。
参考書	『非暴力思想の研究』、『バルメン宣言研究』等
評価方法・評価基準	授業態度：30% 受講者の発表：40% 演習：30%
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。

講義科目名称：社会言語学

授業コード：

英文科目名称：Sociolinguistics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2～3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
新垣 友子			
		ナンバリング：ENG135	

授業のテーマ及び到達目標	英語を社会との関連の中で多面的に理解する。社会に実際に存在する具体的な問題やその背景を把握し、矛盾や問題を認識・解決する姿勢を養う。		
授業計画	第1回	第1章 社会言語学とは何か p. 1-14	言語学と社会言語学（社会言語学は言語学になりうるか、チョムスキー革命、社会と言語） どうして今社会言語学か（日本の社会言語学、社会言語学の「はやり」） 2つの社会言語学（静的アプローチ、動的アプローチ）
	第2回	第2章 言語の選択1-4 p. 15-26	多言語社会、 ダイグロッシア（アラビア語のケース、ポリグロッシア） ドメイン（ドメインの種類、ドメインの限界） 二言語話者とコードスイッチング（外来語とコードウイッチング、日英語のコードスイッチング）
	第3回	第2章 言語の選択5-6 p. 27-46	スイッチングの理由（コードスイッチングしないといけない場合、話の内容が変わる、デュアル・アイデンティティ、利害関係の交渉、どちらの言語にすべきか） 言語規則（Equivalence Constraint, Equivalence Constraintの矛盾, Free Morpheme Constraint, Free Morpheme Constraintの矛盾、文産出からのアプローチ、フレーム/コンテンツ）
	第4回	第2章 言語の選択7-8 p. 47-58	言語の死（オーストラリアでのハンガリー語、アメリカ・インディアン語、スコットランドでのゲール語） 言語の誕生（ハワイのピジン、バイオプログラム） 琉球の言葉の場合
	第5回	第3章 言語のバリエーション1-3 p. 59-74	ウィリアム・ラボフの古典的研究（マーサーズビンヤード島、ニューヨーク市内のデパート） 地域方言（アメリカ英語のケース、米英語だけが英語か） 社会方言（発音と社会方言、三単現s、マッチトガイズ・テクニク、標準英語とスペイン語なまりの英語）
	第6回	第3章 言語のバリエーション4-5 p. 75-90	黒人英語（thatがdatになる、be動詞の規則、多重否定とは？） ジェンダー（男言葉、女言葉、男女の会話のスタイル、どうして女性は丁寧話すのか）
	第7回	第3章 言語のバリエーション6 p. 91-100	年齢と言語（若者は社会的に低いバリエーションを好む、ジョックスとバーンアウト、スラングと若者）
	第8回	第4章 言語とコンテキスト1-2 p. 101-120	オーディエンスデザイン（同じアナウンサーなのに？プレイボーイ誌のインタビュー、聞き手よりも傍聴人？） スピーチアコモデーション（旅行代理店での会話、スピーチ・アコモデーションの種類、ダイバージェンス、アコモデーションの失敗）
	第9回	第4章 言語とコンテキスト3 p. 121-135	ポライトネス・ストラテジー（2つのフェイス、非人称化のストラテジー、どの程度丁寧であるべきか、アドナイスをすることは失礼か、アメリカ人にとっての「ていねい」とは？）
	第10回	第4章 言語とコンテキスト4 p. 136-144	力と仲間意識（tuとvous、力と仲間意識の関係、沖縄語における代名詞）
	第11回	第5章 社会言語学とその周辺 1-2 p. 145-161	

	<p>法律と言葉(社会階級と被告人、ノンネイティブの被告人、売春婦に話しかける言葉、よくわからないお役所文書) 精神療法の英語(文法を相手と同じにする、2人で1つの文を作り上げる、相手の言ったことを繰り返す) 第5章 社会言語学とその周辺 3 p. 161-171</p> <p>セクシスト・ランゲージ(男性が主語出、女性は目的語?、男性ガリードし、女性がしたがう?、男女のステレオタイプ、アメリカ言語学会のガイドライン、言語学の「伝統」) 第5章 社会言語学とその周辺 4 p. 172-195</p> <p>異文化コミュニケーション(コンテキストの型、「気がきく」は高コンテキスト?、世界の文化とコンテキストの型、行政指導、沈黙は美德?、アサバスカ族のコミュニケーション・スタイル、リダクション原理、エスキモー語には雪を表す言葉が400もある?) 第5章 社会言語学とその周辺 5 p. 195-206</p> <p>言語政策: アメリカでの公用語運動(国語と公用語、アメリカの公用語はなに?、プロポジション63、英語オンリーか、英語プラスか) まとめ これまで学んできた社会言語学の知識を用いて、琉球諸語復興のためにできること。</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	言語構造としての英語ではなく、英語をとりまく地域、世代、性別、職業、民族性など様々な背景と英語との相関関係を社会言語学的な観点から概観する。国際化とともに変移する英語の社会的立場や他の言語との関係など、英語に特化したテーマに加えて、言語の多様性や言語権など言語と社会をどう捉えるか学際的研究の動向を学ぶ。
予習	決められた範囲を熟読し、要点や質問事項をノートにまとめてくる。
復習	返却された理解チェックプリントの確認。
テキスト	『社会言語学入門』(2009 改訂版) 東照二 著 研究社
参考書	なし
評価方法・評価基準	期末試験: 90%、授業態度(または提出物)10%、
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に臨む意志がある人のみ受講すること。(居眠りや私語がひどい場合は退席もありうる。) 必ず宿題を済ませて授業にのぞむこと。 テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。

講義科目名称：教育英文法

授業コード：

英文科目名称：Pedagogical Grammar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	学科選択科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：ENG230	

授業のテーマ及び到達目標	英文法の文法規則についての理解を深め、その知識を基に文法指導力を身につけることが、本講義の到達目標である。確かな文法知識を習得し、文法規則を分かりやすく伝える説明力を養い、さらに、効果的な言語活動を計画・実践する授業運営力の獲得を目指す。		
授業計画	第1回	講義概要説明／なぜ文法を教えるのかー文法指導の意義ー	
	第2回	学校英文法（1）	
	第3回	学校英文法（2）	
	第4回	文法指導における教材研究	
	第5回	文法指導の流れと留意点	
	第6回	文法指導における導入の実際	
	第7回	文法指導における説明の実際	
	第8回	文法指導における練習の実際（1）	
	第9回	文法指導における練習の実際（2）	
	第10回	文法指導における活動の実際（1）	
	第11回	文法指導における活動の実際（2）	
	第12回	マイクロティーチング①	
	第13回	マイクロティーチング②	
	第14回	マイクロティーチング③	
	第15回	マイクロティーチング④	
授業の概要	外国語として英語を学ぶ環境（EFL環境）においては、英文法の学習は不可欠であり、効果的な文法指導力が教師には求められる。本講義では、中学・高校で扱う文法項目から主要なものを取り上げ、宣言的知識の獲得を視野に入れ、文法規則についての理解を深める。また、帰納的な導入の仕方や、分かりやすい説明の仕方についても実例を交えながら考究する。さらに、文法形式の定着を図るエクササイズや文法事項の活用を図るタスクの計画及び実施のあり方についても、実践的な演習やマイクロティーチングを通して理解を深め、指導技術を高める。		
予習	テキストに事前に目をとおす（課題がある場合は、課題に取り組む）		
復習	授業ハンドアウトの見直しやテキストの再読（課題がある場合は、課題に取り組む）		
テキスト	「英語教師のための文法指導デザイン」（大修館書店）		
参考書	「新しい英文法指導アイデアワーク」（明治図書）		
評価方法・評価基準	課題（指導案、レポート）、マイクロティーチング、授業への貢献度等を総合的に判断する。		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻：①遅刻3回は1回の欠席となる。②20分以上の遅刻は、欠席となる。 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をとおす。 		

講義科目名称：英語講読演習 I

授業コード：

英文科目名称：English Reading I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
玉城 要			
		ナンバリング：ERE110	

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 Mysteries A Have Aliens Visited Us?	
	第2回	Unit 1 Mysteries A Have Aliens Visited Us? B The Lost City of Atlantis	
	第3回	Unit 1 Mysteries B The Lost City of Atlantis	
	第4回	Unit 2 Favorite Foods A The History of Pizza	
	第5回	Unit 2 Favorite Foods A The History of Pizza B The Hottest Chilies	
	第6回	Unit 2 Favorite Foods B The Hottest Chilies	
	第7回	Unit 3 Cool Jobs A Training Grizzlies	
	第8回	Unit 3 Cool Jobs A Training Grizzlies B Getting the Shot	
	第9回	Unit 3 Cool Jobs B Getting the Shot	
	第10回	Unit 4 Shipwrecks A I've Found the Titanic!	
	第11回	Unit 4 Shipwrecks A I've Found the Titanic! B Treasure Ship	
	第12回	Unit 4 Shipwrecks B Treasure Ship	
	第13回	まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4	
	第14回	Unit 5 Science Investigators A At the Scene of a Crime	
	第15回	Unit 5 Science Investigators B The Disease Detective	
	第16回	Unit 6 Explorers and Pinoneers A Who Was Sacagawea?	
	第17回	Unit 6 Explorers and Pinoneers B Polar Pioneer	
	第18回	Unit 7 Mind's Eye A The Meaning of Dreams	
	第19回	Unit 7 Mind's Eye B Seeing the Impossible	
	第20回	Unit 8 Animal Wonders A A Penguin Family	
	第21回	Unit 8 Animal Wonders B Do Animals Laugh?	
	第22回	まとめと小テスト Unit 5 ~ Unit 8	
	第23回	Unit 9 Incredible Domes A A Love Poem in Stone	
	第24回	Unit 9 Incredible Domes B The Great Dome of Florence	

	第25回 Unit 10 Wild Weather A A Warming World 第26回 Unit 10 Wild Weather B Freaky Forces of Nature 第27回 Unit 11 Giants of the Past A The Mammoth's Tale 第28回 Unit 11 Giants of the Past B Sea Monsters 第29回 Unit 12 Technology A The Robots Are Coming! 第30回 Unit 12 Technology B How Will We Live in 2035? 第31回 まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカーの感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 準2級、TOEIC ~290
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading Explorer Foundations Second Edition (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	講読の中ではもっともベーシックな内容なので、しっかり理解に努めよう。

講義科目名称：英語講読演習Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
砂川 真紀・レイフィールド 典子			
		ナンバリング：ERE111	

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 Amazing Animals A The Incredible Dolphin	
	第2回	Unit 1 Amazing Animals A The Incredible Dolphin B Musical Elephant	
	第3回	Unit 1 Amazing Animals B Musical Elephant	
	第4回	Unit 2 Travel and Adventure A The Trip of a Lifetime	
	第5回	Unit 2 Travel and Adventure A The Trip of a Lifetime B Adventure Island	
	第6回	Unit 2 Travel and Adventure B Adventure Island	
	第7回	Unit 3 The Power of Music A Hip-Hop Planet	
	第8回	Unit 3 The Power of Music A Hip-Hop Planet B A Musical Boost	
	第9回	Unit 3 The Power of Music B A Musical Boost	
	第10回	Unit 4 Into Space A Life beyond Earth?	
	第11回	Unit 4 Into Space A Life beyond Earth? B Living in Space	
	第12回	Unit 4 Into Space B Living in Space	
	第13回	まとめと小テスト Unit 1～Unit 4	
	第14回	Unit 5 City Life A Global Cities	
	第15回	Unit 5 City Life B Rio Reborn	
	第16回	Unit 6 Small Worlds A In One Cubic Foot	
	第17回	Unit 6 Small Worlds B A World within Us	
	第18回	Unit 7 When Dinosaurs Ruled A The Truth about Dinosaurs	
	第19回	Unit 7 When Dinosaurs Ruled B Mystery of the Terrible Hand	
	第20回	Unit 8 Stories and Storytellers A The Brothers Grimm	
	第21回	Unit 8 Stories and Storytellers B The Tale of the Seven Ravens	
	第22回	まとめと小テスト Unit 5～Unit 8	
	第23回	Unit 9 Unusual Jobs A Meet the Meteorite Hunter	
	第24回	Unit 9 Unusual Jobs B Smoke jumpers	

	第25回 Unit 10 Uncovering the Past A The Army's True Colors 第26回 Unit 10 Uncovering the Past B Wonders of Egypt 第27回 Unit 11 Legends of the Sea A Pirates: Romance and Reality 第28回 Unit 11 Legends of the Sea B Women of the Waves 第29回 Unit 12 Vanished! A Mystery on Everest 第30回 Unit 12 Vanished! B The Missing Pilot 第31回 まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカーの感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 準2級~2級、TOEIC 290~380
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading Explorer 1 Second Edition (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	講読の中では基本的な内容なので、しっかり理解に努めよう。

講義科目名称：英語講読演習Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Reading Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
平塚 貴晶・南 有規子・レイフィールド 典子			
		ナンバリング：ERE112	

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 A Sweet Love	
	第2回	Unit 1 A&B Sweet Love Food for the Future	
	第3回	Unit 1 B Food for the Future	
	第4回	Unit 2 A Song of the Humpback	
	第5回	Unit 2 A&B Song of the Humpback Dogs in a Human World	
	第6回	Unit 2 B Dogs in a Human World	
	第7回	Unit 3 A Was King Tut Murdered?	
	第8回	Unit 3 A&B Was King Tut Murdered? Who Killed the Iceman?	
	第9回	Unit 3 B Who Killed the Iceman?	
	第10回	Unit 4 A Bride of the Sahara	
	第11回	Unit 4 A&B Bride of the Sahara The Changing Face of King Fu	
	第12回	Unit 4 B The Changing Face of King Fu	
	第13回	まとめと小テスト Unit 1～Unit 4	
	第14回	Unit 5 A Under Paris	
	第15回	Unit 5 B New York's Underside	
	第16回	Unit 6 A Cities Beneath the Sea	
	第17回	Unit 6 B The Truth about Great Whites	
	第18回	Unit 7 A The Flower Trade	
	第19回	Unit 7 B The Power of Perfume	
	第20回	Unit 8 A Marco Polo in China	
	第21回	Unit 8 B The Travels of Ibn Battuta	
	第22回	まとめと小テスト Unit 5～Unit 8	
	第23回	Unit 9 A The Teenage Brain	
	第24回	Unit 9 B Seeing Double	

	第25回 Unit 10 A The Big Thaw 第26回 Unit 10 B Last Days of the Ice Hunters 第27回 Unit 11 A Army Ants 第28回 Unit 11 B Unexpected Beauty 第29回 Unit 12 A The Dream of Flight 第30回 Unit 12 B Dark Descent 第31回 まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 準2級~2級、TOEIC 380~460
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading Explorer 2 Second Edition (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	初めての単語やすこし長めのセンテンスなど、繰り返し学習し定着を図ろう。

講義科目名称：英語講読演習Ⅳ

授業コード：

英文科目名称：English Reading IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
山内 淳・崎原 千尋・宮平 勝行			

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run	
	第2回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run	
	第3回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 1 A Natural Way to Run Reading 2 The Runner's High	
	第4回	Unit 1 THE BODY IN MOTION Reading 2 The Runner's High	
	第5回	Unit 2 TIME Reading 1 Spring Forward, Fall Back	
	第6回	Unit 2 TIME Reading 1 Spring Forward, Fall Back Reading 2 In Search of an Accurate Calendar	
	第7回	Unit 2 TIME Reading 2 The Bottled-Water Debate	
	第8回	Unit 3 WATER Reading 1 Extreme Diving	
	第9回	Unit 3 WATER Reading 1 Extreme Diving Reading 2 Disaster Tourism	
	第10回	Unit 3 WATER Reading 2 Disaster Tourism	
	第11回	まとめと小テスト Unit 1～Unit 3	
	第12回	Unit 4 TRAVEL Reading 1 Extreme Diving	
	第13回	Unit 4 TRAVEL Reading 1 Extreme Diving Reading 2 Disaster Tourism	
	第14回	Unit 4 TRAVEL Reading 2 Disaster Tourism	
	第15回	Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS Reading 1 Humans and Cattle: A Shared History	
	第16回	Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS Reading 1 Humans and Cattle: A Shared History Reading 2 Taming the Wild	
	第17回	Unit 5 ANIMAL-HUMAN RELATIONSHIPS Reading 2 Taming the Wild	
	第18回	Unit 6 ARCHITECTURE Reading 1 Safer Homes in Earthquake Zones	
	第19回	Unit 6 ARCHITECTURE Reading 1 Safer Homes in Earthquake Zones Reading 2 Urban Architecture in the 21st century	
	第20回	Unit 6 ARCHITECTURE Reading 2 Urban Architecture in the 21st century	
	第21回	まとめと小テスト Unit 4～Unit 6	
	第22回	Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 1 Sibling Personalities	
	第23回	Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 1 Sibling Personalities Reading 2 Epigenetics	

	第24回 Unit 7 GENETICS AND THE ENVIRONMENT Reading 2 Epigenetics 第25回 Unit 8 INVENTIONS Reading 1 The Golden Age of Islamic Invention 第26回 Unit 8 INVENTIONS Reading 1 The Golden Age of Islamic Invention Reading 2 Origami: The Practical Applications of a Familiar Art 第27回 Unit 8 INVENTIONS Reading 2 Origami: The Practical Applications of a Familiar Art 第28回 Unit 9 ROBOTICS Reading 1 Robots to the Rescue 第29回 Unit 9 ROBOTICS Reading 1 Robots to the Rescue Reading 2 Humanoids 第30回 Unit 9 ROBOTICS Reading 2 Humanoids 第31回 まとめと小テスト Unit 7 ~ Unit 9
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とヴィジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 2級~準1級、TOEIC 460~530
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading and Vocabulary Focus 3 (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	耳慣れない単語や複雑なセンテンスなど、あきらめず学習し知識の定着を図ろう。

講義科目名称：英語講読演習 V

授業コード：

英文科目名称：English Reading V

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
浜川 仁・渡久山 幸功・玉城 要・宮平 勝行・崎原 千尋			
		ナンバリング：ERE214	

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 Sports and Fitness A The world's Game	
	第2回	Unit 1 Sports and Fitness A The world's Game B What Makes an Olympic Champion?	
	第3回	Unit 1 Sports and Fitness B What Makes an Olympic Champion?	
	第4回	Unit 2 Skin Deep A What is Beauty?	
	第5回	Unit 2 Skin Deep A What is Beauty? B Skin: The Body's Canvas	
	第6回	Unit 2 Skin Deep B Skin: The Body's Canvas	
	第7回	Unit 3 Animals in Danger A Dangerous Journey	
	第8回	Unit 3 Animals in Danger A Dangerous Journey B Tracking the Snow Leopard	
	第9回	Unit 3 Animals in Danger B Tracking the Snow Leopard	
	第10回	Unit 4 Violent Earth A Sacred Mountains	
	第11回	Unit 4 Violent Earth A Sacred Mountains B Earthquake Zones	
	第12回	Unit 4 Violent Earth B Earthquake Zones	
	第13回	まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4	
	第14回	Unit 5 Islands and Beaches A The Perfect Beach	
	第15回	Unit 5 Islands and Beaches B Land of Fire and Ice	
	第16回	Unit 6 Success and Failure A The Nature of Risk	
	第17回	Unit 6 Success and Failure B The Rewards of Failure	
	第18回	Unit 7 Global Addictions A Caffeine: The World's Favorite Drug	
	第19回	Unit 7 Global Addictions B Powering the Future	
	第20回	Unit 8 Epic Engineering A China's Grand Canal	
	第21回	Unit 8 Epic Engineering B Peru's Highway of Dreams	
	第22回	まとめと小テスト Unit 5 ~ Unit 8	
	第23回	Unit 9 Far Out A Defying Gravity	
	第24回	Unit 9 Far Out B The Ultimate Trip	

	第25回 Unit 10 All in the Mind A What's in Your Mind? 第26回 Unit 10 All in the Mind B Inside Animal Minds 第27回 Unit 11 Art and Life A The Power of Color 第28回 Unit 11 Art and Life B Van Gogh's World 第29回 Unit 12 Medical Challenges A A Cure for Cancer? 第30回 Unit 12 Medical Challenges B Deadly Contact 第31回 まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 2級～準1級、TOEIC 530～590
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading Explorer 3 Second Edition (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	文章の難易度が高く、学習量も多い。予習を心がけよう。

講義科目名称：英語講読演習VI

授業コード：

英文科目名称：English Reading VI

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
レイフィールド 典子・小久保 由紀			
		ナンバリング：ERE215	

授業のテーマ及び到達目標	テキストの精読を通し、論説文の内容を的確・詳細に理解する能力を養う。		
授業計画	第1回	Unit 1 The Power of Image A: The Visual Village	
	第2回	Unit 1 The Power of Image A: The Visual Village B: My Journey in Photographs by Annie Griffiths	
	第3回	Unit 1 The Power of Image B: My Journey in Photographs by Annie Griffiths	
	第4回	Unit 2 Love and Attraction A: Love: A chemical Reaction?	
	第5回	Unit 2 Love and Attraction A: Love: A chemical Reaction? B: Feathers of Love	
	第6回	Unit 2 Love and Attraction B: Feathers of Love	
	第7回	Unit 3 Food and Health A: How Safe is Our Food?	
	第8回	Unit 3 Food and Health A: How Safe is Our Food? B: Genetically Modified Foods	
	第9回	Unit 3 Food and Health B: Genetically Modified Foods	
	第10回	Unit 4 Design and Engineering A: Design by Nature; Biomimetics	
	第11回	Unit 4 Design and Engineering A: Design by Nature; Biomimetics B: The Future of Fashion: Dreamweavers	
	第12回	Unit 4 Design and Engineering B: The Future of Fashion: Dreamweavers	
	第13回	まとめと小テスト Unit 1 ~ Unit 4	
	第14回	Unit 5 Human Journey A: The DNA Trail	
	第15回	Unit 5 Human Journey B: Fantastic Voyage	
	第16回	Unit 6 Conservation Challenges A: Racing to Rescue Koalas	
	第17回	Unit 6 Conservation Challenges B: For the Love of Elephants	
	第18回	Unit 7 Ritual Lives A: A Crowd in Harmony	
	第19回	Unit 7 Ritual Lives B: Why We Celebrate	
	第20回	Unit 8 Investigations A: Who Killed the Emperor?	
	第21回	Unit 8 Investigations B: In the Lab with Marcella and Alphonse	
	第22回	まとめと小テスト Unit 5 ~ Unit 8	
	第23回	Unit 9 Rediscovering the Past A: Virtually Immortal	
	第24回	Unit 9 Rediscovering the Past B: In Search of Genghis Khan	

	第25回 Unit 10 Earth and Beyond A: Black Holes 第26回 Unit 10 Earth and Beyond B: The Threat from Space 第27回 Unit 11 Green Concerns A: Water Worries 第28回 Unit 11 Green Concerns B: Technology as Trash 第29回 Unit 12 Living Longer A: Genes, Health, and Lifespan 第30回 Unit 12 Living Longer B: In Search of Longevity 第31回 まとめと小テスト Unit 9 ~ Unit 12
授業の概要	使用する教材は National Geographic チャンネルの番組をもとに作成されており、ネイティブ・スピーカー特有の感性とビジョンが伝わってくる。世界の歴史、遺産、医学、科学技術の先端、環境問題など、幅広い分野における英文の読解能力と理解力が高まるだろう。テキスト、音声教材、視覚教材を駆使して実力UPを図る。 英語検定試験 (STEP) 準1級以上、TOEIC 640~
予習	学習予定 Unit のリーディングに一通り目を通し、重要単語の意味を調べておく。
復習	MyELT 等を利用し、履修済箇所の単語及び文章を見直す。
テキスト	Reading Explorer 4 Second Edition (HEINLE, CENGAGE Learning)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法・評価基準	テスト60%、課題40%
履修上の注意	文章の難易度はかなり高く、学習量も非常に多い。予習を心がけよう。

講義科目名称：英文法・英作文I

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Composition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
村田 典枝			
		ナンバリング：EWR110	

授業のテーマ及び到達目標	文法の基礎を習得し、短い英文を書く力を養う。
授業計画	<p>第1回 Introduction&時制（現在）Unit 1-9</p> <p>第2回 時制（過去、現在完了）Unit10-21</p> <p>第3回 受動態、動詞、時制（未来）Unit22-29</p> <p>第4回 助動詞、命令系Unit30-37</p> <p>第5回 There, it, 助動詞 Unit38-44</p> <p>第6回 疑問、話法 Unit45-51</p> <p>第7回 準動詞 Go, get, do, make and have, Unit52-59</p> <p>第8回 Review（中間）</p> <p>第9回 代名詞、所有、冠詞Unit60-74</p> <p>第10回 限定詞、代名詞 Unit75-85</p> <p>第11回 形容詞、副詞 Unit86-93</p> <p>第12回 語順、前置詞 Unit94-103</p> <p>第13回 前置詞、群動詞 Unit104-111</p> <p>第14回 接続詞、句 Unit111-116</p> <p>第15回 Review</p> <p>第16回 Final exam</p>
授業の概要	英文法のもっとも基礎的な科目である。英文法の基本事項を復習し、英語を話し、聞き、読み、書く能力の基礎を習得する。短い英文が書けるようにする。
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答する。
復習	間違った問題を再度解いて確認する。
テキスト	Raymond Murphy(著)渡辺雅仁、田島祐規子(訳)(2006)『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』Cambridge
参考書	『総合英語Forest』石黒昭博(監) 桐原書店
評価方法・評価基準	中間・期末試験(80%)、小テスト(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。 大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 積極的に授業に参加して質問すること。

講義科目名称：英文法・英作文Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Composition Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
赤嶺 ゆかり・山内 淳・村田 典枝			
		ナンバリング：EWR111	

授業のテーマ及び到達目標	身につけた能力を活用して、簡単な質問とそれに対する回答、短い伝言、報告、依頼、指示等の実際的な場面に必要とされる英文が書けるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 Introduction & Tense (Present), Unit 1-9</p> <p>第2回 Tense (Past & Present Perfect), Unit 10-21</p> <p>第3回 Passive, Verb Forms & Tense (Future), Unit 22-29</p> <p>第4回 Modals & Imperatives, Unit 30-37</p> <p>第5回 There, it & Auxiliary Verbs, Unit 38-44</p> <p>第6回 Questions & Reported Speech, Unit 45-51</p> <p>第7回 -ing and to..., & Go, get, do, make and have, Unit 52-59</p> <p>第8回 まとめ〈中間〉</p> <p>第9回 Pronouns, Possessives & a, the, Unit 60-74</p> <p>第10回 Determiners and Pronouns, Unit 75-85</p> <p>第11回 Adjective & Adverbs, Unit 86-93</p> <p>第12回 Word Order & Prepositions, Unit 94-103</p> <p>第13回 Prepositions & Two-word Verbs, Unit 104-111</p> <p>第14回 Conjunctions & Clauses, Unit 111-116</p> <p>第15回 Review</p> <p>第16回 Final exam</p>
授業の概要	中学校・高等学校(または英文法・英作文Ⅰ)で学んだ事を基礎にして、英文法の基本的事項全般を復習する。正しい英文を書く能力を身につけるよう各文法項目に対する総合的な理解を深める。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。
予習	決められた章の問題を解き、授業が始まる前までに各自解答する。
復習	授業で解説された文法事項を確認しながら、間違った問題を再度解く。
テキスト	Raymond Murphy, "Basic Grammar in Use", Cambridge University Press
参考書	特になし
評価方法・評価基準	期末試験(80%)、小テスト・課題(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。

講義科目名称：英文法・英作文Ⅲ

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Composition Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣 友子・赤嶺 ゆかり・山内 淳			
		ナンバリング：EWR112	

授業のテーマ及び到達目標	文法事項の全体的な確認と、短い叙述文、説明文、要約等が書けるようになることを目標とする。		
授業計画	第1回	イントロダクション、1-14 present continuous, present simple	
	第2回	15-32 present continuous & present simple, past continuous & past simple	
	第3回	33-49 present & past, simple and continuous, present perfect	
	第4回	50-60 present, present perfect & past, passive, verb forms	
	第5回	61-74 future(present tenses, will/shall, future forms)	
	第6回	75-85 might, can & could, must, should	
	第7回	86-94 have to, Imperatives, used to, there & it	
	第8回	Review, 95-105 auxiliary verbs, questions	
	第9回	106-120 indirect questions, doing, do, to do, causative verbs	
	第10回	121-136 pronouns & possessives, singular & plural	
	第11回	137-147 determiners (some, any, no, none, every all, etc.)	
	第12回	148-159 determiners (both, either, neither, a lot, much, many), comparatives	
	第13回	160-171 enough, too, word order, conjunctions, subjunctives	
	第14回	172-183 relative clause, prepositions of time	
	第15回	172-183 relative clause, prepositions of time	
	第16回	184-185, phrasal verbs, Final exam	
授業の概要	英文法・英作文Ⅱで学んだことを基礎にして、英文法の重要事項の再確認を行う。正しい英文を書く能力を定着させるよう徹底した文法演習を行う。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。		
予習	書く文法項目を確認しながら、決められた章の問題を解いてくる。		
復習	間違った問題を再度解いて確認する。		
テキスト	Helen Naylor "Essential Grammar in Use Supplementary Exercises" Cambridge		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、小テスト・課題(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、積極的に授業に参加すること。 大量に宿題を出すので、各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 		

講義科目名称：英文法・英作文IV

授業コード：

英文科目名称：English Grammar and Writing IV

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1～2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
新垣 友子・上里 博美・山城 莉乃・スミス 陽子・赤嶺 ゆかり			
		ナンバリング：EWR113	

授業のテーマ及び到達目標	短い叙述文、説明文、要約等をスムーズに書けるようになることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン、Unit1 動詞</p> <p>第2回 Unit2 進行形・未来形・助動詞</p> <p>第3回 Unit3 名詞・冠詞・代名詞</p> <p>第4回 Unit4 前置詞・接続詞（I）</p> <p>第5回 Unit5 形容詞・副詞と比較</p> <p>第6回 Unit6 命令文・感嘆文</p> <p>第7回 Unit7 不定詞</p> <p>第8回 Unit8 動詞と分詞、Review（Unit1-8）</p> <p>第9回 Unit9 各種疑問文・Itの特別用法</p> <p>第10回 Unit10 受動態</p> <p>第11回 Unit11 完了形</p> <p>第12回 Unit12 接続詞（II）</p> <p>第13回 Unit13 5つの基本文型</p> <p>第14回 Unit14 仮定法</p> <p>第15回 Unit15 関係代名詞、Review（Unit 9-15）</p> <p>第16回 Final exam</p>
授業の概要	英文法・英作文IIIで学んだことを基礎にして、文法事項の再確認及び徹底した作文演習を通して、正しい英文を書く能力を定着させる。作文能力の向上に加え、書くスピードも養う。自分の書いた英文を発表する機会を出来るだけ多くする。
予習	決められた章の文法事項を確認し、問題を解いてくる。
復習	授業で提示された解答を参考に、再度英文を作る。授業で解説した文法内容も再確認する。
テキスト	“Primer for English Writing” Tetsuzo Sato, Yukari Aiko, Teruo Shindo NAN’ UN-DO
参考書	特になし。
評価方法・評価基準	定期試験(80%)、小テスト(10%)、授業への参加度(10%)などを総合して評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を持参し、毎回必ず予習を済ませてから、授業に参加すること。 ・各自の責任で宿題をする時間を確保すること。 ・積極的に授業に参加して質問すること。

講義科目名称 : English Composition I

授業コード :

英文科目名称 : English Composition I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
砂川 真紀・小久保 由紀・高橋 日向子			
		ナンバリング : EWR201	

授業のテーマ及び到達目標	Composition instructors use a wide variety of approaches to help students raise their awareness and understanding of sentence-level grammar and meaning. The principal goals in this basic writing course are to encourage the development of explicit awareness of and skill in writing sentences and paragraphs, and how coherence and cohesion can be achieved within the paragraph. Liberal practice with grammatical structures aims to help students see and understand the relationship between meaning and syntax.		
授業計画	第1回	<p>Introductions / syllabus / writing process / generating and organizing</p> <p>HO and discuss copy of syllabus</p> <p>-discuss hyoka-ho-u ? percentages for grades</p> <p>-do my self-introduction</p> <p>HO1 Interviewing Others</p> <p>-students pair up and interview each other in order to introduce his or her fellow student</p>	
	第2回	<p>Lecture 1 / exercises / mind-mapping / outlining</p> <p>-launch pptx 1 SEMANTICS</p> <p>-discuss differences among semantics, syntax, and mechanics.</p> <p>-discuss benefits of initially dispensing with these rules</p> <p>-discuss meaning and its embodiment in nouns and verbs</p> <p>HO2 PHRASE FIND</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>HO3 Day 3 Homework</p>	
	第3回	<p>Lecture 2 / identifying subjects-verbs / modifiers / phrase structures</p> <p>Small groups (pair work)</p> <p>HO 3.5</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>-finish the homework.</p> <p>-look for connections among the phrases</p>	
	第4回	<p>Lecture 3 / exercises to reinforce Weeks 1-3 content /reviews</p> <p>-launch pptx 2 CHAOS</p> <p>HO 3.6</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>-finish connecting the phrases at home and bring it to the next class.</p>	
	第5回	<p>Writers' workshop 1</p> <p>HO4 Sample Poem</p> <p>Workshop 1 for their poem (pair work)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>-finish working on the poem</p>	
	第6回	<p>Peer editing 1</p> <p>Collect their poems</p> <p>Small groups (pair work)</p> <p>HO5 PHRASE EXERCISE</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Finish connecting the phrases</p>	
	第7回	<p>Lecture 4 / relative clauses / conjunctions / connectors</p> <p>-launch pptx 3 SUPERQUEEN</p> <p>Small groups (pair work)</p> <p>HO6 A POSSIBLE POEM from the phrase exercise</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>HO7 BUILDING YOUR POEM</p>	
	第8回	<p>Paragraph coherence / in-class editing exercises</p> <p>Small groups (pair work)</p> <p>Workshop 2 for their poem (pair work)</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Remind students of the upcoming Quiz</p>	
	第9回	<p>Quiz 1</p> <p>QUIZ 1 Making Poetic Connections</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Make a copy of your poem for each member of the group.</p>	
	第10回	<p>Exercises to reinforce Weeks 6-9 content / reviews / prepare for next week presentations</p> <p>Small groups (pair work)</p> <p>-HO8 A POSSIBLE PIECE OF PROSE</p> <p>-launch pptx 4 Possible Prose</p> <p>HO9 Developing the Story</p> <p>H O M E W O R K:</p> <p>Remind students of upcoming Quiz</p>	

第11回	Bring two copies of your story to the next class for Workshop 3 Writers' workshop 2 return QUIZ 1 Workshop 3 in small groups Students compare their work to their classmates' and give peer feedback -Printout and submit your final version of your poem for grading H O M E W O R K: Practice delivering poems for the Performance Poetry Reading for the next class Continue expanding your writing into a more coherent story Be aware of the quiz "Making Prose Connections"
第12回	Performances 1 Performance Poetry Reading
第13回	Performances 2 Performance Poetry Reading H O M E W O R K: Continue to work on expanding your story
第14回	Exercises to reinforce Weeks 11-13 content /reviews / prepare for essay for next week Workshop 4 for stories Remind students of Quiz 2 H O M E W O R K: Practice developing your story to prepare for Quiz 2
第15回	Quiz 2 Collect and mark stories Quiz 2 Making Prose Connections
第16回	Student presentations of prose and/or poetics Give credit to students for their work Return marked stories Workshop 5 for stories H O M E W O R K: Continue to work on expanding your story
第17回	Writers' workshop 3 Return marked quizzes Workshop for stories H O M E W O R K: Bring a copy of your latest story to the next class for the Performance Readings
第18回	Paragraph cohesion / in-class editing exercises Discuss the different phrases Launch pptx 5 PHRASES H010 Vivid Phrase Exercise
第19回	Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week H011 Phrase Identification Exercise Launch pptx 6 PHRASE IDENTIFICATION ANSWERS Review concepts of vivid imagery ? put some examples on the board. Small group work H0 tabloid newsprint (bring to class) H O M E W O R K: Keep the story you' re working on and return with it and the new phrases for the next meeting Remind students of Exam
第20回	Exam 1 Exam
第21回	Writers' workshop 4 Workshop Weave new phrases into existing story
第22回	Writers' workshop 5 Workshop Weave new phrases into existing story
第23回	Small-groups Performances Small-group performance readings for prose H011.5 Peer Review Feedback Give peer feedback
第24回	Peer editing Small-group performance readings for prose H011.6 Group Performance Grading Give peer feedback
第25回	Lecture 6 / exercises launch pptx 7 Expanding Meaning with Modifiers H012 Expanding Meaning with Modifiers H O M E W O R K: H013 Expanding Meaning
第26回	Lecture 7 launch pptx 8 Description Exercise H014 Description Exercise Small groups
第27回	Writers' workshop 6

	<p>-in-class final editing for Poems or Stories to be performed</p> <p>第28回 Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week -Performance Readings</p> <p>第29回 Student presentations in prose and/or poetics / prepare for essay for next week -Performance Readings</p> <p>第30回 Reviews / Exam HO Term Review HO EC1 Semester Review (in Japanese and English) -HO Term Review (summary of PowerPoint presentation) -launch pptx 9 SEM REVIEW Exam</p>
授業の概要	This is an elementary course providing an introduction to the basic principles of developing meaning in sentences and longer passages. Students are introduced to techniques for generating and arranging phrases or other grammatical structures to create sentence-level meaning. Students may be required to practice in class with various structures to develop skills in sentence-level drafting. Students will develop the necessary knowledge and skills in revising and editing which they can use in more advanced writing courses.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	<p>Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation.</p> <p>Poem 20% Quizzes 20% Participation 20% Story 20% Exams 20%</p>
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	4単位(0-4)	学科選択必修科目
担当教員			
Daniel Broudy・Robert Duckworth・Peter Wodarz			
ナンバリング : EWR202			

授業のテーマ及び到達目標	Composition instructors use a variety of methods to help students develop as practitioners and editors of their own writing. Central goals in this writing course are to develop explicit awareness of and skill in writing essays, to sustain an argument, to describe and/or define a problem, and to integrate the perspectives of others into the argument as support for the writer's main points. Liberal practice in the development of introductions and conclusions, of topics within body paragraphs, and paragraph cohesion across a full essay is also stressed.
授業計画	<p>第1回 Introductions / syllabus / writing process / generating and organizing introductions review syllabus H0 Interviewing Others HOMEWORK: read H01 Potential Topics</p> <p>第2回 Small-group discussion think of one subject or current issue that really interests you small group discussions of issues H02 Spotting && Defining Keywords HOMEWORK: H03 Defining Key Terms read the chapter for discussion during the next meeting</p> <p>第3回 Lecture 1 -launch definition.ppt small group discussion of the chapter and exercises on pages 2-3 H04 Definition Essay Example HOMEWORK: read H05 An Outline of the Writing Process Begin drafting your definition essay, one page, for a writers' workshop on Day 6</p> <p>第4回 Lecture 2 -launch word-image-brainstorm.ppt work in groups of two or three read H06 Pre-writing Exercise</p> <p>第5回 Pre-writing small-group discussions of Pre-writing Exercise the members of each group will share with the class the results of their exercise HOMEWORK: read H07 Theses && Persuasion (be prepared to discuss chapter for Day 7)</p> <p>第6回 Writers' workshop 1 writers' workshop for the Definition Essay HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting</p> <p>第7回 Lecture 3 submit first draft of Definition Essay for assessment review H07 Theses && Persuasion small group discussions of exercises A and B on pages 9 - 10 -launch Thesis or Not.ppt HOMEWORK: read H08 Brainstorm to Essay</p> <p>第8回 Brainstorming small group work discuss H08 Brainstorm to Essay discuss H09 Assertion && Thesis Exercise HOMEWORK: read H010 Guidance for Outline think of topic that interests you, brainstorm ideas, and create an outline for Day 9</p> <p>第9回 Writers' workshop 2 return Definition Essay with comments small group work (in-class editing of outlines) HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting read H011 Pronoun Problems and do the exercise for Day 10</p> <p>第10回 Lecture 4 review and discuss pronoun usage -launch Pronoun.ppt print out and submit your outlines for comments HOMEWORK:</p>

第11回	study for Quiz 1 on pronoun reference Quiz 1 Quiz return outlines with comments HOMEWORK: prepare for writers' workshop during next class
第12回	Writers' workshop 3 writers' workshop begin developing outlines into persuasive essays
第13回	Writers' workshop 4 return Quiz 1 writers' workshop continued HOMEWORK: read H012 Cleft Constructions and do the exercise for Day 14
第14回	Lecture 5 -launch Devising Theses.ppt H013 Devising Theses
第15回	Lecture 6 review and discuss chapter on H012 Cleft Constructions -launch Cleft.ppt HOMEWORK: study for Quiz 2 on cleft constructions
第16回	Quiz 2 Quiz submit final draft of Definition Essay for grading HOMEWORK: bring a first draft of your persuasive essay to the following class
第17回	Writers' workshop 5 in-class editing session for persuasive essays submit first draft of persuasive essay for grading
第18回	Lecture 7 return Quiz 2 -launch Misplaced Modifiers.ppt H014 Quick Check H014.5 Misplaced Modifiers HOMEWORK: H0 Outline of Presentations (prepare for presentations on Days 20 & 21)
第19回	Lecture 8 H016 Chapter Subject Verb Agreement -launch Subject Verb Agreement.ppt exercises in H017 Subject-Verb Agreement exercises in mechanics
第20回	Presentations 1 presentations of papers
第21回	Presentations 2 presentations of papers HOMEWORK: finish revising the first draft of your essay for the next meeting
第22回	Writers' workshop 6 in-class drafting editing session submit first draft persuasive essay for assessment HOMEWORK: read H018 Passive & Active Voice and do the exercise for Day 23
第23回	Lecture 9 review and discuss chapter on Passive & Active Voice -launch Passiveactive.ppt HOMEWORK: do the chapter exercise
第24回	Exercises return persuasive draft essay with comments for students discussion of exercise H019 Passive or Active? HOMEWORK: study for quiz on active vs. passive
第25回	Quiz 3 Quiz HOMEWORK: prepare for writers' workshop during next class
第26回	Writers' workshop 7 writers' workshop
第27回	Writers' workshop 8 return Quiz 3 writers' workshop
第28回	Writers' workshop 9 writers' workshop
第29回	Review

	HO Grade Distribution HO Term Review Exercise -launch TermReview.ppt 第30回 Quiz 4 submit final draft of persuasive essay Quiz
授業の概要	This course expands on composition skills gained in English Composition I. Students practice exercises in finding and narrowing subjects, generating and organizing ideas as well as drafting, editing and revising essays. Students are introduced to a range of expository styles and the principles of argumentation. They practice developing thesis sentences and communicating their positions on certain topics discussed in class and in course readings. Students are also introduced to methods in researching and citing sources in essays.
予習	Students can prepare for each class by referring to the guidance offered for readings after HW
復習	Students are expected to review all readings and discussions taken up during each class period.
テキスト	Handouts of course materials and/or readings are provided for students in each class.
参考書	Students are expected to take notes in lectures and review their notes.
評価方法・評価基準	Grades are calculated from scores on essays, presentations, quizzes, and participation. 1 x first draft definition essay = 10 _____ 1 x final draft definition essay = 30 _____ 1 x first draft persuasive essay = 10 _____ 1 x final draft persuasive essay = 30 _____ Quiz #1 = 30 _____ Quiz #2 = 30 _____ Quiz #3 = 20 _____ Quiz #4 = 20 _____ Participation = 20 _____ Your total earned = _____ Total course points = 200 _____
履修上の注意	Participation is a major part of this course. This means that coming to class on time and focusing on the work is necessary for success. Surfing the Internet, playing on Facebook or some other social networking site, playing with your mobile phone, or some other electronic device not connected to the course, will affect your participation score.

講義科目名称：観光学概論

授業コード：

英文科目名称：Introduction to Tourism studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
		ナンバリング：BUS180	

授業のテーマ及び到達目標	受講者が観光について身近に感じられるような具体的な観光対象や観光地について事例研究を中心に学ぶ。オリエンテーションから始め、観光の歴史の紹介、観光と地域文化資源との関連性を学び、観光消費における地域経済活性化の重要性について認識し、成熟化社会に向けて観光と観光地の有り方について考える。
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 観光の歴史の紹介</p> <p>第 3 回 湯治と温泉旅館の歴史</p> <p>第 4 回 ホテル・旅館の歴史に見える交流機能と文化表現</p> <p>第 5 回 和食と無形文化遺産</p> <p>第 6 回 観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その 1</p> <p>第 7 回 観光と地域の活性化（食の魅力の発信）その 2</p> <p>第 8 回 観光とスポーツ（スポーツツーリズム）</p> <p>第 9 回 観光と映画（フィルムツーリズム）</p> <p>第 10 回 観光と M I C E（ビジネスリゾート地の発信）</p> <p>第 11 回 観光と医療（メディカルツーリズム）</p> <p>第 12 回 観光の情報インフラ整備</p> <p>第 13 回 観光とユニバーサルデザイン</p> <p>第 14 回 国内外観光地の事例研究 その 1</p> <p>第 15 回 国内外観光地の事例研究 その 2</p> <p>第 16 回 期末試験</p>
授業の概要	観光学概論の授業をとおして観光とは何か、観光にかかわる様々な事柄など基本的な事項について説明しながら学生にとって身近な生活の中の観光の事例を示しながら解説することとする。
予習	観光とは何を指すのか考えておき、日常観光についてメディアの報道に関心を持つこと
復習	毎回の授業を終了後、次の授業まで内容について振り返え、不明な点について質問する。
テキスト	テキスト：観光概論 共著 今井成男・大庭秀雄・捧富雄 編集・発行 (株) ジェイティービービ能力開発
参考書	観光ビジネスの新潮流 千葉千恵子 中央出版社 ISBN-13: 978-4761525057
評価方法・評価基準	授業内容の理解度について期末テスト 60%、課題の取り組む姿勢・内容 40%
履修上の注意	沖縄観光の将来性に関心を持ち、問題意識と解決の意欲を持つ皆さんの受講を期待する。

講義科目名称：ホテル経営論 I

授業コード：

英文科目名称：Hotel Management I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2～3年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
上地 恵龍			
		ナンバリング：BUS380	

授業のテーマ及び到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ホテル経営に対する評価や価値観の変化を踏まえ、受講者が基礎的な知識として習得できるように設定する。 2. グローバルホテル経営から地域のホテル経営の視点について応用することができる。 3. 沖縄で進行中各種ホテルプロジェクトの事例を通して検証をすることができる。 4. ホテル経営者の事例を通して様々な現象を理解することができ、提案力を習得する。 5. 最後にホテル事業が地域密着の重要性を認識する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 ホスピタリティ産業とホテル</p> <p>第3回 ホテルの経営特性</p> <p>第4回 ホテルの定義</p> <p>第5回 ホテルの品質と評価</p> <p>第6回 ホテルの分類</p> <p>第7回 日本のホテルの歴史</p> <p>第8回 世界のホテルの発展史</p> <p>第9回 世界の主要なホテルチェーンとブランド</p> <p>第10回 ホテルにおける所有・経営・運営の概念</p> <p>第11回 宿泊特化ホテルの展開</p> <p>第12回 宿泊特化ホテルの事例研究</p> <p>第13回 民泊と民宿の展開</p> <p>第14回 県内ホテルの事例研究</p> <p>第15回 県外ホテルの事例研究</p> <p>第16回 まとめ・期末試験</p>
授業の概要	前半はホテル業に対する正しい知識の習得から始まり、ホテル組織や業務の特徴とは何かをといった基本知識を体系的に習得していく。後半はホテル全体の運営や、様々な経営資源の運用の在り方を実際の事例を交えて学習し、考察していく。
予習	適時資料を配布する。配布された資料・プリントを事前に読んでから授業に臨む必要がる。
復習	適時資料を配布する。配布された資料を事前に読んでから授業に臨むこと。
テキスト	「HOTEL BUSINESS BOOK」 仲谷秀一、杉原淳子、森重喜三雄著 中央経済社 ISBN 4502387002
参考書	新ホテル総論 発行（一財）日本ホテル教育センター 発売（株）プラザ出版
評価方法・評価基準	期末試験50% 学習課題の提出50%
履修上の注意	授業での活発な意見交換が重要となります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1～2年	2単位(2-0)	学科共通科目
担当教員			
嘉数 啓			

授業のテーマ及び到達目標	<p>沖縄県は日本で唯一、大小40近くの有人島で構成されています。島嶼（島）とはなんですか。島嶼社会の特色は何ですか。沖縄の島々と本土、世界の島々とはどのような共通点があり、またどのような相違点があるのですか。島で生活するうえで、どのような課題があり、またどのように解決されていますか。島ではどのような産業が成立し、またそのための条件はなんですか。島の産業でもっとも成功しているのは観光産業です。何故ですか。この観光産業を島の資源や環境、貧困解決と両立させながら持続的に発展させるにはどうすればよいのですか。これらの疑問に真正面から向き合い、質疑応答を通して解答を見つけだすのが本講の目標です。</p>
授業計画	<p>第1回 授業方針・計画・講義の概要・評価・参考書などの説明島嶼（島）の定義とアプローチ 沖縄は島嶼学(Nissology)誕生の地だと言われています。沖縄で島嶼学はどのように誕生し、この学問がどのように世界に広がったかを紹介します。続いて「島嶼（島）」とは何か、その多様な定義をいろいろな文献を通して学習します。国によって、また地域によって島の定義は異なり、これが国際紛争の原因にもなっていることを事例を通して学習します。島を学習する方法も多様です。ここでは「学祭的アプローチ」を採用します。つまり、経済社会のみならず、島の地理、歴史、文化、政治などを含めた総合的な視点から「島とは何か」の疑問に挑みます。</p> <p>第2回 島嶼の分類学 島の分類も多種多様です。本講では先ず世界の島々を「面積」と「人口」で分類し、その特徴を把握します。さらに「有人」、「無人」、地理的な「形状」、「海洋性」、「本土との距離」、「生態系」、「統治形態」、「経済自立度」、「産業立地形態」などの分類を試みます。この分類を通して、「島のイメージ」がかなり分かってくるはず。</p> <p>第3回 島嶼の分類学 前回に引き続き、島の分類を学習します。</p> <p>第4回 島嶼経済社会の特性と可能性 「島の分類学」の学習を踏まえて、島の共通の特性を浮き彫りにし、島の持続可能な発展に向けた可能性を探ります。島の特性である「資源の少なさ」、「市場の狭さ」、「慢性的な貿易赤字」、「サービス産業への依存」、「脆弱（ぜいじゃく）な生態系」、「交通を含む高い生活コスト」、「観光産業への依存」、「移民・出稼ぎ」、「植民地の遺産」、「肥大化した政府」、「国境紛争」などのテーマを国際比較し、海洋資源を含むユニークな「島嶼資源」の活用の方を学習・討議します。</p> <p>第5回 島嶼経済社会の特性と可能性 前回に引き続き、島の特性と可能性について学習します。</p> <p>第6回 島嶼型持続可能発展モデルを求めて 島嶼の経済社会の発展を歴史的に展望します。特に「自給自足経済」からどのようにして「市場経済」に移行してきたかを南太平洋島嶼経済を中心に学習し、「モノカルチャー(monoculture)」ともよばれている植民地的な資源輸出型経済の脆弱性(デミリット)を概観し、持続可能な発展にむけた新たなアプローチを提案します。島の人びとが安心して暮らせる「最低安全性基準アプローチ」と「移輸入置換型アプローチ」、「島嶼資源活用型アプローチ」を学習・討議します。</p> <p>第7回 島嶼型持続可能発展モデルを求めて 前回のテーマを継続して学習します。</p> <p>第8回 島嶼型技術を求めて 沖縄には、世界の島嶼地域がうらやむほどの種々の「島嶼技術」があります。これらの技術は環境にやさしく、「グリーンテクノロジー」とか、あるいは「人間の顔をした技術」などとよばれています。例えば、「環境にやさしいウリミバエ防除技術」、「赤土防除技術」、「地下ダム技術」、「ガラス瓶のリサイクル技術」、「再生可能エネルギー技術」、「海洋深層水技術」、「島嶼資源活用型技術」などです。これらの技術の開発・評価・応用について学習・討議します。</p> <p>第9回 島嶼型技術を求めて 前回に続いて、島嶼型技術についての学習です。ここでは特に「沖縄発島嶼技術」の南太平洋島嶼地域などへの移転可能性について学習します。</p> <p>第10回 島嶼社会のネットワーク 島嶼社会は古くから、移民、出稼ぎなどを通して国内および海外とのネットワークを形成してきました。このネットワークが島の経済を救ってきた反面、島からのとくに若年労働力の流出による経済社会の停滞も招いています。情報通信ネットワーク(ICT)の発達は「距離の暴虐」を克服手段になると同時に、「デジタルデバイド(digital divide)」という離島と本島間の新たな格差を生むおそれもあります。むろん、島社会のネットワーク化は、活用の仕方によっては、島の活性化につながります。ここでは特に沖縄の島々のネットワークを通して、「島々連携軸」の構築を提案し、議論します。</p> <p>第11回 持続的な観光(Sustainable Tourism)の定義とアプローチ 持続的な島嶼発展モデルの一つとして、持続可能観光(ST)について学習・討議します。観光開発が持続するには、水、電気、道路、ホテル、ビーチなどの観光関連インフラが島の「受け入れ容量(carrying capacity)」を超えないことが大事です。環境容量の小さい島での観光開発は、大気・海洋汚染や水不足などの種々の環境、生活破壊につながります。ここでしっかりとSTについての理論的基礎を学習・討議します。</p> <p>第12回 持続可能観光の事例 沖縄は「観光立県」を目指しています。観光客数は1千万人に近づきつつあり、常時8万人程度の観光客が沖縄に滞在していることとなります。果たしてこの数は、沖縄の観光客受け入れ容量からして妥当でしょうか。また島によっては島の人口の100倍もの観光客を受け入れていると</p>

	<p>ころもあります。これは持続可能観光でしょうか。沖縄での事例を中心に観光客数と環境容量についての議論を行います。</p> <p>第13回 持続可能な観光政策</p> <p>すでに見たように、観光客を野放図に受け入れていると、島のキャリング・キャパシティを超え、深刻な環境破壊と島民の生活苦を招く恐れがあります。このような「悲劇」を未然に防ぐにはどうすればよいでしょうか。沖縄県内のいくつかの島で「環境税」、「入島税」などを実施したり、あるいはホテルの建設を制限したりして観光客数を制限する動きがあります。これらの政策が果たして意図した効果があるのかどうか、沖縄での事例をもとに検証・議論します。</p> <p>第14回 島嶼文化と観光開発</p> <p>文化遺産が観光資源として注目されるにつれて、「文化と観光」についての論議が高まってきています。伝統文化を商業目的の観光産業の目玉にしてよいのか、文化の墮落ではないかなどの議論と同時に、観光は島の伝統文化を海外に発信し、むしろ島の活性化につながるという考えもあります。文化観光の先輩であるバリ島のケースと「伝統芸能の宝庫」とよばれている竹富島のケースを比較しながら「文化の商業化」について学習・討議します。</p> <p>第15回 講義の総括と討議</p> <p>これまでの講義を総括し、学生諸君がどの程度講義を理解し、知的インパクト受けたかを知るために、自由闊達な締めくくりの討議を行います。</p> <p>第16回 期末テスト</p> <p>本講義と討議がどの程度諸君の知的水準を高めたかを知るために、エッセイテストを実施します。複数の課題から一つを選択して解答をお願いします。</p>
授業の概要	<p>「島嶼学」は沖縄で誕生した新しい学問です。その内容は、島の成り立ち、地形、産業、統治形態、歴史文化、地政学などを総合的に含み、アプローチも総合的、学祭的になります。本講義では、特に島の主産業であります観光産業に焦点をあて、その持続可能性について多面的な視点から学習・討議します。対象は島嶼県の沖縄が中心ですが、能う限り海外島嶼地域の事例にも触れます。観光産業の持続可能性といっても、島のありようによって多種多様です。したがって観光産業の持続的発展を理解するには島々の特性や歴史文化などを学習する必要があります。講義の前半では「島とは何か」に答えるべく、島のありようを、海外を含む島嶼間の比較を通して多方面から考察し、後半部分で持続可能観光産業に焦点をあて、その理論と実践（政策）を学習・討議します。</p>
予習	.
復習	.
テキスト	指定教科書はありません。
参考書	<p>参考図書は以下の4点です。図書間かネットを通して無料で閲覧可能です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 嘉数啓 『島嶼学への誘い—沖縄から見る「島」の社会経済学』（岩波書店、2017年） 2. 嘉数啓編著『数量観光産業分析—観光学の新たな地平』（琉球書房、2014年） 3. Kakazu, H., "Sustainable Island Tourism" in Jack Carlsen & Richard Butler (ed.) Island Tourism: Sustainable Perspectives (London: CABI, 2011). 4. Kakazu, H., Okinawa: Japan's Front-Runner in the Asia-Pacific— Thriving Locally in a Globalized World (Indianapolis: Dog Ear Publishing, 2017)
評価方法・評価基準	<p>学期末テスト：80点 クラス討議への参加：20点 合計：100点</p>
履修上の注意	<p>本講義は能う限り「双方向」、つまり受講生との「質疑応答」と通してすすめたいと思っています。とくに事前に準備する必要はありませんが、毎回「自らを向上させたい」とする熱意をもって参加していただきたいと思っています。</p>

講義科目名称：教職の意義

授業コード：

英文科目名称：Principles of Teaching

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
嘉納 英明			
		ナンバリング：TTC101	

授業のテーマ及び到達目標	教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。		
授業計画	第1回	講義の概要説明	
	第2回	現代社会における教職の意義	
	第3回	教員の種類・役割と仕事の性格	
	第4回	教員生活の1年間	
	第5回	教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営）	
	第6回	教員の仕事と専門性Ⅱ（教科指導）	
	第7回	教員の仕事と専門性Ⅲ（特別活動・生徒指導）	
	第8回	教員の仕事と専門性Ⅳ（進路指導・教育相談）	
	第9回	教員の仕事と専門性Ⅴ（保護者・地域・関係機関との連携）	
	第10回	学校における教職員の連携・協働	
	第11回	教員の職場環境	
	第12回	教員の任用と服務	
	第13回	教員に求められる資質能力	
	第14回	教員養成と教職課程	
	第15回	教員の採用選考	
	第16回	期末試験	
授業の概要	現代社会における教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の服務と身分保障などについて考察するとともに、教員養成のあり方や大学の教職課程について解説し、教職に関する理解を深める。また、将来の進路選択に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。		
予習	配布資料をよく読み、その回の学習内容（知識）を確認する。		
復習	配布資料、学んだ内容を読み直し、整理する。		
テキスト	特に、ありません。		
参考書	授業の中で、適宜、紹介します。		
評価方法・評価基準	授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。 試験：50% レポート：40% 態度・演習・発表・参加度：10%		
履修上の注意	<p>「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。</p> <p>2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。</p> <p>3 板書、パワポの内容は、ノートに丁寧にまとめるようにして下さい。紙媒体の資料は、最低限にしたいと考えています。</p>		

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC102	

授業のテーマ及び到達目標	教育の思想と歴史を学ぶ。教育の思想・歴史といっても抽象的な事柄のみを学ぶのではなく、具体的な教育問題を考えながら、そのなかに教育の思想・原理を確認してゆく。また、それらの考え方が生まれてきた歴史的な背景を理解し、現代の教育を考える視座を確立する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、構成的エンカウンター体験 教育原理とは、何を学ぶのか、講義計画、評価の方法、心構えの確認。その後、「理想の教師」というテーマで学生間の意見交換を行う。</p> <p>第2回 カリキュラム編成の歴史と理論（デューイ、ブルーナー） 児童中心主義カリキュラム（デューイ）、教科中心主義カリキュラム（ブルーナー）の成立過程とその思想について学ぶ。</p> <p>第3回 近代日本の学校教育の歴史①（明治期） 1872年の学制から1890年の教育勅語体制の成立までの近代学校制度確立までの歴史を学ぶ。歴史に埋もれた自由教育の可能性を掘り起こす。</p> <p>第4回 近代日本の学校教育の歴史②（大正自由教育） 対象自由教育を及川平治と木下竹次の実践と思想を検討しながら学ぶ。特に両者の能力観と学習班の作り方を検討し、教育の平等と能力別教育とについて検討する。</p> <p>第5回 習熟度別授業について 前回のテーマの継続し、能力別の学習集団の功罪について、現在行われている習熟度別授業を検討しながら確認してゆく。</p> <p>第6回 近代日本の学校教育の歴史③（戦後教育改革） 戦後教育改革から無着成恭の『山びこ学校』までの解説する。本当の民主教育とはどのようなものかを考える。</p> <p>第7回 近代日本の学校教育の歴史④（教育内容の現代化） 日本における教育内容の現代化について学ぶ。水道方式、仮説実験授業を学ぶ。仮説実験授業の体験も行う。</p> <p>第8回 学習指導要領について①（2008年の改正と学力論争） 当初、2008年の学習指導要領の改正とその前提となる学力論争を解説する。PISAテスト、ゆとり教育について、議論する。</p> <p>第9回 学習指導要領について②（その歴史） 学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。当初、「試案」であったものが法的拘束力を持つようになっていく過程も確認する。</p> <p>第10回 教育行政の中立性について（七生養護学校の性教育裁判） 七生養護学校の性教育裁判を検討し、教育行政の中立性という原理について学ぶ。性教育のあり方についても検討する。</p> <p>第11回 自由教育について（きのくに子どもの村学園について） 受講者の大多数が受けてきた学校とは様相を異にした学校について学び、学校教育の可能性について検討する。</p> <p>第12回 生・性・死の教育を考える①（豚のPちゃんの授業） 死をみつめる教育実践を検討する。具体的には、黒田恭史氏の豚を育てて食べてしまおうとする教育実践の検討を行う。</p> <p>第13回 生・性・死の教育を考える②（がんと闘った校長先生の実践） 生と死をみつめる教育実践を検討する。具体的には、がんと闘った大瀬敏昭校長先生の教育実践を検討する。</p> <p>第14回 特別支援教育の理念 特別支援教育の理念を乙竹洋匡氏の著書を通じて学ぶ。また現在の特別支援教育の制度について確認する。</p> <p>第15回 まとめ 本講義のまとめ。授業内容の確認のための小テストを含む。</p>
授業の概要	教育に関する思想と歴史を学ぶ。学校教育に即して、教育に関する基本的な考え方を学んでゆく。主に近代日本の学校の歴史的な展開を踏まえて、現代日本の学校で問題となっている事象を検討しながら教育の原理・思想を学んでゆく。各回の授業は具体的なテーマを定め、講師による解説と、受講者同士で小集団議論、作業、当日提出レポート作成などを行う。授業の参加者で、教育について考え、議論する場にしてゆきたい。
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で授業に臨むこと
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	1. 田代直人・佐々木司編著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣アルマ、2010年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法・評価基準	概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト(29%)、レポート(15%)。それをもとに総合的に評価する。
履修上の注意	教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。

講義科目名称：教育心理

授業コード：

英文科目名称：Educational Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
大城 亘武			
		ナンバリング：TTC201	

授業のテーマ及び到達目標	教育の営みへの知識・理解を確実にする。		
授業計画	第1回	講義の概要説明、教育観	
	第2回	発達理論① 遺伝説	
	第3回	発達理論② 環境説	
	第4回	発達理論③ 輻輳説・相互作用説	
	第5回	学習理論① 連合説	
	第6回	学習理論② 認知説	
	第7回	学習理論③ 「教授—学習」説と適性処遇交互作用	
	第8回	動機づけのメカニズム	
	第9回	記憶のメカニズム	
	第10回	知能概念	
	第11回	知能と学習と学習の障がい	
	第12回	パーソナリティと適応	
	第13回	教育評価① 評価の目的	
	第14回	教育評価② 学力測定とテスト法	
	第15回	教育評価③ パーソナリティ	
	第16回	期末テスト	
授業の概要	教育という営みについて、心理学的観点から探求し、精神的・身体的発達の様態について理解し、教育活動をより効果的にするための知識と技能を訓練する。特に「教授—学習」の側面からの学習の問題を取り扱い、生徒各々の発達と適応、動機づけ、学力、評価、パーソナリティ、知能、学習不適応への対応等の諸問題について理論的・実践的な検討を行う。このことをとおして、生徒の理解、教師としての資質や条件についての理解を、深める。 以上のことを学ぶ背景的知識として、人間の心や行動を心理学的に捉えるための基礎的な知識の習得を目指す。		
予習	リーディング課題を示す。		
復習	理解確認のための課題を課す		
テキスト	富永大介、他（編）2016『教職をめざすひとのための発達と教育の心理学』ナカニシヤ出版 ¥2,200+税		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	期末考査(50%)、「卵を立てる」に関するレポート(30%)、授業への参加度・受講態度(20%)の総合的評価		
履修上の注意	特になし		

講義科目名称：教育の制度

授業コード：

英文科目名称：Educational Systems

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC202	

授業のテーマ及び到達目標	教育の在り方を社会的、制度的または経営的な視点から学び、教育を客観的にとらえる能力を養う。		
授業計画	第1回	教育の制度を学ぶ意義 講義の概要説明、教育の制度を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝える。	
	第2回	八重山教科書問題 八重山教科書問題の概要を説明し、教科書の広域採択制度の意義と課題を確認する。それと同時に、問題となった育鵬社と東京書籍の教科書を読み比べてみる。	
	第3回	教育委員会の役割 八重山教科書問題の論点の一つに教科書を採択する権限がどこにあるのかという点があった。その点を確認しつつ、教育委員会制度の意義について確認する。	
	第4回	教科書検定制度 2007年の歴史教科書をめぐる沖縄県民集会の経緯を確認し、教科書検定制度の歴史と課題を確認する。国定教科書制度、検定制度、自由採択など各国の状況も確認する。	
	第5回	学習指導要領について①(2008年の改正) 学習指導要領について学ぶ。2008年改定の学習指導要領の内容を確認する。	
	第6回	学習指導要領について②(その歴史、法的拘束力) 学習指導要領の歴史的な背景を確認し、「試案」から「告示」へ、各回の改定の傾向などについて学ぶ。	
	第7回	高校入試制度 中学校と高校の接続の問題、6・3・3・の教育制度の問題点を、各国との比較や研究者の意見を吟味しつつ考察する。	
	第8回	アメラジアン教育権 アメラジアンスクール・イン・オキナワの事例を検討し、多文化共生教育にとどまらず、ダブルの教育権について考える。	
	第9回	高校授業料無償化と朝鮮学校 高校授業料無償化の意義と課題を考える。朝鮮学校をその制度の対象から除外したことの問題を確認しつつ、同制度の意義を理解する。	
	第10回	多文化共生教育の制度的保障 戦後日本の在日コリアンの教育を概観することにより、日本の教育制度の問題点を確認する。多文化共生教育の必要性を理解する。	
	第11回	教育基本法について 2006年の教育基本法の改正について学ぶ。旧教育基本法と何が変わったのかを確認する。愛国心教育についても検討する。	
	第12回	子どもと貧困 教育権の保障について学ぶ。6人に1人の子どもが相対的な貧困の状況にあるという状況を確認し、日本国憲法第26条の意義を再確認する。	
	第13回	公立小中学校の学校選択制度 新自由主義的教育改革の有効性を検討する。具体的には、公立小中学校の学校選択制度について取り扱う。	
	第14回	学区制を考える(沖縄県の公立高校再編計画) 戦後教育改革で、新制高校設置の原理の一つとして小学区制が採用された。その意義を確認しつつ、近年の学区制の拡大が何をもちたのかを理解する。	
	第15回	まとめ 競争と教育の関係について確認しながら、本講義のまとめを行う。授業内容確認のための小テストも行う。	
授業の概要	学校教育の制度、学校経営の基礎、学級経営の基礎、教育内容を決定する制度、教員組織、教育行政、教育財政、社会教育、等について学ぶ。具体的には、沖縄における教育に関わる問題・課題(八重山教科書問題・アメラジアンの教育権・学校選択制・学区の拡大)や全国的な問題課題(在日コリアンの教育権、大阪の教育基本条例、教科書検定制度)を検討しつつ、学んでゆく。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で講義に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	1 岡本徹・佐々木司(編著)『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房 2009 2 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加度、授業態度、レポート、授業内容確認小テストによって総合的に評価する。居眠り、私語、内職など教員としての資質に欠ける態度が見られる学生には単位を与えない。概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト(29%)、レポート(15%)。そのれをもとに総合的に評価する。		

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none">1 履修要件として教育の原理を履修済みであること。2 「教職の基礎理論」に関する科目である。3 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する
--------	---

講義科目名称： 道徳教育の研究

授業コード：

英文科目名称： Moral Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC302	

授業のテーマ及び到達目標	道徳教育の歴史と理論を学び、基礎的な道徳教育法を身につけ、道徳教育の実践者としての基礎を養う。
授業計画	<p>第1回 道徳教育はどうあるべきか 本講義の概要説明。道徳教育はどうあるべきか。評価方法の確認。今まで受けてきた学校での道徳教育の経験をクラスメイトとシェアする。</p> <p>第2回 同和（人権）教育を学ぶ① 部落差別に関して学ぶ。道徳教育の大原則は他者の尊重であり、人権の尊重である。それが十全に保障されていない現状を学ぶ。</p> <p>第3回 同和（人権）教育を学ぶ② 同和教育の実践を確認する。また、ロールプレイを用いたアクティビティを行う。</p> <p>第4回 道徳の学習指導案の作成 道徳の学習指導案の作成方法を教授し、実際に学習指導要領を作成する。学期末に提出する。</p> <p>第5回 〈生・性・死〉の授業の意義を考える 「生命に対する畏敬の念」はどのようにして育まれるのかを考える。ニワトリを殺して食べる授業実践を検討する。</p> <p>第6回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業① 道徳性の発達理論の一つとしてコールバーグが提唱したモラルジレンマ授業の理論を理解する。代表的な授業を体験してみる。</p> <p>第7回 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②（模擬授業） 学生にモラルジレンマの模擬授業を行ってもらおう。授業者である学生は、開講直後より教員の指導を受け授業づく理をしてもらう。他の学生には、生徒役で体験してもらおう。</p> <p>第8回 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語） 教育勅語に象徴される戦前の修身教育の在り方を理解する。その上で、現代の道徳教育がどのようなべきかを理解する。</p> <p>第9回 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論） 1958年の「道徳の時間」の特設をめぐる議論を確認する。さらに近年の教科化をめぐる議論を理解する。</p> <p>第10回 学習指導要領と道徳教育—「愛国心」と道徳教育を考える 学習指導要領の「我が国と郷土を愛し」という個所がなぜ議論の焦点となるのかを理解する。</p> <p>第11回 『心のノート』（『私たちの道徳』）の意義と問題点を考える 『心のノート』の作成経緯を理解し、その問題点を確認する。それと同時に『心のノート』を引き継いだ『私たちの道徳』の活用法を検討する。</p> <p>第12回 いじめ問題を考える 「葬式ごっこ」を検討し、「いじめの四層構造」を理解し、学級担任として、どのような指導が求められているのかを確認する。</p> <p>第13回 道徳教育と構成的グループ・エンカウンター① 人間関係づくりの手法として構成的グループ・エンカウンターの有効性が指摘されている。構成的グループ・エンカウンターを理解し道徳教育での活用法を学ぶ。</p> <p>第14回 道徳教育と構成的グループ・エンカウンター②（模擬授業） 学生に構成的グループ・エンカウンターを用いた道徳授業の模擬授業を行ってもらおう。</p> <p>第15回 まとめ 本講義のまとめを行う。また、授業内容確認のための小テストを行う。</p>
授業の概要	主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。また基本的な道徳教育法を身につける。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。 授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。また、模擬授業、指導案の作成なども行う。
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』（第2版）酒井書店・育英堂 2006 2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004 3 柴田義松（編著） 『道徳育～理論と実践』学文社 1992 4 文部科学省 『中学校学習指導要領』
評価方法・評価基準	概ね、授業での課題点・議論への貢献度(56%)、授業内容確認の小テスト(29%)、レポート(15%)。そのれをもとに総合的に評価する。
履修上の注意	1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。

- | | |
|--|---|
| | <p>2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。</p> <p>3 私語、居眠り、内職など、教師としてふさわしくない授業態度の者には単位を認定しない。</p> |
|--|---|

講義科目名称：特別活動の研究

授業コード：

英文科目名称：Extra-curricular Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
芳澤 拓也			
ナンバリング：TTC303			

授業のテーマ及び到達目標	特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、特別活動の具体的な実践方法のいくつかを身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション（講義概要、受講心得、特別活動の課題等）	
	第2回	特別活動と教育課程	
	第3回	特別活動の意義	
	第4回	特別活動の目標	
	第5回	ホームルーム活動（学級活動）の内容	
	第6回	ホームルーム活動（学級活動）と生徒会活動	
	第7回	ホームルーム活動（学級活動）と学校行事	
	第8回	ホームルーム活動（学級活動）の指導計画	
	第9回	ホームルーム活動（学級活動）の展開	
	第10回	ホームルーム活動（学級活動）の演習①	
	第11回	ホームルーム活動（学級活動）の演習②	
	第12回	ホームルーム活動（学級活動）の演習③	
	第13回	ホームルーム活動（学級活動）の演習④	
	第14回	ホームルーム活動（学級活動）の演習⑤	
	第15回	まとめ	
授業の概要	特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力や資質」を培うことである。本講においては、特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、ホームルーム活動（学級活動）・生徒会活動・学校行事等における実践的指導力の養成を図ることを目指す。特に、学校における基礎的・基本的な生活集団としてのホームルーム活動（学級活動）の望ましいあり方やその運営方法、実践演習等を行い考究する。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	渡部邦雄 他編『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法』日本文教出版、2009年、 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加度、課題、試験等により総合的に評価する。		
履修上の注意	1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。		

講義科目名称：教育方法

授業コード：

英文科目名称：Educational Methodology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
大城 亘武			
		ナンバリング：TTC301	

授業のテーマ及び到達目標	教育方法の歴史を概観し、グループでティーチング・プランを作成し、模擬授業を実演する。		
授業計画	第1回	講義の目的と評価方法の説明、講義の概要を説明 の振り返りテストと開設	教職教養科目（教育原理、教育心理）について
	第2回	「教授-学習」理論①	
	第3回	「教授-学習」理論②	
	第4回	教育方法の展開① コメニウスの方法を中心に	
	第5回	教育方法の展開② ヘルバルトの方法を中心に	
	第6回	教育方法の展開③ 教育方法と学力	
	第7回	学習と個人差	
	第8回	教科内容の課題	
	第9回	教育課程と教材の選択・配列・組織	
	第10回	情報通信技術と教育方法	
	第11回	教材研究と授業の技術	
	第12回	教材研究演習（模擬授業）①	
	第13回	教材研究演習（模擬授業）②	
	第14回	教材研究演習（模擬授業）③	
	第15回	教材研究演習（模擬授業）④	
	第16回	期末テスト	
授業の概要	カリキュラムとして系統化・統合された教授材をいかにしてより効果的な教授・学習を可能にするか、について得られている多くの知見について学ぶ。プレゼンテーション・ソフトを利用した模擬授業を実施する。		
予習	その都度リーディングリストを課す		
復習	振り返りメモの提出を課す		
テキスト	田中耕治、他 2012 『新しい時代の教育方法』有斐閣		
参考書	日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞—気づく・学ぶ・活かす—」不昧堂出版		
評価方法・評価基準	期末テスト：50% 演習：40% 小テスト・授業内レポート：10%		
履修上の注意	「教育心理」、「教育原理」を履修していること、さらに「コンピューター基礎演習」を履修していること。		

講義科目名称：生徒指導・進路指導

授業コード：

英文科目名称：Guidance

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
新里 健			
ナンバリング：TTC204			

授業のテーマ及び到達目標	本講義では、生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応できる能力を身につけることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 本講義の説明、紹介</p> <p>第2回 生徒指導の意義</p> <p>第3回 生徒指導の方法</p> <p>第4回 問題行動の理論と実際・対応①－生徒の不応行動－不登校と引きこもり</p> <p>第5回 問題行動の理論と実際・対応②－いじめ</p> <p>第6回 問題行動の理論と実際・対応③－学校不適応（ADHD、アスペルガー、学習障害）</p> <p>第7回 問題行動の理論と実際・対応④－基本的生活習慣と非行</p> <p>第8回 問題行動の理論と実際・対応⑤－非行</p> <p>第9回 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる①－言語でのコミュニケーションの仕方</p> <p>第10回 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる②－自尊感情を高める方法</p> <p>第11回 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる③－自己主張の仕方（アサーショントレーニング）</p> <p>第12回 生徒指導の実際：対人関係能力を育てる④－問題解決の仕方（ステップ&ケース）</p> <p>第13回 進路指導の理論と指導－進路選択と自分さがし</p> <p>第14回 進路指導の理論と指導－キャリア教育</p> <p>第15回 高等学校における中途退学・不本意進学問題 まとめ</p> <p>第16回 期末テスト</p>
授業の概要	近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会性の発達の遅れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきている。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか、また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。
予習	授業で指示された事項を事前に調べ学習しておくこと。
復習	授業の際に指示した箇所を再度振り返って読み、理解に努めること
テキスト	授業の際にプリントを配布する。
参考書	岸田元美監修 河合伊六・佐藤修策編 『改訂 生徒指導 新しい教育改革をふまえて』 2001 北大路書房 新里健・島袋有子 『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33 学級経営に生かすSST』 2008 グリーンキャット 宮下一博・河野荘子編著 『生きる力を育む生徒指導』 2005 北樹出版 平木典子 『アサーショントレーニング－さわやかな自己表現のために』 2005 日本・精神技術研究所 マシュー・マッケイ、ピーター・D・ロジャース、ジュディス・マッケイ著 榊原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳 『怒りのセルフコントロール－感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts-quieting the storm within)』 2011 明石書店
評価方法・評価基準	評価は、授業内レポート、試験、授業への参加状況、授業への意欲・関心などを総合的にみて行う。授業内レポート(小テスト)の課題は授業の際に指示する。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は

	認められない。 期末テスト70% 小テスト・授業内レポート20% 授業態度10%
履修上の注意	教育心理を履修済みであることが好ましい。

講義科目名称：学校カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：School Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
浅野 恵美子			
		ナンバリング：TTC205	

授業のテーマ及び到達目標	臨床心理学の基本を学び、変化する社会と学校状況における子どもたちの悩み・問題をみつめる。自分らしく生きる心、・カウンセリングマインド、教師と生徒の関係、相談スキルなどを学ぶ。
授業計画	<p>第1回 授業入門～関係学的アプローチでの学び方</p> <p>第2回 社会と学校と生徒をめぐる諸問題</p> <p>第3回 心理劇と家族療法</p> <p>第4回 論理療法、アドラー心理学</p> <p>第5回 交流分析・精神分析</p> <p>第6回 内観療法・遊戯療法・箱庭療法</p> <p>第7回 カウンセリング・来談者中心療法</p> <p>第8回 生きる意味—生と死と魂（霊性）</p> <p>第9回 学校における人間関係—非行</p> <p>第10回 学校における人間関係—不登校</p> <p>第11回 発達障害、精神障害など</p> <p>第12回 親離れ、子離れ、引きこもり</p> <p>第13回 精神的・生活的・経済的自立</p> <p>第14回 生徒と親と学校と教師の関係</p> <p>第15回 まとめ・テスト・研究発表</p>
授業の概要	授業では、学校カウンセリングの知識を得るだけでなく、授業集団の変化・発展にも注目し、グループワークや討論や遊び（アートやロールプレイング・心理劇）などを取り入れて行う。問題行動を個人の資質に還元するのでなく、関係的・状況的・集团的・社会的に理解できることが重要である。教師の資質としての人間関係スキル・セルフケア（自己知）・身体知・感情の知とつながり、共に生きるセンスが育っていくように、心理劇法での実験を行い、討論し、共に探求したい。
予習	宿題のレポートに取り組む
復習	授業を振り返り、それぞれの学びを最終論文にまとめる
テキスト	浅野 恵美子著 「心の宇宙散策」 浅野にんげん研究所（2014年）
参考書	日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞—気づく・学ぶ・活かす—」 不昧堂出版
評価方法・評価基準	授業への参加と貢献、宿題提出、最終論文、自己評価等で総合的に評価します。
履修上の注意	毎回テキストを使います。出席、参加、意見、考え、書く事が重要です。主体的な参加を高く評価します。

講義科目名称：介護等体験

授業コード：

英文科目名称：Practice in Social Volunteer Work

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(1-3)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC320	

授業のテーマ及び到達目標	介護等体験の意義を理解し、社会福祉施設、特別支援学校での体験を充実させたものにする。それらの体験を、他の受講生とシェアし、レポートにまとめ、発表会で報告することを通じて、体験の意義を何度も反芻し、血肉化する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 本授業の概要説明。介護等体験の事務手続き。様々な社会福祉施設についての説明。</p> <p>第2回 高齢者施設について 教科書を読み合わせしながら、様々な高齢者福祉施設について学ぶ。</p> <p>第3回 疑似高齢者体験 高齢者体験グッズを用いて、高齢者の身体的な不具合を体験する。それを通じて、高齢者の気持ちに接近したい。</p> <p>第4回 障がい者施設について 教科書の読み合わせを行い、様々な障がい者施設について学ぶ。</p> <p>第5回 車いす体験 車いす体験を行い、私たちの環境が障がい者にとっていかにバリアの多い環境であるかを理解する。</p> <p>第6回 社会福祉施設からのメッセージ（講師：宮城樹正氏） 長年、高齢者福祉施設で勤務なさってきた宮城樹正氏から、高齢者福祉施設での体験が成功させるための助言をいただく。</p> <p>第7回 特別支援学校について① 教科書を読み合わせることで、特別支援学校についての知識を整理する。</p> <p>第8回 特別支援学校の見学 鏡が丘特別支援学校、あるいは大平特別支援学校を訪問し、施設を見学し、担当者から、特別支援学校での介護等体験についての注意事項をレクチャーしていただく（ガイダンス、スーツ着用）。</p> <p>第9回 特別支援教育について 中学校・高校での特別支援教育～自閉症の生徒の理解について。DVDを視聴し、どのような対応が可能か議論する。</p> <p>第10回 介護体験のQ&A（学生の発表） 教科書『介護等体験ガイドブック フィリア』の内容を学生が分担し、ミニレクチャーを行う。</p> <p>第11回 社会福祉施設での体験の事後報告会① 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。</p> <p>第12回 社会福祉施設での体験の事後報告会② 社会福祉施設での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。</p> <p>第13回 特別支援学校での体験の事後報告会① 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。</p> <p>第14回 特別支援学校での体験の事後報告会② 特別支援学校での体験の事後報告会を、体験の実施日程により、複数回に分けて行う。体験を言葉にすることで意味をその確認する。</p> <p>第15回 介護等体験報告会 教職課程履修中の1、2年生への介護等体験報告会を行う。レポート集を作成し、体験の意義を報告することで、その意義を再確認する。</p>
授業の概要	「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（以下「介護等の体験」という。）を行わせる」（通称「介護等体験特例法」）ことになっている。その介護等体験を実りあるものにするための事前・事後指導を本授業では行う。
予習	教科書を全編、通読すること。
復習	各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること
テキスト	『よくわかる社会福祉施設 第4版』全国社会福祉協議会、図書印刷株式会社、2015 『介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社、2007年
参考書	権田真吾『ぼくはアスペルガー症候群』彩図社、2014年 岡野雄一『ペコロスの母に会いに行く』西日本新聞社、2012年
評価方法・評価基準	授業への貢献度（56%）、発言の質（29%）、体験先の担当者の評価（15%）。そのれをもとに総合的に評価する。
履修上の注意	1 履修要件としてスクリーニングテストに合格、借合格していること

- | | |
|--|---|
| | <p>2 前期担当科目となっているが、10月まで体験が行われることもあるので、前期後期ともに在籍していること。</p> <p>3 ふまじめな態度、教員にふさわしくない態度があった場合、履修を差し止めまることもあります。</p> |
|--|---|

講義科目名称：教育実習（中学）

授業コード：

英文科目名称：Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	4単位	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
		ナンバリング：TTC402	
授業のテーマ及び到達目標	<p>中学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。</p> <p>①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能、教材研究と授業準備）</p> <p>②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握、学級経営、課外活動への関心）</p> <p>③意欲を持って実習に臨み、態度に示すことができる。（勤怠状況、実習への意欲、学級事務等の実務能力等）</p>		
授業計画	<p>○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道徳教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他 		
授業の概要	<p>教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。</p>		
予習	全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること		
復習	日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等) 		
参考書	教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』 蒼丘書林、2000年		
評価方法・評価基準	1. 実習校指導教員の評価（70%） 2. 実習レポート（20%） 3. 研究授業（10%）		
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。 		

講義科目名称：教育実習（高校）

授業コード：

英文科目名称：Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位	教職科目
担当教員			
照屋 信治・大城 直人			
		ナンバリング：TTC403	

授業のテーマ及び到達目標	<p>高等学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。</p> <p>①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能、教材研究と授業準備）</p> <p>②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握、学級経営、課外活動への関心）</p> <p>③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。（勤怠状況、実習への意欲、学級事務等の実務能力）</p>
授業計画	<p>○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道徳教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他
授業の概要	<p>教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に2週間（80時間）である。</p> <p>高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」（1単位）を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。</p>
予習	全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること
復習	日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他（学校要覧、学校経営計画等）
参考書	教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』蒼丘書林、2000年
評価方法・評価基準	1. 実習校指導教員の評価（70%） 2. 実習レポート（20%） 3. 研究授業（10%）
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定された「教職科目」を履修済であること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件をみたしていること。

講義科目名称：教育実習事前事後研究

授業コード：

英文科目名称：Pre, Post-Teaching Practicum Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	1単位(0-2)	教職科目
担当教員			
照屋 信治・大城 直人			
		ナンバリング：TTC401	

授業のテーマ及び到達目標	1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。5. 実習校と連絡をとり、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明、実習に向けて スケジュールの確認、本講義で学ぶことの概要説明を行う。各自の教育実習に向けての取り組み状況を確認する。</p> <p>第2回 学校訪問について 学校訪問の際の身だしなみ、確認すべき事項、心構え、等について確認する。</p> <p>第3回 実習前に準備すべきこと 教材研究、アクティビティ、授業の準備、学級・HRの状況、指導教員との連絡等、実習前に準備することを確認する。</p> <p>第4回 講話：高等学校の現場から 高等学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。</p> <p>第5回 講話：中学校の現場から 中学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。</p> <p>第6回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、担当教員からのレクチャー（特に生徒指導、HR経営に関して）。</p> <p>第7回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、受講者にミニレクチャーを行ってもらう。</p> <p>第8回 教育実習中間報告会 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う（受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う）。</p> <p>第9回 教育実習中間報告会 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。</p> <p>第10回 教育実習中間報告会 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。</p> <p>第11回 教育実習反省会 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど（受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う）。</p> <p>第12回 教育実習反省会② 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。</p> <p>第13回 教育実習反省会③ 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。</p> <p>第14回 教育実習レポートの作成 教育実習の内容を、クラス内でシェアし、その後、レポートにすることで何度も反芻してもらう。教育実習という貴重な体験をやりっぱなしの経験に終わらせることなく、経験の意味を吟味することに努める。</p> <p>第15回 教育実習成果報告会 1・2・3年生の教職履修性に向けた教育実習成果報告会を行うことにより、自身の教育実習の意味を再確認する。</p>
授業の概要	<p>（事前研究）教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとしたい。</p> <p>（事後研究）教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種（中学校・高等学校）、学習環境（地域差、学習母集団）等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。</p>
予習	テキストを熟読すること
復習	テキスト及び配付したレジュメを再読すること

テキスト	教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』（第8版）倉丘書林 2005
参考書	特になし
評価方法・評価基準	1. 授業態度・授業への参加度（40%） 2. 発表・討議参加（30%） 3. レポート・提出物（30%）
履修上の注意	<p>1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。</p> <p>2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。</p>

講義科目名称：教育総合研究

授業コード：

英文科目名称：Integrated Studies in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：TTC321	

授業のテーマ及び到達目標	教育実習直前の学生を対象に、これまで学んできた教職科目の知見を総合して、教育に関する見識を深める。また、模擬授業を行い、授業実践力を高める。		
授業計画	第1回	講義の概要説明 本講義の概要説明。評価方法の確認。	
	第2回	教育問題についての討議①（いじめ問題） いじめ問題のケーススタディーを行う。あなたが担任ならどのような働きかけを行うか。	
	第3回	教育問題についての討議②（小学校外国語活動、小学校英語について） 小学校における英語教育についての論文を輪読し、そのあり方を議論する。	
	第4回	教育問題についての討議③（子どもの貧困について） 子どもの貧困についての教育論文を読み、教員としてどのようなことができるのかを話し合う。	
	第5回	模擬授業と批評会①（道徳の授業） 参加者全員の道徳の模擬授業か、特別活動の学級活動の模擬授業を行ってもらおう。以下の授業回数は受講学生の人数により増減する。それに伴い「教育問題についての討議」の時間も増減することになる。	
	第6回	模擬授業と批評会②（道徳の授業）	
	第7回	模擬授業と批評会③（道徳の授業）	
	第8回	模擬授業と批評会④（道徳の授業）	
	第9回	模擬授業と批評会⑤（道徳の授業）	
	第10回	模擬授業と批評会⑥（道徳の授業）	
	第11回	模擬授業と批評会⑦（道徳の授業）	
	第12回	模擬授業と批評会⑧（道徳の授業）	
	第13回	模擬授業と批評会①（HR・特別活動）	
	第14回	模擬授業と批評会②（HR・特別活動）	
	第15回	模擬授業と批評会③（HR・特別活動）	
授業の概要	①これまで学んできた教職科目の知見を総合して、様々な教育問題を受講者中心に討議していただく。 ②さらに、教育実習において、道徳の授業あるいはHRでの授業を行うことになるので、その模擬授業を行い、教育実習に備える。		
予習	「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 道徳教育の授業実践集に目を通し、模擬授業に備える。		
復習	授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと		
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。		
参考書	講義中に適宜お知らせする。 文部科学省『中学校学習指導要領』		
評価方法・評価基準	授業への参加・貢献度（30%）、発言の質（30%）、模擬授業（40%）によって総合的に評価する。		
履修上の注意	1 教員免許に係る科目を全て修得し、教育実習参加を前提とする。		

講義科目名称：教職実践演習（中・高）

授業コード：

英文科目名称：Student Teaching(Junior/Senior High School)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
照屋信治・大城直人			
		ナンバリング：TTC404	

授業のテーマ及び到達目標	教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明、自己の課題の確認（履修カルテを利用した個別面談） 授業の概要説明。教師に求められている4つの事項を確認する（①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項）。授業時間外に時間を設定し個別面談を行う。</p> <p>第2回 学校フィールドワーク 2日間の学校フィールドワークの概要説明、グループ分け。実習小学校、実習中学校に関する事前学習。</p> <p>第3回 学校フィールドワーク実習①観察実習、授業支援 学校フィールドワークでは、西原町内の小学校で観察実習、授業支援、学習支援などを行う。2日うち、初日は観察実習、授業支援を行う。</p> <p>第4回 学習フィールドワーク実習②小学校外国語活動の授業支援、学習支援 2日目は特に、小学校外国語活動（あるいは小学校英語）を観察し、授業に関わることで、中学校入学前の英語教育の状況を把握する。</p> <p>第5回 学習フィールドワークの報告会 学校フィールドワークの状況、そこで学んだことを、グループ内で共有し、小学校と中学校の接続・連携について考察を深める。</p> <p>第6回 生徒理解に関する授業（教育相談について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、教育相談、生徒指導についての現状をお話いただく。</p> <p>第7回 教科に関する授業（沖縄県の英語教育について） 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、沖縄県の英語教育の課題についてお話いただく。</p> <p>第8回 教科に関する授業（アクティビティ研究） 教職課程履修中の3年生に対して、教育実習で行った英語授業のアクティビティの発表会を行う。</p> <p>第9回 教科に関する授業（アクティビティ研究の検討会） 教職課程履修中の3年生とともに、英語授業におけるアクティビティの有効活用について話し合いを行う。</p> <p>第10回 教科に関する授業（研究授業） 特定のテーマを定めて研究授業を行う。教職課程履修中の3年生に生徒役をお願いし、その後、具体的な検討を行う。</p> <p>第11回 道徳に関する授業 エンカウンターを用いた道徳授業の研究授業を行い、その後にグループ討議を行う。</p> <p>第12回 特別活動に関する授業 特別活動に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。</p> <p>第13回 学級経営・生徒理解に関する授業 学級経営・生徒理解に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。</p> <p>第14回 教職課程修了の報告会に向けての討議 教職課程修了の報告会に向けての事前の報告会、討議、準備を行う。</p> <p>第15回 教職課程修了の報告会 教育実習を中心の4年間の教職課程で学んだことを、1・2・3年の教職課程履修者の前で報告してもらう。</p>
授業の概要	4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイングを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていききたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。
予習	各人の担当個所の準備を行い、各回の課題を提出すること
復習	各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること
テキスト	授業内容に応じて資料を配布
参考書	適宜提供 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法・評価基準	1. 授業態度・授業への参加度（40%） 2. 発表・討議参加（30%） 3. レポート・提出物（20%） 4. 個別面談（10%）

履修上の注意

特になし

講義科目名称：国際理解教育

授業コード：

英文科目名称：Global Issues in Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：TTC322	

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学ぶ 知識理解：国際理解のもつテーマを学ぶ 関心意欲：学びのプロセスに積極的に参加し、現在のニュースへの関心を寄せられるようになる 思考判断：教育テーマについて深く掘り下げる 態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、最終的には教材作成が出来ることを重視する</p>		
授業計画	第1回	<p>国際理解教育の始まりについて・講義 ねらい：国際理解教育の本科目についての共有理解、授業の始まりにむけてお互いの期待を共有 ・本授業のシラバス内容確認 ・評価、出席、テストの有無等確認 ・担当教員の国際理解教育における専門について ・グループワーク①：「あなたがこれまで体験・受講してきた国際理解教育」共有 ・グループワーク②：本授業で目指す・作っていききたい国際理解教育「こんな学びがあったらよいな」</p>	
	第2回	<p>戦争と国際理解教育 ねらい：国際理解教育はなぜ必要なのか、そのはじまりを知る。日本の教育現場における本教育の重要性について学ぶ ・グループワーク①：国際理解教育はなぜ必要か？ ・国際理解教育と戦争の関係、戦争から始まる教育（VTR） ・日本の教育における「国際理解教育」の取り扱い、文部科学省の指導要領 ・グループワーク②：世界で起きている紛争、移民、難民問題、ヘイトスピーチからみえること、国際理解・民際理解について</p>	
	第3回	<p>世界がもし100人の村だったら ねらい：せかいの現状を100の割合になおし、ロールプレイ等のゲームで体験する。 ・世界を100人の村にしてみる中みえること ・男女の比率は？ ・世代の比率は？ ・世界の言語はどうなっているの？ ・文字が読めないとどうなるの？ ・富を分配するとどうなるの？ ・世界がもし100人の村だったら（詩の輪読） ゲームの振り返り・大事にしたいこと これを授業に取り入れることのポイント、共有</p>	
	第4回	<p>携帯の一生 ケータイを通して知る 私と世界のつながり ねらい：携帯を通して世界とつながる。携帯の中の部品が世界中の鉱物資源を輸入して作られている現状をしり、消費と世界の環境・紛争の結びつきを知る。 ・グループワーク①：「携帯の良し悪し」「携帯でできること」話し合い ・携帯クイズ ・グループワーク②：携帯販売のためのチラシから見えてくること、メディアリテラシー ・携帯と世界のつながり：脅かされる資源を奪い合う開発途上国（VTR） ・グループワーク③：携帯と私たちの生活の関係、よりよく付き合っていくためには</p>	
	第5回	<p>沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：わたしたち沖縄はよくチャンプルー文化、世界に開かれた島だと言われているが、ほんとうにそうだろうか？その事実を学ぶ一つに「沖縄移民」の歴史から現在の日系人につながるものがある。「沖縄移民」にまなぶ沖縄と世界のつながりを知り、教材を体験する。 ・写真にみる沖縄移民の歴史 ・体験記にみる一人ひとりの生き方 ・「移民小唄」から現在のポップミュージック。音楽を通して知る「移民の意味」 ・世界ウチナーンチュの日について（ワーク&VTR） ・世界のウチナーンチュ大会（VTR）</p>	
	第6回	<p>沖縄と世界を結ぶ国際理解①～世界のウチナーンチュを教材として体験～ ねらい：前週に続く学びに加え、地域教材を通して国際理解教育を教える意味学ぶ ・さおりの学び ・グループ討論：教材を通して学んだこと ・グループ教材作成体験：沖縄移民から日系人までを学校現場で教えるとしたら？ ・グループ発表 上記共有</p>	
	第7回	<p>たずねてみよう！カレーの世界 スパイスと食文化の多様性表 ねらい：食文化、風土、文化、宗教、気候これらは全て切り離せることなく、融合し合ってそれぞれの食文化がなりたっていることを知る。 ・個人ワーク：我が家の自慢のカレー ・グループワーク：スパイス・カレーにみるアジアの食文化 ・食の作法：カトラリー・手職・橋食の文化について</p>	
	第8回	<p>アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：前週に習った食に関する教材を元に、2か国の異なるカレーの調理実習を行い、試食まで行う。 ・予定：インドカレー、タイカレーを調理実習する予定。</p>	
	第9回	<p>アジアのカレーを食す（予定）調理実習 ねらい：予定では上記と併せて二コマ使用予定。</p>	

第10回	<p>社会派映画に観る国際理解 ねらい：映像にみる世界、国際理解教育の学びとする ・国際理解教育に関連する社会派の映画鑑賞 ・グループ振り返り</p>
第11回	<p>自己肯定感を高めるワークショップ ねらい：国際理解教育という、他国、大きなものの理解が真っ先に浮かびますが、私自身を知り、自己肯定できるプロセスが出来てその次に他者であり、他国理解につながるということを学ぶ。 ・個人ワーク：あなたの生い立ちの中で築き上げてきた自己理解、自己肯定感の確認 ・グループワーク①：自己肯定感を知るワークショップ体験（2～3のワーク） ・グループワーク②：自己肯定感とは何か？ ・講義：自己肯定感なぜ大事なのか？ ・本講義、振り返り</p>
第12回	<p>教材の作り方（講義・グループワーク） ねらい：国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。 ・文部科学省の学習指導要領との関係、授業の流れ作成、ねらい、対象者を絞り込んだ教材開発の重要性を知る。 ・グループワーク①：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成</p>
第13回	<p>学生による教材作成ワークショップ発表会① ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。</p>
第14回	<p>学生による教材作成ワークショップ発表会② ねらい：ねらい、対象者、グループワークや教材の準備を想定して、教室で模擬授業を行う ・1グループ15～20分で、一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する。 ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること ・授業を実施する側、受講する側に分かれてお互いに評価し合う仕組みを取り入れている。</p>
第15回	<p>まとめ 振り返り ねらい：半期授業の振り返りを行い、何を学び、何を実際の授業に活かしていけるのか、個人および全体で振り返りを行う。 ・学び残したアクティビティを短く体験 ・これからの国際理解教育、大事にしたいこと</p>
授業の概要	<p>「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」この文はユネスコ憲章全文である。今年、概ね5年に一度の世界のウチナンチュ大会であり、本大会および各国県人会（会員）との交流も予定しており、沖縄の地元教材の制作に臨む。</p>
予習	<p>世界を知る努力の為に自分は何が出来るのか、計画を立て、予習計画を作成すること</p>
復習	<p>授業の中で取り上げた課題を理解するために、ニュース等さらに自己探求を深め、課題、発表等に活かすこと</p>
テキスト	<p>適宜プリントを配布</p>
参考書	<p>講義においてそのつど提示する。</p>
評価方法・評価基準	<p>参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 授業への参加（25%）、課題（レポート）（30%）、教材発表（35%）、授業への・積極的発言（10%）</p>
履修上の注意	<p>フィールドワークへの参加は授業外、校外活動となり、2コマ連続となります。 積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表（最後の授業プラン作り）を重視しているため、国際的な知識を身に付けた学生の参加を重視する。</p>

講義科目名称：英語科教育法 I (=英語教育法)

授業コード：

英文科目名称：English Language Education I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：TTC310	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。 思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・英語教育の目的</p> <p>第2回 日本の英語教育の歴史</p> <p>第3回 英語教師論</p> <p>第4回 言語習得と教授法</p> <p>第5回 第一言語習得と第二言語習得</p> <p>第6回 学習者論①</p> <p>第7回 学習者論②</p> <p>第8回 英語教育課程</p> <p>第9回 教室の使用言語</p> <p>第10回 授業の形態</p> <p>第11回 測定と評価</p> <p>第12回 語彙の指導と評価</p> <p>第13回 文法の指導と評価①</p> <p>第14回 文法の指導と評価②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸問題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。
予習	配付資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
復習	指定された課題に取り組み期日までに提出する
テキスト	「英語科教育の基礎と実践」(三修社)
参考書	課題図書、参考文献は授業において提示する。
評価方法・評価基準	1. Take-home Exam (60%) 2. 振り返りシート (30%) 3. 授業への貢献度 (10%)
履修上の注意	1 テキストとともに課題図書が指定される。 2 予習を前提として講義を行う。

講義科目名称：英語科教育法Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：English Language Education Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：TTC311	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解：英語教育理論や日本の教育事情について説明できる。 思考・判断：中等教育における英語教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲：技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、議論できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・日本における英語教育</p> <p>第2回 教員養成・教育実習</p> <p>第3回 教材研究と授業計画①</p> <p>第4回 教材研究と授業計画②</p> <p>第5回 リーディングの指導と評価①</p> <p>第6回 リーディングの指導と評価②</p> <p>第7回 リスニングの指導と評価①</p> <p>第8回 リスニングの指導と評価②</p> <p>第9回 スピーキングの指導と評価</p> <p>第10回 ライティングの指導と評価</p> <p>第11回 学習指導案の作成①</p> <p>第12回 学習指導案の作成②</p> <p>第13回 理論と実践の融合</p> <p>第14回 4技能の統合を目指した授業の実践</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業の概要	中学校・高等学校英語教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、指導能力の養成を図る。教授法の歴史的変遷、個々の教授法の特徴、問題点等について討議をし、中学校や高校の教育現場の実情に照らしながら、各技能指導の方法を探る。また、指導の実践力を養成するため、グループ活動を通して、実際の授業を想定した具体的な課題に取り組み、指導技術の基礎基本を体験する。
予習	配布資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。
復習	指定された課題に取り組み、期日までに提出する
テキスト	「英語科教育の基礎と実践」（三修社）
参考書	課題図書、参考文献—授業において提示する。
評価方法・評価基準	1. Take-home Exam (60%) 2. 振り返りシート (30%) 3. 授業への貢献度 (10%)
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。 2 事前に受講資格審査を行う。

講義科目名称：英語科教育法演習 I (中学校・高校)

授業コード：

英文科目名称：Methods and Practice in Eng. Teaching I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：TTC312	

授業のテーマ及び到達目標	知識理解・技能・表現：①理論を指導実践に生かすことができる。②日本人学習者の課題を理解し4技能の習得について指導できる。 思考・判断：自他の授業を授業目標に沿って評価し、問題点を考察できる。 関心・意欲/他：①多面的に教材研究を行い、②課外活動に積極的ににかかわり、その成果を授業にフィードバックできる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション、授業VTR視聴、授業評価	
	第2回	英語授業の視点	
	第3回	授業の組立・指導案作成	
	第4回	文法指導の計画と実践①	
	第5回	文法指導の計画と実践②	
	第6回	リーディング指導の計画と実践①	
	第7回	リーディング指導の計画と実践②	
	第8回	リスニング指導の計画と実践	
	第9回	スピーキング指導の計画と実践	
	第10回	ライティング指導の計画と実践	
	第11回	模擬授業・授業観察①	
	第12回	模擬授業・授業観察②	
	第13回	模擬授業・授業観察③	
	第14回	模擬授業・授業観察④	
	第15回	総括	
授業の概要	本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。		
予習	演習課題に事前に取り組んでおく。		
復習	配布資料に目を通し、様々な実践例を理解する		
テキスト	特に指定しない。必要な資料を各授業において配布する。		
参考書	授業において提示する。		
評価方法・評価基準	授業参加姿勢、グループ発表や模擬授業、レポート、クイズ、テストをもって、総合的に評価する。		
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする		

講義科目名称：英語科教育法演習Ⅱ(中学校・高校)

授業コード：

英文科目名称：Methods and Practice in Eng. Teaching Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年	2単位(0-2)	教職科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：TTC410	

授業のテーマ及び到達目標	知識・理解/技能・表現/思考・判断：①中・高における50分の授業案を作成し、実践できる。 ② 授業のための教材を研究・作成することができる。 ③ 自他の授業を客観的に分析し、課題を発見し、改善することができる。 関心・意欲：他者の授業に積極的ににかかわり、支援することができる。
授業計画	第1回 授業計画・運営について 第2回 学習指導案の分析と評価 第3回 授業観察(着眼点と分析の方法) 第4回 模擬授業/授業検討会① 第5回 模擬授業/授業検討会② 第6回 模擬授業/授業検討会③ 第7回 模擬授業/授業検討会④ 第8回 模擬授業/授業検討会⑤ 第9回 模擬授業/授業検討会⑥ 第10回 模擬授業/授業検討会⑦ 第11回 模擬授業/授業検討会⑧ 第12回 模擬授業/授業検討会⑨ 第13回 模擬授業/授業検討会⑩ 第14回 模擬授業/授業検討会⑪ 第15回 模擬授業/授業検討会⑫
授業の概要	受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践研究する。これまでの英語教科教育法で学んだことを踏まえ、実習校で使用している教科書を基に、各自、学習指導案を作成し、模擬授業を2回実践する。授業後は、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の活動を通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を培う。
予習	教材研究を行い、指導案を作成する。
復習	「振り返りシート」を作成し、改善点を再考する。
テキスト	実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。
参考書	授業において提示する
評価方法・評価基準	教案、模擬授業内容、授業計画とその準備、授業参加姿勢、提出物をもって総合的に評価する。
履修上の注意	1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。 2. 模擬授業の前に必ず、教案を提出する。 3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。

講義科目名称：教育課程論

授業コード：

英文科目名称：Principles of Curriculum

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	教職科目
担当教員			
三村 和則			
		ナンバリング：TTC203	

授業のテーマ及び到達目標	(1) 教科書の内容を教えるだけでなく、自分自身で何を教えるべきか、どのように教えるべきかを考えることができるようになること。 (2) 学習指導要領の意図と意義を理解し、創造的なカリキュラム編成を行う素地を身につけること。
授業計画	<p>第1回 教育課程編成の意義</p> <p>第2回 教育課程編成の原理</p> <p>第3回 近代・現代日本の教育課程の歩み</p> <p>第4回 2008年学習指導要領改訂の経過と特徴</p> <p>第5回 中学校学習指導要領と教育課程編成の実際</p> <p>第6回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際</p> <p>第7回 国際学力調査の教育課程改革への影響</p> <p>第8回 教育課程と評価</p> <p>第9回 学級経営・HR経営の年間指導計画</p> <p>第10回 生徒指導の年間指導計画</p> <p>第11回 道徳の年間指導計画</p> <p>第12回 進路指導の年間指導計画</p> <p>第13回 総合的な学習の時間の年間計画</p> <p>第14回 小学校外国語活動の年間指導計画</p> <p>第15回 まとめ(テスト)</p> <p>第16回 期末試験</p>
授業の概要	教育課程(カリキュラム)とは、望ましい学習が展開されるように配慮してつくられる、学校の教育内容の組織のことである。教科・科目など指導領域を設け、教材を選択・配列することによって編成される。それは、国や学校によって規定される部分もあるが、個々の教員により担われているものである。将来教員になり、教育議論をしっかりと理解し、学校の教育課程編成に参加してゆく能力の基礎を身につけてもらいたい。教育課程の原理、改革の歴史などを学び、具体的なカリキュラム編成の訓練を行う。
予習	事前に配布された資料に目を通すこと
復習	講義で配布された資料を熟読し、授業中の発言を再吟味すること
テキスト	『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年
参考書	『よくわかる教育課程』田中耕治、ミネルヴァ書房、2009年
評価方法・評価基準	授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。
履修上の注意	<p>1 「教育課程論」は、教職科目の必修科目であることに照らして、無遅刻無欠席で授業に臨んでいただきたい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。</p> <p>2 履修条件：1年次配当の「教職の意義」「教育原理」を履修済み、履修中であること。</p>

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
照屋 信治			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	大学における学習の最終的な仕上げを目指す。各学生が、それぞれ主体的に研究課題を設定し、適正な手順に則って研究し、その成果を卒業論文・レポート等の適切な方法によって発表する。
授業計画	<p>前期においては、研究テーマ検討、講読、テーマ決定をおこなう。各学生に4月に漠然とでもテーマを発表してもらい、その後、講読において、学問的な手法を確認してもらい、その後、各学生はテーマと主な分析史料を決定する。</p> <p>今年度の講読に関しては、教育・歴史・沖縄の三点が交錯するという点から、1940年の「沖縄方言論争」を取り上げる予定である。ただし、参加者の興味関心を確認の上で、別のテーマに変更する可能性もある。</p> <p>後期においては、中間発表、章立て検討、執筆、口頭発表、論文完成という流れである。各参加者、2回ほどの発表を行う。</p> <p>概ね以上を予定しているが、参加者の人数・興味関心により、指導形態・方法が変わる可能性がある。</p>
授業の概要	担当者の専門は、近代沖縄教育史・思想史である。現代の教育、近現代教育史、近現代沖縄史に関連する卒業研究の指導を行う。主に歴史学の学問的な手法に依拠する。先行研究を収集・精読し、史料を読み・考え、論文の構想を練り、口頭発表、論文完成という手順を踏む。
予習	指定された論文を熟読すること
復習	指定された論文を、自身の論文に活かすつもりで再読すること
テキスト	教場において随時提示する。
参考書	教場において随時提示する。
評価方法・評価基準	卒業論文の水準によって評価する。出席状況も加味する。
履修上の注意	卒業論文の作成には、莫大な時間と労力を要する。よく考えたうえで、担当教員・研究テーマをきめること。どのような手法・分野を選ぼうとも、卒業研究をしっかりと行った経験は、卒業後に何らかの形で役立つものであるから、しっかりとがんばってもらいたい。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
新垣 誠			
		ナンバリング：THE490・491	
授業のテーマ及び到達目標	<p>知識理解：物事の内容を説明できる。 思考判断：論理的思考ができる。</p> <p>関心意欲：社会に興味を持てる。 態度：計画的な研究計画を立てる。</p>		
授業計画	<p>卒業研究Ⅰ（4月～7月）：テーマ設定のための事前調査、テーマ選択の指導、テーマ決定、先行研究調査。学術論文の基本的考え方、データ収集方法、質的・量的リサーチ、統計処理方法などに加え、引用の方法、文章の体裁・構成、論文執筆の手順などを学ぶ。研究計画書の最終バージョン、アウトラインの完成、先行研究のまとめをおこなう。</p> <p>夏休み（8月～9月）：インタビュー、聞き取り調査、参与観察、アンケートなどの実施。</p> <p>卒業研究Ⅱ（9月～2月）：執筆開始。データ処理作業、個別相談、グループでの読み合わせ作業、中間報告、体裁整え・仕上げの作業。</p>		
授業の概要	<p>卒業研究Ⅰでは、知的財産権や論文の形式・構成など、学術論文執筆における基礎を学ぶ。また、卒業研究における様々な調査方法、統計処理、先行研究調査、理論的枠組の活用方法を学ぶ。卒業研究Ⅱでは、実際の執筆作業を通して、理論展開、議論の整合性、文章構成のテクニックなど、学術論文における技術を習得する。卒業研究・卒業論文作成の作業を通して、豊かな観察力、言語力、コミュニケーション能力、批判的思考力、論理的思考力を身につけることが、主な目的である。</p> <p>国際平和学や国際関係論、国際ボランティア論など、インターナショナル・サービス関連科目、また異文化理解やカルチュラル・スタディーズ、文化人類学などの講義で扱ったトピックを中心に研究テーマを選択し、データ収集をおこない、論文を執筆する。学際研究であるため、理論的アプローチや調査方法などに関して特に規定はないが、綿密な相談の上、研究テーマを決定することが望ましい。</p>		
予習	<p>次回の授業や面接に備えて出された課題を終わらせること。</p>		
復習	<p>授業で学んだことや面接で指摘されたことを振り返って対応すること。</p>		
テキスト	<p>必要な資料等は、講義担当者が準備します。</p>		
参考書	<p>必要な資料等は、講義担当者が準備します。</p>		
評価方法・評価基準	<p>授業参加（30%）、各週に課される課題（10%）、研究計画書（30%）、先行研究のまとめなどの提出状況と、内容（30%）をもとに評価します。</p>		
履修上の注意	<p>作業を進行させる各ステップにおいて、綿密な打ち合わせと指導・相談が必要です。設定された時間には必ず出席し、課された作業を確実にこなすことが重要となります。</p>		

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
浜川 仁			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文を完成させる。テーマは、文学テキスト及び動画などこれに類するものを批判・分析するものが望ましい。
授業計画	<p>4月～ リサーチの方法を学びつつ、先行研究や関連情報を収集する。</p> <p>5月～ 7月 資料収集と、進捗状況の報告</p> <p>8月～ 9月 経過説明とアウトラインの作成</p> <p>10月～11月 研究経過を口頭で説明し、アドバイザーと他の受講生と意見交換を行なう。</p> <p>12月～ 1月 執筆作業</p> <p>2月 最終調整</p>
授業の概要	リサーチの方法に始まり、読みやすく説得力のある表現方法を身につけ、参照・引用のルールにきちんと従って論文を書く能力を養う。
予習	先行研究を読んで概説をまとめ、2～3分で説明できるようにしておく。
復習	指摘されたことを見直し、卒業論文内に組み入れる。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	以下を目安とし、評価する。
履修上の注意	ミーティングは毎週出席し、調査、執筆、校正に責任感をもって取り組んでもらいたい。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
仲里 和花			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。
授業計画	<p>〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。</p> <p>〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い。卒業論文を完成させる。12月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2月上旬には卒業論文の提出。</p>
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	卒業論文の作成
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
Daniel Broudy			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	Students will develop their skills in research methods, critical thinking, planning, and writing. In line with Bloom's Taxonomy, each lesson builds upon the previous one. Students will work towards the final goal of creating and presenting something unique. In-class work will involve pair and small group discussions, the sharing of original ideas as well as making and giving interesting presentations.
授業計画	<p>Meeting 1 Introductions / syllabus / writing process</p> <ol style="list-style-type: none"> Take role Distribute syllabus H.0.1 Conducting Interviews (students practice interviewing skills and introduce the interviewee to the class) Discuss subject, audience, & purpose by listing examples of each Divide class into small groups H.0.2 In-class Brainstorming Exercise <p>HOMEWORK:</p> <ol style="list-style-type: none"> Finish the In-class Brainstorming Exercise for discussion in next week's meeting. <p>Meeting 2 Lecture 1</p> <ol style="list-style-type: none"> Discuss results of H.0.2, identify relationships among details in brainstorming, label relationships with category names, share group results with the class on the white board, identify trends, differences among groups, genders, etc. Collect the results of their work in H.0.2 <p>HOMEWORK:</p> <ol style="list-style-type: none"> Brainstorm on 5 separate Post-it notes (a) your short-term goals, (b) long-term goals, (c) likes and dislikes, (d) things that make you happy, and (e) images of Okinawa H.0.3 Brainstorming Homework Create a Gmail account <p>Meeting 3 Lecture 2</p> <ol style="list-style-type: none"> H.0.4 Small-group Discussion of Brainstorming Each group creates a Google Drive Presentation that creatively represents the data drawn from H.0.4 <p>HOMEWORK:</p> <ol style="list-style-type: none"> H.0.5 Collaboration <p>Meeting 4 Small-group work 1</p> <ol style="list-style-type: none"> H.0.6 Similarities and Trends Discuss results of H.0.5 Collaboration <p>Meeting 5 Small-group work 2</p> <ol style="list-style-type: none"> H.0.6.5 Logical Analysis H.0.7 Critical Analysis <p>HOMEWORK: Finalize your presentation</p> <p>Meeting 6 Practice 1</p> <p>Practice time for presentations</p> <p>Meeting 7 Presentations 1</p> <p>MIDTERM PRESENTATIONS</p> <p>Meeting 8 Presentations continued</p> <p>Presentations (continued)</p> <p>Small-group discussions (Brainstorm, take notes, and discuss the details that group members already know or understand about their chosen topics.)</p> <p>H.0.7.5 Research Questions and Methods of Investigation</p> <p>HOMEWORK:</p> <p>Finish the work in H.0.7.5</p> <p>Meeting 9 Small-group work 3</p> <p>Clarify what your group already knows about the issue, what the goals are, and then update your Google Drive PowerPoint. These details should be clearly expressed in your PowerPoint.</p> <p>H.0.8 Research Team</p> <p>HOMEWORK:</p> <p>Finish the work in H.0.8</p> <p>Meeting 10 Small-group work 4</p> <p>Discussion of the Research Team handout.</p> <p>Discussion of the Research Team handout.</p> <p>HOMEWORK:</p> <p>Be prepared to report new progress in the next meeting.</p> <p>Meeting 11 Small-group work 5</p> <p>H.0.9 Research Progress</p>

	<p>Meeting 12 Small-group work 6 Critical discussion of results</p> <p>Meeting 13 Small-group work 7 Include results in the presentations</p> <p>Meeting 14 Practice 2 Finalize results and practice presentations</p> <p>Meeting 15 Presentations 2 FINAL PRESENTATIONS</p>
授業の概要	In this class, students are encouraged to take a fresh look at themselves and at their society. The fifteen-week course is divided into two seven-week cycles, which follow Bloom's Taxonomy of learning objectives. In the first cycle, issues such as 'self-identity', 'group identity' and 'community identity' will be investigated. In the second cycle aspects of Okinawan culture will be investigated more deeply. Field research may be included.
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis
テキスト	This depends on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
参考書	This depends on the area selected for research. Follow advisor's instruction.
評価方法・評価基準	The advisor assigns a mark based on quality of research and level of effort exhibited by student throughout the entire year. Incomplete theses receive no passing mark.
履修上の注意	Participation is an important part of this course. This means that coming to meetings on time and focusing on the work is necessary for success.

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
新垣 友子			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	自ら明らかにしたいテーマを設定し、文献研究・調査等を踏まえて卒業論文を完成させる。
授業計画	<p>4月～6月 卒論の書き進め方、研究の方法を詳しく学ぶ。 先行研究を収集し、テーマ設定のための演習を行なう。</p> <p>7月 中間報告会を行なう。（研究の目的、方法、章立て、先行研究など）</p> <p>8～9月 先行研究の読み込み、論文構成、調査研究。</p> <p>10～11月 調査結果の分析と考察・執筆。</p> <p>12月 研究結果のまとめ（ゼミ内提出）</p> <p>1月 フィードバックに従い追加修正</p> <p>2月 推敲</p>
授業の概要	音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論などあらゆる側面から言語に関する研究を行なう。研究の対象となる言語は主に日本語、英語、沖縄語（うちなーぐち）で、身近にある言語現象を細かく調査・分析し、何故そのような言語現象が起こるのか追求する。コーパスを用いて談話分析を行なったり、必要に応じてフィールドワークを実施し、データの収集・分析法を学ぶ。
予習	前期は先行研究の読み込み、後期は研究計画書に従って執筆する。適宜発表の準備や文献のまとめを行う。
復習	フィードバックに沿って研究計画書の作成や修正を行いながら、調査・執筆を行う。
テキスト	随時提示する。
参考書	随時提示する。
評価方法・評価基準	卒業論文(80%) 授業態度（発表、参加度など）(20%)を基準とし、総合的に評価する。
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 卒業研究は学生主体であるため、一方的な講義は期待せず、積極的に授業に参加すること。 毎回、授業では発表・発言を求められるため、かなりの時間を割いて準備をすることが要求される。予習を怠らないこと。 学生同士のフィードバックもとても大切である。みんなで作る授業であるという意識を持って、積極的にピア・レビューを心がけること。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
大城 直人			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	学術論文作成のプロセス（テーマ設定/先行研究リサーチ/データ収集/データ分析/データ解釈/論文執筆）を体得し、各自の研究テーマに沿った論文の完成を目指す。
授業計画	<p>前期（4月～7月） 先行研究リサーチと並行して、データ収集に向けた準備（アンケート調査の質問紙作成など）を行った後、データ収集（アンケートの実施など）に取り掛かる。</p> <p>後期（10月～2月） 統計ソフトを用いてデータを処理・分析し、さらに分析結果の解釈を試みる。その後、論文の執筆作業を開始する。後半は個別指導を中心に、論文の推敲を重ね完成させる。</p>
授業の概要	先行研究リサーチの成果発表と並行して、データ収集に向けた取り組み（アンケート調査の質問項目作成など）を進める。また、データ分析の手法（統計ソフトの活用など）を学び、論文執筆の土台づくりを行う。さらに、論文執筆における約束事（引用方法、図表等の提示方法など）についても具体例を取り上げ、理解を深める。
予習	研究テーマに沿って、各自の課題（先行研究リサーチ、調査方法の検討など）に取り組む。
復習	指導助言を踏まえ、継続的に課題に取り組む。
テキスト	必要な書類は適宜、授業内で配付する予定です。
参考書	必要な書類は適宜、授業内で配付する予定です。
評価方法・評価基準	卒業論文(80%) 授業態度（発表、参加度など）(20%)を基準とし、総合的に評価する。
履修上の注意	学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
金 永秀			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	自ら問題を設定し、資料を収集して文献を読み解く。思考を整理し、研究内容を口頭発表する。論文規定に従って、卒業論文を完成させることを目標とする。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「卒業論文とは」</p> <p>第2回 研究課題の設定，研究の進め方，資料収集</p> <p>第3回 研究課題の設定，研究の進め方，資料収集</p> <p>第4回 研究課題の設定，研究の進め方，資料収集</p> <p>第5回 論文の読み方と書き方</p> <p>第6回 論文の読み方と書き方</p> <p>第7回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第8回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第9回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第10回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第11回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第12回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第13回 ディスカッション，口頭発表</p> <p>第14回 卒業研究中間報告会</p> <p>第15回 前期まとめ</p> <p>第16回 論文の書き方</p> <p>第17回 論文の書き方</p> <p>第18回 論文の書き方</p> <p>第19回 論文の書き方</p> <p>第20回 論文の書き方</p> <p>第21回 個人指導</p> <p>第22回 個人指導</p> <p>第23回 個人指導</p> <p>第24回 個人指導</p> <p>第25回 個人指導</p>

	<p>第26回 卒業研究発表</p> <p>第27回 個人指導</p> <p>第28回 個人指導</p> <p>第29回 個人指導</p> <p>第30回 まとめ 卒業論文提出</p>
授業の概要	学生自ら研究テーマを設定する。情報収集、文献研究の方法、論文の書き方を学び、口頭発表を経て、論文を仕上げる。
予習	卒論テーマに関する文献をあらかじめ探して読む
復習	指導された内容と文献を精査する
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	<p>授業態度：30%</p> <p>受講者の発表：50%</p> <p>その他：20%</p>
履修上の注意	学生の自発的な資料収集と、担当教員との綿密な相談、締め切り厳守を求めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
近藤 功行			
ナンバリング：THE490・491			

授業のテーマ及び到達目標	<p>担当者のところでは、第4章構成で終えるため、規定枚数の心配はない。この章立てで書き終わるとそこはすでにクリアしているからだ。大学院進学にあたり、通用する論文指導を実施している。学部レベルにおける当該論文指導の手法は、[はじめに]+[第1章 各節立て+小括]~第4章 各節立て+小括]+[おわりに（課題）]+[文献]の構成である。各章の始まり部分で、各章でこれから何を論じるのか明記させる。また、各章ごとに小括でまとめることとし、そのことは、各章立てがどこでどう有機的に連動するのかを説明することともつながる。第4章構成の章立てを行うことで、当該論文で犯人が探し出せているのか、ここを一緒にみてトレーニングすることとなる。文献は10冊程度の挿入を図る。これらの作業を一緒に行うことで、就活と連動したこうした諸作業から、自己の研究を対外的にも口述できる力が養われ、どんどん伸びてゆくことが期待される。学術的内容と社会的視座の両方を学生は、この1年間で学ぶこととなる。</p>
授業計画	<p>4月～6月</p> <ol style="list-style-type: none"> ① テーマ設定の仕方についての指導。 ② 先行研究の文献検索の仕方の指導。 ③ 研究方法の検討。 ④ 文献挿入に際して有効なインターネット検索とそうでない場合の説明。 ⑤ 章立て節立て（各章ごとの最後に「小括」を挿入）に向けた学習（1期生から、これまで第1章～第4章構成で卒論指導実施）。 ⑥ アンケート調査の手法を学ぶ（実施者を想定し）&予備（プレ）調査実施、分析・検討。 ⑦ 論文構成の確認（「はじめに」「本論（第1章～第4章）」「おわりに（課題）」「文献」）。 ⑧ [中間発表会（6月期予定：3年次ゼミ学生も同席）]。 <p>7月～9月</p> <ol style="list-style-type: none"> ① アンケート調査（実施者のみ）票の作成（アンケートをつくり聞き取り調査にまわす場合もあり）。 ② アンケートを実施する学生は7月期迄に終える指導。 ③ 卒業論文指導（夏休み、各自での実施体制をつくる）。 <p>10月～12月</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本調査の実施。 ② データ整理と分析。 ③ 各章節の文章化（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。 ④ 引用と参考文献の用い方実践（各自の卒論を通して、文献と本文記載内容を実際に全件チェック）。 ⑤ [卒論進展状況の発表（卒後の進路方向性などを含む）：4年次のみで実施]。 <p>12月 冬休み</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 全体文章のチェック（本論：第1章～第4章迄の入力中の文章） ② 各章の[小括]文章の挿入。「要約」を書く作業。「キーワード」の抽出。「目次」（図表がある場合これらも該当）をつくる作業。 ③ 文献が10冊以上挿入されているか。必要な場合は「謝辞」挿入。 <p>1月～2月</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究結果のまとめ（指導教員と詰めてゆく作業を繰り返す）。 ② 提出に向けた指導教員との最終の詰め作業。 ③ 本論あとの「終わりに」の中で、今回解明出来なかった内容&将来に持ち越すこととなる「課題」文章作成&「要約・キーワード」「目次（本文&図表）」「表紙」作成。 ④ 挿入された全文献記載の整合性を指導教員と最終チェック&完成。
授業の概要	学際的領域の担当として、1期生では、日米両文化の食、アロマセラピーとハーブを通じた癒やし、自己のジム通いを通してみるスポーツの重要性、沖縄に移住してくる人の意識面、日本人の宗教観、絵本、三味線を通してのウチナーンチュの心、といった内容の7名の卒論提出があった。
予習	随時、説明してゆきます。
復習	随時、説明してゆきます。
テキスト	指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。
参考書	指定なし。随時、紹介してゆく。卒論の「文献」では、書籍以外に学会誌を含めた論文挿入があれば良いが、必ずそれが必要な訳ではない。各自の内容で、必要に応じて挿入。
評価方法・評価基準	卒業論文指導は、上記の流れのように章・節立ての手助けを含めて、マンツーマンでのやりとりを実施している。そのため、最終提出があった評価に関して『秀』以外は存在しない。それ以外でなければ困る学生に関しては相談に応じる。ただし、過去にその事例はない。
履修上の注意	<p>1) 「何でかねえー」と当初疑問を持ったことを、科学的に解明する力が必要だと考える。「第〇章第〇節と第〇章第〇節のここを見て下さい」「ここで類似あるいは相違があるでしょう。だから、最後に出てくる犯人を決める材料はここにあるんです。」、といった裏付けが実施出来るかどうか。また、自分が作ったオリジナルな図・表（ここでは、欄外に「2010年：××××作成」記載をする。××××は卒論提出者の氏名である）で勝負出来れば、この論文はある意味、新発見（New Finding）が得られたことにつながる。 [担当教員メールアドレス（質問・レポート等の受付）] noriyuki@ocjc.ac.jp メールやりとり及び、随時、下記研究室来研で指導を実施している。 [研究室] 北研4-4</p>

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
玉城 直美			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	学術的なレポート・論文を作成する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。
授業計画	<p>〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次終了時に決定した卒論テーマを基本として進めていく。培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。中間発表（Ulvogゼミと合同）を必ず参加し、前期でテーマ、問題意識、参考文献の決定、卒論の半分を仕上げられるように進めていく。月の始めは図書館のスペースを使って文献整理を行う予定。</p> <p>〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議を前半は進めていきながら、後半は個別指導を行っていきながら、12月下旬にはゼミ内における卒業論文を完成、提出を目指す（締切12月22日）。2月上旬には卒業論文の提出。</p>
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。
予習	学生は、前期後期と授業計画に従い、文献を読み、論文に取り掛かること。
復習	中間の取り組みをゼミの教員とやり取りを行い、提出の指示を受けた場合、そのやり取りを進めていく中で、与えられた課題に取り組み、論文の修正を行うこと。
テキスト	特になし
参考書	特になし
評価方法・評価基準	4年次の前期の時点でテーマが決定されており、中間発表、前期、後期の進め方を守ることを前提とします。卒論に必要なテーマ決定から文献整理、理論的思考、結果を規定通り進めていくことで評価を出します。
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis I・II

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
A. David Ulvog			
		ナンバリング：THE490・491	

授業のテーマ及び到達目標	卒業論文の完成。卒業論文のテーマは担当教師との相談の上、決定。
授業計画	<p>April~July (1st term): Determine topic Learn research techniques and commence research Form basic outline of thesis</p> <p>October~February (2nd term): Continue research in more depth Present research findings Submit initial and final drafts</p>
授業の概要	Over the course of one year, students will learn in more detail how to write a senior thesis, research their topic, present regular progress report to the class, gain valuable feedback from their fellow students, and write their graduation thesis.
予習	Students should set aside a fixed time each week to work on their thesis, and prepare any progress reports, questions or other consultations for the professor and/or fellow students for discussion and review.
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis.
テキスト	All necessary texts or prints will be distributed in class.
参考書	There are many websites and books describing how to write a thesis. Students should also look at the theses written by OCU graduates to gain a better understanding of what a senior thesis entails.
評価方法・評価基準	Students will be assessed based on the work of previous graduates and should pay particular attention to the description presented by the professor of how their papers will be evaluated. Composition will following the standard OCU format. The work will have a basis thesis that starts with a research question. The research question is the core of the thesis. It focuses the study, determines what methods the student will employ, and guides the inquiry, analysis, and reporting.
履修上の注意	登録前に担当教師と相談するのが必修である。

講義科目名称：卒業研究（演習）Ⅰ・Ⅱ

授業コード：

英文科目名称：Senior Thesis Ⅰ・Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	4年	2単位(0-2)	学科必修科目
担当教員			
武村 朝吉			
		ナンバリング：THE490・491	
授業のテーマ及び到達目標	学術的なレポート・論文を制作する基礎的な能力を習得し、大学における学びの集大成である卒業論文を作成する。「卒業基礎研究Ⅰ」「卒業基礎研究Ⅱ」で培った知識・技能に基づき、引き続き、各人が設定したテーマを深めてゆく。		
授業計画	<p>〔4年次前期〕 「卒業研究Ⅰ」を履修。3年次に培った知識・技能と、深めたテーマをさらに進化させ、卒業研究を進める。担当教員による個別の指導を受け、ゼミで集団的に学び、個別発表を行う。卒業論文テーマの確定を行う。</p> <p>〔4年次後期〕 「卒業研究Ⅱ」を履修。「卒業研究Ⅰ」を継続し、グループによる討議、個別指導を行い。卒業論文を完成させる。12月下旬にはゼミごとの研究成果発表会を行う。2月上旬には卒業論文の提出。</p>		
授業の概要	卒業論文の作成は、大学での学びの集大成ともいえるものである。本科目では、論文・レポートを作成するための能力に磨きをかけ、最終的に卒業論文を作成する。各担当教員は、自己の専門分野に関連のある研究課題をもつ学生を原則として10名を超えない範囲で指導する。授業はゼミナール形式で行われる。ゼミの具体的な運営方法は各教員の専門分野の方法論に基づく。ただし、ゼミナール方式であるから、テーマ報告会・中間報告会などの学生による発表が中心となり、最終的には卒業論文を作成する。		
予習	Students should work consistently throughout the week and each week bring to the advisor any notes, records or writing for discussion and review		
復習	Students should constantly be reading and rereading their writing in order to make improvements towards the final thesis		
テキスト	特になし		
参考書	特になし		
評価方法・評価基準	卒業研究に向かう姿勢：30% 計画性のある進捗状況、論文関連資料の学習状況等 卒業研究論文：70% 論文の構成、論述能力、論文の内容等		
履修上の注意	本科目は、学生の主体的な学び、発表を軸とするものである。積極的に取り組むこと。		